

講義内容 2007

グローバル・メディア・スタディーズ学部

講 義 內 容

目 次

I	全 学 共 通 科 目	
1	宗 教 教 育 科 目	9
2	教 養 教 育 科 目	27
	(1) 人 文 分 野	27
	(2) 社 会 分 野	89
	(3) 自 然 分 野	118
3	外 国 語 科 目	157
4	保 健 体 育 科 目	217
II	專 門 教 育 科 目	245
III	「日本語」・「日本事情」科目	343

全 学 共 通 科 目	宗教教育	人文分野	社会分野	自然分野
	教養教育科目	外国語	保健体育	
	専門教育	日本語	日本事情	

I 全 学 共 通 科 目

1. 宗 教 教 育 科 目

1. 宗教教育科目

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
仏教と人間	GM1必	通年	4	角田 泰隆	9
仏教と人間	GM1必	通年	4	金子 宗元	9
仏教と人間	GM1必	通年	4	袴谷 憲昭	10
仏教と人間	GM1必	通年	4	石井 公成	11
仏教と人間〔再クラス〕	全学科（フレB除く）234年	通年	4	吉津 宜英	12
仏教と人間〔再クラス〕	全学科（フレB除く）234年	通年	4	下室 覚道	13
仏教と人間〔再クラス〕	全学科（フレB除く）234年	通年	4	松田 陽志	13
仏教と人間〔再クラス〕	全学科（フレB除く）234年	通年	4	晴山 俊英	14
文化と宗教	GM選	通年	4	佐藤 憲昭	15
社会と宗教	GM選	通年	4	矢野 秀武	16
自然と宗教	GM選	通年	4	小川 順敬	16
坐禅	GM選	半期	2	佐藤 秀孝 熊本 英人	17

科目名	仏教と人間	開講	通年	単位	4
配当	GM1必				
担当者名	つのだ たいりゆう 角田 泰隆				

講義のねらい

宗教とは何か、そして仏教とは何かについて、その基本的事柄について、できるだけわかりやすく講義したい。特に、葬式仏教と批判され誤解されている仏教を、正しく認識してもらいたいと思う。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、まず宗教とは何かについて概説し、その後、仏教の歴史及びその基本思想について解説する。後期は、仏教と人間・社会・生活・環境・人権・教育等さまざまな問題を取り上げて講義する。

履修上の留意点

教科書は用いないので、筆記用具を整え、講義の内容をしっかりと記録して頂きたい。(定期試験には自筆ノートも持ち込みを許可する)

成績評価の方法

定期試験の成績によって評価する。

教科書

なし

参考書等

授業において紹介する。

科目名	仏教と人間	開講	通年	単位	4
配当	GM1必				
担当者名	かねこ しゅうげん 金子 宗元				

講義のねらい

仏教の教えの、現代社会における意義、そして国際社会における異文化圏よりみた特質を考察する。

講義の内容・授業スケジュール

仏教の開祖、釈迦牟尼佛世尊の生涯と教え、その後の思想史的展開と主要な教理を概説した後、世界の他の諸宗教、文化との比較などを交えながら、仏教の現代社会における意義について考察する。

また、曹洞宗をはじめとする各仏教教団や個々の僧侶が、実際に取り組んでいる現代の社会的な問題や国際舞台での布教活動、更に、教団や寺院に寄せられる声なども盛り込みながら、考察していきたい。

履修上の留意点

特に無し。

成績評価の方法

学年末に試験を行う予定。開講初日に説明する。

教科書

授業に必要な資料は、授業において随時配付する。

参考書等

松本史朗；『仏教への道』東京書籍（1993年刊）
 袴谷憲昭；『仏教入門』大蔵出版（2004年刊）
 水野弘元；『仏教要語の基礎知識』春秋社（1972年初版、2006年新版）
 その他、講義で採り上げたテーマに関連する参考図書があれば随時紹介していく。

科目名	仏教と人間	開講	通年	単位	4
配当	GM1必				
担当者名	袴谷 憲昭				

講義のねらい

国や政府が資本を投じて創設した assets などを民間に譲渡することを privatization という。一方、capitalism のもたらす歪みを軽減するために設けられた regulation を解除することを deregulation という。しかるに privatization も deregulation も自ら責任を取りうる individuals の確立した社会にして初めて可能となるが、あたかもそれが既に実現しているかのように、経団連などを中心に進められたのが「自己責任」の強調による「終身雇用」の解体である。privatization と deregulation で自らの赤字軽減を企ろうとする little government は、その結果もたらされる社会不安を力によって押えるため、国内には警察権の強化を、国外には自衛隊の軍隊化を実現しようとしている。U.S.A. を中心に進められているこのような global な政策を globalism という。これは1980年代以降の PC の普及と共にあったが、本学部は、そのような globalism の一環を media を基本に学問的に確立していこうとする学部のはずである。その学部設立の idea は Buddhism に置かれている。その Buddhism を Buddhology の成果に基づいて講義する。

講義の内容・授業スケジュール

(1) 自己と他者、(2) 信仰と言葉、(3) 北西インド、(4) マガダの地、(5) 北伝の地域、(6) 南伝の地域、(7) インドの古代、(8) 開祖の伝記、(9) 三蔵の成立、(10) 発展の時代、(11) 宗教の定義、(12) 業と輪廻と、(13) 解脱と成仏、(14) 苦行と布施、(15) 無我と五蘊、(16) 縁起の思想、(17) 四諦の教義、(18) 有為と無為、(19) 一音演説法、(20) 小乗と大乘、(21) 空性と唯識、(22) 顕教と密教

履修上の留意点

ときには Russel の Political Ideals をプリントで配布して講読することがあるので気をつけられたい。

成績評価の方法

学年末の定期試験によって評価する。

教科書

袴谷憲昭著『仏教入門』(大蔵出版) 2004年

参考書等

袴谷憲昭著『日本仏教文化史』(大蔵出版) 2005年

科目名	仏教と人間	開講	通年	単位	4
配当	GM1必				
担当者名	石井 公成 <small>いしい こうせい</small>				

講義のねらい

仏教の基本的な教理と歴史、および日本を含めた世界の諸宗教について概観し、仏教の特色と仏教が果たした役割について考えてゆく。

講義の内容・
授業スケジュール

仏教の誕生について説明したのち、諸国の様々な宗教を概観し、その後で再度、仏教に戻って仏教の特色について検討してゆく。禅宗については、文学や芸能との関係についても注意する。

履修上の留意点

講義形式ではあるものの、毎回プリントを配布し、学生諸君に少しづつ読んでもらうほか、どんどん質問して答えてもらうため、積極的に参加する意欲が必要である。

成績評価の方法

平常点および年に数回行なう小テストによる。熱心に参加している者については評価する。

教科書

プリントを配布する。

参考書等

一覧のコピーを配布する。

科目名	仏教と人間〔再クラス〕	開講	通年	単位	4
配当	全学科（フレB除く）234年				
担当者名	吉津 宜英 <small>よしづ よしひで</small>				

講義のねらい

まず最初にこの科目名は「仏教と人間」となっていますが、私は「宗教と人間」というぐらいに広く考えてゆきたいと思います。仏教を含めた宗教に対して皆さんはどんなイメージを抱き、どんな意見を持っているのでしょうか。すでに特定の宗教を信じている人もありましょ。これまで宗教に無関心な人や、宗教批判者もありましょ。私は宗教に対して肯定的な人にも、否定的な方にもまず宗教や仏教への正しい知識を持ってもらいたいと思います。宗教は政治、経済、科学技術、教育、芸術などと並んで人間の文化の一翼を担っています。太古から様々な宗教が存在しています。ある宗教は一神を信仰しますが、また多くの神々を信仰したり、仏教のように仏を重んじるものもあります。なぜ人間は宗教を求めるのでしょうか。この講義ではまず宗教の多様性の確認から始めます。そして宗教は社会の中でどのような機能を果たしているのかを考えます。また宗教をめぐる様々な問題点を取り上げます。宗教は人々の幸福を成就する目的を持っているのに、民族紛争などと絡んで宗教戦争が起き、多くの不幸な人々が出てしまう問題もあります。宗教は個人が何かを信じていれば他に迷惑をかけないですむと思うのですが、宗教集団が成立すると公共の福祉に反する社会的問題も引き起こします。講義全体としては仏教を含めた宗教の功罪両面を考察してゆくことをねらいとします。

講義の内容・授業スケジュール

前期には宗教の様々な形態について概説します。世界の諸宗教の中で仏教の特色を明らかにします。後期は仏教を含めた宗教と人間社会や世界の様々な問題を取り上げます。新霊性運動(new spirituality movement)という新しい宗教運動にも注目します。また靖国神社問題を始めとする政教分離の課題、宗教原理主義の問題、人権と宗教の関連性、脳死の是非、クローン人間の問題、遺伝子工学と宗教倫理などのテーマを順次取り上げていきます。毎回、あるタイトルを掲げて講義を行います。

履修上の留意点

この科目専用のノートを用意して下さい。講義を筆記すると同時に自分の意見や疑問を書き留め、年間を通して受講と思索の軌跡が残るようにしてもらいたいものです。

成績評価の方法

毎回出席を取ります。年間2、3回課題の提出を依頼します。最後に期末試験を行います。それらを総合して成績評価を行います。

教科書

特に使用しません。できるだけ参考資料としてプリントを配布します

参考書等

講義の中で随時参考図書を紹介します。

その他

私が講義中であっても挙手して質問や意見を述べて下さい。私語は厳禁です。あまり目立つ時は退場を要請します。講義開始時間から30分過ぎていたら教場に入らないで下さい。

科目名	仏教と人間〔再クラス〕	開講	通年	単位	4
配当	全学科（フレB除く）234年				
担当者名	下室 覚道 <small>しもむろ かくどう</small>				

講義のねらい 日本は仏教国といわれるが、どれほどの人が仏教について理解しているであろうか。本講義では、仏教の開祖である釈尊の生涯や基本的な教え、そして仏教の伝播などについて考察し、宗教の存在意義や宗教と人間との関わりについて考えていきたい。また、仏教と現代社会のさまざまな問題についても考えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール 釈尊の生涯とその教え、仏教の伝播について学んでいく。特に伝播過程において日本の曹洞宗の開祖である道元禅師についてはより細かく取り上げていきたい。また、仏教と現代社会の問題においては、臓器移植や人権の問題に関して随時紹介していきたい。

成績評価の方法 授業の出席状況、レポート、年度末試験により評価する。

教科書 プリントを随時配布する。

参考書等 松尾剛次『仏教入門』（岩波ジュニア新書）
水野弘元『仏教要語の基礎知識』（春秋社）

科目名	仏教と人間〔再クラス〕	開講	通年	単位	4
配当	全学科（フレB除く）234年				
担当者名	松田 陽志 <small>まつだ ようじ</small>				

講義のねらい 本学が建学の理念とする仏教・禅の考え方について講義する。インドに生まれた仏教はアジア各地にさまざまに変容しながら伝えられた。釈尊（釈迦牟尼世尊）の生涯を仏伝（釈尊の伝記）の記述などによってたどりながら、インドのヒンドゥー文化圏の中で、釈尊の抱えた課題とその説き示した初期仏教の内容を捉えることで、われわれが身近に感ずる仏教の性格との違いについて考える。

講義の内容・授業スケジュール 最初に本学が禅・曹洞宗を母胎として創立されたことを歴史的に概観したあと、釈尊の生涯を仏伝の記述によって理解する。釈尊以後の仏教教団によってまとめられる仏伝が、釈尊の教えの独自性を、釈尊の生涯を記述するなかでどのように表現しようとしたのかを、具体的に検討する。特に釈尊の生きたインドのヒンドゥー教の性格や、その中で釈尊自身が何を求めて出家し、成道において何をさとり、伝道の旅の中で人々に対しておこなった説法の意義について考える。またインドを離れ中国・日本へと伝えられた仏教がどのようにその教えを展開・変容させていったのかについても講義する。

履修上の留意点 インドの宗教風土の中で釈尊の求めたものと、現在の日本や中国での仏教（大乘仏教）のとりえ方に違いがあることを踏まえ、講義を通じて自分が考える「仏教」がどのような性格を持っているのかということを考えてもらいたい。

成績評価の方法 毎回の出席点に加えて、前期末のレポートと年度末試験によって評価する。

教科書 特に指定しない。配布プリントにしたがって講義する。

参考書等 随時紹介する。

科目名	仏教と人間〔再クラス〕	開講	通年	単位	4
配当	全学科（フレB除く）234年				
担当者名	はれやま <small>しゆんえい</small> 晴山 俊英				

講義のねらい

仏教と一口に言っても、場所により宗派により様々な相違があり、場合によっては同じ仏教でも180度違う主張をする。これは人間が人間として生きることの多様性を示していることに他なるまい。仏教を信じる信じない、そして何が「正しい仏教」なのかは、最終的には個人の信念に依ろうが、一社会人としてその予備知識を養っておきたい。その意味も込めて、本講義のねらいは各国・各宗派の特徴とその背景を、大きな仏教史の中で概観して貰うことにある。

講義の内容・
授業スケジュール

釈尊の生涯とその教えに始まり、インド・中国・日本における仏教の展開と主な人物、特徴を概説していく。

履修上の留意点

仏教が何らかの展開する際には、必ず人間の何らかの要請が介在していると思われる。本講義を通じて、そういった人間の要請というものを考察されたい。

成績評価の方法

期末試験に出席の状況（不定期に出欠をとります）を加味して評価する。

教科書

特になし。板書が中心となる。

参考書等

授業において必要があれば適宜指示する。

その他

試験は自筆ノートのみ持ち込み可で、試験範囲を限定することはしません。従って欠席した分については自己責任で対処すること。

科目名	文化と宗教	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	佐藤 <small>さとう</small> 憲昭 <small>のりあき</small>				

講義のねらい

私たちは自分の好みに合わせて、例えば、服装の色を選択しているが、冠婚葬祭などにおいては当該社会に伝承され、社会で期待されている色彩の服装を身につけるのがふつうである。色彩の問題は服装ばかりではなく、多方面に及んでいる。しかも色彩の象徴的意味は、民族が異なると正反対の意味をもつなど、決して人類に普遍的なものではない。この講座では、内外の事例を紹介しながら、カラー・シンボリズムとその周辺の諸問題に焦点を合せて考察し、「文化と宗教」の問題に接近してみたい。

講義の内容・授業スケジュール

次のテーマのもとに具体的に考察する。

1. 人類学の視点と方法、2. 文化の概念、3. 文化の特質と機能、4. 文化と社会構造、5. 文化人類学・民俗学における色彩の研究小史、6. 通過儀礼におけるカラー・シンボリズムとその周辺の諸問題、7. 仏教儀礼におけるカラー・シンボリズムとその周辺の諸問題、8. 王権のカラー・シンボリズム、9. 宗教的職能者のカラー・シンボリズム、10. 総括。

履修上の留意点

ときどき出席をとるので、欠席をする場合（または出席をした場合）には、欠席届（形式は任意）を提出することが望ましい。

成績評価の方法

学年末の筆記試験で評価する。合格の基準は、講義内容を踏まえて、みずからの言葉でどのように論じているかという点にある。なお、不合格の場合には、出席点とレポート点（4年生のみ該当）を加算して最終評価を行う。4年生のみの提出レポートは、次の通りである。【課題】教科書を読み、その感想文を作成する。【字数】2000字。【提出先と時期】12月までの授業時に随時受けつける。【その他】ワープロ作成可。ただし、授業時以外は受理しない。4年生は必ず提出のこと。

教科書

佐々木宏幹『神と仏と日本人――宗教人類学の構想――』（吉川弘文館）

参考書等

授業中に適宜紹介する。

科目名	社会と宗教	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	矢野 ^{やの ひでたけ} 秀武				

講義のねらい

宗教は、心の次元の事柄であり、深い精神性に関わり、また言い尽くしがたい個々人の思いや人生と密接なつながりをもっている。しかし、それらの信仰心や宗教活動は、特定の時代や地域、あるいは性差による違いなど、社会的・文化的な影響を帯びているものでもある。さらに、宗教思想や宗教活動が、社会に何らかの影響を及ぼすこともある。本講義では、このような宗教と社会との様々な関わりについて学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

前期はおもに、宗教集団の形成や変容の過程、カルト問題、現代文化における儀礼・祭礼や精霊信仰などをとりあげ、宗教社会学と宗教学人類学に関わる基礎知識を学ぶ。後期は、戦争やテロリズムなどの社会的暴力、ナショナリズム、民主主義、法律、教育、福祉活動といったテーマと宗教の接点を取りあげ、宗教が私的な信仰心の側面だけではなく、社会一般の制度と関わる公的側面を持っている点について解説する。

成績評価の方法

レポートと年度末の筆記試験を総合して評価を行なう。レポートは夏期休暇前に課題を提示する。レポートや試験形式、その他授業の基本的な約束事は、初回の授業で述べる。

参考書等

授業時に随時紹介する。

科目名	自然と宗教	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	小川 ^{おがわ としゆき} 順敬				

講義のねらい

人間は古来から、自然のいとなみの背後に説明のつかない大きな力を感じ、自然の事物や、自然現象を崇拜の対象としてきたと言われます。それでは、人間は自然の背後にどのような“説明のつかない力”をみたのでしょうか。あるいは、自然を人間とのつながりでどのようにとらえ、考えてきたのでしょうか。この講義では、宗教と自然との関わりという角度から、これらの問題を考えてゆくことにしたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

まず最初に、宗教現象を考えていくための宗教学、宗教学人類学のいくつかの基本的な概念を概説、紹介します。その後、山と宗教、海と宗教、森と宗教、また仏教と自然、キリスト教と自然などのテーマを立て、具体的事例をあげながら人間と自然との宗教的な関わりを諸相を紹介していくことにしたいと思います。また、環境問題に対する仏教やキリスト教、新宗教、あるいは伝統宗教からの発言や取り組みを紹介し、その考え方や今日的評価・議論を概観、紹介する予定です。

成績評価の方法

評価は原則として、年2、3回の「小レポート試験」と年度末の筆記試験により行います。なお小レポートとは別に、夏期休暇前に「夏期レポート」課題を出しますが、提出は受講者の自由意志とします。成績評価の具体的な方法、年度末試験の方針、レポートの内容、出席等は最初の授業で詳しく説明します。

教科書

原則として教科書は用いません。

参考書等

講義の内容に関連する参考書は適宜紹介します。

科目名	坐禅	開講	半期	単位	2
配当	GM選				
担当者名	<small>さとう しゆこう くまもと えいじん</small> 佐藤 秀孝・熊本 英人				

講義のねらい

駒澤大学では建学の理念に基づき宗教教育科目が設けられ、その中に「坐禅」の授業があります。本授業は、仏教学部だけではなく広く一般学生に門戸を開き「坐禅」の世界を知ってもらおうことを、その目的としています。他大学では経験できない、駒澤ならではの授業が「坐禅」といえるでしょう。坐禅に触れることによって、本学の良さを味わい、学生生活の貴重な体験としてもらいたいと思い、この授業を進めるものです。

今、私たちの周りでは、さまざまな宗教が声高に叫んでいます。反面、多くの人は何を拠り所にしてよいか不安感が募っています。基本的な人生観を学生時代にこそ考え培いたいものです。

坐禅は、決して特殊な精神状態を作るものではありません。姿勢を整え、静けさの中で自己を見つめるのです。初めはぎこちないかもしれませんが、何回か経験するうちに静けさに落ちつきを感じることでしょう。

この授業では、初心者にも無理なく坐禅に親しめることに指導のポイントを置き、経験を積む中で、坐禅の静寂な時間に落ちつきと安らぎが感ぜられるよう実習を進めたいと思っています。併せて、坐禅の世界をより深く体得できるように、禅の歴史とその思想にも触れる時間を設けます。

講義の内容・授業スケジュール

半期単位ですので、全体で13回ほどの開講数が予定されます。その流れを以下のように進めます。

- 1～3 「坐禅の作法指導」(坐禅堂に即して基本的知識と、坐るに至るまでの作法を修得)
- 4～13 「坐禅実習」(1回の坐禅実習の時間は、初心者にも無理のない程度です)

(道元禅師の書かれた坐禅の指導書ともいえる『正法眼蔵-坐禅儀』を通して坐禅の本来の姿を学びます)

履修上の留意点

実習をその主なる内容としますので出席を重視します。特に、最初の3回は作法の説明がありますので必ず出席してください。また、まじめに授業を受けられることを要望します。事前登録科目ですので、他の受講希望者の迷惑となりますから、カラ登録や受講途中放棄はやめてください。

成績評価の方法

出席数、出席態度、レポートを総合して成績評価とします。

教科書

適宜、プリントにて配布します。

参考書等

『坐禅一講本一』(更生社) 2,226円

2. 教 養 教 育 科 目

2. 教養教育科目

(1) 人文分野

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
文学【1〔日本文学「古典」〕】	GM選	通年	4	八島 由香	27
文学【2〔日本文学「近代」〕】	GM選	通年	4	川島 淳史	28
文学【3〔日本文学「古典」〕】	GM選	通年	4	佐原 作美	28
文学【4〔日本文学「古典」〕】	GM選	通年	4	坂口 博規	29
文学【5〔日本文学「近代」〕】	GM選	通年	4	石割 透	30
文学【6〔日本文学「近代」〕】	GM選	通年	4	松田 直行	31
文学【7〔日本のことば〕】	GM選	通年	4	萩原 義雄	32
文学【9〔外国文学「ラテンアメリカ文学」〕】	GM選	通年	4	真下 祐一	33
文学【10〔日本文学「古典」〕】	GM選	通年	4	菌部 幹生	33
文学【12〔日本文学「近代」〕】	GM選	通年	4	小林 治	34
文学【1〔日本文学「古典」〕】 －フレックスB開講－	GM選	通年	4	田中 伸作	34
文学【2〔日本文学「近代」〕】 －フレックスB開講－	GM選	通年	4	中西 亮太	35
文学【3〔日本文学「古典」〕】 －フレックスB開講－	GM選	通年	4	伴野 英一	35
歴史学【1〔日本中世史〕】	GM選	通年	4	栗原 修	36
歴史学【2〔東アジア考古学〕】	GM選	通年	4	千葉 基次	36
歴史学【3〔古代オリエント史〕】	GM選	通年	4	大城 道則	37
歴史学【4〔西洋中世史〕】	GM選	通年	4	舟橋 倫子	38
歴史学【5〔日本近世史〕】	GM選	通年	4	小高 昭一	38
歴史学【6〔日本近代史〕】	GM選	通年	4	立川 章次	39
歴史学【1〔日本近代史〕】 －フレックスB開講－	GM選	通年	4	林 彰	39
歴史学【2〔中国史概観〕】 －フレックスB開講－	GM選	通年	4	小林 惣八	40
歴史学【3〔アジア史概観〕】 －フレックスB開講－	GM選	通年	4	飯山 知保	40
芸術学【1〔日本美術〕】	GM選	通年	4	北野 良枝	41
芸術学【2〔西洋美術〕】	GM選	通年	4	矢野 陽子	42

芸術学【3〔音楽〕】	GM選	通年	4	浦本 裕子	43
哲学【1〔西洋思想の源流〕】	GM選	通年	4	河谷 淳	44
哲学【2〔西洋思想の源流〕】	GM選	通年	4	中村 友太郎	45
哲学【3〔西洋思想の源流〕】	GM選	通年	4	河谷 淳	46
哲学 【4〔近代の人間観と世界観〕】	GM選	通年	4	古田 知章	47
哲学 【5〔近代の人間観と世界観〕】	GM選	通年	4	久保 陽一	48
哲学 【6〔近代の人間観と世界観〕】	GM選	通年	4	植野 公稔	49
哲学【7〔現代文明と人間〕】	GM選	通年	4	黒崎 剛	50
哲学【8〔現代文明と人間〕】	GM選	通年	4	滝沢 正之	50
哲学【9〔現代文明と人間〕】	GM選	通年	4	久保 陽一	51
哲学【〔西洋思想の源流〕 －フレックスB開講－	GM選	通年	4	滝沢 正之	52
哲学【〔近代の人間観と世界観〕 －フレックスB開講－	GM選	通年	4	伊古田 理	52
哲学【〔現代文明と人間〕 －フレックスB開講－	GM選	通年	4	鈴木 聡	53
論理学 【1〔科学方法論と現代論理学〕】	GM選	通年	4	鈴木 聡	54
論理学 【2〔科学方法論と現代論理学〕】	GM選	通年	4	山口 祐弘	55
論理学 【3〔科学方法論と現代論理学〕】	GM選	通年	4	河谷 淳	56
論理学 【4〔科学方法論と現代論理学〕】	GM選	通年	4	滝口 清栄	56
論理学【5〔知の技法〕】	全学科（フレB除く）選	通年	4	伊古田 理	57
論理学 【6〔科学方法論と現代論理学〕】	GM選	通年	4	鈴木 聡	58
論理学【7〔知の技法〕】	全学科（フレB除く）選	通年	4	植野 公稔	59
論理学 【〔科学方法論と現代論理学〕 －フレックスB開講－	GM選	通年	4	伊古田 理	59
論理学 【〔科学方法論と現代論理学〕 －フレックスB開講－	GM選	通年	4	麻生 享志	60
倫理学【1〔人間観〕】	全学科（フレB除く）選	通年	4	古田 知章	61
倫理学【2〔応用倫理学〕】	全学科（フレB除く）選	通年	4	黒崎 剛	62
倫理学【3〔価値観〕】	全学科（フレB除く）選	通年	4	滝沢 正之	63
倫理学【4〔応用倫理学〕】	全学科（フレB除く）選	通年	4	麻生 享志	64

倫理学【5〔制度とモラル〕】	全学科（フレB除く）選	通年	4	滝口 清栄	65
倫理学【6〔東洋倫理〕】	全学科（フレB除く）選	通年	4	末木 恭彦	65
倫理学【7〔応用倫理学〕】	全学科（フレB除く）選	通年	4	黒崎 剛	66
宗教学【1〔比較宗教文化〕】	全学科（フレB除く）選	通年	4	池上 良正	67
宗教学【2〔聖と俗〕】	全学科（フレB除く）選	通年	4	田中 かの子	68
宗教学【3〔世界観と儀礼〕】	全学科（フレB除く）選	通年	4	小川 順敬	69
宗教学【4〔日本人の宗教〕】	全学科（フレB除く）選	通年	4	矢野 秀武	69
宗教学【5〔生活と宗教〕】	全学科（フレB除く）選	通年	4	菅原 壽清	70
宗教学【6〔民俗宗教の諸相〕】	全学科（フレB除く）選	通年	4	浅川 泰宏	71
宗教学【〔比較宗教文化〕 －フレックスB開講－	GM選	通年	4	田中 かの子	72
教育の思想	GM234選	半期	2	豊田 千代子	73
教育の思想	GM234選	半期	2	北村 三子	73
教育の思想	GM234選	半期	2	伊藤 茂樹	74
教育の思想	GM234選	半期	2	萩原 建次郎	75
教育の思想	GM234選	半期	2	坂本 信昭	76
教育の思想 －フレックスB開講－	GM234選	半期	2	山本 敏子	76
教育と社会	GM234選	半期	2	豊田 千代子	77
教育と社会	GM234選	半期	2	北村 三子	77
教育と社会	GM234選	半期	2	伊藤 茂樹	78
教育と社会	GM234選	半期	2	萩原 建次郎	79
教育と社会	GM234選	半期	2	坂本 信昭	80
教育と社会 －フレックスB開講－	GM234選	半期	2	山本 敏子	80
発達と学習の心理学	GM234選	半期	2	小倉 康仁	81
発達と学習の心理学	GM234選	半期	2	大浜 幾久子	82
発達と学習の心理学	GM234選	半期	2	三國 隆子	82
発達と学習の心理学	GM234選	半期	2	飯田 都	83
発達と学習の心理学	GM234選	半期	2	角野 善司	84
発達と学習の心理学 －フレックスB開講－	GM234選	半期	2	三國 隆子	85
カリキュラムと学習	GM234選	半期	2	小倉 康仁	86
カリキュラムと学習	GM234選	半期	2	大浜 幾久子	86
カリキュラムと学習	GM234選	半期	2	三國 隆子	87
カリキュラムと学習	GM234選	半期	2	杉山 二季	87
カリキュラムと学習	GM234選	半期	2	角野 善司	88
カリキュラムと学習 －フレックスB開講－	GM234選	半期	2	三國 隆子	88

(2) 社会分野

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
社会学【1〔現代社会を考える〕】	GM選	通年	4	呉 炳三	89
社会学【2〔現代社会を考える〕】	GM選	通年	4	呉 炳三	90
社会学【3〔現代文化を考える〕】	GM選	通年	4	呉 炳三	91
社会学【4〔現代文化を考える〕】	GM選	通年	4	呉 炳三	92
社会学【5〔社会生活を考える〕】	GM選	通年	4	小畑 和	93
社会学【6〔社会生活を考える〕】	GM選	通年	4	呉 炳三	94
社会学【〔現代社会を考える〕 －フレックスB開講－	GM選	通年	4	呉 炳三	95
社会学【〔現代文化を考える〕 －フレックスB開講－	GM選	通年	4	橋爪 敏	96
法学・憲法【1〔法と社会生活〕】	GM選	通年	4	長谷川 日出世	96
法学・憲法【2〔法と社会生活〕】	GM選	通年	4	和知 恵一	97
法学・憲法【3〔法と社会生活〕】	GM選	通年	4	沼田 雅之	98
法学・憲法【4〔法と社会生活〕】	GM選	通年	4	鶏徳 啓登	99
法学・憲法【5〔法と権利〕】	GM選	通年	4	沼田 雅之	100
法学・憲法【7〔法と国家〕】	GM選	通年	4	新田 浩司	101
法学・憲法【8〔法と国家〕】	GM選	通年	4	新田 浩司	102
法学・憲法【10〔法と国家〕】	GM選	通年	4	織田 晃子	103
法学・憲法【11〔法と権利〕】	GM選	通年	4	茂野 隆晴	104
法学・憲法【12〔法と権利〕】	全学科（フレB除く）選	夏季集中	4	池田 実	105
法学・憲法【〔法と権利〕 －フレックスB開講－	GM選	通年	4	鶏徳 啓登	106
法学・憲法【〔法と社会生活〕 －フレックスB開講－	GM選	通年	4	長谷川 日出世	107
政治学【1〔社会生活とデモクラシー〕】	GM選	通年	4	白鳥 浩	108
政治学【2〔政治システムと政治参加〕】	GM選	通年	4	富崎 隆	109

政治学【3〔国際社会と日本〕】	GM選	通年	4	山崎 望	110
政治学 【〔政治システムと政治参加〕】 －フレックスB開講－	GM選	通年	4	真下 英二	111
政治学【〔国際社会と日本〕】 －フレックスB開講－	GM選	通年	4	山村 恒雄	112
経済学 【1〔現代社会と市場経済〕】	GM選	通年	4	畠中 貴	113
経済学【2〔現代経済と人間〕】	GM選	通年	4	森田 成也	114
経済学 【3〔現代経済理解へのガイド〕】	GM選	通年	4	佐藤 綾野	115
経済学 【4〔現代経済理解へのガイド〕】	GM選	通年	4	佐藤 綾野	116
経済学【〔現代経済と人間〕】 －フレックスB開講－	GM選	通年	4	沼田 郷	117

(3) 自然分野

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
生物学【1〔生態と進化〕】	GM選	通年	4	清水 善和	118
生物学【2〔生態と進化〕】	GM選	通年	4	清水 善和	119
生物学【3〔生物と環境〕】	GM選	通年	4	中村 敏枝	120
生物学【〔生態と進化〕】 －フレックスB開講－	GM選	通年	4	清水 善和	121
生物学【〔生物と環境〕】 －フレックスB開講－	GM選	通年	4	中村 敏枝	122
自然環境論【1〔生命と環境〕】	GM選	通年	4	山縣 毅	123
自然環境論【2〔生命と環境〕】	GM選	通年	4	山縣 毅	124
自然環境論【3〔生命と環境〕】	GM選	通年	4	坂巻 義章	125
自然環境論【4〔生命と環境〕】	GM選	通年	4	坂野井 和代	126
自然環境論【5〔生命と環境〕】	GM選	通年	4	坂野井 和代	127
自然環境論【6〔生命と環境〕】	GM選	通年	4	中村 敏枝	128
自然環境論【7〔生命と環境〕】	GM選	通年	4	中村 敏枝	129
自然環境論【8〔生物の集団と環境〕】	GM選	通年	4	坂巻 義章	130
自然環境論【9〔生物の集団と環境〕】	GM選	通年	4	坂巻 義章	131
自然環境論【10〔生物の集団と環境〕】	GM選	通年	4	坂巻 義章	132

自然環境論【〔宇宙から見た地球環境〕〕 ーフレックスB開講ー	GM選	通年	4	篠原 正雄	133
自然環境論【〔生命と環境〕〕 ーフレックスB開講ー	GM選	通年	4	山縣 毅	134
数学【1〔微積分学入門〕〕	GM選	通年	4	小沢 誠	135
数学【2〔線型代数学入門〕〕	GM選	通年	4	小沢 誠	136
数学【3〔現代数学入門〕〕	GM選	通年	4	福田 賢一	137
心理学 【1〔ヒューマン・ウォッチング〕〕	GM選	通年	4	高橋 良博	138
心理学 【2〔ヒューマン・ウォッチング〕〕	GM選	通年	4	加藤 博己	139
心理学 【3〔ヒューマン・ウォッチング〕〕	GM選	通年	4	加藤 博己	140
心理学 【4〔ヒューマン・ウォッチング〕〕	GM選	通年	4	仲渡 江美	141
心理学 【5〔人間関係を考える〕〕	GM選	通年	4	高橋 良博	141
心理学 【6〔人間関係を考える〕〕	GM選	通年	4	鈴木 順一	142
心理学 【7〔人間関係を考える〕〕	GM選	通年	4	加藤 博己	143
心理学 【8〔人間関係を考える〕〕	GM選	通年	4	鈴木 順一	144
心理学【9〔心を科学する〕〕	GM選	通年	4	高橋 良博	145
心理学【10〔心を科学する〕〕	GM選	通年	4	名取 志保	145
心理学【11〔心を科学する〕〕	GM選	通年	4	中丸 茂	146
心理学【12〔心を科学する〕〕	GM選	夏季集中	4	深堀 友覚	147
心理学 【〔ヒューマン・ウォッチング〕〕 ーフレックスB開講ー	GM選	通年	4	鈴木 順一	148
心理学 【2〔人間関係を考える〕〕 ーフレックスB開講ー	GM選	通年	4	鈴木 順一	149

科目名	文学【1〔日本文学「古典」〕】	開講	通年	単位	4
担当	GM選				
担当者名	八島 ^{やしま} ^{ゆか} 由香				

講義のねらい

『堤中納言物語』を〈読む〉

講義の内容・
授業スケジュール

『堤中納言物語』は、十編の短い物語と一つの断章からなる、短編物語集です。これらの物語は、全体が短く展開がリズムカルなため、さほど長い時間をかけることなく読み終えることができる“やさしい物語”だということが出来ます。しかしその反面、短編であるがゆえの簡略化された無駄のない物語展開には、物語文学における様々なパターンが踏襲され、多くの表現技法が駆使されている“むずかしい物語”でもあるのです。そのため、できる限り多くの先行する物語の用例を提示することによってパターンや表現技法を学び、当時の社会の習慣や風俗をふまえながらひとつひとつの物語を丁寧に読み解くことで、『堤中納言物語』を“やさしく”なおかつ“むずかしく”〈読む〉、これを講義の目的とします。

このように、一編ずつ時間をかけて〈読む〉ため、『堤中納言物語』におさめられているすべての物語を〈読む〉ことは出来ないませんが、できるかぎり多くの物語と向き合っていきたいと考えています。

履修上の留意点

出席に関して。出席数が年間を通じて講義数の三分の二に達しない場合、単位を認定しません。また、講義開始時間から二十分以上の遅刻は遅刻と認めませんので、二十分以上遅れた状況で教場に入室することは許しません。二十分以内の遅刻は二回で欠席一回と数え、遅刻が前・後期各五回を数えた時点で単位を認定しません。事前に届け出があり、なおかつその理由が認めうる早退に関しては、遅刻同様の扱いとします。

私語に関して。あまりにもはなはだしく、他の受講生に対して迷惑だと判断した場合、講義内であろうとも教場から退出していただきます。その場合の出席並びに遅刻は認めず、欠席扱いとします。

成績評価の方法

レポートと出席状況によって評価します。また、講義内に小レポートで感想・意見を求めることもあります。こちらは評価の対象ではありません。

教科書

大槻修校注 『堤中納言物語』（岩波文庫） 460円

参考書等

適宜、教場で指示します。

その他

教科書に関して。教科書を用いての講義形式のため、必ず教科書を購入し、講義に持参して下さい。また、必要に応じてプリントを配布いたします。

初回の講義（ガイダンス）に関して。初回は講義内容や評価方法の説明をするガイダンスのため、二回目の講義から出席をとります。ただし、講義内容や評価方法、並びに履修上の留意点（出席）などの詳しい説明は、以後繰り返しての説明はいたしません。

受講を希望する四年生に関して。上記の「履修上の留意点」で述べた出席とは別に単位に関する説明があります。これも初回のガイダンスで説明をします。

科目名	文学【2〔日本文学「近代」〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	川島 ^{かわしま} 淳史 ^{あつし}				

講義のねらい

日本の近代文学はどのように成立し、発展していったのか。明治二十年代から四十年代までの時代状況を見据えつつ、近代文学の成立過程を考察していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

今年度は、森鷗外・樋口一葉・泉鏡花・広津柳浪・内田魯庵・徳富蘆花・夏目漱石などの作品を取り上げ、考察する。

履修上の留意点

予告された作品は必ず読んでおくこと。講義の終わりに短い感想文を書いてもらうこともある。

成績評価の方法

レポート・出席状況・小テストなどによって評価する。欠席が三分の一に達した者は、いかなる理由があろうとも単位は認定しない。

教科書

必要に応じてプリントなどを配布するが、文庫本などの入手しやすいものは各自購入してもらう。

参考書等

その都度、講義の中で指示する。

科目名	文学【3〔日本文学「古典」〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	佐原 ^{さはら} 作美 ^{さくみ}				

講義のねらい

古来日本人の間で最もよく知られ、親しまれて来た昔話に「かぐや姫」の話がある。これは言うまでもなく『竹取物語』がもとになっているものであるが、授業ではこの『竹取物語』読みながらそこに見られる日本人の心性や思想の有りようなどを探って行きたい。

講義の内容・授業スケジュール

『竹取物語』の全文を最初から鑑賞しながら読んでいく。その際登場人物の心理やその動向などを見ながら、今日的な意味あいもあわせ考えていきたい。また、『万葉集』や『風土記』や『今昔物語集』などに見られる関連説話をも目を通していきたい。

履修上の留意点

作品を味読することが大切なので何度も繰り返し読んでほしい。

成績評価の方法

折々の提出物や試験や出席（重視）などを見て総合的に評価する。

教科書

野口元大校注、日本古典集成『竹取物語』、新潮社刊、定価2625円

参考書等

必要に応じて紹介する。

科目名	文学【4〔日本文学「古典」〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	坂口 ^{さかくち} 博規 ^{ひろみ}				

講義のねらい

平安末期の歌人西行法師の作品を考察し、西行が中世精神の開拓者と評価される由縁を講じる。西行は真言僧であり、その宗教意識や宗教活動が和歌に如何に表現されているかを考え、また西行は「花月の歌人」と評されるが、その耽美的精神は日本の美意識の基調をなしている点も考えたい。西行という一人の歌人の作品や人間像を通して、和歌・説話・修験道・真言教理・無常観・漂泊の旅等々をキーワードに、日本文学の特質を多方面から考察したい。

講義の内容・授業スケジュール

はじめに西行の生涯を概説（1～10）し、その宗教意識や活動を考察（11～15）、西行は後世の通世者の理想と仰がれる由縁を考える（16～18）。また西行の花月への愛着、漂泊の旅人の精神や人間像は、後世芭蕉をはじめとして多くの歌人・俳人たちの傾倒するところであり、そこに日本文学の伝統を形成することにも言及する（19～25）。

履修上の留意点

授業は適宜配布するプリント教材により講義形式で行う。レポート作成の資料となるものであるから出席に努めてほしい。

成績評価の方法

定期試験時にレポートを提出してもらい、その成績に出席点を加味して評価する。

教科書

授業において適宜プリントを配布する。

参考書等

教授において適宜紹介する。

科目名	文学【5〔日本文学「近代」〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	いしわり とおる 石割 透				

講義のねらい

<秘密><人工空間><変身>をめぐる－日本近代文学における－
日本近代文学において、特に明治三十年代以後の作品を対象にして、個々の人間の内に潜む<秘密>、夢想される人工楽園、理想郷、人工庭園、また<ドッペルゲンガー>、女性の<男装>、<変身>、<模造人間>の表象のもつ意味を考えていき、その奥に潜む時代の問題を検討していく。扱う作品は、島崎藤村「破戒」、田山花袋「蒲団」、谷崎潤一郎「刺青」、永井荷風「地獄の花」「闇の叫び」、島崎藤村「旧主人」、谷崎潤一郎「秘密」、芥川龍之介「鼻」「開化の殺人」「奉教人の死」「庭」「河童」「二つの手紙」、他菊池幽芳、江戸川乱歩などを自由に絡めて検討していき、日本近代の問題を浮きあがらせていく。

講義の内容・授業スケジュール

個人を自覚することとは、個人の内なる<秘密>を自覚することであるとの前提をもとに、まず、日露戦争前後の日本文学を検討していく。谷崎潤一郎「刺青」あたりから始め、前期は「みだれ髪」「乳姉妹」「地獄の花」から「破戒」「蒲団」「秘密」。後期に人工庭園、ドッペルゲンガーなどについての作品をとりあげていく予定。「幫間」「二つの手紙」「奉教人の死」「金色の死」「パノラマ島奇譚」など

履修上の留意点

前もって、その授業で扱う内外の作品をできるだけ読んで授業にのぞむこと。図書館などに積極的に足を運ぶように。

成績評価の方法

年2、3回のレポート提出。出席状況を重視する。

教科書

特に指示しないが、扱うほとんどの作品は、文庫本で読める。

参考書等

授業時に指示する。

その他

講義形式で進める。プリントなどは必要な際に、その都度準備する。

科目名	文学【6〔日本文学「近代」〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	松田 <small>まつだ</small> 直行 <small>なおゆき</small>				

講義のねらい

現代作家の小説を題材として、小説の〈いま〉を読み解き、また小説から〈いま〉を読み解く。自由な解釈を許されたテキストとして小説をとらえ、いくつかのキーワード（テーマ）を設定して、多様な読解の可能性を探る。教養教育科目なので、専門的な文学研究よりも「たくさん読んでたくさん書く」を目標に、受講者が各自の興味に応じて調べ、考え、感じることができるように配慮したい。授業時間以外に相応な時間を必要とする科目になるので、それを楽しむことのできる学生の受講を望む。

 講義の内容・
授業スケジュール

キーワード（テーマ）は以下の通り。(1)「ケータイ」、(2)「お笑い」、(3)「公園」、(4)「世田谷」、(5)「家族」、(6)「1970年代」、(7)「心の病気」。

履修上の留意点

作品は日程を定めて各自で事前に読んでくるように指示する。日程は授業で随時指示するが、欠席した場合などはインターネットの講義内容KOMSYの詳細情報表示で確認するように。作品を読んでいるかを確認するために、授業の最初に作品内容に関する小テストを行い、それが合格点に満たない場合は出席として認めない。

成績評価の方法

定期試験は行わず、授業の中で実施する小テストやレポート課題、選択制の研究課題などをポイント制にして加算し、出席状況も考慮して採点する。

教科書

購入の便宜を考えて、授業で取り上げる以下の作品をすべて文庫本で教科書として指定しておく。山本幸久『笑う招き猫』集英社文庫¥580、伊藤たかみ『アンダー・マイ・サム』講談社文庫¥560、吉田修一『パーク・ライフ』文春文庫¥410、村山由佳『天使の卵—エンジェルス・エッグ』集英社文庫¥410、長嶋有『猛スピードで母は』文春文庫¥400、村上春樹『風の歌を聴け』講談社文庫¥400、村上春樹『ノルウェイの森』講談社文庫〈上・下〉各¥540、新潮社編『空を飛ぶ恋—ケータイがつなぐ28の物語』新潮文庫¥420。

科目名	文学【7〔日本のことば〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	萩原 義雄				

講義のねらい

広く日本語の特徴についてを学ぶことで、学習者自身が修得してきた国語全般に涉る教養を再度この講義を通して確認していくことにより、自分が気づいていたこと、気づかずにいたことを含めて、自身の教養をより高めていくことを目標に進めていく。

講義の内容・授業スケジュール

- 01の講義内容 ※最初に情報センターの使用手続について担当責任者説明
国語・国文学作品に於ける研究とその展開
- 02の講義内容 和語と漢語
- 03の講義内容 漢字教育にみる日本語(「常用漢字表」の行方)
- 04の講義内容 国語辞書(近代国語辞書、大槻文彦編『大言海』)
- 05の講義内容 漢和辞書(近代漢和辞書、諸橋轍次編『大漢和辞典』)
- 07の講義内容 地名辞書(近代地名辞書、吉田東吾編『大日本地名辞書』)
- 08の講義内容 植物辞書(近代植物辞書、牧野富太郎編『日本植物大辞典』)
- 09の講義内容 和英辞書(近代英和辞書、ヘボン『和英語林集成』)
- 10の講義内容 明治近代語の研究、雑誌『太陽』を読む
- 11の講義内容 大正近代語の研究、芥川龍之介著作集を読む
- 12の講義内容 昭和現代語の研究、井上靖著作集を読む
- 13の講義内容 平成現代語の研究、村上春樹著作集を読む
- 14の講義内容 「パロディ」化の作品とは
- 15の講義内容 絵本と言語
- 16の講義内容 漫画・アニメにみることばの言語表現
- 17の講義内容 書道と言語(唐顔真卿と明朝体文字)
- 18の講義内容 文字遊び(回文・逆きことば・しりとり等)
- 19の講義内容 文字の不思議さ(漢字=正字・通俗字、増画と省画、欠字=『干禄字書』、かな(誕生と広がり)、ローマ字)
- 20の講義内容 豊富な語彙を学ぼう(『分類語彙表』)
- 21の講義内容 文法はグラグラと揺れている
- 22の講義内容 文章体の特徴を知ろう
- 23の講義内容 音韻を響きと弾み
- 24の講義内容 共通語と方言語はどう変容していくのか
- 25の講義内容 日本語の系統
- 26の講義内容 言語生活からみた新聞記事・雑誌
- 27の講義内容 愈々、独り立ち

履修上の留意点

※出席は、教場IT管理に依拠します。授業開始時に当日の出席書込欄にまずチェックをしましょう！また、IDチェックを忘れてしまった場合などは、下記掲示板へ書込みをすることで確認が可能となります。

※講義内容及び連絡事項については、HP(情報言語学研究室)上に凡て逐次掲載しますので常時閲覧願います。質疑応答の問い合わせも直接研究室対応の他、IT機器を用いても応対可能です。

成績評価の方法

(4) 成績評価方法

月毎に上記項目を常にふまえた上で、報告書を提出し内容を発表してもらいます。個人が年間分析する上記報告書における私からの質問を受けて、各自それぞれ提出してもらいます。

提出の際には、提出の年月日の記入。学籍番号。氏名を必ずファイル名と内容資料に必ず添えてください。

ご自分が調査した関連語句(書名・人名・用語など)の記入とそれに関わるネットリンク、添付画像処理についても著作権・肖像権問題に充分留意をお願いします。

また、総合教育研究学部(日本文化部門)掲示板のご利用を期待します。皆様方の声と管理担当者である萩原の考えや日程をここに反映させ、学習支援及び学習意欲の向上をめざすことが本来の目的です。ここに記載された内容は、すべてこちらで管理運営しています。今後、この授業内・外を問わず、この書き込みを通じて授業評価にも大きく反映させて行きますのでご承知願います。

教科書

URL <http://www.komazawa-u.ac.jp/~hagi> を使用する。

その他

情報機器及び文書編集ソフトを利用します。講義資料はHP(情報言語学研究室)上に凡て掲載します。授業内における講義プリントやレジュメPDF資料配布の紙面出しは必要最低限で保証します。

情報機器を利用します。講義資料はHP(情報言語学研究室)上に凡て掲載します。授業内における講義プリントやレジュメPDF資料配布の紙面出しは必要最低限で保証します。

科目名	文学【9〔外国文学「ラテンアメリカ文学」〕】	開講	通年	単位	4
担当	GM選				
担当者名	ましも ゆういち 真下 祐一				

講義のねらい

アルゼンチンのホルヘ・ルイス・ボルヘス、メキシコのオクタビオ・パス、チリのパブロ・ネルーダといった20世紀のイスマノアメリカ文学を代表する詩人たち作品、文学論、文化・文明論を中心に現代スペイン語圏の文学を紹介します。

講義の内容・授業スケジュール

前期は主にパス、後期はボルヘスをとりあげます。

履修上の留意点

講義だけでなくグループ発表も行う予定です。

成績評価の方法

授業への出席と試験あるいはレポートによって評価します。

教科書

オクタビオ・パス『弓と豎琴』ちくま学芸文庫

科目名	文学【10〔日本文学「古典」〕】	開講	通年	単位	4
担当	GM選				
担当者名	そのべ みきお 蘭部 幹生				

講義のねらい

日本の古典文学の中から、『世継物語』を講読する。『世継物語』は、全56話の短い説話集であるが、大和物語・枕草子・栄花物語・古本説話集などとの共通説話を多く含み、中古から中世をつなぐ古典文学の世界を考えるうえで有用な作品である。この作品の講読を通して、時代の価値観の変遷や文学作品のあり方を考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

1 ガイダンス。2 古典文学史。3 説話文学の変遷。5～24 『世継物語』の講読。25 教場試験。26 まとめ。

履修上の留意点

毎時間の最後に、その日の講義内容に関する意見文の提出を求めるので、必ず原稿用紙を持参すること。

成績評価の方法

出席点20点、毎時間の意見文30点、教場試験50点の割合で評価する。定期試験期間中の試験は行わない。なお、最後の授業時間中に、追・再試験に相当するレポートに関する伝達(該当者・テーマ・提出期限等)を行うので必ず出席すること。

教科書

プリントを配布する。

参考書等

必要があればそのつど紹介する。

科目名	文学【12〔日本文学「近代」〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	こばやし おさむ 小林 治				

講義のねらい

優れた文学作品の条件とは何だろうか。一例としてリアリティを挙げても、現実を写してありのままらしく見えるものほど実はリアルではなく、技巧によってそれらしく仮装された規範にすぎないことも多い。このような文学特有の陥穽を見通す視点から、文学について再考することを試みたい。

講義の内容・授業スケジュール

対象に予定している作家は、第二次戦後派の安部公房、島尾敏雄、ルポルタージュ文学の先駆者としての上野英信である。主に教科書と配布プリントを使用する。

履修上の留意点

具体的に上記の作家の作品を読んでいく中で、文学作品という現象を通じて見えてくるものは何か、あるいは文学が表現し得るものは何かを考えていくので、講義を受ける前にあらかじめ対象作品だけは読んでおいていただきたい。作品名の詳細は講義を進めていく中で、時々指示するが、とりあえず下記の作品と教科書で指定する作品は必読である。

安部公房『砂の女』
島尾敏雄『出孤島記』
上野英信『追われゆく坑夫たち』

成績評価の方法

定期試験の結果、レポートの内容を総合し、さらに出席状況を加味して評価する。

教科書

安部公房『R62号の発明、鉛の卵』（新潮文庫）552円
安部公房『水中都市・デンドロカカリヤ』（新潮文庫）514円

参考書等

授業時に指示する。

科目名	文学【1〔日本文学「古典」〕】 －フレックスB開講－	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	たなか しんさく 田中 伸作				

講義のねらい

軍記物語の代表として知られる『平家物語』は、平家一門をとりまく人々のドラマを実に生き生きと描き出している。その内容・叙述において『平家物語』は非常に中世らしい文学作品であると言えるだろう。この作品を読むことで、古典文学に親しみ、中世における文学のあり方を考えることを目的とする。

また、史実が文学に取り込まれたとき、どのような世界として描かれるのかという歴史文学としての側面も考察したい。

講義の内容・授業スケジュール

『平家物語』の代表的な句を読み、内容と特色を把握する。また、関連する史料を紹介し、時代背景や文化史的な問題も追及する。

成績評価の方法

定期試験の成績による評価。出席状況も重視する。

教科書

『平家物語抄』（おうふう）

科目名	文学【2〔日本文学「近代」〕 －フレックスB開講－	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	なかにし りょうた 中西 亮太				

講義のねらい

この講義では、明治・大正・昭和の著名歌人の歌集を読み、論じていきます。その過程で、受講者が近代短歌への理解を深めることを目指します。五句三十一文字を基本型とする短歌は、明治以降、庶民がみずからの心やみずからの体験した出来事を表現する文学ジャンルとして親しまれました。また一方で、多くの歌人は、この短い定型詩を近代文学として屹立させるべく、新しい表現世界を切り開いてきました。その両面を、この講義では見ていきます。講義で取り上げる歌を一首紹介しておきます。「野に捨てた黒い手袋も起きあがり指指に黄な花咲かせだす」(斎藤史『魚歌』)

講義の内容・授業スケジュール

取り上げる歌集は、与謝野晶子『みだれ髪』、石川啄木『一握の砂』、北原白秋『桐の花』、斎藤茂吉『赤光』、前川佐美雄『植物祭』、斎藤史『魚歌』、塚本邦雄『水葬物語』、中城ふみ子『乳房喪失』等を予定しています。授業の流れとしては、前期で明治期と大正の前半、後期で大正の後半と昭和期を扱う予定です。

履修上の留意点

当然のことではありますが、ただ出席するだけでなく、積極的な姿勢での受講を望みます。授業時間中や時間後の質問を歓迎します。

成績評価の方法

前期末と後期末に、試験を実施します。

教科書

高野公彦編『現代の短歌』(講談社学術文庫)
また、授業中、必要に応じて参考プリントを配付します。

参考書等

『短歌シリーズ・人と作品』(桜楓社)
このシリーズで、後世の研究者が書いた晶子・啄木・白秋・茂吉などの評伝や秀歌鑑賞文を読むことができます。

科目名	文学【3〔日本文学「古典」〕 －フレックスB開講－	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	ぼんの ひでかず 伴野 英一				

講義の内容・授業スケジュール

いわゆる文運東漸期前後から、洒落本を中心として近世戯作文芸を概観する。実際に作品を読むことで、文芸における「滑稽」がどのように表現されるのかを考察する。また、当時の遊里風俗など、作品成立の時代的背景についても適宜触れてゆく。

履修上の留意点

欠席が三分の一に達した場合は単位不認定となる。

成績評価の方法

年度末の定期試験を主とし、出席状況、受講態度を総合的に評価する。臨時にレポートを課す場合がある。

教科書

必要に応じてプリントを配布する。

参考書等

その都度、講義中に指示する。

科目名	歴史学【1〔日本中世史〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	栗原 <small>くりはら</small> 修 <small>おさむ</small>				

- 講義のねらい 中世社会の歴史について講義します。とくに、古代→中世、中世→近世へという社会の変化をとらえることをねらいとします。そのなかで、中世とはどのような社会であったのか、その特質をみていきます。
- 講義の内容・授業スケジュール (前期) 荘園公領制と幕府
～武士身分の誕生から鎌倉幕府の成立まで～
(後期) 中世社会の特質と近世国家の誕生
- 履修上の留意点 年表や日本史辞典を用意してほしい。
- 成績評価の方法 学年末試験の結果及び平常点により総合的に評価します。
- 教科書 プリントを随時配布します。

科目名	歴史学【2〔東アジア考古学〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	千葉 <small>ちば</small> 基次 <small>もとつぐ</small>				

- 講義のねらい 長城地帯から極東アジア地域で民族・特定文物・組織その他から、一つのキーワードを選び出し、授業の主題とする。
- 講義の内容・授業スケジュール 授業題目の研究史から始め、個々の研究内容を解説し、最後に今後の課題を示す。
- 履修上の留意点 板書事項もあり、薄くて充分なので専用のノートを用意することが望ましい。
- 成績評価の方法 毎時出席を確認し、平常授業を評価の基とする。レポートについては出欠状況を見て決める。
- 教科書 特になし。
- 参考書等 授業の中で紹介する。

科目名	歴史学【3〔古代オリエント史〕】	開講	通年	単位	4
担当	GM選				
担当者名	おおしろ みちのり 大城 道則				

講義のねらい

古代オリエント世界と古代地中海世界との交流関係について具体例を挙げつつ紹介し、当時の歴史背景や研究上の問題点などを解説・指摘する。

講義の内容・授業スケジュール

ヨーロッパ世界の起源である古代地中海世界は、様々な文明と多様な文化が接触・交錯し、相互に影響を与え合い、共存する場であった。我々は、ヨーロッパ世界を理解するために、その根源である古代地中海世界について考える必要がある。そのため本講義では、古代エジプト文明の成立から、古代ギリシアを通して、古代ローマ帝国の地方都市である埋没都市ポンペイや隊商都市パルミラの歴史までを取り扱う。

前期

- (1) 地中海世界の中のエジプト
- (2) 古代エジプト形成期（統一王朝の出現）
- (3) 古王国時代のエジプト（ピラミッドの発展過程）
- (4) 古王国時代のエジプト
- (5) 新王国時代のエジプト
- (6) メソポタミアの古代都市
- (7) 鉄の王国ヒッタイト

後期

- (8) 古代エーゲ文明の成立
- (9) 東方化の時代と大植民時代
- (10) エトルリア文明
- (11) 古代ローマ皇帝伝
- (12) 火山で埋もれた都市ポンペイ
- (13) 古代ローマ人の食生活
- (14) 砂漠の隊商都市パルミラの歴史

履修上の留意点

お互いの信頼関係のため講義中の携帯電話および遅刻・退室は禁じる。配布したプリントはファイルし、毎回講義に持参すること。

成績評価の方法

学年末試験、出席率、受講態度により総合的に評価する。

教科書

講義の際には講義内容に則したプリントを配布する。

参考書等

大城道則『古代エジプト文化の形成と拡散—ナイル世界と東地中海世界—』（ミネルヴァ書房）

その他

画像を多用するためパワーポイントを使用する。

科目名	歴史学【4〔西洋中世史〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	ふなはし みちこ 舟橋 倫子				

講義のねらい

ヨーロッパの理解に必要な基礎知識と考えるヒントを提示し、各人の問題意識をかきたてることを目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

授業はローマ帝国滅亡からルネサンスまでの中世と呼ばれる時代のヨーロッパを対象とする。前期はヨーロッパの地理的・文化的大綱をつかむため、ある程度基礎的な解説を行う。各人が自分なりに中世ヨーロッパのイメージを作り上げられるよう、食文化や宗教、祭り等の身近な話題も取り挙げ説明を行う。後期は都市と農村、森、修道院といった具体的な場を設定し、人々をとりまく社会について多面的な検討を行う。最終的にヨーロッパ中世社会に共通するものは何なのかについて考え、解説を行うことで結論とする。

履修上の留意点

受験で世界史を選択しなかった学生への配慮から、ある程度基礎的な説明は行うが、高校の歴史地図帳を用意し、復習しておくことが望ましい。

成績評価の方法

学期末に行う試験によって評価を決定する。試験に際してはノートを持ち込みを許可するが、全て論述形式とするため、出席して自分なりにノートをとってまとめておかないと良い成績は期待できない。

教科書

教科書は特に指定しない。

参考書等

参考書は授業中に内容に応じて指示する。

その他

必要に応じてプリントを配布するが、原則として講義形式で授業を行う。

科目名	歴史学【5〔日本近世史〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	おだか しょういち 小高 昭一				

講義のねらい

織田信長から徳川十五代将軍慶喜までの約三百年、日本近世史のおおまかな流れを一年間でたどる。近世に成立した物事は、近代を経て現代にも影響を与えたものが多い。その始点を省みて、現代を生きる我々の知恵となるものを探れないだろうか。

講義の内容・授業スケジュール

教科書を通して読み、江戸時代の流れを捉える。教科書には細かい事項も記述されているが、全体としての流れ、重要な問題を押さえることを主眼とするので、高校までの日本史の勉強とは違う。

成績評価の方法

前期までの授業のまとめとしてレポートを課す。また、定期試験の論述試験での成績で評価する。

教科書

深谷克己著『江戸時代』（岩波ジュニア新書）『日本の歴史6』（岩波書店）2000年3月刊。

参考書等

授業の際、適宜紹介する。

科目名	歴史学【6〔日本近代史〕】	開講	通年	単位	4
担当	GM選				
担当者名	たちかわ しょうじ 立川 章次				

講義のねらい

日本史の流れを概観し、幕末から維新期にかけての過程を考察する。
幕末のわが国は、国内的には商品経済の流通により、封建制が内部矛盾を露呈し、崩壊への兆が、その一方、対外的には欧米列強の外圧に遭遇し、国家存亡の危機に直面したのである。幕末から明治初期にかけての人々は、この恐るべき外圧を契機として、みごと新国家の創造に成功し、近代日本の今日への基礎を築いたのである。このことに留意して新しく維新史を学びたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期 維新変革の機運・尊攘運動の展開・王政復古・明治新政・新国家の統一といった幕末から維新期にかけての過程を考察する。
後期 外交の転機となった最初の遣米使節の人々や、咸臨丸の勝海舟、福澤諭吉、中浜万次郎といった人々の啓蒙思想の原点を考察する。

成績評価の方法

定期試験と出席日数により総合的に評価する。

教科書

尾佐竹猛『幕末遣外使節物語』（講談社学術文庫）960円

科目名	歴史学【1〔日本近代史〕】－フレックスB開講－	開講	通年	単位	4
担当	GM選				
担当者名	はやし あきら 林 彰				

講義のねらい

幕末から明治・大正時代にかけての歴史的な流れを、思想・思潮を中心に政治社会の動向をふまえて概観していく予定である。西欧から輸入された近代思想が日本でどのように浸透し、知識人・民衆がどう受容し、在来の伝統的な思想といかに対立・錯綜・混在していくのか。それらを人物・ジャーナリズムなどを中心にみていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、幕末から明治・大正・昭和前期の、いわゆる近代史の概説をこころみる。後期には、著名な人物を取り上げ、論じながら、具体的に日本近代史の歩みを、人物とともにたどることにより、よりいっそうの理解を深める。とくに、体制側の動向（政府ないしは体制側の思想と運動の流れ）と反体制側の運動や思想の動向に留意しながらみていきたい。

成績評価の方法

レポートと定期試験。

教科書

大日方純夫『はじめて学ぶ日本近代史（上）』大月書店、2002年、1800円

参考書等

安在邦夫ほか『日本の近代－国家と民衆』粹出版、1984年、2000円
早川紀代編『軍国の女たち』吉川弘文館、2005年、2600円
安在邦夫ほか編『自由民権の再発見』日本経済評論社、2006年、3500円

科目名	歴史学【2〔中国史概観〕】－フレックスB開講－	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	こばやし そういち 小林 惣八				

- 講義のねらい** 中国史の歩みを大別すると、黄河文明、殷周時代、秦漢時代、魏晉南北朝時代、隋唐時代、五代・宋時代、元・明・清時代、新生中国とに分けられる。本講義ではその歩みを多角的にとらえ通観するものである。
- 成績評価の方法** 前・後期のレポート提出と定期試験による総合評価。詳細は追って指示する。
- 教科書** 特別定めないが、中国史の概説書や図表を座右に置いて聞くことを望む。
- その他** 出席を重視する。

科目名	歴史学【3〔アジア史概観〕】－フレックスB開講－	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	いひやま ともやす 飯山 知保				

- 講義のねらい** 歴史上アジアに興亡した諸民族の事跡を理解することは、単に歴史を学習するためのみならず、現在のアジアにおける国家・民族の情勢を把握するためにも重要である。本講義では、そうした諸民族の興亡の通時的考察を通じ、主に現代中国の民族情勢とその淵源を検討する。
- 講義の内容・授業スケジュール** 現在アジアの民族分布を解説した後、時代を遡り、主に中国を対象として、紀元前から諸民族集団の興亡を通観する。
- 成績評価の方法** 前・後期の教場試験と平常点による総合評価。詳細はおって指示する。
- 教科書** 特になし。
- 参考書等** 講義上で紹介する。
- その他** 出席による平常点を重視する。

科目名	芸術学【1〔日本美術〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	北野 ^{きたの} 良枝 ^{よしえ}				

講義のねらい

室町時代から江戸時代に至る日本絵画の流れを、中国およびヨーロッパとの関係に留意しつつ概説する。美術の歴史を理解するにあたって、常に作品を参照する必要があるため、授業では毎回、作品を映写する。

講義の内容・
授業スケジュール

前期 室町から桃山時代の絵画
 (1) ガイダンス (2) 絵画に関する基礎知識
 (3) ～(7) 室町時代の水墨画 (8) 阿弥派
 (9) 関東水墨画 (10) 土佐派
 (11) 狩野正信・元信 (12) ～(13) 狩野永徳と桃山画壇
 後期 江戸時代の絵画
 (14) 江戸時代の狩野派 (15) ～(18) 琳派
 (19) ～(20) 浮世絵 (21) 南蘋派
 (22) 文人画 (23) 秋田蘭画と司馬江漢
 (24) 円山四条派 (25) 伊藤若冲と曾我蕭白
 (26) 江戸から明治へ

履修上の留意点

授業中の私語は厳禁。

成績評価の方法

学年末に筆記試験を実施し、その得点によって評価する。

参考書等

映写した作品を確認するには、下記のような美術全集があり、いずれも駒沢大学図書館に所蔵されている。

- 『原色日本の美術』（小学館）
- 『日本美術全集』（学習研究社）
- 『日本美術絵画全集』（集英社）
- 『日本美術全集』（講談社）

科目名	芸術学【2〔西洋美術〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	やの ようこ 矢野 陽子				

講義のねらい

ひとつの美術作品が制作されるにあたっては、芸術家の個性や技術のみならず、その時代と地域の宗教・文化・政治状況などさまざまな要因も関係しています。この講義では私たちは異なる文化から生まれた西洋美術のうち、およそ16世紀から18世紀まで、つまりルネサンス期から革命期頃までのフランス美術を、絵画を中心に上げます。まず美術の主要な流れを把握し、作品に表現された内容とその表現様式の特徴を考えます。さらに芸術家と注文主や鑑賞者との関係、美術が社会のなかで占めていた位置についても考察していきます。

講義の内容・
授業スケジュール

前期 16世紀および17世紀のフランス美術
後期 18世紀のフランス美術

履修上の留意点

スライドで作品を見ながら講義を進めるので、授業にはなるべく遅刻欠席をせず続けて出席するようにしてください。

成績評価の方法

夏休みの課題としてのレポートと学年末の試験によって評価する予定です。レポートや試験の形式などは授業中に説明します。

参 考 書 等

授業中に適宜参考文献を紹介します。

そ の 他

授業では毎回スライドを使用します。

科目名	芸術学【3〔音楽〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	浦本 裕子 <small>うらもと ゆうこ</small>				

講義のねらい

音楽は私たちの回りに溢れている。さまざまなメディアから音楽が流れ、カラオケも今や世界共通語にまでなった。社会のグローバル化が進み、音楽も世界のものが聴けるようになり、ジャンルもボーダーレスになってきた。日本では、演歌など一部のものを除けば、流れている音楽のほとんどがヨーロッパとアフリカの音楽に基づいたものである。音楽理論はヨーロッパで生まれたクラシック音楽に由来し、ポップスにはアフリカ的な要素も多く入り込んでいる。そもそもどのように音楽が生まれてきたのだろうか、そしてどのように享受されてきたのであろうか。

本来は、音楽は生活の中での祈りや子守歌など「必要なもの」として生まれてきた。そして世界各地で、環境や生活形態が異なる中で、楽器や発声法などそれぞれ独自の音楽文化を長い時間をかけて形成してきたのである。

この授業では、そのような多様な諸民族の音楽やヨーロッパのクラシック音楽を学ぶことにより、多様な文化の一つとして音楽を理解することを目指したい。

講義の内容・授業スケジュール

前期：諸民族の音楽（アジアを中心に）
後期：ヨーロッパの音楽（民族音楽とクラシック音楽）

履修上の留意点

- ・音資料や映像資料を鑑賞するので、できるだけ出席するように。
- ・授業中に簡単なレポートを書いてもらうことがあるかも知れません。

成績評価の方法

前期：レポート
後期：試験

教科書

柘植元一・塚田健一編『はじめての世界音楽』（音楽之友社）

参考書等

藤井知昭 他 編『民族音楽概論』（東京書籍）
久保田慶一 他 『はじめての音楽史』（音楽之友社）

科目名	哲学【1〔西洋思想の源流〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	かわたに あつし 河谷 淳				

講義のねらい

この授業ではギリシア哲学（古代哲学）とキリスト教哲学（中世哲学）とを主要なテーマとして取り上げることで「考える」ということがどのような営みなのかを一緒に考えることにしたい。これらふたつの哲学思想は西洋思想の二大源流に対応するものであり、それぞれは知と信という対立のもとに理解することができよう。しかしながら、ふたつの源流は不連続と同時に連続性という側面も併せ持ち、複雑に分岐・合流を繰り返しながら近現代の思想へと流れ込んでいる。そうだとすれば現代の私たちが古代・中世哲学について考えるということは現代哲学の一形態であると言ってもよいであろう。授業ではできるだけ具体的な事例を挙げることで「哲学する」ことを身近に感じてもらえるように努めたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義では次のような内容を取り扱う。

前期：（1）ギリシア哲学：哲学の始まり
ソクラテス以前の哲学
ソクラテスの「無知の自覚」
プラトンのイデア論
アリストテレスの質料形相論
ヘレニズム期の哲学

後期：（2）キリスト教哲学：信仰と合理性
神の存在証明（アンセルムス、トマス・アクィナス）
普遍論争（唯名論と実在論）

（3）近代哲学：認識論的転回
大陸合理論：デカルトにおける「私」
イギリス経験論：ロック、パークリ、ヒューム
カント哲学：コペルニクスの転回

履修上の留意点

授業を受け身的に聴くというよりは一緒に問題を考えていくという積極的な姿勢が望ましい。

成績評価の方法

前期最終授業日に実施する中間試験と期末試験（40点満点×2）ならびに夏休みレポートと出席状況の総合点で評価する。

教科書

『原典による哲学の歴史』（公論社）

科目名	哲学【2〔西洋思想の源流〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	中村 ^{なかむら} 友太郎 ^{ともたろう}				

講義のねらい

古代ギリシアに起源をもつ西洋思想の展開をその端緒から歴史的に辿ることを通じて、「哲学的に考えること」の基本姿勢を、理解しつつ習得することを目標とします。究極的には、現代世界に生きる者として知的探究することがねらいですが、まずは源流に触れて古典的な思考法を身につける努力から始めましょう。

講義の内容・授業スケジュール

〔前期〕古代ギリシアの思想家たちにおける自然観と人間観の形成過程を中心に。中世キリスト教哲学および近代思想の形成期における哲学思索を中心に。なお、講義の内容も展開も参加者の対応次第で変わることがあります。

履修上の留意点

「哲学」(フィロソフィア)の名に値する知的探求は、みずから問いかけ思考しつづけることが基本ですから、受身的なだけの講義参加は無意味です。熱意をもって取りくむ覚悟が必要です。

成績評価の方法

毎授業時間のリアクションペーパーと、前後期それぞれの筆記テストないしは課題リポートの成果を総合的に評価する。

教科書

『原典による哲学の歴史』(公論社) 3,200円。ほかに資料等のコピーを適宜配布します。

参考書等

講義の際にその都度紹介する。

その他

小グループ方式等による討議や話し合いの場も大切にしたい。

科目名	哲学【3〔西洋思想の源流〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	かわたに あつし 河谷 淳				

講義のねらい

この授業ではギリシア哲学（古代哲学）とキリスト教哲学（中世哲学）とを主要なテーマとして取り上げることで「考える」ということがどのような営みなのかを一緒に考えることにしたい。これらふたつの哲学思想は西洋思想の二大源流に対応するものであり、それぞれは知と信という対立のもとに理解することができよう。しかしながら、ふたつの源流は不連続と同時に連続性という側面も併せ持ち、複雑に分岐・合流を繰り返しながら近現代の思想へと流れ込んでいる。そうだとすれば現代の私たちが古代・中世哲学について考えるということは現代哲学の一形態であると言ってもよいであろう。授業ではできるだけ具体的な事例を挙げることで「哲学する」ことを身近に感じてもらえるように努めたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義では次のような内容を取り扱う。

前期：（１）ギリシア哲学：哲学の始まり
ソクラテス以前の哲学
ソクラテスの「無知の自覚」
プラトンのイデア論
アリストテレスの質料形相論
ヘレニズム期の哲学

後期：（２）キリスト教哲学：信仰と合理性
神の存在証明（アンセルムス、トマス・アクィナス）
普遍論争（唯名論と実在論）
（３）近代哲学：認識論的転回
大陸合理論：デカルトにおける「私」
イギリス経験論：ロック、バークリ、ヒューム
カント哲学：コペルニクスの転回

履修上の留意点

授業を受け身的に聴くというよりは一緒に問題を考えていくという積極的な姿勢が望ましい。

成績評価の方法

前期最終授業日に実施する中間試験と期末試験（40点満点×2）ならびに夏休みレポートと出席状況の総合点で評価する。

教科書

『原典による哲学の歴史』（公論社）

科目名	哲学【4〔近代の人間観と世界観〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	古田 <small>ふるた</small> 知章 <small>ともあき</small>				

講義のねらい

現代において我々は、様々な場面で西洋的なものに直面し、また、我々自身、知らず知らずのうちに西洋的な人間観・世界観に基づいて判断あるいは行動していることも多い。この我々の日常にも深く係わる西洋的なものは、古代ギリシア以来の伝統のもと多岐にわたる曲折を経て、近代ヨーロッパにおいて現れた人間観・世界観に強く影響を受けている。したがって、西洋的なものの理解のためにも、また、現代に生きる我々の自己理解のためにも、近代ヨーロッパの人間観・世界観がどのような伝統と時代意識のもとに形成され、いかなる形で現代社会へと流れ込んでいるのかを学ぶことは有意義であると考えられる。

講義の内容・授業スケジュール

教科書を利用し、以下の内容を取り上げる（各項目ごとに、2～4回の講義）。

近代の人間観・世界観の源流

1. 哲学における基礎的な問題の整理 ー人間と世界について問うことー
2. 古代ギリシアの思想 ー哲学的探求の始まりー
3. キリスト教思想と中世の哲学 ー思索の新たな展開ー
4. 中世から近世への連続と変動 ー様々なルネサンスについてー

近世・近代の人間観・世界観

1. ルネサンスから近世の思想 ー人間観・世界観の変革ー
2. 科学の発展と世界観の変化との関係 ー人間の位置についてー
3. 現代の存在論 ー見えるものを支える見えない枠組みー

成績評価の方法

二回の定期試験（中間試験、年度末試験）と平常点（出席状況、夏期レポート等）で評価する。

教科書

『原典による哲学の歴史』（公論社）

参考書等

講義の際にその都度紹介する。

科目名	哲学【5〔近代の人間観と世界観〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	久保 陽一 <small>くぼ よういち</small>				

講義のねらい

今日我々は近代の科学技術のめざましい進歩によって多大な恩恵を蒙っている反面、環境問題、テロや道德の荒廃などの問題に悩まされている。また人間の意識を原理とした近代哲学は現代の言語哲学によって置き換えられようとしている。このような近代以後の状況のなかで真の自己と世界の認識を持ち、望ましい生き方をするためには、まず近代の哲学から何を引き継ぎ、何を批判すべきかを、見極める必要があろう。そこで講義では、西欧の近代における哲学の諸問題を取り上げることとする。

講義の内容・授業スケジュール

- (1) 認識論（経験論、合理論、カント）
- (2) 道德論（快樂主義、義務倫理）
- (3) 感情の哲学（パスカル、ルソー、シラー）
- (4) 社会哲学（ホブス、ロック、ルソー、ヘーゲル）

履修上の留意点

よく出席し、ノートを取る事が大切である。その際、取り上げられた哲学者がどのような主張をし、どのような用語を用い、それは何を意味するかを理解し、分析する必要がある。さらにそのような思想を自分自身は受け入れられるか否かを、考えることが望ましい。

成績評価の方法

中間と期末のテスト、レポート、出席状況等によって評価する。

教科書

久保・河谷編『原典による哲学の歴史』（公論社）

参考書等

開講時に挙げる。

科目名	哲学【6〔近代の人間観と世界観〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	植野 <small>うえの きみとし</small> 公稔				

講義のねらい

近代哲学では、①実在する世界は物理学的合理性に基づいて捉えられるとする自然科学的な世界観、②こうした世界観を支える拠点としての理性的な人間精神は自然科学では理解できない特権的なものとする人間中心主義的な人間観、これら2つの観点が強く打ち出された。そして、これらの観点は、いま現在もなお、科学技術の時代に生きる私たちが世界との関わりについて考える際の枠組みを形成するものとして、重要な位置づけを与えられている。しかし同時に、それらの観点は、批判的な検討を受けることによって、「私たちの世界理解は、科学的合理性に基づく形ではなく、むしろ日常的な行為の文脈と切り離せない形で成立するものではないだろうか」等々、現代的な問題を見出し、考えていくためのきっかけを作ってきたものでもある。つまり、近代哲学には、いま私たちが世界と関わる際の重要な手立てが詰まっていると同時に、現代的な問題を見出したり考えたりする際に不可欠な手がかりが潜んでいる。

こうしたことから、本講座では、受講するみなさんが、①近代哲学で展開された議論の主要な論点とその問題点を理解し、②こうした理解を通じて、現代的な問題に上手くアプローチしていくための力を伸ばす、以上の2点が目的とされる。

講義の内容・授業スケジュール

教科書を参照しながら進める。前期では、デカルトとヒュームを中心にして、合理性をめぐる議論について理解を深め、また後期では、カントとヘーゲルを中心にして、人間精神をめぐる議論について考察を進めることにする。

履修上の留意点

折にふれて、教科書に載せられたテキストで復習し、学習内容を定着させることに励んでほしい。なお、受講に際しての予備知識は必要としない。

成績評価の方法

理解度を確認する中間・期末テストと、近代哲学の問題点の考察をテーマにした期末レポート（2000字程度）によって評価する。

教科書

久保・河谷編『原典による哲学の歴史』（公論社）

科目名	哲学【7〔現代文明と人間〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	黒崎 <small>くろさき つよし</small> 剛				

講義のねらい

近代社会（近代とは現代も含む）のなかで人間のあり方と、社会構造（近代市民社会＝資本主義社会）について、近現代哲学を総括した上で、テーマ別に人間論と社会論について入門的な講義を行う。個々の哲学者の学説史ではないので、哲学史の知識を求める人には向かない。

講義の内容・授業スケジュール

- 以下のテーマを取り上げる予定
1. はじめに：われわれはどんな社会に生きているか
 2. 近代的自我：「自分である」とはどういうことか
 3. 近代的自由：自己決定。自律、労働
 4. 労働の哲学的意義
 5. 近代資本主義社会の構造：われわれはなぜモノとカネに支配されるか
 6. 二十世紀の人間解放論
 7. 歴史哲学

履修上の留意点

近代哲学の主要テーマ別にかなり抽象的な形で取り上げるので、単位獲得のためだと割り切っている人は退屈するはず。自分で考える姿勢を持つことを要求したい。

成績評価の方法

受講態度、出席、試験（レポート）、を総合評価。

教科書

教科書はプリントを使用。教科書、参考書は教場で紹介する。

科目名	哲学【8〔現代文明と人間〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	滝沢 <small>たきざわ まさゆき</small> 正之				

講義のねらい

現代哲学における重要な哲学者たちのうちから何人かをとりあげ、本人が書いたテキストの一部を実際に読みつつ、その思想を紹介していきたい。
我々が現在生きているこの時代がさまざまな問題を抱えていることは誰でも知っていることである。哲学者たちの思考をたどることで、それらの問題を根本にまで立ち戻って考え直すことができる。この現代で我々は人間としてどう生きるべきかを考えたい。

講義の内容・授業スケジュール

下に指定した教科書『原典による哲学の歴史』の原典引用部分を丁寧に読み、解説していく。現代哲学の流れを紹介した後アンケートを採り、受講者の問題関心に応じて扱う哲学者を選択する。とくに要望がない場合は、現代哲学と題された部分を順に読んでいくことになる。適宜プリントで内容の補足を行う。

履修上の留意点

教科書を必ず入手しておくこと。

成績評価の方法

中間試験および期末試験により評価する。中間試験はレポートにする予定。期末試験は筆記。受講者の人数が少ない場合は出席をとり、それも評価に加味したい。

教科書

久保・河谷編『原典による哲学の歴史』（公論社）
授業中に適宜プリントを配布する予定。

参考書等

講義中に適宜指示する。

科目名	哲学【9〔現代文明と人間〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	久保 陽一 <small>くぼ よういち</small>				

講義のねらい

現代は科学技術によって生活のすみずみまでもが規定された時代であると同時に、一見何でも可能な「自由」が認められている時代でもある。しかし、それによって、かえって、何を選択し、いかに科学技術を用いるべきかについて、明確な答を得にくい時代でもあろう。科学技術と自由主義の時代において、知情意を含めた、人間らしい本来の生き方とはいかなるものであるかが、根本的に問われているように思う。

そのような問題意識のもとで、本講義では現代哲学の状況を捉えることにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

今日グローバルなものとなった西洋哲学の近代の歩みを、その大筋において捉えた後で、現代文明の諸問題（マルクス主義、フクヤマの「歴史の終わり」、ハンチントンの文明衝突論、環境倫理学など）を取り上げることにする。

履修上の留意点

よく出席し、ノートを取ること。私語はつつしむこと。遅刻、途中退席しないこと。遠慮なく質問すること。

成績評価の方法

出席数、試験（前期と後期）、レポートによって評価する。

教科書

久保・河谷編『原典による哲学の歴史』（公論社） 3,200円

参考書等

渡辺二郎『現代の哲学』（日本放送出版協会） 1,800円
 久保陽一『ドイツ観念論への招待』（日本放送出版協会） 2,800円
 授業中、種々の資料を配布する

その他

講義

科目名	哲学【〔西洋思想の源流〕 －フレックスB開講－	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	滝沢 <small>たきざわ まさゆき</small> 正之				

講義のねらい

西洋哲学史を古代から中世にかけてを中心に紹介する。時間があれば、続けて近世から現代へと時代順に進んでいくことになる。

ただし、書店で手に入る哲学史の入門書のように、哲学者たちの思想をダイジェスト版で紹介することはしない。哲学者本人が書いたテキストそのもの（翻訳ではあるが）を実際読んでいくことにしたい。もちろんすべてを精読するわけにはいかないので、諸著作の一部を抜き出して検討することになる。

本物の哲学者の本物の哲学書から、哲学的な思考とはどのようなものかを実感することを目標とする。それと同時に、はるか昔の頭のよい？人たちがどんな変なことを考えていたのかを楽しんでいきたい。

講義の内容・授業スケジュール

下に指定した教科書『原典による哲学の歴史』の原典の引用部分を丁寧に読み、解説していく。最初から順に読んでいく予定なので、授業スケジュールは教科書の目次を参照されたい。適宜プリントで内容の補足を行う。

履修上の留意点

教科書を必ず入手しておくこと。

成績評価の方法

中間試験および期末試験により評価する。中間試験はレポートにする予定。期末試験は筆記。受講者の人数が少ない場合は出席をとり、それも評価に加味したい。

教科書

久保・河谷編『原典による哲学の歴史』（公論社）
授業中に適宜プリントを配布する予定。

参考書等

講義中に適宜指示する。

科目名	哲学【〔近代の人間観と世界観〕】 －フレックスB開講－	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	伊古田 <small>いこた まさる</small> 理				

講義のねらい

現代文明の形成にあたって中核をなした思想である、近代ヨーロッパ思想を紹介し、その問題点を探る。今年度は、特に「機械」について検討する。現代の科学技術文明は、さまざまな機械を製作し、またその前提として自然（および人間）を機械との類比でとらえようとする傾向を明らかに含んでいる。この発想の特性と問題点を探ることが、本年度の課題である。

講義の内容・授業スケジュール

まず、ヨーロッパ思想の源流である古代ギリシャ哲学、キリスト教思想について、必要などころをおさえ、そのうえで近代以降の思想の発展を解説する、という方針をとる。

成績評価の方法

夏期中間試験と冬期定期試験の成績を素点とし、100点満点での素点に対する失点の一定割合を、夏期レポート課題によりリカバーする。

教科書

久保他編『原典による哲学の歴史』（公論社）

科目名	哲学【〔現代文明と人間〕】 －フレックスB開講－	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	鈴木 聡 <small>すずき さとる</small>				

講義のねらい

本講義では、現代哲学の重要問題を扱った素材を叩き台として、1つの問題をとことん考え抜くという態度を受講者が身につけるための機会を提供したい。

講義の内容・
授業スケジュール

本講義では、以下のトピックのうちのいくつかを取り上げる予定である。

1. 宇宙のはじまり
2. 懐疑論
3. 意識という謎
4. 推論の落とし穴
5. 他人の心
6. 考える機械
7. 意味とは何か？
8. 道徳を教えるのは神か？
9. 悪について
10. 芸術について
11. 知識について
12. 帰納法の正当化
13. タイム・トラベルは可能か？
14. 人は人を罰しうるか？
15. 人格の同一性
16. 様々なパラドクス

履修上の留意点

欠席・遅刻は一切認めない。必ず予習し、1回の講義につき少なくとも1回は質問すること。

成績評価の方法

成績は、出席状況・講義中の質問によって評価する。

教科書

開講時に指定する。

科目名	論理学【1〔科学方法論と現代論理学〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	鈴木 聡 <small>すずき さとし</small>				

講義のねらい

論理学の初歩の講義を、できるだけ丁寧にわかりやすく行う。我々は、日常生活において様々な文を用いて様々なタイプの推論を行う。多種多様な姿を持つ文にも、実は或る一定の構造が存在する。その構造を見極めることが論理学の課題である。また多種多様に見える推論にも、実は或る一定のタイプが存在する。この推論のタイプについての研究が論理学の主要課題である。論理学の習得は、正しい推論結果を導出するために、すべての学問において重要なことである。

講義の内容・授業スケジュール

- 講義内容は次のものを予定している。
1. 文論理
 - (a) 文論理の意味論 (b) 文論理の統語論
 2. 第一階量化論理
 - (a) 第一階量化論理の意味論 (b) 第一階量化論理の統語論
 3. メタ論理
 - (a) 健全性定理の意義 (b) 完全性定理の意義

履修上の留意点

毎回の出席が要求される。

成績評価の方法

成績は、中間試験・期末試験・小テスト・出席点で評価する。

教科書

配布プリント

参考書等

本講義は、講義→小テスト（チュートリアル）→前回の講義の復習→小テストの解説→……という形式で行う。

科目名	論理学【2〔科学方法論と現代論理学〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	山口 <small>やまぐち</small> 祐弘 <small>まさひろ</small>				

講義のねらい

伝統的論理学から現代記号論理学に至る論理思想を学び、正しく考え語るための方法と態度を身につける。

講義の内容・
授業スケジュール

前期

①論理学とは何か ②思考の基本原則 同一律 ③矛盾律 ④排中律 ⑤充足理由律
⑥原因の探求 ⑦帰納と類推 ⑧仮説演繹法 ⑨概念の形成 ⑩カテゴリーと判断
⑪演繹推理直接推理 ⑫定言三段論法 ⑬仮言および選言三段論法 ⑭ディレンマとパラ
ドクス⑮中間テスト

後期

①記号論理学の発想と起源 ②命題の記号化と論理式 ③真理表とトートロジー
④標準形 ⑤公理体系 ⑥定理の演繹 ⑦公理体系の完全性と無矛盾性 ⑧命題論理学の
限界⑨述語論理学 ⑩公理体系 ⑪伝統論理学の反省 ⑫直接推理の記号論的考察
⑬三段論法の記号論的考察 ⑭論理とことば ⑮定期試験

履修上の留意点

講義内容をよく理解し、日常の思考活動を反省しつつ論理的に考える態度を養うこと。

成績評価の方法

中間試験、定期試験の成績による。

教科書

「新しい認識への論理」山下太郎 公論社

参考書等

論理学綱要 三島新吉 内田老圃鶴新社

科目名	論理学【3〔科学方法論と現代論理学〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	かわたに あつし 河谷 淳				

講義のねらい ゼミ発表や就職活動において自分の考えを文章や口頭で表現するような場合、そこでは一定の「流れ」が要請されている。また、友人との何気ない会話にしてみても、反省してみるならば暗黙の前提命題からの「流れ」の帰結であることに気づく場合がある。アリストテレス以来の歴史を持つ論理学とはそうした前提から結論への妥当な「流れ」（推論の形式）とはどのようなものであるのかを考える学だと言いうことができる。この授業の目的は、「論理的である」とは一体どういうことなのかを考え、さらに、練習問題を解くことで様々なタイプの推論の妥当・非妥当性を判定するトレーニングをつんでもらうところにある。

講義の内容・授業スケジュール 本講義では概ね次のような内容を取り扱う。
 前期：伝統的論理
 (a) 論理学の基本概念（概念・命題・推論）
 (b) 演繹推理（定言・仮言三段論法の妥当性の判定）
 (c) 帰納推理（ミルの方法、仮説演繹法）
 (d) 虚偽論
 後期：現代論理（記号論理）入門
 (d) 命題論理（日常言語の記号化と推論の証明）
 (e) 述語論理（日常言語の記号化と推論の証明）

履修上の留意点 継続して授業に出席することは言うまでもなく、毎回の授業内容を積極的に復習することが望ましい。

成績評価の方法 前期最終授業日に実施する中間試験と期末試験（40点満点×2）ならびに夏休みレポートと出席状況の総合点で評価する。

科目名	論理学【4〔科学方法論と現代論理学〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	たきぐち きよせい 滝口 清栄				

講義のねらい 私たちはさまざまな情報のうずのなかで生活している。それは身近な日常生活から社会や世界の動きにまで及んでいる。これら多岐に及ぶ情報の伝達と表現は言葉によって行なわれている。また送り手も受け手も思考を通して情報に関わっている。この渦の中で私たちは納得したり、あるいは納得しなかったりする。このように振り返るなら、私たちは言葉と思考のあり方に敏感になるのではなかろうか。ひとたびこの点について注意を払うようになると、日常生活そしてさまざまな学問的な営みの基礎として、論理学が大切なものと思えてくるであろう。本講義では、思考の基礎をしっかりとしたものとするよう、思考の諸法則を検討していく。

講義の内容・授業スケジュール 教科書にそって形式論理学に重点をおいて講義を進めていく。前期では、概念、命題、演繹推理を中心に、そして後期は機能推理、虚偽論、そして命題論理を扱う。

履修上の留意点 理解を深めるために練習問題をできるだけ多く解くように努める。出席をよくしてほしい。

成績評価の方法 年間5回の小テストで成績を出す。

教科書 山下太郎他著『新しい認識の論理』（公論社）3,200円

参考書等 講義中に紹介する。

科目名	論理学【5〔知の技法〕】	開講	通年	単位	4
配当	全学科（フレB除く）選				
担当者名	伊古田 理 <small>いこた まさる</small>				

講義のねらい

本講義は、文科系の文章技術について解説し、かつトレーニングを試みる。すなわち、あるテーマについて、文献を集め、読み、考え、そのうえで自分の考えを文章としてまとめるといった一連のプロセスについての実際的ノウハウの習得を目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

まず、最初に文献・資料集めのしかたについて、簡単に解説する。次にあるテーマについて異なる立場からの考察を読みこなすトレーニングを行う。そのうえでこうした読解をもとにして自分の考え、立場を文章としてまとめあげるトレーニングを行う。

履修上の留意点

以下の「成績評価の方法」でも触れてあるが、この授業は基本的に講義スタイルですすめてゆくが、それと平行して、数回のレポート課題を出す。そして、この提出したレポートを材料に授業を進めるケースも少なくない。したがって、レポート課題がこなせないという意識をもつ諸君には受講をすすめたくない。

成績評価の方法

随時課するレポート課題（問題演習＋文章要約、等々：年間10本以上はありうることを承知しておいてほしい。翌週提出厳守）のほかに、最終的に本講義で扱ったテーマに対する諸君の考えをまとめた原稿用紙20枚程度のレポート（12月最終週講義時提出）によって判定。定期試験はいっさい実施しない。

教科書

本年度は、テーマとして「道徳の理由（なぜ道徳なんてものに従って行動しなければならないのか）」をとりあげる。

教科書：大庭他著『なぜ悪いことをしてはいけないのか』（ナカニシヤ出版）

副読本：野矢茂樹『論理トレーニング』（産業図書）

参考書等

そのつど指示する。

その他

上記教科書のテーマに対する関心を予めそなえていることは、必ずしも前提しない。しかし無関心でいつづけることはできない。自分で興味をみつけてゆくつもりで授業に臨んでほしい。

科目名	論理学【6〔科学方法論と現代論理学〕】	開講	通年	単位	4
担当	GM選				
担当者名	鈴木 <small>すずき さとる</small> 聡				

講義のねらい

論理学の初歩の講義を、できるだけ丁寧にわかりやすく行う。我々は、日常生活において様々な文を用いて様々なタイプの推論を行う。多種多様な姿を持つ文にも、実は或る一定の構造が存在する。その構造を見極めることが論理学の課題である。また多種多様に見える推論にも、実は或る一定のタイプが存在する。この推論のタイプについての研究が論理学の主要課題である。論理学の習得は、正しい推論結果を導出するために、すべての学問において重要なことがらである。

講義の内容・授業スケジュール

- 講義内容は次のものを予定している。
1. 文論理
 - (a) 文論理の意味論 (b) 文論理の統語論
 2. 第一階量化論理
 - (a) 第一階量化論理の意味論 (b) 第一階量化論理の統語論
 3. メタ論理
 - (a) 健全性定理の意義 (b) 完全性定理の意義

履修上の留意点

毎回の出席が要求される。

成績評価の方法

成績は、中間試験・期末試験・小テスト・出席点で評価する。

教科書

配布プリント

参考書等

本講義は、講義→小テスト(チュートリアル)→前回の講義の復習→小テストの解説→……という形式で行う。

科目名	論理学【7〔知の技法〕】	開講	通年	単位	4
担当	全学科（フレB除く）選				
担当者名	植野 公稔 <small>うえの きみとし</small>				

講義のねらい

いま、私たちの社会生活では、論理的であることを求められる場面に出会うことが多い。本講座の目的は、こうした現状に対処できるだけの論理的思考力を受講者のみなさんが身に付けられるように、その基本練習の場を作ることにある。言葉相互の論理的な繋がりについて自覚しながら読み、考え、そして書くことができるようになるためには何が必要なのかを、毎時間、自分自身で課題に取り組みながら気づいてほしい。なお、いわゆる現代記号論理学については、必要最小限のこと以外、扱わないものとする。

講義の内容・授業スケジュール

教科書に則して授業を進める。原則として、各回とも、事項に関する説明と問題練習によって授業が構成される。前期では、論理の骨格をなす接続語や指示語の適切な使い方と、首尾良く考えを展開するための推論のあり方について練習を重ねる。また後期では、演繹的な推論について練習を重ね、就職試験等でも取り上げられるような、いわゆる推理部門の問題にも対処していける力を養うことにしたい。受講人数にもよるが、できるかぎり、復習を兼ねた形の添削課題を出し、受講するみなさんの練習の質を高められるようにしたいと思う。

履修上の留意点

本講座では、受講者本人による練習が何よりも重要であるので、コンスタントに参加してほしい。問題練習での間違いを恐れる人たちもいると思われるが、間違いをきっかけにしてステップアップしていってくれるのなら、本講座に関するかぎり、間違いをおかすこと自体には何ら問題はない。

成績評価の方法

事項の習熟度を確認するための中間・期末テスト、および期末に取り組んでもらう小論文課題（2000字程度）によって評価する。なお、練習が重要な講座のため、原則として、1学期につき欠席が3回を越える場合は、単位の認定ができないものとする。

教科書

野矢茂樹『論理トレーニング』（産業図書）

科目名	論理学【〔科学方法論と現代論理学〕 －フレックスB開講－	開講	通年	単位	4
担当	GM選				
担当者名	伊古田 理 <small>いこた まさる</small>				

講義のねらい

現代論理学の内容を、「ことばの正しさ」のうちで「推論の正しさ」のかたちづくる領域がどのようなものかを考えることにより、紹介してゆく。

具体的には、「推論の正しさ」の領域がどのようなメカニズムで機能しているかを習得することを第一の目標として、そのうえで（時間の許すかぎり）こうした領域の位置づけについて論ずることにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

- (1) 古典的三段論法 (2) 公理系I～命題論理 (3) 公理系II～述語論理
(4) コンピュータと論理

成績評価の方法

年2回の試験（夏期中間試験＋年度末定期試験）を実施し、それとは別に各学期にそれぞれレポート課題を出す。

詳細については、授業開始時のガイダンスの際に説明する。

教科書

野矢茂樹著『論理学』（東京大学出版会）

科目名	論理学【(科学方法論と現代論理学)】 －フレックスB開講－	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	麻生 ^{あさお} 享志 ^{たかし}				

講義のねらい

西洋哲学の中で、論理学は常に大きな位置をしめてきた。論理とは何か、正しさをどう説明すればよいか、真理をどのようなものとするか、といった問題の考察に、「論理学」は欠かせない。このような「論理の本性への考察」には、古代ギリシャの哲学者、アリストテレスの論理学を知る必要がある。彼の論理学には、当時の学問がおかれた状況が強い影響を与えていたと考えられる。その後、自然科学の発達によって学問状況は変化した。その変化に対応する形で論理学の変革も試みられた。さらに、二十世紀に入って、数学研究と論理学研究の交流・接触が考えられるようになる。このように論理学は変化の歴史を持つ。そこで(1) 論理とは何かを考え、(2) 変化する論理学の各内容についての知識を持ち、(3) 日常生活における論理の活用について、自分で考えることの手引きを与えることをねらいとします。

講義の内容・授業スケジュール

論理の本性、真理論、論理パズルとパラドックス、アリストテレス論理学、帰納法論理、実験主義論理学、論理学方法論、記号論理学概観、日常生活における正しい推論、学問と論理などの話題を考えています。

履修上の留意点

大学という学問の場においては、講義内容を聞いて理解し、練習問題をこなし、内容を記憶するだけでは、十分ではありません。自分で検討し、疑い、考えることが絶対に必要であると考えます。そのために、自分で本を読んだり、調べたりという作業が加わるでしょう。意欲ある取り組みと、徹底的に自分の頭で考える姿勢を求めます。

成績評価の方法

平常点として、出席と、講義中に行う問題や論述を主な評価材料(60%)にし、前期・後期試験・夏休みのレポート成績を加味します。

教科書

なし。

参考書等

多数。講義内にて詳細に説明します。

その他

講義と問題演習(ないし論述筆記)。早退は、許可のない限り認めません。主体的な質問を大いに歓迎し、期待します。初日はガイダンスとし、定時から五分間程度、または正規の終了時刻前五分間に資料を配布して質問を受け付けます。(ガイダンス後は、雑談的内容にあてる予定です。この間、入退出自由。)この時配布する資料は、履修に必要ですので、何らかの方法で必ず入手するようにして下さい。

科目名	倫理学【1〔人間観〕】	開講	通年	単位	4
配当	全学科（フレB除く）選				
担当者名	古田 知章 <small>ふるた ともあき</small>				

講義のねらい

われわれは、社会の中で、一人の人間として、さまざまなものを「よい」あるいは「悪い」と判断しながら生活している。逆に言うと、この判断なしにわれわれは生きていくことができない。では、このような倫理的生活を送っているわれわれ人間とは何者であろうか。日常、われわれは「人間」という言葉、あるいは、「自分が人間である」という事態を自明なものとして扱っている。しかし「人間とは何か」と問われたとき、さまざまな問題が浮かび上がり、簡単には解答に到達できない。西洋の思想的領域では、この問いに対して、その時代の社会的状況や思想的背景との関連のもとで、さまざまな解答が示されてきた。現代に生きるわれわれが、自らが人間であることの意味を問い直すとき、これらの諸説を一度、検討することは有意義であると考えられる。

講義の内容・授業スケジュール

教科書を利用し、以下の内容を取り上げる（各項目ごとに、2～4回の講義）。

人間観の形成の歴史

1. 人間と倫理 一人間であるために一
2. 古代ギリシア思想における人間観の諸相
3. 中世キリスト教思想における人間観
4. 人間観の転換 一ルネサンス・宗教改革一

新しい時代の人間観

1. 出発点としてのデカルト《思惟する私》
2. 自己の内面性と他者の問題
3. 人格 一ロックを手がかりに一
4. 人間存在と自由

成績評価の方法

二回の定期試験（中間試験、年度末試験）と平常点（出席状況、夏期レポート等）で評価する。

教科書

『原典による哲学の歴史』（公論社）

参考書等

講義の際にその都度紹介する。

科目名	倫理学【2〔応用倫理学〕】	開講	通年	単位	4
配当	全学科（フレB除く）選				
担当者名	黒崎 剛 <small>くろさき つよし</small>				

講義のねらい

「倫理」というのは、人間が世界の中で、世界に対して振る舞う上にさいして基準とする「規範」―「価値」や「義務」、「習慣」といった―の正当性を問うものである。だから「倫理学」というのは、自分が行動するに際して自覚的・無自覚的にとっている規範が半端なものではないか、みずから検証するという課題を持っている。ところで、科学技術、そして最近の生命科学の驚異的な発展によって、私たちがこれまでまったく自明のものとなっていた多くの「価値」「規範」がその地位を失おうとしている。そこで、この授業では、生命科学と医療の分野でここ二、三十年の間に起った変動にともなって提起されてきた問題を取り上げる。すなわち「生命倫理」をテーマとする。

講義の内容・授業スケジュール

- 「生命倫理」の諸問題のうち、以下のテーマを取り上げる予定
1. 生命の倫理―講義の課題概説
 2. 「インフォームド・コンセント」：自己決定の思想
 3. 人工妊娠中絶
 4. 安楽死と尊厳死
 5. 脳死と臓器移植
 6. 「生殖革命」―人工生殖の現状と問題点
 7. 遺伝子操作論

履修上の留意点

課題はすべて現在進行形のものばかりなので、受講生にも起りつつある問題に絶えず嗅覚を働かせる態度を望む。

成績評価の方法

受講態度、出席、試験（レポート）、を総合評価。

教科書

教科書はプリントを使用。参考書は教場で紹介する。

科目名	倫理学【3〔価値観〕】	開講	通年	単位	4
配当	全学科（フレB除く）選				
担当者名	滝沢 <small>たきざわ</small> 正之 <small>まさゆき</small>				

講義のねらい

倫理学の基本的な考え方を紹介する。
我々はすでに何が善いことで何が悪いことであるかをだいたい知っている。日常生活にはそれで支障はない。しかし、その善悪についての信念をあらためて反省してみると、いろいろと問題含みであることに気づく。

そこで、ポイントごとに、それらの問題を考えていくことになる。その際、主に近世の哲学者イマヌエル・カントの倫理学を手がかりにするので、これの解説をしつつ、問題に向かうことになる。

たとえば、道徳的な善し悪しの判断と、個人の趣味はどう関係するのか。不純な動機から（「誉められたい」など）善いことをすることをどう評価するのか。人間を殺してはいけないのに、動物を殺してもいいのか。その他もろもろ。

講義の内容・
授業スケジュール

前期にカント倫理学の基本概念を解説する。それを踏まえたうえで、後期には以下のような問題を扱う予定。動物愛護の問題、人間の自由の問題、国家と道徳の問題。
細かいスケジュールは講義中に示す。

履修上の留意点

特定の教科書を使用せず、講義が中心となる。欠席が多いと試験等が大変になるので注意されたい。

成績評価の方法

中間試験および期末試験により評価する。中間試験はレポートにする予定。期末試験は筆記。受講者の人数が少ない場合は出席をとり、それも評価に加味したい。

教科書

適宜プリントを配布する予定。
また、講義中に適宜指定する。

参考書等

久保・河谷編『原典による哲学の歴史』（公論社）
また、講義中に適宜指定する。

科目名	倫理学【4〔応用倫理学〕】	開講	通年	単位	4
配当	全学科（フレB除く）選				
担当者名	麻生 ^{あさお たかし} 享志				

講義のねらい

応用倫理は、究極的に「どう生きるか」という自分の生き方につながっていくものと考えます。（これを倫理学・哲学で”実存的”問いと呼んだりする）ですから、講義を通じて、自己の問題として興味を持ち、考えてもらう、という事を目標とします。

講義の内容・授業スケジュール

倫理学（理論的倫理学）の基礎から、応用倫理学の「ごく特殊なもの」まで、幅広く紹介していきます。わたくし自身の興味や人生観にも、触れていきたいと思っています。生命倫理的内容からはじまる応用倫理的話題、労働・人生の意味・交通ルール・まちづくり住環境など、多面的に考えていく予定です。

履修上の留意点

最低限の常識的なルールを守り、あとは、講義を“楽しんで”もらえたらいいと思います。

成績評価の方法

前期試験（45%）、後期レポート（レポート試験）（55%）
前期は哲学史に関わる記述問題、後期レポートは講義の感想を原稿用紙3-4枚程度を予定

教科書

久保・河谷編麻生ほか著『原典による哲学の歴史』公論社刊（前期試験受験に必須）

参考書等

特になし

その他

初日はガイダンスとし、定時から五分間程度、または正規の終了時刻前五分間に資料を配布して質問を受け付けます。（ガイダンス後は、雑談的内容にあてる予定です。この間、入退出自由。）この時配布する資料は、履修に必要ですので、何らかの方法で必ず入手するようにして下さい。

科目名	倫理学【5〔制度とモラル〕】	開講	通年	単位	4
配当	全学科（フレB除く）選				
担当者名	滝口 清栄 <small>たきぐち きよせい</small>				

講義のねらい

人間は古くから共同体を作り、さまざまな社会的・政治的制度を生みだしてきた。そこには時代により、地域により違いが見られる。そこにはまた人間のよりよいあり方とよりよい社会的・政治的制度のあり方をめぐり、絶えることのない思想的な営みがあった。どのような時代でも人間はこの営みをやめることはなかった。私たちの社会は今どのような方向に進んでいくのか。いろいろと考えざるをえない。以上の思想的営みを歴史的視野の中で振り返っておくことが、今日の問題を考えていく上でも大切な土台となるであろう。

講義の内容・授業スケジュール

本講義では、西洋倫理思想史のなかで古代、近代、現代から主要な思想をピックアップし、人間観の特徴と、人間のよりよき生を可能にするよりよき制度をめぐる思索のあとを検討する。制度はもちろんそれを担う人間を必要とする。ここにモラルの問題が関わる。時代的な違いを背景において以上の問題を検討していく。

こまかなスケジュールについては開講時にスケジュール表を配布するが、前期に古代ギリシアから近代初頭、後期にはそれ以降を扱う。

履修上の留意点

講義は平明を心がける。ときどき質問用紙を配るので、不明な点について質問を出してほしい。

成績評価の方法

中間テスト（前期の最終授業時）と学年末テストにより成績を評価する。

教科書

久保陽一・河谷淳編『原典による哲学の歴史』（公論社）3,200円

科目名	倫理学【6〔東洋倫理〕】	開講	通年	単位	4
配当	全学科（フレB除く）選				
担当者名	末木 恭彦 <small>すえき やすひこ</small>				

講義のねらい

倫理学は、人の行為の規範を考える学問である。倫理学という学問は生れなかったが、それに相当する思索は東洋の伝統思想の中に生まれていた。東洋の伝統思想がどのようにどれだけ現代の倫理に貢献するか、諸君と一緒に考えてみる。

講義の内容・授業スケジュール

授業の最初に、倫理とは何か、倫理学とは何かを講義する。その後、今年は環境と倫理の問題について考える。環境問題は現代の大きな問題である。しかし、環境の問題は既に古代から芽生えていた。中国の古代にも、環境問題をめぐる議論が行われた。その中国古代の環境をめぐる議論を顧て、現代の環境と倫理の問題にどのような貢献するか考えてみる。

履修上の留意点

ノートはしっかりと取る。

成績評価の方法

各学期末の試験と夏期休暇のレポートによって成績をつける。

教科書

浅野裕一『中国古代の文明観』（岩波新書）

科目名	倫理学【7〔応用倫理学〕】	開講	通年	単位	4
配当	全学科（フレB除く）選				
担当者名	黒崎 剛 <small>くろさき つよし</small>				

講義のねらい

「倫理」というのは、人間が世界の中で、世界に対して振る舞う上にさいして基準とする「規範」—「価値」や「義務」、「習慣」といった—の正当性を問うものである。だから「倫理学」というのは、自分が行動するに際して自覚的・無自覚的にとっている規範が半端なものではないか、みずから検証するという課題を持っている。ところで、科学技術、そして最近の生命科学の驚異的な発展によって、私たちがこれまでまったく自明のものともみなしていた多くの「価値」「規範」がその地位を失おうとしている。そこで、この授業では、生命科学と医療の分野でここ二、三十年の間に起った変動ともなって提起されてきた問題を取り上げる。すなわち「生命倫理」をテーマとする。

講義の内容・授業スケジュール

「生命倫理」の諸問題のうち、以下のテーマを取り上げる予定

1. 生命の倫理—講義の課題概説
2. 「インフォームド・コンセント」：自己決定の思想
3. 人工妊娠中絶
4. 安楽死と尊厳死
5. 脳死と臓器移植
6. 「生殖革命」—人工生殖の現状と問題点
7. 遺伝子操作論

履修上の留意点

課題はすべて現在進行形のものばかりなので、受講生にも起りつつある問題に絶えず嗅覚を働かせる態度を望む。

成績評価の方法

受講態度、出席、試験（レポート）、を総合評価。

教科書

教科書はプリントを使用。参考書は教場で紹介する。

科目名	宗教学【1〔比較宗教文化〕】	開講	通年	単位	4
配当	全学科（フレB除く）選				
担当者名	いけがみ よしまさ 池上 良正				

講義のねらい

宗教学という学問は、そもそもの出発点から比較宗教学という性格をもっていた。そこでは「ひとつの宗教しか知らない者は、いかなる宗教をも知らない」（マックス・ミュラー）という信念が前提になっていた。「国際化」が進む今日の世界において、異なる社会に育った人々の生活の基盤を形づくってきた宗教文化の相互理解は、ますます重要な課題となっている。本講義では、宗教学の基本的な視点を紹介しながら、いくつかの具体的な研究成果を学ぶことにする。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、まず近代的用語としての「宗教」が成立した過程を検討し、この用語の特性と限界を考える。近代宗教学の成果をふまえて、私たちの日常の身近な出来事に引き寄せながら、「宗教」を理解する広い視点を提示してみたい。後期は、多くの日本人には馴染みが薄いものの、現代世界を理解するうえでは欠くことのできない、「一神教」という特異な宗教が成立した過程を考察し、その特性に迫ってみたい。

成績評価の方法

年度末に筆記試験を行なう。

教科書

特に指定しない。

参考書等

『岩波講座・宗教』（全10巻）（岩波書店）。『エリアーデ著作集』（せりか書房）。上田閑照・柳川啓一編『宗教学のすすめ』（筑摩書房）。脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）。加藤隆『新約聖書の誕生』（講談社）。ラーンジュ『ユダヤ教とはなにか』（青土社）。

科目名	宗教学【2〔聖と俗〕】	開講	通年	単位	4
配当	全学科（フレB除く）選				
担当者名	田中 ^{たなか} かの子				

講義のねらい

ありのままの世界には「聖」も「俗」もなく、あるがままに続けられてゆくその営みがみられるばかりである。そこにあえて「聖と俗」といった対立概念をみるのは、変化し続ける多様な現象の動きを把握しきれない人間の焦燥感が、二分法という遠心分離機を欲するから、ともいえる。人類の精神史において展開してきた各宗教の分立を観るにつけても、深く知れば知るほど、「～教」と「～教」を隔てる壁の存在に疑問を抱かずにはいられなくなる。一見、相違するようにみえる諸宗教の教義・儀礼・生活共同体の掟にも、歴史的な相関性があり、言語や民族の絆は、信仰の違いを超えて、多様な文化圏を形成している。さらに「いのち」の尊厳を守るための真摯な祈りはどれも、学問的に定義された「宗教」概念では捉えきれない、普遍的で深遠な思想を内に秘めている。ゆえに本講では、従来の宗教学が呪縛されてきた既存の宗教分類（例：「一神教と多神教」「世界宗教と民族宗教」）から出発せずに、最も根源的で身近な「いのち」をめぐる人間の恐れ・感謝・願いをテーマにしながら、「宗教」を考える。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、「いのち」に気づき、その表現・解釈・ゆくえ・価値観などについて考えることに重点を置き、後期は、現代社会の理解に欠かせないゾロアスター教、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム、シーク教、ヒンドゥー教、ジャイナ教、仏教、儒教、道教、神道の歴史・思想・文化における「いのち」を探究する。

履修上の留意点

既存の知識で示せる情報の範囲をはるかに凌駕した、真実の豊かさに眼を開いてほしい。

成績評価の方法

独創性と応用力を発揮できる、論述式のレポート。

教科書

拙著『比較宗教学―「いのち」の探究―』（北樹出版）2006年、改版

その他

講義担当者の現地調査によるスライドや録音テープを活用する。

科目名	宗教学【3〔世界観と儀礼〕】	開講	通年	単位	4
配当	全学科（フレB除く）選				
担当者名	小川 <small>おがわ としゆき</small> 順敬				

講義のねらい

人間の“宗教行動”を理解することはなかなか困難な作業です。目に見えぬものに語りかけたり、その声に耳をそばだてたり、時としてその声を代弁したりすることを一体どのように分かれれば良いと言うのでしょうか。祈りやお告げといった“宗教行動”は、信仰を持たぬものにとっては全く理解不可能な事なののでしょうか。宗教学は、そういった行動を信仰者の立場からではなく、“人間の行動”として、その背後の考え方を探ることによって理解しようと努めてきました。

この講義では、宗教学の立場から儀礼（宗教行動）とその世界観について考えていこうと思えます。一見、不可解な行動に見えても、その背後の世界観を知ることによって、宗教行動の意味をいささかでも理解する端緒が開かれるはずで。

講義の内容・授業スケジュール

まず最初に、宗教学の基本的な考え方や方法論、いくつかの基本概念などを具体事例にそって概説、紹介します。この際、儀礼に関する議論や理論を、宗教学や宗教人類学、あるいはもう少し広く社会科学や人文学の中から紹介する予定です。ついで、様々な儀礼の諸相を具体例をあげて紹介し、その事例の検討を通して、思想や世界観、神話との関係について考えてゆくことにしたいと考えています。

成績評価の方法

評価は原則として、年2、3回の「小レポート試験」と年度末の筆記試験により行います。なお小レポートとは別に、夏期休暇前に「夏期レポート」課題を出しますが、提出は受講者の自由意志とします。成績評価の具体的な方法、年度末試験の方針、レポートの内容、出席等は最初の授業で詳しく説明します。

教科書

原則として教科書は用いません。

参考書等

講義の内容に関連する参考書は適宜紹介します。

科目名	宗教学【4〔日本人の宗教〕】	開講	通年	単位	4
配当	全学科（フレB除く）選				
担当者名	矢野 <small>やの ひでたけ</small> 秀武				

講義のねらい

宗教というものを語り理解するには様々な方法がある。宗教学はその1つである。また宗教学の中にも宗教に対しての異なる見方がある。本講義では、宗教学における多様な見方を理解するとともに、特に宗教人類学や宗教社会学、宗教思想研究といった見方を通じて日本の宗教についての基礎的な知識を学んでもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

前半はおもに、日本の諸宗教の概説、冠婚葬祭といった儀礼・民俗宗教とその変化を中心に取り上げ、宗教人類学・宗教社会学の視点から解説を加える。後半では、宗教の思想的側面にも触れながら、ひきつづき日本の諸宗教の概説を行なう。

成績評価の方法

レポートと年度末の筆記試験を総合して評価を行なう。レポートは夏期休暇前に課題を提示する。レポートや試験形式、その他授業の基本的な約束事は、初回の授業で述べる。

教科書

なし

参考書等

授業時に随時紹介する。

科目名	宗教学【5〔生活と宗教〕】	開講	通年	単位	4
配当	全学科（フレB除く）選				
担当者名	すがわら としきよ 菅原 壽清				

講義のねらい

人間の精神世界の根源にあって人びとの生活を支える宗教文化の理解は、現代社会においても不可欠な問題であると思われます。そこで、本講義では宗教人類学の視点から、「生活と宗教」というテーマで、人びとの宗教的営みについてとらえてみたいと思います。

授業は講義形式とし、はじめに宗教学・宗教人類学についての基礎的な概説を行います。次に、日本を含めたアジアの多様な姿について、人々の宗教的な営みを中心に、その分布や特徴について述べます。さらに、日本と東南アジア、および中国の西南地域の人々の暮らしなどから、その宗教形態に注目して、仏教と民俗宗教との関係や、その展開過程について、それぞれの地域の具体的な事例を取り上げながら、展開したいと思います。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 宗教学・宗教人類学とは
2. 日本とアジア、その多様な姿
3. アジアの人々の生活と宗教
4. 日本の人々の生活と宗教

成績評価の方法

試験＋出席点＋レポート点（詳細は、講義の時説明）

教科書

指定なし

参考書等

『宗教学ハンドブック』（世界書院）

その他

授業の方法―講義、ビデオ・スライドなども使用

科目名	宗教学【6〔民俗宗教の諸相〕】	開講	通年	単位	4
配当	全学科（フレB除く）選				
担当者名	あさかわ やすひろ 浅川 泰宏				

講義のねらい

宗教は、「人間生活の究極的な意味をあきらかにし、人間の問題の究極的な解決にかかわりをもつと、人々に信じられている営みを中心とした文化現象」（岸本秀夫）と説明されるように、あらゆる社会に存在する普遍的文化であり、同時に人間の根源的思考様式のひとつです。本講義では、現代社会およびそこに生きる個人を、「宗教」という観点からとらえ、考える力を養うことをねらいとします。

講義の内容・授業スケジュール

まず現代社会における「宗教」のすがたをデータ等から確認し、続いて、宗教学の基本的な考え方を学びます。その上で、身近な宗教的いとなみである民俗宗教に焦点をあて、「祭り」、「死者供養」、「巡礼」等のトピックを通して、「宗教」という観点から現代社会を考えるための実践的なトレーニングを行います。

履修上の留意点

講義内容についての考察を記入したコメントカードを、毎回提出していただきます。そのため、皆さんには講義を消極的・受動的に「聴く」のではなく、積極的・能動的に「理解」し、「考える」姿勢を求めます。

成績評価の方法

レポート（60点）とコメントカード（40点）によって評価します。
なお、評価にあたっては、理解力、論理的思考力、独創性を重視します。

教科書

指定しません

参考書等

棚次正和・山中弘編 2005 『宗教学入門』 ミネルヴァ書房
関一敏・大塚和夫編 2004 『宗教人類学入門』 弘文堂
井上順孝編 2005 『現代宗教事典』 弘文堂
池上良正他編 2003 『岩波講座 宗教』（全10巻）岩波書店

その他

詳細については、初回授業時のガイダンスで説明します。

科目名	宗教学【〔比較宗教文化〕 －フレックスB開講－	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	田中 <small>たなか</small> かのこ				

講義のねらい

人間には実に様々な生き方・見方・考え方・信じ方があり、「いのち」あるうちに為しうることに、限らない可能性があるということを、諸宗教の比較は教えてくれる。わたくしたち自身も、そのなかの、かけがえのない一通りの人生を歩んでいる。「～教」や「～教徒」などという、他の人々と区別しうる特徴をもっているかのように錯覚してしまうが、言うまでもなく、信仰者としての彼らが目指すのは、より善い「人間」としてこの一生を全うすることにほかならない。各宗教が人間にどのような有り方を望んでいるのかを、その伝統的な生活文化をとおして俯瞰し、いま、この世界のどこかで生きている、いまだ出会うことのない人々への共感を呼び覚ましてみたい。それが、誤解や偏見のない「人間」理解につながれば幸いである。

講義の内容・授業スケジュール

講義担当者の生活体験をとまなう地域（インド・ヨーロッパ）を中心に、机上では知りえない、かならずしも教義一辺倒ではない信仰生活の多様性について解説する。

履修上の留意点

板書は、即興の覚え書きや、テーマの骨子を素描したものにはすぎない。むしろ、講義の言葉や自分の考えに耳を傾けて、積極的にノートしよう。仏教と他宗教との関連性に注目。

成績評価の方法

出席状況、創意・文章力・工夫の楽しみ方を評価する課題レポート。

教科書

拙著『比較宗教学－「いのち」の探究－』（北樹出版）2006年、改版

参考書等

「いのち」の尊さや、異文化間の交流を扱ったもの（書物、映画など）なら何でも。

その他

予定外の試みや受講生の要望などによっては、プログラムを変更することもあります。

科目名	教育の思想	開講	半期	単位	2
担当	GM234選				
担当者名	豊田 ^{とよた} 千代子 ^{ちよこ}				

講義のねらい

この授業では、1989年に国連で採択された「子どもの権利条約」について、それを「思想として読む」ことをめざす。具体的には、子どもの権利条約の思想的基礎となっている「コルチャック先生」（ヤヌシュ・コルチャック、本名ヘンリク・ゴールドシュミット、1878～1942）の子ども観について学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

- ・自分たちの受けてきた教育のふり返り
- ・教育をめぐる子どもたちの現状
- ・コルチャック先生の思想（子ども観）
- ・子どもの権利条約とコルチャック先生

成績評価の方法

出席状況、小レポート、レポートによる。

教科書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

樋渡直哉『子どもの権利条約とコルチャック先生』（ほるぷ出版）

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	教育の思想	開講	半期	単位	2
担当	GM234選				
担当者名	北村 ^{きたむら} 三子 ^{みつこ}				

講義のねらい

日本の教育界に大きな影響を与えた教育思想を学び、それを手がかりに自分なりの教育観を培っていくことを目指します。

講義の内容・授業スケジュール

20世紀の代表的な思想家の一人、ジョン・デューイの教育思想をその基礎にある考え方にも注意しながら学んでいきます。子ども自身の経験を基礎に構築されたその教育論を丁寧に読み、私達の日常経験や教育体験を考え直します。具体的な授業計画は、初回の講義でお話します。

履修上の留意点

この科目は教養教育科目ですが、同時に教職の専門科目でもあります。教育に関心をもつ人の参加を期待します。

成績評価の方法

出席状況とレポートによります。

参考書等

教場で指示します。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	教育の思想	開講	半期	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	伊藤 茂樹 <small>いとう しげき</small>				

講義のねらい

私たちが今日知っている学校教育という営みは、近代という時代の到来とともに出現した制度であり、また近代社会を成り立たせる不可欠の制度でもある。この「公教育」のバックボーンとなった思想、歴史的経緯、その特色や社会的機能について概観し、今日の教育やそれが直面する諸問題について考えるための手がかりを探索する。

講義の内容・授業スケジュール

とりあげるテーマとして以下のようなことがらを予定している。

- ・学校教育の本質と機能
- ・近代日本における学校教育

履修上の留意点

自分が通ってきた学校やそこで受けてきた教育について、批判的に再考する姿勢を求める。

成績評価の方法

学期末試験により評価する。

教科書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	教育の思想	開講	半期	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	はきわら けんじろう 萩原 建次郎				

講義のねらい

この授業では、第一に自分自身の教育体験のふりかえりを出発点として、「学ぶこと」「教えること」「生きること」の意味を考える機会をもちたい。第二に自己の体験と他者の体験を交流させながら、多様なものの見方を学ぶと共に、教育に対する自分の視点がどこにあるのかさぐっていききたい。第三に各自の体験知だけにとどまらずに教育学が蓄積してきた学問知（主に教育史・教育哲学）との交流によって、これまで暗黙のうちに了解してきた「教育目的」「学習」「人間の発達」などの意味について深く捉える感性と知性を養いたい。

講義の内容・授業スケジュール

- ① 自らの教育・学習体験をふりかえるー「学びのマップ」・「私のライフライン」「学びの自分史」をつくる
- ② 自己と他者との体験知の交流ー「学びのマップ」・「私のライフライン」「学びの自分史」を他の受講生と相互コメントを行う
- ③ 教育をめぐる体験知と学問知との交流
 - (1) 近代教育が前提としてきた人間観と教育目的・理念の歴史を学ぶ
 - (2) 発達の思想を学ぶ
 - (3) 学習の思想を学ぶ

履修上の留意点

この授業は講義だけではなく、受講者自身の作業が多く含まれる参加型学習である。よって授業の質は各自の積極的な参加姿勢に大きくかかわっていることを留意願いたい。また、小レポートを毎回提出してもらう。

成績評価の方法

小レポート、作品の提出状況、授業への参加度、学期末レポートを総合して評価する。

教科書

特に使用しない。

参考書等

そのつど紹介する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。一回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	教育の思想	開講	半期	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	さかもと のぶあき 坂本 信昭				

講義のねらい

民主主義的教育思想はルソー、ペスタロッチ、フレーベル、エレン・ケイ、デューイなど多くの思想家によって生み出され、継承されて今日に至り、教育思想と実践の面で多様な展開を示した。

20世紀の教育思想を生み出し、継承することに貢献した思想家たちの教育思想・教育目的を概観することを手初めに、次のようなテーマを取り上げて進める。

講義の内容・授業スケジュール

- ・教育の理想と目的
- ・わが国の教育目的の変遷
- ・現代・社会の変化と教育目的
- ・その他（大村はま、林竹二などから学ぶものは何か）

履修上の留意点

授業の出欠は厳密にとる。

成績評価の方法

課題レポート、自主レポート、出席等により総合的に評価する。

参考書等

西村詢子他著『現代教育を考える』（昭和堂）2,600円
デューイ著『学校と社会』（岩波文庫）410円

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	教育の思想 －フレックスB開講－	開講	半期	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	やまもと としこ 山本 敏子				

講義のねらい

今日の学校教育が抱える様々な問題を解決していくための方向性を探ることを目指して、日本の公教育制度に影響を及ぼした西洋近代の教育思想への理解を深めるとともに、それが成立する以前に日本列島各地に息づいていた民衆教育思想を学んでいきます。

講義の内容・授業スケジュール

概略は以下の通りですが、授業のすすめ方や詳しいスケジュールについては初回に具体的な案を提示して、受講者の皆さんと相談の上、決めます。

- ・日本の基層文化に流れる教育の思想
- ・近世の表層文化に現れた教育の思想
- ・西洋近代教育思想の二つの大きな流れ

成績評価の方法

出席状況、学期末レポートなどの総合評価。

教科書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する予定です。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	教育と社会	開講	半期	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	豊田 千代子				

講義のねらい

教育のあり方は、社会のあり方と関わっている。授業では、自分たちの受けてきた教育をふり返し、その中でみえてきた教育のさまざまな問題を、社会の歴史や構造等との関連で考察する。

講義の内容・授業スケジュール

- ・学習体験のふり返し
- ・教育をめぐる諸問題
 - ・近代社会と学校教育制度について
 - ・子どもの身体と教育・社会
 - ・その他

(詳細は第1回の授業時に説明する。)

成績評価の方法

出席状況、小レポート、レポートによる。

教科書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

適宜紹介する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	教育と社会	開講	半期	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	北村 三子				

講義のねらい

近代の社会システムと教育はどのような関係にあるのでしょうか。私たちが体験してきた日本の学校教育のあり方を社会との関係から考察することを通して、私たちがどのように社会的に形成されてきたのかを考えます。

講義の内容・授業スケジュール

日本という国家と教育との関係を歴史的に考察するとともに、近代的な組織とその構成員との間に働く力について考察します。また、そうした観点から、今日の学校教育をめぐる諸問題を考えていきます。詳細は初回の授業でお話します。

履修上の留意点

この科目は教養教育科目ですが、同時に教職の専門科目でもあります。教育に関心をもつ人の参加を期待します。

成績評価の方法

出席状況とレポートによります。

参考書等

教場で指示します。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	教育と社会	開講	半期	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	伊藤 ^{いとう} 茂樹 ^{しげき}				

講義のねらい

学校教育という営みは社会のあり方や他の諸領域に広く影響されると同時に、社会に影響を及ぼす関係にある。また一方で、学校という場もひとつの社会を形成している。こうした観点から、現代社会における学校教育が直面している諸問題や、これからの時代に学校教育が向かおうとしている方向性について、多面的に考えていく。

講義の内容・授業スケジュール

とりあげるテーマとして以下のようなことがらを予定している。

- ・現代の教育問題
- ・教育改革の動向

履修上の留意点

ふだんから教育に関するニュースに気をつけ、自分なりに考えることを心がける。

成績評価の方法

学期末試験により評価する。

教科書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	教育と社会	開講	半期	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	萩原 建次郎 <small>はぎわら けんじろう</small>				

講義のねらい

80年代半ばから不登校問題とともに「居場所」という言葉がマスコミに登場したが、いまや教育学、心理学、社会学においてもキーワードになっている。居場所の喪失感が静かに広がる中で、私たちはそこにどのような人間の姿、世界の在り様を感じるのだろうか。

この授業ではまず、子どもの自己形成空間と若者の文化変容、大人と子ども・若者の関係性の変容を読み解きながら、「居場所」が何において生まれ、何において失うのかを探っていく。次に「居場所」となりうる場のデザインを目指した具体的な方法論はあるのか、子ども・若者の居場所にかかわるいくつかの実践を手がかりに検討し、教育の可能性を考えていく。

この授業を通して、「居場所」を切り口として今いる自分を見つめなおしながら、他者（子ども・友人・親・先生など）とのかかわりの質を問い直し、さまざまな場面での教育実践に応用していける視点と感性を養ってもらいたいと願っている。

講義の内容・授業スケジュール

- ①「居場所」をめぐる言説の登場
- ②「居場所」の意味を読み解く
- ③子ども・若者の自己形成空間の変容
- ④子ども・若者の居場所空間をデザインする
- ⑤「居場所」に関わる指導者論
- ⑥「居場所」と子どもの参加論

履修上の留意点

授業はできるだけ参加型学習をとりいれたいので、積極的な姿勢が求められる。小レポートを毎回提出してもらう。

成績評価の方法

小レポート、出席状況、授業への参加度、学期末レポートを総合して判断する。

教科書

田中治彦編著『子ども・若者の「居場所」の構想－「教育」から「関わりの場」へ－』（学陽書房）3,000円

参考書等

久田邦明編著『子ども・若者の居場所』（萌文社）
ロジャー・ハート著『子どもの参画』（萌文社）

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	教育と社会	開講	半期	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	さかもと のぶあき 坂本 信昭				

講義のねらい

人間の社会に余暇をもつ少数の人々が生まれたときに学校は生まれた。いわば余暇とともに学校は生まれたのである。もし余暇がすべての人々のものとなるとき、それは、社会そのものが全体として学習と教育の場所、つまり学校になるときであるかも知れない。

講義の内容・授業スケジュール

講義で取り上げるテーマとしては、次のようなものを考えている。

- ・学校教育のあゆみ
- ・学校の社会的機能
- ・学校教育の現実と課題
- ・その他（教師論等）

履修上の留意点

授業の出欠は厳密にとる。

成績評価の方法

課題レポート、自主レポート、試験、出席等により総合的に評価する。

参考書等

西村絢子他著『現代教育を考える』（昭和堂）2,600円
デューイ著『学校と社会』（岩波文庫）410円

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	教育と社会 －フレックスB開講－	開講	半期	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	やまもと としこ 山本 敏子				

講義のねらい

近代社会の教育は、全生活領域にわたる経営体としての家共同体の解体および近代国民国家の形成と深く関わっています。近代学校成立以前の社会における多様な教育システムを家共同体との関わりで考察することにより、近代学校システムの特質や問題点を明らかにするとともに、これからの教育のあり方を模索していきます。

講義の内容・授業スケジュール

様々な教育問題や近年の教育改革の動向にも触れながら、次のような柱立てで進めていく予定です。

- ・「家」が未成立の社会と教育システム
- ・「家」社会の形成と教育システム
- ・「家」の解体と近代学校システムの稼働

成績評価の方法

出席状況、学期末レポートなどの総合評価。

教科書

特に使用せず、必要に応じて資料を配布します。

参考書等

適宜紹介します。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	発達と学習の心理学	開講	半期	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	小倉 <small>おぐら</small> 康仁 <small>やまよし</small>				

講義のねらい

人間の教育活動や教育問題に対して心理学的にアプローチする教育心理学の主要な関心事として、発達および学習に関する様々なトピックスがあります。この発達と学習の問題を中心に、教育者が理解しておくべき事柄を取り上げて授業を進めていきます。つまり、「人はどのようにして育ち学んでいくのか?」「そのプロセスにおいて親や教師や友人等からの働きかけはどのようにかかわってくるのか?」といったことについて分析・考察していく予定です。

講義の内容・授業スケジュール

- ①発達の定義
- ②発達の規定因（遺伝と環境）
- ③発達のメカニズム（成熟と経験）
- ④発達観と教育可能性
- ⑤レディネス、臨界期と早期教育
- ⑥発達の様子（発達時期・発達段階）
- ⑦学習のメカニズム（学習理論）
- ⑧学習と動機づけ（学びを支える意欲）
- ⑨教授－学習過程
- ⑩個性・個人差と教授法（適性－処遇相互作用）

成績評価の方法

平常授業期間中に課す小レポート課題と学期末試験の成績および出席状況等の平常点との総合評価によって評価を行う予定です。

教科書

使用しません。

参考書等

必要な場合は、そのつど授業で指示します。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	発達と学習の心理学	開講	半期	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	おおはま きくこ 大浜 幾久子				

講義のねらい

子どもが大人になる過程を20世紀の心理学は、どのようにとりあげ、また解明しようとしてきたのだろうか。他の諸学問分野が心理学の成立に果たしてきた役割にも言及しつつ、次のような基本的な問題をめぐる諸研究を学び、21世紀の新しい教育観を考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 1) 発達と学習は、どのように定義され、また両者の関係はどのように説明されるのか。
- 2) 知能の発達と情意の発達は、どのような関係にあるのか。
- 3) 障害をも含む発達および学習における個人差を、どのようにとりあげ得るのか。

成績評価の方法

定期試験（学期末）の成績に小レポートの成績を加味する予定である。

教科書

参考資料等については、必要に応じて準備、指示していく。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	発達と学習の心理学	開講	半期	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	みに りゆうこ 三國 隆子				

講義のねらい

- ・子どもから大人へ。人の発達過程について概観する。
- ・発達や個に応じた学習や教育について学ぶ。
- ・以上を踏まえ、学校現場で行われる教育や指導のあり方について学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

- ・発達とは何か
- ・発達の特徴と発達理論
- ・発達観の変遷と教育
- ・学習とは何か
- ・学習と評価
- ・意欲と学習（1）動機づけ理論
- ・意欲と学習（2）自己効力感

成績評価の方法

- ・毎回の授業でその授業内容についての小テストや課題を提出してもらう。
- ・学期末にレポート試験を行う。
- ・小テストや課題の提出状況と学期末レポートを総合して評価を行う。

教科書

教科書、参考資料等は、授業中に配布する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	発達と学習の心理学	開講	半期	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	飯田 <small>いいた みやこ</small> 都				

講義のねらい

人間は、親兄弟、友人、そして教師といった、多くの他者との多面的なかかわりの中で成長し、「自己」を見つけ、つくりあげていきます。教職を志す者だけにとどまらず、すべての人が何らかの形で他者の成長発達に関わる存在である以上、人間に対する心理学的な考え方を深めていくことは重要なことです。心理学的な考え方を学び、学校教育の意義をはじめ、教師や大人に求められる資質、“教える“ということの意味等についての考えを深め、自らの役割を問い直していくことを目指します。

講義の内容・授業スケジュール

- ◆人の発達・学習と教育 ◆乳幼児期・児童期・青年期の発達課題 ◆思春期の自我の発達
- ◆学習と認知（連合説と認知説） ◆知識の種類と構造、技能と知識の獲得 ◆動機づけ
- ◆学習過程・学習理論の教育への応用

履修上の留意点

聴いたことを受身的に自らの思想とするのではなく、講義の内容にヒントを得て、自分自身の、自分らしい考えを創り出していくことを期待しています。

成績評価の方法

中間試験、期末試験、および毎授業ごとの課題の成果を総合して評価します。ただし、出席が半分にも満たない場合には、単位の取得はできないと考えてください。

教科書

特に使用しません。必要に応じて資料を配布します。

参考書等

- 西林克彦 『間違いだらけの学習論』新曜社
- 川島一夫 『図でよむ心理学「発達」』福村出版

科目名	発達と学習の心理学	開講	半期	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	すみの せんじ 角野 善司				

講義のねらい

教育心理学は、教育場面において、教師が、生徒を理解し、効果的な教育を行うためにはどうしたらよいかを、多様な観点から心理学的に考えようとするものです。この科目では、教育心理学の中でも、特に発達と学習に焦点を当てていきます。講義を通じて学び、考えたことを、生徒と接する際のヒントにしてほしいと願っています。

講義の内容・授業スケジュール

(1)教育心理学とは (2・3)発達観の変遷 (4・5)発達の規定因 (6)教育の最適期 (7)発達段階と発達課題 (8)学習への動機づけ (9)内発的動機づけ (10)学習性無力感 (11)原因帰属 (12)学習目標と遂行目標 (13-15)補遺

履修上の留意点

この科目は、教職課程の科目として開講されます。自らの意志で免許・資格の取得を目指す以上は、毎回出席するのはもちろんのこと、授業を聴きながら考えるという主体的な態度で臨んでください。

成績評価の方法

免許・資格に関連する科目なので、単位認定の基準を甘くするわけにはいきません。成績評価は、毎回の授業で行う小テスト・課題提出状況・学期末テスト・学期末レポートの4つに基づいて行う予定です。小テストは、その日の授業で取り上げた内容に関する問題を出題して、全問正解した場合に限り合格とします。合格した回数が授業回数の半分以下ならば、学期末テストの受験、レポートの提出を認めず、単位は付与しません。

教科書

使用しません。講義は、図表などを載せた資料プリントを活用して進めます。

参考書等

講義の進行に合わせ、適時紹介します。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	発達と学習の心理学 －フレックスB開講－	開講	半期	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	三國 隆子 <small>みくに りゅうこ</small>				

講義のねらい

- ・子どもから大人へ。人の発達過程について概観する。
- ・発達や個に応じた学習や教育について学ぶ。
- ・以上を踏まえ、学校現場で行われる教育や指導のあり方について学ぶ。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・発達とは何か
- ・発達の特徴と発達理論
- ・発達観の変遷と教育
- ・学習とは何か
- ・学習と評価
- ・意欲と学習（1）動機づけ理論
- ・意欲と学習（2）自己効力感

成績評価の方法

- ・毎回の授業でその授業内容についての小テストや課題を提出してもらう。
- ・学期末にレポート試験を行う。
- ・小テストや課題の提出状況と学期末レポートを総合して評価を行う。

教科書

教科書、参考資料等は、授業中に配布する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	カリキュラムと学習	開講	半期	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	おぐら やすよし 小倉 康仁				

講義のねらい

人間の発達と学習のしくみを踏まえた上で、カリキュラム（教育課程）の構造（構造要素）、社会的意義、編成方式などを理解し、日本の現行カリキュラム（教育課程）について考えていきます。

講義の内容・授業スケジュール

- ①カリキュラムとは？（カリキュラムの構造要素）
- ②カリキュラムの意義と規定因
- ③様々なタイプ（型）のカリキュラム
- ④カリキュラム編成方式
- ⑤学習指導要領の変遷
- ⑥現行学習指導要領の特徴と問題点
- ⑦カリキュラムと教授法
- ⑧カリキュラムと評価法

成績評価の方法

平常授業期間中に課す小レポート課題と学期末試験の成績および出席状況等の平常点との総合評価によって評価を行う予定です。

教科書

使用しません。

参考書等

必要な場合は、そのつど授業時に指示します。

その他

原則として、前期に「発達と学習の心理学」を受講していることを前提とします。

科目名	カリキュラムと学習	開講	半期	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	おおはま きくこ 大浜 幾久子				

講義のねらい

はじめに、学生自身が学んできた小学校、中学校、高等学校における教育課程がどのように編成されていたのかを、当該の学習指導要領により考える。次に、現行の新しい教育課程を学び、その背景にある基本的考え方について考察していく。とくに教科・科目等の具体的内容の削減や再編については、子どもの発達と学習の観点からの考察を深めたい。さらに、諸外国における学習課程の歴史や編成原理について、異文化間教育学的な観点から検討を試みる。その際、潜在的カリキュラムにも注目することとする。

成績評価の方法

レポート提出（定期試験期間）を中心とした評価の予定である。

参考書等

『(小学校・中学校・高等学校)学習指導要領』(文部科学省)
その他の参考資料については、必要に応じて準備、指示していく。

その他

前期に、「発達と学習の心理学」を履修することを原則とします。

科目名	カリキュラムと学習	開講	半期	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	三國 <small>みくに</small> 隆子 <small>りゅうこ</small>				

講義のねらい

- ・学習指導要領から読み取れる、日本の教育課程を理解する。
- ・カリキュラムと学習の効果について学ぶ。
- ・学校現場で行われているカリキュラムの実際と課題について理解する。

講義の内容・授業スケジュール

- ・我が国の教育課程
- ・学習指導要領の変遷
- ・教授と学習の効果
- ・カリキュラムと学習の効果
- ・学校教育（1）教育制度・カリキュラムの実際について
- ・学校教育（2）教育評価・今後の課題について

成績評価の方法

- ・毎回の授業でその授業内容についての小テストや課題を提出してもらおう。
- ・学期末にレポート試験を行う。
- ・小テストや課題の提出状況と学期末レポートを総合して評価を行う。

教科書

教科書、参考資料等は、授業中に配布する。

その他

原則として、前期に「発達と学習の心理学」を受講していることを前提とします。

科目名	カリキュラムと学習	開講	半期	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	杉山 <small>すぎやま</small> 二季 <small>ふたき</small>				

講義のねらい

カリキュラムとは単なる教育計画でなく、子どもの学習経験の履歴でもあります。カリキュラムや学習をめぐる理論を理解し、授業実践を観察・検討するための多様な見方を身につけることをねらいとします。

講義の内容・授業スケジュール

講義では受講者の理解を踏まえながら、以下のトピックについて扱う予定です。（1）カリキュラムとは何か（2）学習指導要領の変遷（3）カリキュラムを支える教育理論（4）知識とは、学力とは何か（5）授業の反省と批評（6）かくれたカリキュラム 実践を見る目を養うために、小・中・高校の授業を撮影したビデオを観察し検討する機会を何回か設けます。

成績評価の方法

授業中の提出物と期末レポートの内容によって総合的に評価します。各回（毎回ではないが）の講義終了時にその日の講義を聞いて考えたことや感じたことを書いて提出してもらいます。

教科書

教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布します。

参考書等

講義中に適宜紹介します。

科目名	カリキュラムと学習	開講	半期	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	角野 <small>すみの</small> 善司 <small>ぜんじ</small>				

講義のねらい

この科目では、カリキュラムの編成・実施を中心テーマとして取り上げ、それが生徒の学習をどのように規定し、導いていくかを検討していきます。これからの教育がどのようなカリキュラムで行われていくべきかを、各自考えてほしいと願っています。

講義の内容・授業スケジュール

(1)カリキュラム(教育課程)とは (2)カリキュラムに関する法制 (3)カリキュラム編成の原則 (4)学習指導要領改訂の歴史 (5-6)平成10年学習指導要領改訂の経緯と基本方針 (7-8)平成15年学習指導要領一部改正の経緯と基本方針 (9-10)学習指導要領をめぐるその後の動き (11-13)カリキュラムと教育評価 (14-15)補遺

履修上の留意点

この科目は、教職課程の科目として開講されます。自らの意志で免許・資格の取得を目指す以上は、毎回出席するのはもちろんのこと、授業を聴きながら考えるという主体的な態度で臨んでください。

成績評価の方法

免許・資格に関連する科目なので、単位認定の基準を甘くするわけにはいきません。成績評価は、毎回の授業で行う小テスト・課題提出状況・学期末テスト・学期末レポートの4つに基づいて行う予定です。小テストは、その日の授業で取り上げた内容に関する問題を出題して、全問正解した場合に限り合格とします。合格した回数が授業回数の半分以下ならば、学期末テストの受験、レポートの提出を認めず、単位は付与しません。

教科書

追って指示します。講義は、図表などを載せた資料プリントも活用して進めます。

参考書等

講義の進行に合わせて、適時紹介します。

科目名	カリキュラムと学習 －フレックスB開講－	開講	半期	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	三國 <small>みくに</small> 隆子 <small>りゅうこ</small>				

講義のねらい

- ・学習指導要領から読み取れる、日本の教育課程を理解する。
- ・カリキュラムと学習の効果について学ぶ。
- ・学校現場で行われているカリキュラムの実際と課題について理解する。

講義の内容・授業スケジュール

- ・我が国の教育課程
- ・学習指導要領の変遷
- ・教授と学習の効果
- ・カリキュラムと学習の効果
- ・学校教育(1)教育制度・カリキュラムの実際について
- ・学校教育(2)教育評価・今後の課題について

成績評価の方法

- ・毎回の授業でその授業内容についての小テストや課題を提出してもらう。
- ・学期末にレポート試験を行う。
- ・小テストや課題の提出状況と学期末レポートを総合して評価を行う。

教科書

教科書、参考資料等は、授業中に配布する。

科目名	社会学【1〔現代社会を考える〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	呉 <small>おひょうさん</small> 炳三				

講義のねらい

社会学の主要な対象は人間である。その人間が社会生活のなかで引き起こす諸問題を分析する学問でもある。その分野は、「家族」「恋愛」「結婚」「教育」「文化」「政治」「法律」「犯罪」「経済」など多岐にわたっている。このような分野において特徴的であるといえる諸問題は何かを整理、理解し、それを解決する視点として、社会学の基礎的な知識を身につけることによって、よりよい社会生活に臨んでもらうことが本講義のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

- (前期) 社会学の基礎概念：
はじめに—社会学とは— (1)
I 行為論：(2) 社会学における行為、(3) 行為者としての個人、(4) 社会化と人間形成、(5) 日本的行為論
II 集団論：(6) 集団の概念、(7) 官僚制理論、(8) 小集団論、(9) 集団の類型、(10) 日本的集団論
- (後期) 現代社会の特徴的な諸相：
(11) 家族、(12) 恋愛、(13) 結婚、(14) 若者・IT文化、(15) 少年犯罪、(16) 自殺、(17) ジェンダー、(18) 少子・高齢、(19) アダルトチルドレン、摂食障害、(20) 就職、転職、リストラ、(21) フリーター、ニート、引きこもり、(22) 性同一性障害など

以上、講義の予定としているが、受講生の要望も取り入れながら講義を進めているため講義内容を変更することもある。

履修上の留意点

本講義は、教員の一方的な講義ではなく、受講生とともに調べ、その結果を考えた上、その答えを導く方向で講義を進めていくために、授業への積極的な取り組みが望まれる。なお、授業中は指定の教科書や辞書を必ず持参することと、宿題を出すので、宿題をきちんと提出することの出来る学生が受講することを勧める。

成績評価の方法

出席状況と前・後末に行う筆記試験の結果から総合的に評価する。但し、授業中の私語、携帯電話の使用、寝るなど授業態度のよくない学生については出席停止とし単位を与えないことがある。

教科書

開講時に説明する。

参考書等

講義中に、その都度紹介する。

科目名	社会学【2〔現代社会を考える〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	お びよんさん 呉 炳三				

社会分野

講義のねらい

社会学の主要な対象は人間である。その人間が社会生活のなかで引き起こす諸問題を分析する学問でもある。その分野は、「家族」「恋愛」「結婚」「教育」「文化」「政治」「法律」「犯罪」「経済」など多岐にわたっている。このような分野において特徴的であるといえる諸問題は何かを整理、理解し、それを解決する視点として、社会学の基礎的な知識を身につけることによって、よりよい社会生活に臨んでもらうことが本講義のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

(前期) 社会学の基礎概念：

はじめに—社会学とは—(1)

I 行為論：(2) 社会学における行為、(3) 行為者としての個人、(4) 社会化と人間形成、(5) 日本の行為論

II 集団論：(6) 集団の概念、(7) 官僚制理論、(8) 小集団論、(9) 集団の類型、(10) 日本の集団論

(後期) 現代社会の特徴的な諸相：

(11) 家族、(12) 恋愛、(13) 結婚、(14) 若者・IT文化、(15) 少年犯罪、(16) 自殺、

(17) ジェンダー、(18) 少子・高齢、(19) アダルトチルドレン、摂食障害、

(20) 就職、転職、リストラ、(21) フリーター、ニート、引きこもり、(22) 性同一性障害など

以上、講義の予定としているが、受講生の要望も取り入れながら講義を進めているため講義内容を変更することもある。

履修上の留意点

本講義は、教員の一方的な講義ではなく、受講生とともに調べ、その結果を考えた上、その答えを導く方向で講義を進めていくために、授業への積極的な取り組みが望まれる。なお、授業中は指定の教科書や辞書を必ず持参することと、宿題を出すので、宿題をきちんと提出することの出来る学生が受講することを勧める。

成績評価の方法

出席状況と前・後末に行う筆記試験の結果から総合的に評価する。但し、授業中の私語、携帯電話の使用、寝るなど授業態度のよくない学生については出席停止とし単位を与えないことがある。

教科書

開講時に説明する。

参考書等

講義中に、その都度紹介する。

科目名	社会学【3〔現代文化を考える〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	呉 炳三 <small>お びんさん</small>				

講義のねらい 社会学の主要な対象は人間である。その人間が社会生活のなかで引き起こす諸問題を分析する学問でもある。その分野は、「家族」「恋愛」「結婚」「教育」「文化」「政治」「法律」「犯罪」「経済」など多岐にわたっている。このような分野において特徴的であるといえる諸問題は何かを整理、理解し、それを解決する視点として、社会学の基礎的な知識を身につけることによって、よりよい社会生活に臨んでもらうことが本講義のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

(前期) 社会学の基礎概念：
はじめに—社会学とは— (1)
I 行為論：(2) 社会学における行為、(3) 行為者としての個人、(4) 社会化と人間形成、(5) 日本的行為論
II 集団論：(6) 集団の概念、(7) 官僚制理論、(8) 小集団論、(9) 集団の類型、(10) 日本的集団論

(後期) 現代社会の特徴的な諸相：
(11) 家族、(12) 恋愛、(13) 結婚、(14) 若者・IT文化、(15) 少年犯罪、(16) 自殺、(17) ジェンダー、(18) 少子・高齢、(19) アダルトチルドレン、摂食障害、(20) 就職、転職、リストラ、(21) フリーター、ニート、引きこもり、(22) 性同一性障害など

以上、講義の予定としているが、受講生の要望も取り入れながら講義を進めているため講義内容を変更することもある。

履修上の留意点 本講義は、教員の一方的な講義ではなく、受講生とともに調べ、その結果を考えた上、その答えを導く方向で講義を進めていくために、授業への積極的な取り組みが望まれる。なお、授業中は指定の教科書や辞書を必ず持参することと、宿題を出すので、宿題をきちんと提出することの出来る学生が受講することを勧める。

成績評価の方法 出席状況と前・後末に行う筆記試験の結果から総合的に評価する。但し、授業中の私語、携帯電話の使用、寝るなど授業態度のよくない学生については出席停止とし単位を与えないことがある。

教科書 開講時に説明する。

参考書等 講義中に、その都度紹介する。

科目名	社会学【4〔現代文化を考える〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	お びんさん 呉 炳三				

講義のねらい

社会学の主要な対象は人間である。その人間が社会生活のなかで引き起こす諸問題を分析する学問でもある。その分野は、「家族」「恋愛」「結婚」「教育」「文化」「政治」「法律」「犯罪」「経済」など多岐にわたっている。このような分野において特徴的であるといえる諸問題は何かを整理、理解し、それを解決する視点として、社会学の基礎的な知識を身につけることによって、よりよい社会生活に臨んでもらうことが本講義のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

(前期) 社会学の基礎概念：

はじめに—社会学とは— (1)

I 行為論：(2) 社会学における行為、(3) 行為者としての個人、(4) 社会化と人間形成、(5) 日本的行為論

II 集団論：(6) 集団の概念、(7) 官僚制理論、(8) 小集団論、(9) 集団の類型、(10) 日本的集団論

(後期) 現代社会の特徴的な諸相：

(11) 家族、(12) 恋愛、(13) 結婚、(14) 若者・IT文化、(15) 少年犯罪、(16) 自殺、

(17) ジェンダー、(18) 少子・高齢、(19) アダルトチルドレン、摂食障害、

(20) 就職、転職、リストラ、(21) フリーター、ニート、引きこもり、(22) 性同一性障害など

以上、講義の予定としているが、受講生の要望も取り入れながら講義を進めているため講義内容を変更することもある。

履修上の留意点

本講義は、教員の一方的な講義ではなく、受講生とともに調べ、その結果を考えた上、その答えを導く方向で講義を進めていくために、授業への積極的な取り組みが望まれる。なお、授業中は指定の教科書や辞書を必ず持参すること、宿題を出すので、宿題をきちんと提出することの出来る学生が受講することを勧める。

成績評価の方法

出席状況と前・後末に行う筆記試験の結果から総合的に評価する。但し、授業中の私語、携帯電話の使用、寝るなど授業態度のよくない学生については出席停止とし単位を与えないことがある。

教科書

開講時に説明する。

参考書等

講義中に、その都度紹介する。

科目名	社会学【5〔社会生活を考える〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	小畑 <small>おひた かず</small> 和				

講義のねらい

社会学はつかみどころのない学問と言われますが、その理由は、社会学が「社会人の形式として社会関係や社会集団を研究するだけでなく、家族、人口、経済、法律、政治、企業、教育…等々の領域を一切切包み込んだ社会全体を研究する学問だからです。それ故に幅広く、内容も多種多様で、明確な統一的立場を見出だし難い性格を持っています。

講義では、生産力と消費力の2つのキー概念を用いて現代社会の構造を捉え、人々の社会生活が生産と消費の社会的環境の中でどのように影響されているかを明らかにしたい。また講義を通して「巨視的(Macroscopic)なもの見方」を身に付けて貰いたい。

講義の内容・授業スケジュール

この講義では「ゆたかさは人間を幸せにしたか」を主テーマに、人々の社会生活を誕生から老後に至る過程を追いながら次の7つの要因について講義する。

(1) マクロ的要因(現代の生産の意味、生産力と消費力の関係が個人の社会生活にどのような影響を与えるかを中心に現代社会(少子社会)を総合的に講義する。)

(2) 誕生に関する要因(出生・墮胎・殺児…)

(3) 幼児・子供の成長に関する要因(育児・保育・遊び・いじめ・体罰・塾・進学…)

(4) 家庭生活に関する要因(核家族化、晩婚晩産化、生涯独身、パート、共働き、残業、余暇、離婚の増大…)

(5) 消費生活に関する要因(広告・宣伝・ローン、消費者教育、自己破産、ホームレス問題、ゴミ問題等の消費者問題…)

(6) 会社生活に関する要因(入社、転職、失業、終身雇用制の崩壊…)

(7) 老後の生活に関する要因(年金、介護、生きがい、死の問題…)などを講義する。

この7つの要因を通して、全体として現代社会の社会生活を考えて見たいと思います。

履修上の留意点

初回の講義で説明する。

成績評価の方法

五段階2乗方式によるが、そのやり方は初回の講義で説明する。

教科書

初回の講義で説明する。

参考書等

初回の講義で説明する。

その他

上記授業のスケジュールは進度によって多少の変更がある。

科目名	社会学【6〔社会生活を考える〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	お びよんさん 呉 炳三				

講義のねらい

社会学の主要な対象は人間である。その人間が社会生活のなかで引き起こす諸問題を分析する学問でもある。その分野は、「家族」「恋愛」「結婚」「教育」「文化」「政治」「法律」「犯罪」「経済」など多岐にわたっている。このような分野において特徴的であるといえる諸問題は何かを整理、理解し、それを解決する視点として、社会学の基礎的な知識を身につけることによって、よりよい社会生活に臨んでもらうことが本講義のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

(前期) 社会学の基礎概念：

はじめに—社会学とは—(1)

I 行為論：(2) 社会学における行為、(3) 行為者としての個人、(4) 社会化と人間形成、(5) 日本的行為論

II 集団論：(6) 集団の概念、(7) 官僚制理論、(8) 小集団論、(9) 集団の類型、(10) 日本的集団論

(後期) 現代社会の特徴的な諸相：

(11) 家族、(12) 恋愛、(13) 結婚、(14) 若者・IT文化、(15) 少年犯罪、(16) 自殺、

(17) ジェンダー、(18) 少子・高齢、(19) アダルトチルドレン、摂食障害、

(20) 就職、転職、リストラ、(21) フリーター、ニート、引きこもり、(22) 性同一性障害など

以上、講義の予定としているが、受講生の要望も取り入れながら講義を進めているため講義内容を変更することもある。

履修上の留意点

本講義は、教員の一方的な講義ではなく、受講生とともに調べ、その結果を考えた上、その答えを導く方向で講義を進めていくために、授業への積極的な取り組みが望まれる。なお、授業中は指定の教科書や辞書を必ず持参することと、宿題を出すので、宿題をきちんと提出することの出来る学生が受講することを勧める。

成績評価の方法

出席状況と前・後末に行う筆記試験の結果から総合的に評価する。但し、授業中の私語、携帯電話の使用、寝るなど授業態度のよくない学生については出席停止とし単位を与えないことがある。

教科書

開講時に説明する。

参考書等

講義中に、その都度紹介する。

科目名	社会学【〔現代社会を考える〕】 －フレックスB開講－	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	おびよんさん 吳 炳三				

講義のねらい

社会学の主要な対象は人間である。その人間が社会生活のなかで引き起こす諸問題を分析する学問でもある。その分野は、「家族」「恋愛」「結婚」「教育」「文化」「政治」「法律」「犯罪」「経済」など多岐にわたっている。このような分野において特徴的であるといえる諸問題は何かを整理、理解し、それを解決する視点として、社会学の基礎的な知識を身につけることによって、よりよい社会生活に臨んでもらうことが本講義のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

(前期) 社会学の基礎概念：

はじめに－社会学とは－(1)

I 行為論：(2) 社会学における行為、(3) 行為者としての個人、(4) 社会化と人間形成、(5) 日本的行為論

II 集団論：(6) 集団の概念、(7) 官僚制理論、(8) 小集団論、(9) 集団の類型、(10) 日本的集団論

(後期) 現代社会の特徴的な諸相：

(11) 家族、(12) 恋愛、(13) 結婚、(14) 若者・IT文化、(15) 少年犯罪、(16) 自殺、

(17) ジェンダー、(18) 少子・高齢、(19) アダルトチルドレン、摂食障害、

(20) 就職、転職、リストラ、(21) フリーター、ニート、引きこもり、(22) 性同一性障害など

以上、講義の予定としているが、受講生の要望も取り入れながら講義を進めているため講義内容を変更することもある。

履修上の留意点

本講義は、教員の一方的な講義ではなく、受講生とともに調べ、その結果を考えた上、その答えを導く方向で講義を進めていくために、授業への積極的な取り組みが望まれる。なお、授業中は指定の教科書や辞書を必ず持参することと、宿題を出すので、宿題をきちんと提出することの出来る学生が受講することを勧める。

成績評価の方法

出席状況と前・後末に行う筆記試験の結果から総合的に評価する。但し、授業中の私語、携帯電話の使用、寝るなど授業態度のよくない学生については出席停止とし単位を与えないことがある。

教科書

開講時に説明する。

参考書等

講義中に、その都度紹介する。

科目名	社会学【〔現代文化を考える〕 －フレックスB開講－	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	橋爪 敏				

講義のねらい

この講義は、「社会学」についての基本的な知識を提供し、あわせて、「現代社会」についての若干の問題を論ずることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

「講義のねらい」で述べたように、この講義は「社会学」の知識と、「社会学」的見方を通してみた「現代社会」の問題を扱うことになる。しかし、ほとんどの学生諸君は「社会学」についての予備知識は無いものと思われる。「社会学」は高等学校までの社会科とはかなり異なっている。そこで、まず、前期においてこのような社会学独自の社会現象の見方、考え方、基礎的な知識を理解し、後期に、こうした理解を踏まえて、「現代社会」の諸問題－文化とは何か、現代文化とは何か、大衆文化等－を扱うことにしたい。

成績評価の方法

成績の評価は、講義内容に関わる基本的な問題について、学年末におこなうペーパー・テストによって評価する。

教科書

安藤喜久雄ほか編『社会学概論』（学文社）

参考書等

高尾・橋爪編『社会学の基礎』（犀書房）
R. ニスベット『現代社会学入門1～4』（講談社学術文庫）
その他授業中に適宜指示したい。

科目名	法学・憲法【1〔法と社会生活〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	長谷川 日出世				

講義のねらい

我々は、好むと好まざるとにかかわらず、法と密接なかかわりのある生活を強いられている。しかしながら多くの場合、我々はこの事実を知らず、何等かの法的問題が発生した時に初めて、これに気付く。

本講義では、まず、社会生活を営む上で不可欠な、社会規範としての法の生成およびその性質についての分析をおこなう。そして、次に、そこで得られた法概念を基礎に、国家の基本法である憲法と我々のかかわりあいを検討する。

講義の内容・授業スケジュール

前期では、法を学ぶために必要な基礎的知識の習得を目指す。具体的には法と道徳の関係、法と強制、法の体系性、国家と法、実定法上の原則等。

後期は、日本国憲法を具体的に検討する。特に、日本国憲法の基本原理の成り立ち、基本的人権の保障規定等についての検討。

成績評価の方法

定期試験によるものとする。

教科書

長谷川日出世著『法の基礎概念と憲法』（成文堂）

参考書等

『ポケット六法』（有斐閣）

科目名	法学・憲法【2（法と社会生活）】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	和知 恵一				

講義のねらい

現代社会は、高密度に人が集合し、高度に発展した複雑な社会を構成している。その構成員である我々は、社会にとって必要不可欠である多くの法によって、取り囲まれている。たとえば、電車やバスに乗ること、コンビニで文具を買うこと、アパートを借りることなど、すべて、法的な側面を持っている。自分は法と無縁であると思っている人は、そのことを知らずにいるだけなのである。講座名は、「法学・憲法」であるが、サブタイトルに（法と社会生活）とあるように、本講義においては、「良き社会人として生活していくために、社会にある『法』とは何であるかの理解をすること、またその『法』を社会生活の上で活かしていく能力を身につけること」を主眼とする。

講義の内容・授業スケジュール

講義形式で進める。が、講義はどうしても一方通行になりがちなので、授業中に多数の質問を行い、挙手により解答してもらおう。つまり、全員が参加する授業を目指す。授業では、数多くの事例を挙げ、具体的に話を進める。たとえば「今朝の新聞に、官僚が『収賄罪』で逮捕された記事が掲載されていたが、どんな罪であるのか、また逮捕に際し憲法上の問題があったが、どんな点で、なにが問題なのか」など、より up to date な話題を提供したい。

講義は、おおよそ以下のスケジュールで進める。憲法については、特別にテーマを定めることをせず、関連するテーマが出てきたときに、随時、該当条文に当たり、年間を通して多くの条文に触れられるよう配慮する。

(1) 法学

1. 法学を学ぶにあたって
2. 法とは何か
3. 法の体系と分類
4. 法の目的
5. 法と裁判
6. 裁判の基準（法源）
7. 法の解釈
8. 法と道徳をめぐる問題

(2) 社会生活と法（以下の項目より受講生の関心の高いものをいくつかやりたいと思う。適宜報道などと関連させたい。）

9. 犯罪と刑罰
10. 財産生活と法（人・物・契約など）
11. 家族生活と法（婚姻・親子・相続など）
12. アクシデントと法（交通事故・医療事故・欠陥商品など）
13. 企業と法（就職と労働契約・会社・手形小切手など）

履修上の留意点

楽しい授業・わかる授業・全員参加型の授業を行う必要からも私語はいっさい認めない。また出席は重視する。原則的に、欠席・早退を認めない。理由があるときは、その旨届けなければ出席扱いとする。授業開始時間は若干余裕を持たせるので遅刻しないように。また教科書・特に六法は毎回準備すること。できるだけ授業内容は板書したいと思うが、その単なる写し作業で終わらないでほしい。つまり、授業の中で十分考察し、理解することを要求する。したがって単に教場にいるだけでは出席とは認めない。真剣に授業を受けようという意識のある者だけに履修してほしい。板書を記録しやすいようになるべく前から着席すること。

成績評価の方法

出席を重視し、きちんと出席したものに、期末試験の受験資格を与える。その試験の得点に平常点を加味して評価する。

教科書

○小林弘人・松村格編著『法学・憲法（新版）』（八千代出版）
 ○六法（例として、『ポケット六法（平成18年版）』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）など）
 ※すでに持っている六法があれば、それで構わない。

参考書等

大久保治男監修『トピックスくらしの法』（芦書房）
 その他授業の中で、随時紹介する。

その他

最初の講義日（2週目になることがある）に受講票を提出してもらおう。特別の事情のない限り、最初の講義の回から出席のこと。

科目名	法学・憲法【3〔法と社会生活〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	沼田 雅之 <small>ぬまた まさゆき</small>				

講義のねらい

この講義のねらいは、今の社会を「法」という道具を通して見る訓練をおこなうことにあります。ですから、本講義以前に私がみなさんに求める能力は、今の時代の「風」を敏感に感じとることができる能力です。それには「想像力」が大切です。それまでに培ってきた「教養」をフルに活用してもらいたいと思います。

法は、「黒」か「白」かの区別をつける作業であるという側面は否定しがたいですが、社会の高度な発展にともなって、「黒」と「白」の隙間をどのように考えるかがとても大切な作業になっていきます。ですから、決して単純な学問ではないことは、覚悟しておいてください。

そうはいつでも、決して難解なばかりの学問ではありませんから、気楽な気持ちで受講していただきたいと思います。

取り上げるテーマは、「法と社会生活」とあるように、できるだけ生活に密着した問題を取り上げたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

法学に関する下記の各テーマに沿って、判例（判決）を中心に解説をおこないます。スケジュールは執筆時点で下記のようなものを考えていますが、適宜変更がありうるので注意してください。

（前期）

1. ガイダンス
2. 法における自由・平等
- 3～4. 憲法の役割
- 5～6. 新しい人権
- 7～8. 契約の自由とその規制
- 9～10. 診療契約と自己決定
- 11～12. 消費者の保護

などを予定しています。

なお、下記の「その他」の欄も参照してください。

（後期）

13. 財産と法
- 14～16. 刑事法の諸原則
- 17～18. 司法制度改革と裁判員制度
19. 家庭生活と法
20. 労働と法
21. 社会保障と法

履修上の留意点

注意点は特にありませんが、感想・要望、また法学を履修する上での疑問点など、みなさんの意見には率直に耳を傾けますので、講義中、講義終了後を問わず、積極的に意見を言ってもらいたいと考えています。

成績評価の方法

基本的に前期試験と後期試験の得点で評価し、補助的に平常点として出席などを考慮いたします。前期試験と後期試験の評価割合は1：1です。平常点は前期試験と後期試験の合計得点に加点いたします（ただし、前期試験と後期試験の得点の合計と平常点の加点得点の合計が100点を超えた場合には、100点を限度として平常点を加点いたします）。詳しくは、第1回目の講義時に説明いたします。

教科書

テキストは指定いたしません。担当教員が作成したプリント教材を用います。開講当初は印刷したプリントを配布いたしますが、その後はホームページから各自でダウンロードしてもらいます（データはPDF形式で配布予定です）。詳細は、第1回講義時に説明いたしますので、不明な点はその際に質問してください。

参考書等

第1回目の講義時に説明するとともに、講義中にも適宜指示いたします。

その他

また、講義に連動して、ホームページを運用します。プリントのダウンロードサービスなどを実施する予定です。URL等は、第1回目の講義時にお知らせします。

第1回講義時に、大学配布のものは異なるシラバスを配布します（取り上げるテーマなどが、ここで記載されたものと異なる場合があります）。それを熟読の上、履修を決定してください。

科目名	法学・憲法【4〔法と社会生活〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	<small>けいとく ひろとろ</small> 鶏徳 啓登				

講義のねらい

よく「社会あるところ法あり」といわれる。その社会にある法とは何かを研究するのが法学であり、根本的理念、法の目的などを研究する。また、憲法は国家の基本法として他の法令の根幹をなすものであり非常に重要な法である。そして、憲法制定後50年経過した現代に至って国外的、国内的に、社会情勢の変化に伴う新しい問題が生じてきている。本講義は、これら諸問題を法的に把握し、結論を出し得るようになることをねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

法学の講義は次の内容を中心として行う。
 (1) 社会生活と法 (2) 法の意義・効力 (3) 法規範と他の社会規範との差異
 (4) 法の分類と解釈の方法 (5) 市民法の概論 (6) 刑事法の概論
 (7) 法と裁判

憲法の講義は、次の内容を中心として行う。
 (1) 憲法の意義 (2) 憲法の種類 (3) 明治憲法の原則と特質
 (4) 現憲法の原則 基本的人権の主体 (5) 基本的人権の分類
 (6) 各種基本的人権の内容
 (7) 国会の仕組みとその作用 行政機関の仕組みとその作用
 (8) 裁判所の仕組みとその作用 (9) 地方自治

成績評価の方法

出席状況と試験による。

教科書

小林弘人・松村格編著『法学・憲法』（八千代出版）3,500円

参考書等

『小六法』または『ポケット型小六法』（出版社・定価各種）及び参考書は教場にて説明致します。

科目名	法学・憲法【5〔法と権利〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	沼田 雅之 <small>ぬまた まさゆき</small>				

講義のねらい

この講義のねらいは、今の社会を「法」という道具を通して見る訓練をおこなうことにあります。ですから、本講義以前に私がみなさんに求める能力は、今の時代の「風」を敏感に感じとることができる能力です。それには「想像力」が大切です。それまでに培ってきた「教養」をフルに活用してもらいたいと思います。

法は、「黒」か「白」かの区別をつける作業であるという側面は否定しがたいですが、社会の高度な発展にともなって、「黒」と「白」の隙間をどのように考えるかがとても大切な作業になっていきます。ですから、決して単純な学問ではないことは、覚悟しておいてください。

そうはいつても、決して難解なばかりの学問ではありませんから、気楽な気持ちで受講していただきたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

法学に関する下記各テーマに沿って、判例(判決)を中心に解説をおこないます。スケジュールは執筆時点で下記のようなものを考えていますが、適宜変更がありうるので注意してください。

(前期)

1. ガイダンス
2. 法における自由・平等
- 3～4. 憲法の役割
- 5～6. 新しい人権
- 7～8. 契約の自由とその規制
- 9～10. 診療契約と自己決定
- 11～12. 消費者の保護

(後期)

- 13～14. 刑事法の諸原則
- 15～16. 人の生・死と法
- 17～18. 司法制度改革と裁判員制度
19. 企業と法
20. 労働と法
21. 社会保障と法

などを予定しています。

なお、下記の「その他」の欄も参照してください。

履修上の留意点

注意点は特にありませんが、感想・要望、また法学を履修する上での疑問点など、みなさんの意見には率直に耳を傾けますので、講義中、講義終了後を問わず、積極的に意見を言っていたきたいと考えています。

成績評価の方法

基本的に前期試験と後期試験の得点で評価し、補助的に平常点として出席などを考慮いたします。前期試験と後期試験の評価割合は1:1です。平常点は前期試験と後期試験の合計得点に加点いたします(ただし、前期試験と後期試験の得点の合計と平常点の加点得点の合計が100点を超えた場合には、100点を限度として平常点を加点いたします)。詳しくは、第1回目の講義時に説明いたします。

教科書

テキストは指定いたしません。担当教員が作成したプリント教材を用います。開講当初は印刷したプリントを配布いたしますが、その後はホームページから各自でダウンロードしてあります(データはPDF形式で配布予定です)。詳細は、第1回講義時に説明いたしますので、不明な点はその際に質問してください。

参考書等

第1回目の講義時に説明するとともに、講義中にも適宜指示いたします。

その他

また、講義に連動して、ホームページを運用します。プリントのダウンロードサービスなどを実施する予定です。URL等は、第1回目の講義時にお知らせします。

第1回講義時に大学配布のものとは異なるシラバスを配布します(取り上げるテーマなどがここで記載されたものと異なる場合があります)。それを熟読の上、履修を決定してください。

科目名	法学・憲法【7〔法と国家〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	新田 <small>にっただ ひろし</small> 浩司				

講義のねらい

法は社会のルールであり、憲法は政府と我々国民の関係という国家生活の基本的ルールを決めたものといえる。我々の生活にとって法や憲法を無視することは不可能である。法や憲法を良く知ることは、とりもなおさず我々日本国民がより幸福に生きるために不可欠な作業である。

ここでは、我々が国民として住民として生活する上で必要な法というものの考え方、及び国家の根本法である憲法について、現実には発生する様々な問題にも言及しつつ講義を進める。

講義の内容・授業スケジュール

- 第1回目 ガイダンス
- 第2回目 法学の基礎知識①
- 第3回目 法学の基礎知識②
- 第4回目 法学の基礎知識③
- 第5回目 憲法の基礎知識
- 第6回目 日本国憲法の制定過程
- 第7回目 日本国憲法の基本原理
- 第8回目 国家の安全保障（戦争放棄）
- 第9回目 精神的自由権①
- 第10回目 精神的自由権②
- 第11回目 経済的自由権
- 第12回目 社会権
- 第13回目 参政権、国家請求権
- 第14回目 統治機構①
- 第15回目 統治機構②

履修上の留意点

社会で起こる様々な問題は、憲法をはじめとする法律問題でもあり、この講義を履修して法的思考を養ってもらいたい。

成績評価の方法

夏期レポート及び学年末試験の成績により評価する。
なお、授業の出席状況も参考とする。

教科書

佐伯宣親・酒井憲郎・高乗正臣編『現代法学と憲法』（成文堂）2,500円＋税
※小六法（何でも可）があれば持参することが望ましい。

参考書等

小六法（何でも可）があれば持参することが望ましい。

科目名	法学・憲法【8〔法と国家〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	新田 浩司 <small>にった ひろし</small>				

社会分野

講義のねらい

法は社会のルールであり、憲法は政府と我々国民の関係という国家生活の基本的ルールを決めたものといえる。我々の生活にとって法や憲法を無視することは不可能である。法や憲法を良く知ることは、とりもなおさず我々日本国民がより幸福に生きるために不可欠な作業である。

ここでは、我々が国民として住民として生活する上で必要な法というものの考え方、及び国家の根本法である憲法について、現実には発生する様々な問題にも言及しつつ講義を進める。

講義の内容・授業スケジュール

- 第1回目 ガイダンス
- 第2回目 法学の基礎知識①
- 第3回目 法学の基礎知識②
- 第4回目 法学の基礎知識③
- 第5回目 憲法の基礎知識
- 第6回目 日本国憲法の制定過程
- 第7回目 日本国憲法の基本原理
- 第8回目 国家の安全保障（戦争放棄）
- 第9回目 精神的自由権①
- 第10回目 精神的自由権②
- 第11回目 経済的自由権
- 第12回目 社会権
- 第13回目 参政権、国家請求権
- 第14回目 統治機構①
- 第15回目 統治機構②

履修上の留意点

社会で起こる様々な問題は、憲法をはじめとする法律問題でもあり、この講義を履修して法的思考を養ってもらいたい。

成績評価の方法

夏期レポート及び学年末試験の成績により評価する。
なお、授業の出席状況も参考とする。

教科書

佐伯宣親・酒井憲郎・高乗正臣編『現代法学と憲法』（成文堂）2,500円＋税
※小六法（何でも可）があれば持参することが望ましい。

参考書等

小六法（何でも可）があれば持参することが望ましい。

科目名	法学・憲法【10〔法と国家〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	織田 <small>おだ</small> 晃子 <small>てるこ</small>				

講義のねらい

法とは何かに始まり、日本国憲法と人権、法と国家について判例を多く使って講義する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 法とは何か
 - (1) 法と道徳
 - (2) 法の解釈
- 2 日本国憲法と人権
 - (1) 人権の主体
 - (2) 私法関係と人権
 - (3) 生命・自由および幸福追求権
 - (4) 法の下での平等
 - (5) 精神的自由権
 - (6) 居住・移転・外国移住・国籍離脱の自由
 - (7) 経済的自由権
 - (8) 社会権
 - (9) 人身の自由・裁判手続の保障
 - (10) 新しい人権
- 3 法と国家
 - (1) 日本における近代憲法の成立
 - (2) 日本国憲法の統治原理
 - (3) 司法権とその限界
 - (4) 平和主義と戦争の放棄

履修上の留意点

授業にはポケットサイズのもので十分であるが、六法を忘れないように持参し、講義中に条文がでてきたらそのつど面倒でも指摘された条文を見ること。

成績評価の方法

期末試験の成績による。

教科書

『判例法学』(有斐閣ブックス)、『コンパクト六法』(岩波)

その他

プリント配布

科目名	法学・憲法【11〔法と権利〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	茂野 ^{しげの たかほる} 隆晴				

講義のねらい

年間の授業は、前期においては、「法」というものが、いかなるものであり、いかなる特徴をもつものであるかを、教科書に掲載の事例・判例などの資料を用いて成るべく平易な説明をなすことによって進めていきたい。進むにつれて、法を学ぶ面白さが感じられるようになればと思う。

後期においては、主に憲法典の条文に則して、その基礎的な知識を学んでいけるように、やはり平易な授業ということに留意して進める。その際、日日に生起する具体的事件などを取り上げるなどによっても憲法が身近に感じられるようにつとめたい。

さらには、現代社会のなかに未だ色濃く残存する封建法意識であるが、そうした観点から、かつての「家」制度についても触れていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期

4・5月

- 法とは何か
- 法の種類
- 法源
- 法の生成（日本法の歴史）
- 法と裁判の基礎知識
- 国家の基礎知識

6・7月

- 民法と商法の考え方
- 裁判法、刑法、社会法の考え方

後期

9・10月

- 憲法とその原理について
- 基本的人権の保障

11・12月

- 統治機構について
- 年間のまとめと「家」制度について

履修上の留意点

資料ならびに条文に則して行うことの多い授業ですので、テキスト、六法は毎時間必ず持参のこと。また、授業時の私語は厳禁ゆえ、守れない者には、直接、指摘することになろう。

成績評価の方法

年間1度の定期試験の評点に出席点を加味し評価する。

教科書

山口嘉三、大久保治男編『法学要説』（芦書房刊）2,800円

参考書等

小型の六法、そのほかは、ばあいにより参考資料を配布する。

その他

授業の方法は講義です。

科目名	法学・憲法【12〔法と権利〕】	開講	夏季集中	単位	4
配当	全学科（フレB除く）選				
担当者名	池田 実				

講義のねらい

家庭生活、社会生活、政治参加、経済活動など、私たちの日常が「法」とどのようにかわり、規制されているかを考察し、それが最終的に日本国憲法に定めるどのような原理・精神に結びついているかを明らかにします。
政治の法である憲法にかかわる問題には、“唯一絶対の正解”というものがほとんどありません。すっきり明瞭で断定的な解答を求めるのではなく、現代国家の病理やその複雑さに悩みながら、政治生活のあるべき姿をじっくり考えるきっかけにいただければ、と思います。

講義の内容・授業スケジュール

(1) 授業案内・導入 (2) 法とは何か(その1) (3) 法とは何か(その2)
(4) 法とは何か(その3) (5) 法とは何か(その4) (6) 憲法の基本概念
(7) 日本国憲法の沿革 (8) 国会(その1) (9) 国会(その2) (10) 選挙・政党
(11) 内閣(その1) (12) 内閣(その2) (13) 天皇 (14) 地方自治 (15) 財政
(16) 戦争の放棄(その1) (17) 戦争の放棄(その2) (18) 人権総論(その1)
(19) 人権総論(その2) (20) 精神的自由権(その1) (21) 精神的自由権(その2)
(22) 経済的自由権 (23) 身体的自由権 (24) 受益権 (25) 社会権(その1)
(26) 社会権(その2) (27) 包括的人権 (28) 裁判所(その1) (29) 裁判所(その2)
(30) 憲法改正

成績評価の方法

出席および授業時間内に提出するレポート類により総合的に評価します。

教科書

野畑健太郎・池田実編著『テキストブック日本国憲法』（嵯峨野書院）2,700円＋税
ISBN 4-7823-0424-2

その他

授業日程：7月31日～8月3日・6日・7日、1～5時限

科目名	法学・憲法【〔法と権利〕 －フレックスB開講－	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	鶏徳 啓登				

講義のねらい

人間は社会の中で生まれ、他の人と利害を対立しながら社会生活を営むものである以上、そこには相互の利害を調整し、紛争を解決するためのルール（規範）が必要である。「社会あるところ法あり。」（法諺）といわれるのはそれを如実に示すものである。この授業では、法の概論と基礎的な実定法上の権利・義務との二つに分けて、「法」とそこに認められる「権利」を講義する。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 法の概論は次の内容を中心として行う。
 - (1) 法の意義 (2) 法発生の背景 (3) 法とその近辺の社会規範 (4) 法の種別と解釈 (5) 法の適用
2. 実定法上の権利・義務の講義は次の内容を中心として行う。
 - (1) 民法上の権利－権利の主体と客体、権利能力・行為能力、権利の種類と内容（財産法上の権利、親族法上の権利、相続法上の権利）、権利の発生・消滅。
 - (2) 憲法上の権利－自由権（経済的自由権、精神的自由権、身体的自由権）、平等権、社会権（生存権、教育権、勤労権、労働者の権利）、参政権（選挙権、被選挙権）、受益権（請願権、国家賠償請求権、裁判を受ける権利、刑事補償請求権）。
 - (3) 国家・地方公共団体の権利－国家作用と三権分立制の意義・統治機構、立法権と立法機関、行政権と行政機関、司法権と司法機関、地方公共団体の自治権と住民の権利。

成績評価の方法

出席状況と試験。

教科書

小林弘人・松村格編著『法学・憲法』（八千代出版）3,500円

参考書等

『小六法』または『ポケット型小六法』（出版社・定価各種類）、その他参考書等については教場にて説明。

科目名	法学・憲法【〔法と社会生活〕 －フレックスB開講－	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	長谷川 ^{はせがわ} 日出世 ^{ひでよ}				

講義のねらい

我々は、好むと好まざるとにかかわらず、法と密接なかわりのある生活を強いられている。しかしながら多くの場合、我々はこの事実を知らず、何等かの法的問題が発生した時に初めて、これに気付く。

本講義では、まず、社会生活を営む上で不可欠な、社会規範としての法の生成およびその性質についての分析をおこなう。そして、次に、そこで得られた法概念を基礎に、国家の基本法である憲法と我々のかかわりあいを検討する。

講義の内容・
授業スケジュール

前期では、法を学ぶために必要な基礎的知識の修得を目指す。具体的には法と道德の関係、法と強制、法の体系性、国家と法、実定法上の原則等。

後期は、日本国憲法を具体的に検討する。特に日本国憲法の基本原理の成り立ち、基本的人権の保障規定等についての検討。

成績評価の方法

定期試験によるものとする。

教科書

長谷川日出世著『法の基礎概念と憲法』（成文堂）

参考書等

『ポケット六法』（有斐閣）

科目名	政治学【1〔社会生活とデモクラシー〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	しらとり ひろし 白鳥 浩				

講義のねらい

「政治」とは何でしょうか。この講義においては、「政治」とは、「未来の選択である」とする視座に立ち、政治学の全体像を学んでもらいます。これは、しばしば「可能性のアート」であるといわれるゆえんでもあります。そうした「未来の選択」、「可能性のアート」を扱う学問である「政治学」とは何か、どのように発展してきたのかを、皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。

講義の内容・授業スケジュール

以下の内容を初めてのひとにもわかるように講義します。

- (1) 序論 政治学の基礎概念
- (2) 古代の政治理論
- (3) 中世の政治理論
- (4) 近代政治理論の形成
- (5) 近代批判の政治理論
- (6) 現代の政治理論
- (7) 国際政治の理論
- (8) 現代の政治過程理論
- (9) ワールド・ポリティカル・サイエンスの形成
- (10) 現代日本の政治分析

履修上の留意点

関心を持って、講義に出席してください。

成績評価の方法

試験を中心とするが、総合的に判断する。

教科書

白鳥『都市対地方の政治学：日本政治の構造変動』（芦書房）2004年

参考書等

眞柄・井戸『比較政治学』（放送大学教育振興会）2004年
藤原『西洋政治理論史』（早瀬田大学出版部）1985年
授業内で適宜、指示します。

科目名	政治学【2（政治システムと政治参加）】	開講	通年	単位	4
担当	GM選				
担当者名	とみさき たかし 富崎 隆				

講義のねらい

「2001年9月11日、世界が変わった」と表現されることがあります。そして、米同時多発テロを境に、「ポスト冷戦」が終了し、「新しい時代」に入ったと議論されています。しかし、世界政治の方向性がはっきりとした訳ではありません。一方、世界の急速なグローバル化と情報化を背景に、膨大な情報が、テレビ、ラジオ、新聞、コンピュータ・ネットワークを通じ流通するようになってきました。しかし、これらの情報を単に漫然と受け取っているだけでは、毎日起こる事件の本当の意味は理解できません。事件や出来事を整理する「体系的視点」がどうしても必要となります。政治学を学ぶ基本的な意義もここにあります。

本講義では、政治学が蓄積してきた視点を、最新の成果を含めた形で、かなり網羅的に、かつ現実政治との連関を失わないように検討し、受講生が日々の政治的事件に対し自分の見解をもつための土台を提供したいと思います。講義は、大きく「マクロ政治学」、「ミクロ政治学」、「国際政治学」3部に分かれます。（内容は、初回講義時に説明）

講義全体として、特に現代における「国家」と「民主主義」の意義と役割、その動態について明らかにし、考えてもらうことを中心テーマとしていきたいと思っています。さらに、今日の対テロ問題とグローバル化・情報化が現代政治（と政治学）にどのように影響を与えるかについても検討していきます。

講義の内容・授業スケジュール

- I マクロ政治学
 - －国家と自由民主主義体制の枠組み－
- II ミクロ政治学
 - －自由民主主義体制の作動メカニズム－
- III 国際政治学
 - －戦争と平和の分析－

成績評価の方法

テスト及びレポート・出席など総合的に評価

教科書

青木・大谷・中邨編
『国家のゆくえ－21世紀世界の座標軸－』
（芦書房、2001年）

参考書等

適時指示

科目名	政治学【3〔国際社会と日本〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	やまざき のぞむ 山崎 望				

社会分野

講義のねらい

本講義の副題は「国際社会と日本」です。国内政治と国際政治の相違、そしてグローバル化に伴う世界秩序の再編について、基礎的な理論や考えを学ぶことが本講義の狙いです。特に後半では日本に焦点をあてることになります。

講義の内容・授業スケジュール

前期は国内政治と国際政治の相違点と類似点を扱います。具体的には国内政治では主権国家、政治体制、政治と経済、福祉、政治過程と政党といったテーマについて、国際政治では主権国家システムの成立、国民国家と植民地、世界大戦と冷戦、冷戦の終焉などについて扱います。

後期は国内政治と国際政治の垣根を越えるグローバル化がはらむ問題について扱います。アメリカの帝国化、グローバル・ガバナンス、テロのグローバル化、福祉国家の再編と新自由主義の拡大、ネオ・ナショナリズム、市民社会と参加民主主義、EUや南米の地域主義といったテーマを扱います。そして各々のテーマについて日本がグローバル化に関連していかなる変化にさらされているのか、米軍再編、格差社会化、治安・管理社会化、閉塞感の増大、日本の近年のナショナリズム、住民投票といった個別的なテーマについて論じる予定です。

履修上の留意点

新聞や本を読み、インターネットなどで情報を集め、問題意識をもって出席してください。

成績評価の方法

年度末の試験。

教科書

加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦1998『現代政治学』有斐閣アルマ
ISBN 4-641-12168

参考書等

講義中に適宜指摘します。

その他

講義形式。講義時に簡易なレジュメを配布する予定です。
講義の後半10分にカードを配るので、質問や感想を書いてください。

科目名	政治学【(政治システムと政治参加)】 －フレックスB開講－	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	眞下 英二 <small>ました えいじ</small>				

講義のねらい

そもそも政治とは何か、何のために存在しているのか？政治学の基本的な知識を身につけることにより、社会における政治の役割とわれわれの生活との関わり合いについて考察していく。とりわけ、現代民主主義における参加の問題についても検討を加えていく。

講義の内容・授業スケジュール

春学期：政治学の基本的な概念を中心に検討していく。特に、民主主義に関する問題は、時間をかけて行っていく。

秋学期：より現代的な問題を取り上げながら、現代社会の民主主義の問題について検討を行う。特に、政治システムと政治参加について、より詳細に検討していく予定である。

履修上の留意点

この講義においては、他の履修者の迷惑となるような行為は一切禁止する。当然のことながら、私語は厳禁である。

また、政治学や社会科学全般に関する知識は、必ずしも必要としないが、最低限、社会的な諸問題についての知識を持っていることが期待される。

成績評価の方法

成績評価は、原則的に期末試験の得点のみによって行う。ただし、必要な場合にはレポートを課すこともある。詳細については、講義中に指示する。

教科書

特に指定しない。

参考書等

加藤秀治郎他『政治学の基礎』（一藝社）2002年
加藤秀治郎・中村昭雄『新版スタンダード政治学』（芦書房）1999年
他は追って指示する。

科目名	政治学【〔国際社会と日本〕 －フレックスB開講－	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	山村 ^{やまむら} 恒雄 ^{つねお}				

講義のねらい

「法学」や「経済学」とは違い、「政治学」に対して抱くイメージは、人によってかなり異なるようである。この授業は副題にある通り「国際社会」のなかで日本が直面するさまざまな課題を取り上げ、それを素材として「政治を見る眼」を養うことを目的とする。具体的には、近代国際社会成立以降第二次世界大戦終了後に至るまでの国際政治の主な出来事を解説し、それを基にして現在生じている時事問題を考える素材を提供しようとするものである。したがって、授業は時事問題の解説が目的ではなく、受講生のひとりひとりが、政治問題に対して自分の意見を形成できるよう、「分析の道具」を提供しようとするものである。

講義の内容・
授業スケジュール

時事問題を素材として用いるため、具体的な問題を予め示すことはできないが、分析のための基本的な知識として、以下の項目を取り上げる。

- 1 ウェストファリア体制の形成
- 2 近代の国際政治
- 3 地球的問題群
- 4 第二次世界大戦後の国際政治の変容
- 5 冷戦と核兵器
- 6 食糧問題
- 7 環境破壊と持続可能な開発
- 8 日本が直面する諸問題

履修上の留意点

受け身ではなく、積極的に授業に参加できる意欲のある人を歓迎します。

成績評価の方法

夏休み明けのレポートと学期末試験による。なお、夏休み明けのレポートを提出しない者は、学期末試験の受験資格を失うので注意すること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書等

授業中、随時指定。

科目名	経済学【1〔現代社会と市場経済〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	はたなか たかし 島中 貴				

講義のねらい

諸々の経済現象をよりよく理解するための理論（ミクロ経済学・マクロ経済学）について概説する。経済についての体系的な理解を得ることがこの講義の目標である。

講義の内容・
授業スケジュール

経済は家計、企業、政府の三種類の主体が行っている経済活動によって成り立っている。前期は家計が行っている経済活動、企業が行っている経済活動、そして家計と企業が互いに影響を及ぼし合う場である市場について説明する。

後期は市場メカニズムが果たしている役割、市場メカニズムがうまく機能しないケース（市場の失敗）、政府が行っている経済活動、国内総生産（GDP）、不況と失業、物価の変動、国際貿易について説明する。

履修上の留意点

講義の内容は抽象的な議論が多く、理解するにはそれなりの労力と時間を必要とする。世界一頭のいい人であっても、テキストを一度読んだだけ、講義を一回聴いただけで、経済学を習得することは不可能である。受講者は、テキストを何度も読み返し、自分が理解できているのがどこまで、理解できていないのがどの部分なのかを確認するという地道な作業を、一年を通じて行わなければならない。分からない部分については分かるようになるまで説明するので、どんどん質問にいくこと。

成績評価の方法

基本的に二度の期末試験の総合評価。前期末試験、後期末試験のうちどちらか一方でも受けていない人には単位を与えないので注意すること。追試験は実施する。

教科書

第一回目の授業で指示する。

科目名	経済学【2〔現代経済と人間〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	もりた せいや 森田 成也				

講義のねらい

人間の社会はきわめて複雑な構造をなしており、その解明はけっして容易なものではありません。しかし、そうした人間社会の土台となっているのは、人々の実際の生活（およびそれに必要な物やサービス）を生産し再生産する経済的な過程です。したがって、経済学は、人々の生活や仕事にとって最も重要な領域を科学的に解明しようとするものです。経済学はけっして、難しいカタカナ言葉や数式が飛び交う世界だけではありません。労働と生活に密着し、人々がよりよい、より人間らしい生活と労働を展望し、実現していくために必要不可欠なものです。しかしながら、この学問は同時に、自然科学などと違って、経済を論じるその人の立場によって大きく左右されるものでもあります。普通の生活者や働く人々の視線で経済を見ていくことを学びます。

講義ではまず、前期で、社会全体に占める経済の位置、基本的な経済学の基礎理論を学び、資本主義経済の基礎的な運動法則を学びます（多少、後期にくい込む可能性あり）。後期では、それをふまえて実際に日本のいくつかの経済現象を具体的に理論に照らし合わせて検討し、どこまでが一般理論で説明ができ、どこからが特殊な日本の条件によって説明されるべきなのかを学んでいきたいと思えます。

講義の内容・授業スケジュール

（前期）基礎的な経済理論を学ぶ

- (1) はじめに (2) 社会と経済 (3,4) 商品・貨幣 (5,6, 7,8) 資本と剰余価値
- (9) 賃金 (10,11) 資本の蓄積 (12) 利潤と利潤率
- (13) 利子生み資本と株式資本
- (14,15) 独占資本、国家、外国貿易
- (16) 世界市場と帝国主義日本経済の基本構造を学ぶ
- (17,18) 戦前の日本と戦後日本経済の出発 (19,20) 現在の日本の基本形を作り出した高度経済成長 (21,22) 企業社会の形成と日本的働き方の確立 (23) 低成長期以降の企業社会の肥大化 (24) 企業社会と女性
- (25,26) 経済大国日本とバブル経済
- (27,28) 長期不況と構造改革下の日本経済

履修上の留意点

ノートをがんばってとってください。試験にも役立ちます。

成績評価の方法

学年末の試験が中心です

教科書

教科書はとくにありません

参考書等

松石勝彦『現代経済学入門』（青木書店）

科目名	経済学【3〔現代経済理解へのガイド〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	<small>さとう あやの</small> 佐藤 綾野				

講義のねらい

本講義の目的は、経済学を初めて履修する学生に経済学の基礎を平易に解説するものです。また本講義終了後には、学生自らが現実の経済現象を「経済学的」に解釈する力を身につけることを狙いとしています。

講義の内容・授業スケジュール

経済学は、一般的にミクロ経済学とマクロ経済学の2つの分野に分けられます。本講義では、この2つの分野をバランスよく、また現実の経済現象あるいは経済政策と絡めながら講義を進める予定です。具体的には、前期はマクロ経済学に関するテーマとしてGDP（国内総生産）、国民所得決定、有効需要と乗数メカニズム、貨幣の機能について取り上げます。また後期は、ミクロ経済学に関するテーマ、需要と供給、需要曲線と消費者行動、費用構造と供給行動、市場取引と資源配分について講義します。

履修上の留意点

積極的に講義に参加してください。また極力私語は慎んでください。

成績評価の方法

前期：レポート（レポート課題は前期講義終了時まで指示します）
 後期：筆記テスト

教科書

伊藤元重著『入門 経済学 第2版』（日本評論社）、3000円、ISBN4-535-55244-4

参考書等

適宜指定します。

その他

連絡先 ayano.sato@econ.nsu.ac.jp

科目名	経済学【4〔現代経済理解へのガイド〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	さとう あやの 佐藤 綾野				

社会分野

講義のねらい

本講義の目的は、経済学を初めて履修する学生に経済学の基礎を平易に解説するものです。また本講義終了後には、学生自らが現実の経済現象を「経済学的」に解釈する力を身につけることを狙いとしています。

講義の内容・授業スケジュール

経済学は、一般的にミクロ経済学とマクロ経済学の2つの分野に分けられます。本講義では、この2つの分野をバランスよく、また現実の経済現象あるいは経済政策と絡めながら講義を進める予定です。具体的には、前期はマクロ経済学に関するテーマとしてGDP（国内総生産）、国民所得決定、有効需要と乗数メカニズム、貨幣の機能について取り上げます。また後期は、ミクロ経済学に関するテーマ、需要と供給、需要曲線と消費者行動、費用構造と供給行動、市場取引と資源配分について講義します。

履修上の留意点

積極的に講義に参加してください。また極力私語は慎んでください。

成績評価の方法

前期：レポート（レポート課題は前期講義終了時までに指示します）
後期：筆記テスト

教科書

伊藤元重著『入門 経済学 第2版』（日本評論社）、3000円、ISBN4-535-55244-4

参考書等

適宜指定します。

その他

連絡先 ayano_sato@econ.nsu.ac.jp

科目名	経済学【〔現代経済と人間〕 －フレックスB開講－	開講	通年	単位	4
担当	GM選				
担当者名	沼田 郷 <small>ぬまた さとし</small>				

講義のねらい

現代経済に人間がどのように関わっているのか、またどのような状況におかれているのかをわかりやすく講義したいと考えています。現代経済を読み解くキーワードを理解することが目標となります。

 講義の内容・
授業スケジュール

・世界経済に関する理論・今日の地球環境・世界の経済格差・大量消費社会の実態・世界の貿易と投資・物質的繁栄の代償・成長するアジアと停滞するアフリカ・環境問題・経済成長と石油資源・開発論の検討・世界の貿易と投資・ODAとは何か・地球環境と資源・環境への取り組み・世界経済と多国籍企業

さしあたり、以上のような項目を準備しています。これ以外にも受講者の意見を取り入れながら随時項目を追加する予定です。また、ビデオなど映像資料を用いることも検討しています。

履修上の留意点

現代経済は非常にめまぐるしく変化しています。特に「グローバリゼーション」は、程度の差こそあれ我々人間に大きな影響を与えています。こうした今日的な問題を扱うため、受講生には日々のニュースに関心をもってもらうことが、本講義履修の留意点になります。

成績評価の方法

学期末の試験は受講生の強い要望がない限り行いません。したがって、レポートの作成を求めます（年間で1、2回）。また、出席カードの提出にかえて、講義終了時に書いていただく講義内容についての小レポートも成績に反映させます。

教科書

本講義の性質上教科書は指定しません。しかしながら、参考文献、資料等に関しては講義の中で随時お知らせいたします。

その他

授業方法は履修人数にもよりますが講義形式で行います。パワーポイントでの授業を基本としますが、必要に応じて資料等の配布も行います。

科目名	生物学【1〔生態と進化〕】	開講	通年	単位	4
担当	GM選				
担当者名	清水 ^{しみず} 善和 ^{よしかず}				

自然分野

講義のねらい

地球上の生物はすべて約40億年前に誕生した始原生物に端を発し、その後には連綿と続いた進化の産物である。どの生物も進化の遺産を背負って存在しており、進化を抜きにして生物を理解することはできない。また、この地球上には現在1000万種以上の生物が存在していると推定されている。肉眼では見えないバクテリアから体長20mを超すシロナガスクジラまでさまざまな形、大きさの生物が熱帯から極地、高山から深海まで地球上のあらゆる場所において独自の生活を築いている。そして、これらの生物は孤立して存在するのではなく、互いに密接な関係を保ちながら地球上にさまざまな生態系を形成している。この多様、複雑な姿が生物のもう一つの特徴である。一方、生命の基本的な情報を担う分子である遺伝子の研究が進んで、あらゆる生命現象を遺伝子レベルで統一的に理解することも可能になってきた。そこで、本講義では生物の「進化」、「多様性」、「遺伝子」を3つのキーワードにして、生物の進化や生態の実態を体系的に紹介するとともに、進化や多様性の維持に関するメカニズムについて解説する。

講義の内容・授業スケジュール

- 第1章 遺伝子と進化－我ら生物みな兄弟
 - (1) 生命の歴史性 (2) 遺伝子と生命現象 (3) 進化のメカニズム
- 第2章 40億年の生物進化－偶然と必然が織りなす奇跡
 - (1) 地質年代図 (2) マーグリスの共生説 (3) カンプリアの爆発
 - (4) 生物の上陸 (5) 大量絶滅
- 第3章 系統と分類－名もなき雑草はない
 - (1) リンネ式分類体系 (2) 生物五界説 (3) 種の定義と属性 (4) 分子時計
 - (5) 動物と植物の系統
- 第4章 行動と進化－生き物は誰がために生きるか
 - (1) 動物行動学の歩み (2) 適応度とゲーム理論 (3) 性選択と性比
 - (4) 利他的行動と血縁淘汰 (5) 利己的遺伝子
- 第5章 生物の人口論－産めよ殖えよ地に満てよ
 - (1) 潜在的な増殖率 (2) 密度効果とr-K淘汰 (3) 食う・食われる関係
 - (4) 生命表
- 第6章 共生と競争－出し抜きながら深い仲
 - (1) 種間関係(共生と寄生) (2) 花と昆虫の共進化 (3) 菌根 (4) 擬態
- 第7章 人類の進化－ヒトは唯一の生き残り
 - (1) 霊長類の系統 (2) ヒトの発展段階 (3) ホミニゼーション(ヒト化)
 - (4) 人体の特徴
- 第8章 進化論－進化論も進化する
 - (1) ダーウィン以前 (2) ダーウィン進化論 (3) ネオ・ダーウィニズム
 - (4) 進化論と宗教
- 第9章 生態系－命は無数のつながりの中で
 - (1) 生態系(エコ・システム) (2) 食物連鎖と生物濃縮 (3) 光合成と呼吸
 - (4) 生産諸量
- 第10章 物質の循環－元素はめぐるよどこまでも
 - (1) 物質循環の大原則 (2) 水の循環 (3) 炭素の循環 (4) 窒素の循環
 - (5) 地球環境の形成
- 第11章 植生遷移－裸地もいずれは森林に
 - (1) 遷移のモデル (2) 遷移の実例 (3) 森林の更新
- 第12章 生物多様性－多様な世界に未来あり
 - (1) 3つの多様性 (2) 多様性の尺度 (3) 生物地理区と植生帯
 - (4) 多様性の危機
- 第13章 人為と生物－生物界のグローバリゼーション
 - (1) 里山の生物 (2) 都市化と生物 (3) 帰化種の侵入

成績評価の方法

前期のレポート、後期の試験、通年の出席回数を勘案して評価する。

教科書

講義内容を記述した「web版教科書」(清水執筆)を紹介する。受講者は清水のHPより自由にダウンロードして利用できる。

参考書等

「web版教科書」にて章ごとに紹介する。

その他

講義に必要な図表は章ごとに1枚のプリントにして配布する。

科目名	生物学【2（生態と進化）】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	清水 ^{しみず} 善和 ^{よしかず}				

講義のねらい

地球上の生物はすべて約40億年前に誕生した始原生物に端を発し、その後には連続と続いた進化の産物である。どの生物も進化の遺産を背負って存在しており、進化を抜きにして生物を理解することはできない。また、この地球上には現在1000万種以上の生物が存在していると推定されている。肉眼では見えないバクテリアから体長20mを超すシロナガスクジラまでさまざまな形、大きさの生物が熱帯から極地、高山から深海まで地球上のあらゆる場所において独自の生活を築いている。そして、これらの生物は孤立して存在するのではなく、互いに密接な関係を保ちながら地球上にさまざまな生態系を形成している。この多様、複雑な姿が生物のもう一つの特徴である。一方、生命の基本的な情報を担う分子である遺伝子の研究が進んで、あらゆる生命現象を遺伝子レベルで統一的に理解することも可能になってきた。そこで、本講義では生物の「進化」、「多様性」、「遺伝子」を3つのキーワードにして、生物の進化や生態の実際を体系的に紹介するとともに、進化や多様性の維持に関するメカニズムについて解説する。

講義の内容・授業スケジュール

- 第1章 遺伝子と進化－我ら生物みな兄弟
 - (1) 生命の歴史性 (2) 遺伝子と生命現象 (3) 進化のメカニズム
- 第2章 40億年の生物進化－偶然と必然が織りなす奇跡
 - (1) 地質年代図 (2) マーグリスの共生説 (3) カンプリアの爆発
 - (4) 生物の上陸 (5) 大量絶滅
- 第3章 系統と分類－名もなき雑草はない
 - (1) リンネ式分類体系 (2) 生物五界説 (3) 種の定義と属性 (4) 分子時計
 - (5) 動物と植物の系統
- 第4章 行動と進化－生き物は誰がために生きるか
 - (1) 動物行動学の歩み (2) 適応度とゲーム理論 (3) 性選択と性比
 - (4) 利他的行動と血縁淘汰 (5) 利己的遺伝子
- 第5章 生物の人口論－産めよ殖えよ地に満てよ
 - (1) 潜在的な増殖率 (2) 密度効果とr-K淘汰 (3) 食う・食われる関係
 - (4) 生命表
- 第6章 共生と競争－出し抜きながら深い仲
 - (1) 種間関係(共生と寄生) (2) 花と昆虫の共進化 (3) 菌根 (4) 擬態
- 第7章 人類の進化－ヒトは唯一の生き残り
 - (1) 霊長類の系統 (2) ヒトの発展段階 (3) ホミニゼーション(ヒト化)
 - (4) 人体の特徴
- 第8章 進化論－進化論も進化する
 - (1) ダーウィン以前 (2) ダーウィン進化論 (3) ネオ・ダーウィニズム
 - (4) 進化論と宗教
- 第9章 生態系－命は無数のつながりの中で
 - (1) 生態系(エコ・システム) (2) 食物連鎖と生物濃縮 (3) 光合成と呼吸
 - (4) 生産諸量
- 第10章 物質の循環－元素はめぐるよどこまでも
 - (1) 物質循環の大原則 (2) 水の循環 (3) 炭素の循環 (4) 窒素の循環
 - (5) 地球環境の形成
- 第11章 植生遷移－裸地もいずれは森林に
 - (1) 遷移のモデル (2) 遷移の実例 (3) 森林の更新
- 第12章 生物多様性－多様な世界に未来あり
 - (1) 3つの多様性 (2) 多様性の尺度 (3) 生物地理区と植生帯
 - (4) 多様性の危機
- 第13章 人為と生物－生物界のグローバル化
 - (1) 里山の生物 (2) 都市化と生物 (3) 帰化種の侵入

成績評価の方法

前期のレポート、後期の試験、通年の出席回数を勘案して評価する。

教科書

講義内容を記述した「web版教科書」(清水執筆)を紹介する。受講者は清水のHPより自由にダウンロードして利用できる。

参考書等

「web版教科書」にて章ごとに紹介する。

その他

講義に必要な図表は章ごとに1枚のプリントにして配布する。

科目名	生物学【3〔生物と環境〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	中村 ^{なかむら} 敏枝 ^{としえ}				

講義のねらい

この地球が誕生したのは46億年の昔といわれる。40億年前にはすでに生命が誕生し、以後それは地球の環境を変えつつ、自らも進化の歴史を歩みながら現在に至った。この長い歴史の中で、種の構成は変わり、あるものは絶滅してしまったけれど、現存する生物は40億年の間、生まれ・成長し・繁殖し・死ぬ、ということを営々と繰り返してきた。この生物たちの営みをいろいろな段階（細胞・個体・個体群・生態系）で紹介したい。

後期には、環境問題をとりあげる。科学技術は私たちに快適で豊かな生活をもたらした。しかし、その負の部分が近年私たちを脅かしている。その一つである人工化学物質の功罪について考える。

講義の内容・授業スケジュール

（前期）生物の生活

- （1）地球の歴史と生命の起源
 - ・最初の生命
 - ・地球の歴史
 - ・極限環境生物
- （2）生命誕生
 - ・いまここにいる奇跡
 - ・受精と発生
- （3）生命の維持
 - ・なぜ食べるか
 - ・消化と吸収
 - ・排泄物のゆくえ
 - ・植物の光合成
- （4）生態系の物質循環とエネルギーの流れ
 - ・陸と海をめぐるいのちの輪

（後期）化学物質の功罪

- （1）ゴミ処理とダイオキシン汚染
 - ・ゴミ焼却とダイオキシン
 - ・ゴミの減量 Reduce Reuse Recycle
 - ・ゼロエミッションという考え方
- （2）人工化学物質の功罪
 - ・内分泌かく乱化学物質 - 環境ホルモン
- （3）人工放射性核種
 - ・原発は温暖化を防ぐ救世主か
 - ・JCO 臨界事故
- （4）まとめ 自然とともに生きる

履修上の留意点

義務教育までの数学、理科をはじめ各教科の知識を、本講義の前提とする。意見発表の機会をつくりたいので積極的に取り組む学生の参加を期待します。

成績評価の方法

学期終了時に講義内容についての試験またはレポートを課します。成績は上記と出席状況、授業時間内の小レポートなどを考慮して、総合的に評価します。

教科書

赤堀他著『生物学—地球に生きるいのちを考える』（宣協社）2,700円

参考書等

授業時間内に随時紹介します。

その他

授業スケジュールを変更して時事問題を扱うことがあるかもしれません。

科目名	生物学【〔生態と進化〕】 －フレックスB開講－	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	しみず よしかず 清水 善和				

講義のねらい

地球上の生物はすべて約40億年前に誕生した始原生物に端を発し、その後に連続と続いた進化の産物である。どの生物も進化の遺産を負って存在しており、進化を抜きにして生物を理解することはできない。また、この地球上には現在1000万種以上の生物が存在していると推定されている。肉眼では見えないバクテリアから体長20mを超すシロナガスクジラまでさまざまな形、大きさの生物が熱帯から極地、高山から深海まで地球上のあらゆる場所において独自の生活を築いている。そして、これらの生物は孤立して存在するのではなく、互いに密接な関係を保ちながら地球上にさまざまな生態系を形成している。この複雑、多様な姿が生物のもう一つの特徴である。一方、生命の基本的な情報を担う分子である遺伝子の研究が進んで、あらゆる生命現象を遺伝子レベルで統一的理解することも可能になってきた。そこで、本講義では生物の「進化」、「多様性」、「遺伝子」を3つのキーワードにして、生物の進化や生態の実際を体系的に紹介するとともに、進化や多様性の維持に関するメカニズムについて解説する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1章 遺伝子と進化－我ら生物みな兄弟
 - (1) 生命の歴史性 (2) 遺伝子と生命現象 (3) 進化のメカニズム
- 第2章 40億年の生物進化－偶然と必然が織りなす奇跡
 - (1) 地質年代図 (2) マーグリスの共生説 (3) カンブリアの爆発
 - (4) 生物の上陸 (5) 大量絶滅
- 第3章 系統と分類－名もなき雑草はない
 - (1) リンネ式分類体系 (2) 生物五界説 (3) 種の定義と属性 (4) 分子時計
 - (5) 動物と植物の系統
- 第4章 行動と進化－生き物は誰がために生きるか
 - (1) 動物行動学の歩み (2) 適応度とゲーム理論 (3) 性選択と性比
 - (4) 利他的行動と血縁淘汰 (5) 利己的遺伝子
- 第5章 生物の人口論－産めよ殖えよ地に満てよ
 - (1) 潜在的な増殖率 (2) 密度効果とr-K淘汰 (3) 食う・食われる関係
 - (4) 生命表
- 第6章 共生と競争－出し抜きながら深い仲
 - (1) 種間関係(共生と寄生) (2) 花と昆虫の共進化 (3) 菌根 (4) 擬態
- 第7章 人類の進化－ヒトは唯一の生き残り
 - (1) 霊長類の系統 (2) ヒトの発展段階 (3) ホミニゼーション(ヒト化)
 - (4) 人体の特徴
- 第8章 進化論－進化論も進化する
 - (1) ダーウィン以前 (2) ダーウィン進化論 (3) ネオ・ダーウィニズム
 - (4) 進化論と宗教
- 第9章 生態系－命は無数のつながりの中で
 - (1) 生態系(エコ・システム) (2) 食物連鎖と生物濃縮 (3) 光合成と呼吸
 - (4) 生産諸量
- 第10章 物質の循環－元素はめぐるよどこまでも
 - (1) 物質循環の大原則 (2) 水の循環 (3) 炭素の循環 (4) 窒素の循環
 - (5) 地球環境の形成
- 第11章 植生遷移－裸地もいずれは森林に
 - (1) 遷移のモデル (2) 遷移の実例 (3) 森林の更新
- 第12章 生物多様性－多様な世界に未来あり
 - (1) 3つの多様性 (2) 多様性の尺度 (3) 生物地理区と植生帯
 - (4) 多様性の危機
- 第13章 人為と生物－生物界のグローバリゼーション
 - (1) 里山の生物 (2) 都市化と生物 (3) 帰化種の侵入

履修上の留意点

特になし。

成績評価の方法

前期のレポート、後期の試験、通年の出席回数を勘案して評価する。

教科書

講義内容を記述した「web版教科書」(清水執筆)を紹介する。受講者は清水のHPより自由にダウンロードして利用できる。

参考書等

「web版教科書」で章ごとに紹介する。

その他

講義で必要な図表は章ごとに1枚のプリントにして配布する。

科目名	生物学【〔生物と環境〕】 －フレックスB開講－	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	<small>なかむら としえ</small> 中村 敏枝				

講義のねらい

この地球が誕生したのは46億年の昔といわれる。40億年前にはすでに生命が誕生し、以後それは地球の環境を変えつつ、自らも進化の歴史を歩みながら現在に至った。この長い歴史の中で、種の構成は変わり、あるものは絶滅してしまったけれど、現存する生物は40億年の間、生まれ・成長し・繁殖し・死ぬ ということを営々と繰り返してきた。この生物たちの営みをいろいろな段階(細胞・個体・個体群・生態系)で紹介したい。

後期には、環境問題をとりあげる。科学技術は私たちに快適で豊かな生活をもたらした。しかしその負の部分が近年私たちに脅かしている。その一つである人工化学物質の功罪について考える。

講義の内容・
授業スケジュール

(前期) 生物の生活

(1-5) 地球の歴史と生命の起源

(6-13) 生態系のしくみ

(後期) 化学物質の功罪－豊かな生活とそのつけ

(14-21) ゴミ処理とダイオキシン汚染

(22-23) 水銀汚染と水俣病

(24-25) 人工放射性物質汚染

履修上の留意点

義務教育までの数学、理科をはじめ各教科の知識を、本講義の前提とする。意見発表の機会をつくりたいので積極的に取り組む学生の参加を期待します。

成績評価の方法

学期終了時に講義内容についての試験またはレポートを課します。成績は上記と出席状況、授業時間内の小レポートなどを考慮して、総合的に評価します。

教科書

赤堀他著『生物学－地球に生きるいのちを考える』(宣協社) 2,700円

参考書等

授業時間内に随時紹介します。

その他

授業スケジュールを変更して時事問題を扱うことがあるかもしれません。

科目名	自然環境論【1〔生命と環境〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	やまがた たけし 山縣 毅				

講義のねらい

18世紀後半から始まった産業革命以降、産業文明の発展により、地球規模の環境変化が自然の復元能力を超えて急激に進んでいます。その変化は、人類の生存自体にも深刻な影響を及ぼすようになってきました。本講義では、地球科学的立場から、地球環境の諸問題を解説し、人間活動が地球環境に与える影響、自然と人間の関わりについて考えていくことを目標としています。

講義の内容・授業スケジュール

- 〔地球表層の環境〕
- 1. 大気構造とオゾン層
- 2. 気候の決定要因
- 3. 生物生存条件としての地球磁場
- 〔人間活動による環境変化〕
- 1. 公害問題の変遷
- 2. 地球温暖化とその要因
- 3. 大気汚染
- 4. 酸性雨
- 5. 光化学スモッグ
- 6. 海洋汚染
- 7. 資源とエネルギー
- 〔自然災害〕
- 1. 気候変動
- 2. 地震とその災害
- 3. 火山とその災害

成績評価の方法

成績は、定期試験とレポートにて評価します。

教科書

特になし。

参考書等

講義中に紹介します。

その他

講義にて、資料プリントを配布します。

科目名	自然環境論【2〔生命と環境〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	やまがた たけし 山縣 毅				

講義のねらい

18世紀後半から始まった産業革命以降、産業文明の発展により、地球規模の環境変化が自然の復元能力を超えて急激に進んでいます。その変化は、人類の生存自体にも深刻な影響を及ぼすようになってきました。本講義では、地球科学的立場から、地球環境の諸問題を解説し、人間活動が地球環境に与える影響、自然と人間の関わりについて考えていくことを目標としています。

講義の内容・授業スケジュール

〔地球表層の環境〕

1. 大気構造とオゾン層
2. 気候の決定要因
3. 生物生存条件としての地球磁場

〔人間活動による環境変化〕

1. 公害問題の変遷
2. 地球温暖化とその要因
3. 大気汚染
4. 酸性雨
5. 光化学スモッグ
6. 海洋汚染
7. 資源とエネルギー

〔自然災害〕

1. 気候変動
2. 地震とその災害
3. 火山とその災害

成績評価の方法

成績は、定期試験とレポートにて評価します。

教科書

特になし。

参考書等

講義中に紹介します。

その他

講義にて、資料プリントを配布します。

科目名	自然環境論【3〔生命と環境〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	坂巻 <small>さかまき</small> 義章 <small>よしあき</small>				

講義のねらい

地球環境の変化は現代の重要な問題の1つである。これは、個人の専門や興味に関係なく我々に降りかかってくる。この状況の中で人間を含めた自然、それを取り巻く環境について正しい理解をもつことは必要不可欠である。この講義では生物の生活と環境の関係を理解する事を基本とし、生態系の成り立ちやその中で起こる調節、人間による攪乱などについて取り上げる。これらの知識を基礎にこれからの環境変化についてどう対処するかを考えたい。

講義の内容・
授業スケジュール

前期 (1,2) 地球 (3) 環境とは何か (4) 生物とは何か (5,6) 生物の歴史と環境
(7,8) 生物の進化 (9,10) 生物の分布 (11,12) 環境への適応 (13) 前期のまとめと試験
後期 (14,15) 食物連鎖とエネルギー流 (16) 生態ピラミッド (17) 個体群 (18) 出生と死亡
(19) 競争と住み分け (20) 捕食 (21) 共生と寄生 (22) 土壌と分解者 (23) 物質循環 (24)
里山の生態系
(25) 人口問題と環境問題 (26) まとめと試験

履修上の留意点

スケジュールは基本である。開始後に理解度によって進度を調整したり、新たな内容についても触れるなどの変更はありうる。大学生として授業に参加する基本的なマナーは守って欲しい。

成績評価の方法

出席点と筆記試験で行う。途中で課題を出すこともあるので、その場合はこれも加える。

教科書

指定しない

参考書等

指定しない。必要な場合にプリントを配布することがある。

その他

講義形式の授業とする。

科目名	自然環境論【4〔生命と環境〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	坂野井 和代 <small>さかのい かずよ</small>				

講義のねらい

人間が普段活動している地球環境（陸地、大気、海洋）の基礎的な構造や原理を学ぶと共に、現在話題になっている地球温暖化等の環境問題について知る。また、近年人類が活動するようになった地球近傍の宇宙環境（地球磁気圏、太陽系の惑星など）についても触れ、地球環境システムを総合的に理解する。

講義の内容・授業スケジュール

主に地球の大気環境（気候、気象、超高層大気）と地球近傍の宇宙環境について触れる。

1. 地球環境システムの構造と原理（個体地球、大気・海洋、地球磁気圏）
2. 地球と太陽系惑星との比較（地球磁気圏、太陽、太陽系）
3. 地球の気候と気象
4. 地球環境問題（地球温暖化、オゾン層破壊）
5. 地球近傍の宇宙環境（宇宙天気予報、人工衛星観測、太陽系惑星探査）
6. その他、トピックス

履修上の留意点

なるべく一つ、一つ説明はしますが、中学・高校の基礎的な数学・理科を理解する程度の知識や能力は必要です。講義の進度や話題は、受講人数やその時期の状況に応じて、適宜調節します。人数によってはレポート発表形式の講義も検討します。レポート形式の場合、詳細は講義で説明します。内容は決して簡単ではありませんので、興味およびやる気のある学生を求めます。

成績評価の方法

評価は授業時間中および期末に出題する課題および試験またはレポート（口頭）によって行う。

教科書

使用しない。適宜資料を配付する。

参考書等

その都度紹介する。

科目名	自然環境論【5〔生命と環境〕】	開講	通年	単位	4
担当	GM選				
担当者名	坂野井 和代 <small>さかのい かずよ</small>				

講義のねらい

人間が普段活動している地球環境（陸地、大気、海洋）の基礎的な構造や原理を学ぶと共に、現在話題になっている地球温暖化等の環境問題について知る。また、近年人類が活動するようになった地球近傍の宇宙環境（地球磁気圏、太陽系の惑星など）についても触れ、地球環境システムを総合的に理解する。

講義の内容・授業スケジュール

- 主に地球の大気環境（気候、気象、超高層大気）と地球近傍の宇宙環境について触れる。
1. 地球環境システムの構造と原理（個体地球、大気・海洋、地球磁気圏）
 2. 地球と太陽系惑星との比較（地球磁気圏、太陽、太陽系）
 3. 地球の気候と気象
 4. 地球環境問題（地球温暖化、オゾン層破壊）
 5. 地球近傍の宇宙環境（宇宙天気予報、人工衛星観測、太陽系惑星探査）
 6. その他、トピックス

履修上の留意点

なるべく一つ、一つ説明はしますが、中学・高校の基礎的な数学・理科を理解する程度の知識や能力は必要です。講義の進度や話題は、受講人数やその時期の状況に応じて、適宜調節します。人数によってはレポート発表形式の講義も検討します。レポート形式の場合、詳細は講義で説明します。内容は決して簡単ではありませんので、興味およびやる気のある学生を求めます。

成績評価の方法

評価は授業時間中および期末に出題する課題および試験またはレポート（口頭）によって行う。

教科書

使用しない。適宜資料を配付する。

参考書等

その都度紹介する。

科目名	自然環境論【6〔生命と環境〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	中村 <small>なかむら</small> 敏枝 <small>としえ</small>				

講義のねらい

アメリカ産の牛肉の安全性が近年問題になった。牛海綿状農相（BSE 狂牛病）は牛の致死性の感染症であるが、病原体がプリオンというたんぱく質であること、ヒトおよび他の生物に種の壁を越えて感染することが、生物学的には興味深い。英国でこれが蔓延したのは罹病した牛の屍体を飼料として用いたことによるという。経済性・効率性を追及して到達した究極の資源の再利用とは、草食動物である牛に肉食、しかも「共食い」をさせることであった。

増え続ける人口、豊かな食生活への限りない欲求。それが、生物と環境に何をもたらしているのかを考えてみよう。

講義の内容・授業スケジュール

（前期）自然環境の改変

（1－6）自然のしくみ

（7－12）自然の改変食をめぐる問題

（後期）人間の活動と自然環境－食をめぐる問題

（13-18）農業－有機農業・灌漑・遺伝子組み替え作物

（19-22）畜産業－肉食とは何か・BSE・クローン動物

（23-25）漁業－海外依存度・環境ホルモン汚染

（26）まとめ 私たちは自然に生かされている

履修上の留意点

義務教育までの数学、理科をはじめ各教科の知識を、本講義の前提とする。意見発表の機会をつくりたいので積極的に取り組む学生の参加を期待します。

成績評価の方法

学期終了時に講義内容についての試験またはレポートを課します。成績は上記と出席状況、授業時間内の小レポートなどを考慮して、総合的に評価します。

参考書等

赤堀他著『生物学－地球に生きるいのちを考える』（宣協社）2,700円

その他については授業時間内に随時紹介します。

その他

授業スケジュールを変更して時事問題を扱うことがあるかもしれません。

科目名	自然環境論【7〔生命と環境〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	中村 ^{なかむら} 敏枝 ^{としえ}				

講義のねらい

アメリカ産の牛肉の安全性が近年問題になった。牛海綿状脳症（BSE 狂牛病）は牛の致死性の感染症であるが、病原体がプリオンというたんぱく質であること、ヒトおよび他の生物に種の壁を越えて感染することが、生物学的には興味深い。英国でこれが蔓延したのは罹病した牛の屍体を飼料として用いたことによるという。経済性・効率性を追求して到達した究極のした資源の有効利用とは、草食動物である牛に肉食、しかも「共食い」をさせることであった。増え続ける人口、豊かな食生活への限りなき欲求。それが、生物と環境に何をもたらしているのかを考えてみよう。

講義の内容・授業スケジュール

- (前期) 自然環境の改変
 (1-6) 自然のしくみ
 (7-12) 自然の改変食をめぐる問題
 (後期) 人間の活動と地球環境
 (13-18) 農業—有機農業・灌漑・遺伝子組み替え作物
 (19-22) 畜産業—肉食とは何か・BSE・クローン動物
 (23-25) 漁業—海外依存度・環境ホルモン汚染

履修上の留意点

義務教育までの数学、理科をはじめ各教科の知識を、本講義の前提とする。意見発表の機会をつくりたいので積極的に取り組む学生の参加を期待します。

成績評価の方法

学期終了時に講義内容についての試験またはレポートを課します。成績は上記と出席状況、授業時間内の小レポートなどを考慮して、総合的に評価します。

教科書

使用しません。

参考書等

赤堀他著『生物学—地球に生きるいのちを考える』（宣協社）2,700円
 その他については授業時間内に随時紹介します。

その他

授業スケジュールを変更して時事問題を扱うことがあるかもしれません。

科目名	自然環境論【8〔生物の集団と環境〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	<small>さかまき</small> <small>よしあき</small> 坂巻 義章				

講義のねらい

地球環境の変化は現代の重要な問題の1つである。これは、個人の専門や興味に関係なく我々に降りかかってくる。この状況の中で人間を含めた自然、それを取り巻く環境について正しい理解をもつことは必要不可欠である。この講義では生物の生活と環境の関係を理解する事を基本とし、生態系の成り立ちやその中で起こる調節、人間による攪乱などについて取り上げる。これらの知識を基礎にこれからの環境変化についてどう対処するかを考えたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期 (1,2)地球 (3) 環境とは何か (4) 生物とは何か (5,6)生物の歴史と環境 (7,8)生物の進化 (9,10)生物の分布 (11,12)環境への適応 (13)前期のまとめと試験
 後期 (14,15)食物連鎖とエネルギー流 (16)生態ピラミッド (17)個体群 (18)出生と死亡 (19)競争と住み分け (20)捕食 (21)共生と寄生 (22)土壌と分解者 (23)物質循環 (24)里山の生態系 (25)人口問題と環境問題 (26)まとめと試験

履修上の留意点

スケジュールは基本である。開始後に理解度によって進度を調整したり、新たな内容についても触れるなどの変更はありうる。大学生として授業に参加する基本的なマナーは守って欲しい。

成績評価の方法

出席点と筆記試験で行う。途中で課題を出すこともあるので、その場合はこれも加える。

教科書

指定しない

参考書等

指定しない。必要な場合にプリントを配布することがある。

その他

講義形式の授業とする。

科目名	自然環境論【9〔生物の集団と環境〕】	開講	通年	単位	4
担当	GM選				
担当者名	坂巻 <small>さかまき</small> 義章 <small>よしあき</small>				

講義のねらい

地球環境の変化は現代の重要な問題の1つである。これは、個人の専門や興味に関係なく我々に降りかかってくる。この状況の中で人間を含めた自然、それを取り巻く環境について正しい理解をもつことは必要不可欠である。この講義では生物の生活と環境の関係を理解する事を基本とし、生態系の成り立ちやその中で起こる調節、人間による攪乱などについて取り上げる。これらの知識を基礎にこれからの環境変化についてどう対処するかを考えたい。

講義の内容・
授業スケジュール

前期 (1,2)地球 (3) 環境とは何か (4) 生物とは何か (5,6)生物の歴史と環境 (7,8)生物の進化 (9,10)生物の分布 (11,12)環境への適応 (13)前期のまとめと試験
後期 (14,15)食物連鎖とエネルギー流 (16)生態ピラミッド (17)個体群 (18)出生と死亡 (19)競争と住み分け (20)捕食 (21)共生と寄生 (22)土壌と分解者 (23)物質循環 (24)里山の生態系 (25)人口問題と環境問題 (26)まとめと試験

履修上の留意点

スケジュールは基本である。開始後に理解度によって進度を調整したり、新たな内容についても触れるなどの変更はありうる。大学生として授業に参加する基本的なマナーは守って欲しい。

成績評価の方法

出席点と筆記試験で行う。途中で課題を出すこともあるので、その場合はこれも加える。

教科書

指定しない

参考書等

指定しない。必要な場合にプリントを配布することがある。

その他

講義形式の授業とする。

科目名	自然環境論【10〔生物の集団と環境〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	坂巻 <small>さかまき</small> 義章 <small>よしあき</small>				

自然分野

講義のねらい

地球環境の変化は現代の重要な問題の1つである。これは、個人の専門や興味に関係なく我々に降りかかってくる。この状況の中で人間を含めた自然、それを取り巻く環境について正しい理解をもつことは必要不可欠である。この講義では生物の生活と環境の関係を理解する事を基本とし、生態系の成り立ちやその中で起こる調節、人間による攪乱などについて取り上げる。これらの知識を基礎にこれからの環境変化についてどう対処するかを考えたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期 (1,2)地球 (3) 環境とは何か (4) 生物とは何か (5,6)生物の歴史と環境 (7,8)生物の進化 (9,10)生物の分布 (11,12)環境への適応 (13)前期のまとめと試験
後期 (14,15)食物連鎖とエネルギー流 (16)生態ピラミッド (17)個体群 (18)出生と死亡 (19)競争と住み分け (20)捕食 (21)共生と寄生 (22)土壌と分解者 (23)物質循環 (24)里山の生態系 (25)人口問題と環境問題 (26)まとめと試験

履修上の留意点

スケジュールは基本である。開始後に理解度によって進度を調整したり、新たな内容についても触れるなどの変更はありうる。大学生として授業に参加する基本的なマナーは守って欲しい。

成績評価の方法

出席点と筆記試験で行う。途中で課題を出すこともあるので、その場合はこれも加える。

教科書

指定しない

参考書等

指定しない。必要な場合にプリントを配布することがある。

その他

講義形式の授業とする。

科目名	自然環境論【(宇宙から見た地球環境)】 -フレックスB開講-	開講	通年	単位	4
担当	GM選				
担当者名	篠原 ^{しのはら} 正雄 ^{まさお}				

講義のねらい

現代の天文学と惑星科学の成果の上に立ち、宇宙を視点に地球の自然環境について講義します。

多くの要因が複雑に絡みあう地球規模の環境問題について、原因や対策がすでにわかっているとは到底言えません。しかし、地球環境の基礎を形作る事柄についての研究は着実に進んでいます。この講義を通して個別の環境問題の背後にある地球環境システムについて理解し、より深いところから地球環境を考えられるようになっていただきたいと思います。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 宇宙と地球環境
自然の階層構造 宇宙137億年の歴史 地球46億年の歴史 地球の進化と地球環境の形成
2. 地球環境の変動
宇宙環境と地球環境変動 地球システムと地球環境変動 人類と地球環境変動
3. 地球環境問題
オゾン層破壊問題 地球温暖化問題 エネルギー その他の環境問題
4. 宇宙と地球の未来
文明の未来 地球と宇宙の未来 SETI (地球外文明探査)

成績評価の方法

学年末に行う筆記試験の結果により評価します。平常点も考慮します。

教科書

木下紀正・八田明夫著『地球と環境の科学』(東京教学社) 2,300円+税

参考書等

講義の中で適宜紹介します。

その他

「宇宙」に関する映像を使うことがあります。教科書外の事柄については適宜プリント等を配布します。

科目名	自然環境論【(生命と環境)】 －フレックスB開講－	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	山縣 毅 <small>やまがは たけし</small>				

講義のねらい

18世紀後半から始まった産業革命以降、産業文明の発展により、地球規模の環境変化が自然の復元能力を超えて急激に進んでいます。その変化は、人類の生存自体にも深刻な影響を及ぼすようになってきました。本講義では、地球科学的立場から、地球環境の諸問題を解説し、人間活動が地球環境に与える影響、自然と人間の関わりについて考えていくことを目標としています。

講義の内容・
授業スケジュール

- 〔地球表層の環境〕
- 1. 大気構造とオゾン層
- 2. 気候の決定要因
- 3. 生物生存条件としての地球磁場
- 〔人間活動による環境変化〕
- 1. 公害問題の変遷
- 2. 地球温暖化とその要因
- 3. 大気汚染
- 4. 酸性雨
- 5. 光化学スモッグ
- 6. 海洋汚染
- 7. 資源とエネルギー
- 〔自然災害〕
- 1. 気候変動
- 2. 地震とその災害
- 3. 火山とその災害

成績評価の方法

成績は、定期試験とレポートにて評価します。

教科書

特になし。

参考書等

講義中に紹介します。

その他

講義にて、資料プリントを配布します。

科目名	数学【1〔微積分学入門〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	小沢 誠 <small>おざわ まこと</small>				

講義のねらい

数学の基礎分野の一つである微分積分学の入門的事項を学ぶ。将来必要になった時に困らないよう、例題を丁寧に解説し、練習問題を解けるようにする。また、単に問題が解けるだけでなく、その過程において、論理的思想を身に付けることを目標とする。

講義の内容・
授業スケジュール

教科書に従って以下の項目を解説する。

1. 集合と写像
2. 数列
3. 連続関数
4. 1変数関数の微分
5. 多変数関数の微分
6. 積分

履修上の留意点

毎回出席すること。数学は一つ一つの積み重ねであるので、欠席した場合には補習が必要である。

成績評価の方法

前期と後期の試験の結果で評価する。

教科書

沢田賢／渡辺展也／安原晃 共著『大学で学ぶ 微分積分』サイエンス社
1050円（税込）ISBN4-7819-1082-3

参考書等

適宜紹介する。

その他

講義が理解出来なかった場合は、遠慮なく質問して欲しい。全ての受講生が理解して進められるよう努力する。

科目名	数学【2〔線形代数学入門〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	おざわ まこと 小沢 誠				

講義のねらい

数学の基礎分野の一つである線形代数学の入門的事項を学ぶ。将来必要になった時に困らないよう、例題を丁寧に解説し、練習問題を解けるようにする。また、単に問題が解けるだけでなく、その過程において、論理的思想を身に付けることを目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

教科書に従って以下の項目を解説する。

1. 文字の使用について
2. 行列
3. 連立一次方程式
4. ベクトル空間
5. 線形写像
6. 行列式
7. 固有値・固有空間

履修上の留意点

毎回出席すること。数学は一つ一つの積み重ねであるので、欠席した場合には補習が必要である。

成績評価の方法

前期と後期の試験の結果で評価する。

教科書

沢田賢／渡辺展也／安原晃 共著『大学で学ぶ 線形代数』（サイエンス社）
1050円（税込）ISBN4-7819-1092-0

参考書等

適宜紹介する。

その他

講義が理解出来なかった場合は、遠慮なく質問して欲しい。全ての受講生が理解して進められるよう努力する。

科目名	数学【3〔現代数学入門〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	ふくだ けんいち 福田 賢一				

講義のねらい

現代数学の基礎概念を、諸科学への応用例を通して学ぶ。特に社会・経済現象に応用例を求め、具体的かつ基礎的な事例から無理のない数理的抽象化を計り、実践的な応用力の養成を目指す。
本年度は情報環境への理解を深めるため、基礎情報理論・情報数理論分野を充実させる。時間に余裕があれば、経済工学・金融工学の数理的基礎にも触れる。

講義の内容・授業スケジュール

前期： 論理の基礎と言語、情報理論の数理と論理、論理設計・論理回路、情報機器の理解、コンピュータ・携帯電話、通信機器の理解と数理、線型代数とその応用。
後期： 線型計画法、確率現象と社会現象、保険の数理、微積分とその応用、交通・運輸の数理、経済・経営の数理基礎。

履修上の留意点

予備知識は特に必要としない。高校数学の基礎的な知識があれば十分理解できる。しかし、系統性の強い学術分野であるから、基本的な定義、性質を明確にするとともに、基本的な事項の確実な理解・運用能力が必要とされる。また、社会・経済現象に対し興味を持ち、基礎的な認識を深める必要もある。

成績評価の方法

前後期試験結果を中心に、レポート、出欠状況を加味し、総合的に判断する。

教科書

使用しない。教材、資料等は数時限に一回の割合で配布する。また、内外の関連する公的な機関等のサイト等も紹介する。

参考書等

必要となり次第指示する。配布する教材、資料等に明示する。

その他

教材、資料等は数時限に一回の割合で配布する。再配布ができない事もあるので注意。講義に対する要望、質問等は積極的に行うこと。疑問点、理解不十分なところを放置しないように努める事。

可能な限り演習を行い理解の徹底を図る。

科目名	心理学【1〔ヒューマン・ウォッチング〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	<small>たかはし よしひろ</small> 高橋 良博				

講義のねらい

基礎的な心理学の概論を学ぶ人を対象にして、日常的な問題に即しながら、その研究方法についての知識を深め、人間の心理学的理解に興味を持ってもらうことを目的に、講義を進めてゆく予定。

特に本講義では、心理学の概論的な講義の中に、人間の行動生物学的研究や、環境心理学的研究などのトピックスを織り込み、そのような視点を持った研究に焦点を合わせながら、講義をすすめる。

また、講義の中に、適宜、供覧実験や人格テストなども織り込み、心理学研究の雰囲気も伝えてゆきたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義の予定としては、前期では、心理学の立場で人間をどう考え、どの様に捉えようとしているかを、中心に進める予定。後期は、前期の基礎的知識をふまえて、心理学の人間行動に関わる各研究領域に焦点をあててゆく。

履修上の留意点

履修者は、講義中は私語をつつしみ静粛に講義を受講すること。

成績評価の方法

筆記試験・レポートなどの提出物、その他、平常点（講義への出席状況や、参加度）など総合して評価を行う。

教科書

鈴木清編『人間理解の科学〔第2版〕—心理学への招待』（ナカニシヤ出版）2,000円税別

参考書等

講義の中で指示する。

科目名	心理学【2〔ヒューマン・ウォッチング〕】	開講	通年	単位	4
担当	GM選				
担当者名	加藤 ^{かとう} 博己 ^{ひろみ}				

講義のねらい

この講義では、人間観察に重点を置きつつ、哲学から独立し、約130年の歴史を有する心理学の基礎分野、並びに、心理学論（語源、定義、分野、研究法、歴史）を概観し、心理学の基礎知識を習得することを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

前期：オリエンテーション（講義の目標、形式、内容、評価方法、注意事項の確認等）、
【記憶】 1.記憶の過程、2.記憶の分類、3.記憶の仕方、4.記憶の変容、5.忘却の仕方と理由
【学習・思考】 1.レスポナント条件づけ、2.オペラント条件づけ、3.その他の学習理論（試行錯誤学習、洞察学習、模倣学習、観察学習）4.初期学習、5.問題解決
【パーソナリティ】 1.パーソナリティの分類（類型論・特性論・力動論）、2.パーソナリティの測定、3.パーソナリティテスト、4.知能
【動機づけ】 1.動機づけの分類、2.欲求不満、3.防衛機制、4.葛藤、5.コンプレックス
【情動】 1.感情の生起、2.感情の測定

後期：【**発達**】 1.発達段階、2.発達要因、3.愛着、4.知覚の発達、5.発達の研究法
【感覚・知覚・認知】 1.感覚（感覚のモダリティ、閾値）2.知覚（図と地、群化、恒常性）、3.認知（アフォーダンス、心的回転）、対人認知（ハロー効果、ピグマリオン効果）
【社会】 1.他者や社会が個人の態度に及ぼす影響（印象形成、同調実験、態度変容、バランス理論、援助の傍観者効果、認知的不協和理論）、2.相互作用（リーダーシップ論）
【臨床】 1.査定、2.心理療法
【心理学論】 1.心理学の語源、2.定義、3.心理学の分野、4.心理学の研究法、5.歴史。

履修上の留意点

履修希望者は、初回授業のオリエンテーションに必ず出席し、講義の目標、形式、内容、評価方法等をよく理解した上で受講すること。

成績評価の方法

前期授業の最終日（7月）に前期試験を、定期試験期間内に、定期試験を行う。詳細は、初回のオリエンテーションで述べる。

教科書

鹿取廣人・杉本敏夫 2004年 『心理学 第2版』 東京大学出版会 2,520円（本体2,400円＋税）ISBN4-13-012041-7

参考書等

教科書や配付資料の引用文献を参照のこと。その他、必要に応じて紹介する。

その他

主に板書を用い、必要に応じて教科書、資料、書画カメラ、ビデオなどを用いるとともに、数回の簡単な心理検査や実験を実施する予定である。本授業は講義形式であるが、一方通行の講義とならないよう、前回の授業内容の理解度を確認するためのワークや、授業内容についての積極的なコメントが毎回求められる。

科目名	心理学【3〔ヒューマン・ウォッチング〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	かとう ひろき 加藤 博己				

自然分野

講義のねらい

この講義では、人間観察に重点を置きつつ、哲学から独立し、約130年の歴史を有する心理学の基礎分野、並びに、心理学論（語源、定義、分野、研究法、歴史）を概観し、心理学の基礎知識を習得することを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

前期：オリエンテーション（講義の目標、形式、内容、評価方法、注意事項の確認等）、
【記憶】 1.記憶の過程、2.記憶の分類、3.記憶の仕方、4.記憶の変容、5.忘却の仕方と理由
【学習・思考】 1.レスポナント条件づけ、2.オペラント条件づけ、3.その他の学習理論（試行錯誤学習、洞察学習、模倣学習、観察学習）4.初期学習、5.問題解決
【パーソナリティ】 1.パーソナリティの分類（類型論・特性論・力動論）、2.パーソナリティの測定、3.パーソナリティテスト、4、知能
【動機づけ】 1.動機づけの分類、2.欲求不満、3.防衛機制、4.葛藤、5.コンプレックス
【情動】 1.感情の生起、2.感情の測定

後期：**【発達】** 1.発達段階、2.発達要因、3.愛着、4.知覚の発達、5.発達の研究法
【感覚・知覚・認知】 1.感覚（感覚のモダリティ、閾値）2.知覚（図と地、群化、恒常性）、3.認知（アフォーダンス、心的回転）、対人認知（ハロー効果、ピグマリオン効果）
【社会】 1.他者や社会が個人の態度に及ぼす影響（印象形成、同調実験、態度変容、バランス理論、援助の傍観者効果、認知的不協和理論）、2.相互作用（リーダーシップ論）
【臨床】 1.査定、2.心理療法
【心理学論】 1.心理学の語源、2.定義、3.心理学の分野、4.心理学の研究法、5.歴史。

履修上の留意点

履修希望者は、初回授業のオリエンテーションに必ず出席し、講義の目標、形式、内容、評価方法等をよく理解した上で受講すること。

成績評価の方法

前期授業の最終日（7月）に前期試験を、定期試験期間内に、定期試験を行う。詳細は、初回のオリエンテーションで述べる。

教科書

鹿取廣人・杉本敏夫 2004年 『心理学 第2版』 東京大学出版会 2,520円（本体2,400円+税）ISBN4-13-012041-7

参考書等

教科書や配付資料の引用文献を参照のこと。その他、必要に応じて紹介する。

その他

主に板書を用い、必要に応じて教科書、資料、書画カメラ、ビデオなどを用いるとともに、数回の簡単な心理検査や実験を実施する予定である。本授業は講義形式であるが、一方通行の講義とならないよう、前回の授業内容の理解度を確認するためのワークや、授業内容についての積極的なコメントが毎回求められる。

科目名	心理学【4〔ヒューマン・ウォッチング〕】	開講	通年	単位	4
担当	GM選				
担当者名	仲渡 ^{なかと} 江美 ^{えみ}				

講義のねらい

「人とは、何か」についての答えを探るのが、心理学という学問である。日常、私たちは、特に意識せず「見る」、「聴く」、「思い出す」、「考える」といった様々な行動を行なっているが、その背景には複雑な仕組みがある。例えば、「横顔や後ろ姿からでも親友をすぐに見つけることができるのは、なぜ。」、「自分の名前を呼ばれるとすぐに気づくのは、なぜ。」、「語呂合わせをして覚えた電話番号をいつまでも覚えているのは、なぜ。」など、人がどのような行動を行なうのか、なぜそのような行動を取るのかについての仕組みを心理学の様々な領域から捉え、日常生活での私たちの見方、考え方に新しい視点を与えて、自己や他者を理解していくことが本講義の目的である。

講義の内容・授業スケジュール

日常生活の中で、人が起こす行動とその仕組みについて、知覚、学習、記憶、人格、発達、臨床といった心理学の各領域から学んでいく。具体的なスケジュールについては、第1回目の講義で提示する予定である。

履修上の留意点

「理解する」ためには、講義の内容を自分の視点で改めて捉え直す必要がある。そのために、授業中、講義の内容に関して自分なりの意見や感想などを書いてもらう予定である。

成績評価の方法

講義の出席状況と年度末の筆記試験の結果から、総合的に評価する。

教科書

特に指定しない。

参考書等

講義時にいくつか紹介する。

科目名	心理学【5〔人間関係を考える〕】	開講	通年	単位	4
担当	GM選				
担当者名	高橋 ^{たかはし} 良博 ^{よしひろ}				

講義のねらい

心理学の基礎を学ぶ人を対象にして、その研究方法についての知識を深め、人間の心理学的理解に興味を持ってもらうことを目的に、講義を進めてゆく予定。

特に本講義では、心理学の概論的な講義の中に、人間関係にかかわるトピックスを織り込み、そのような視点を持った研究に焦点を合わせながら、講義をすすめる。

また、講義の中に、適宜、供覧実験や人格テストなどもとり上げ、心理学研究の雰囲気も伝えてゆきたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義の予定としては、前期では、心理学の立場で人間をどう考え、どの様に捉えようとしているかを、中心に進める予定。後期は、前期の基礎的知識をふまえて、心理学立場からの人間関係に関わる各研究領域に焦点をあててゆく。

履修上の留意点

履修者は、講義中は私語をつつしみ静粛を保って受講すること。

成績評価の方法

筆記試験・レポートなどの提出物、その他、平常点（講義への出席状況や、参加度）など総合して評価を行う。

教科書

鈴木清編『人間理解の科学〔第2版〕—心理学への招待』（ナカニシヤ出版）2,000円税別

参考書等

講義中に指示する。

科目名	心理学【6〔人間関係を考える〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	すずき じゆんいち 鈴木 順一				

講義のねらい

講義形式だけの授業形態は、学習者を受け身のバケツの学び方にしてしまう。学問とは、問い学ぶと書くように、講師が一方的に降り注ぐ知識を、頭に詰め込むことに強いて勉める（勉強する）ことではない。科学は、不思議な現象に対して、疑問を持ち、仮説を立て、仮説の基にサーチライトをあて、検証（反証）し、新たな仮説構成や発見をしていくプロセスである。

学習というと、教科書に書かれた知識を理解していくことだと考えられがちだが、行動主義的学習理論によると、「学習とは、経験を通じて行動変容していくプロセスである」と定義している。言語という道具を操る能力を獲得した人間は、概念学習ができるようになり、遺伝子の他に「遺言子」とでも呼べる知識を残し、それを世代間で、伝達・組み換え・改良していくことで文明を築き、他の生物とは異なる進化の道を歩み出すようになった。

しかし、経験から学ぶプロセスから遊離してしまった知識だけの学習は、生きるための知恵として効果的に機能できない。頭だけが参加する聴講学習は、体験学習に伴う自発性や能動性、発見しようとするモチベーションが得られない。この授業では、講義だけではなく、グループによる体験学習を取り入れて、学生相互と自己内のコミュニケーションを深め、自己理解と他者理解を促進します。心理学の人間理解の仮説の基に、自分自身や他者を見つめなおし、よりよい人間関係を築くために役立つ道具（理論と技法）を体験的に学んでいきます。

講義の内容・授業スケジュール

番号は進行順であり、それぞれ1回から3回程度時間が配当されます。学習計画は、進行状況により変更することがあります。

【前期】 [1]学習とは？ 授業方針 [2]エンカウンター（出会いと人間関係づくり） [3]グループ形成と集団規範 [4]コミュニケーションの促進 [5]心とは何か [6]性格検査による自己理解 [7]パーソナリティ理論 [8]無意識の心の働き（精神分析的な人格理論） [9]環境を知る働き（感覚・知覚・認知）

【後期】 [10]カウンセリングの理論と技法 [11]心理療法による自己理解と他者理解 [12] 自己肯定の人間関係 [13]学習理論と行動療法 [14]relaxationによる心身の健康回復

履修上の留意点

最初の数回の授業で、6人のグループを編成しますので必ず出席してください。授業は、グループごとに決められた場所に着席していただき、毎回グループごとに自筆で出席をとり本人を確認します。

単独・聴講学習ではなく、グループによる協学習習・相互学習・体験学習・発見学習ですので、集団規範を守ることと、全回出席することが求められます。ルールを守れない人と欠席しがちな人は、履修しないでください。

成績評価の方法

出席状況と平常の小試験、小レポート、個人発表とグループ発表などで、個人とグループを、それぞれ50点満点で評価し合計します。平常点で評価しますので、学年末定期試験及び追・再試験はありません。

教科書

使用しません。授業内で紹介する参考図書や下記参考書の指摘する部分などを読み概念学習を進めていただきます。

参考書等

蓮見将敏・小山望編著『人間関係の心理学―体験をとおして学ぶ心理学―』（福村出版）

その他

すべての「心理学」の授業で、心理学科卒業年次生の卒業論文のための調査に協力していただく時間があります。

科目名	心理学【7〔人間関係を考える〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	加藤 博己				

講義のねらい

この講義では、人間関係に重点を置きつつ、哲学から独立し、約130年の歴史を有する心理学の基礎分野、並びに、心理学論（語源、定義、分野、研究法、歴史）を概観し、心理学の基礎知識を習得することを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

前期：オリエンテーション（講義の目標、形式、内容、評価方法、注意事項の確認等）、
【記憶】 1.記憶の過程、2.記憶の分類、3.記憶の仕方、4.記憶の変容、5.忘却の仕方と理由
【学習・思考】 1.レスポナント条件づけ、2.オペラント条件づけ、3.その他の学習理論（試行錯誤学習、洞察学習、模倣学習、観察学習）4.初期学習、5.問題解決
【パーソナリティ】 1.パーソナリティの分類（類型論・特性論・力動論）、2.パーソナリティの測定、3.パーソナリティテスト、4.知能
【動機づけ】 1.動機づけの分類、2.欲求不満、3.防衛機制、4.葛藤、5.コンプレックス
【情動】 1.感情の生起、2.感情の測定

後期：**【発達】** 1.発達段階、2.発達要因、3.愛着、4.知覚の発達、5.発達の研究法
【感覚・知覚・認知】 1.感覚（感覚のモダリティ、閾値）2.知覚（図と地、群化、恒常性）、3.認知（アフォーダンス、心的回転）、対人認知（ハロー効果、ピグマリオン効果）
【社会】 1.他者や社会が個人の態度に及ぼす影響（印象形成、同調実験、態度変容、バランス理論、援助の傍観者効果、認知的不協和理論）、2.相互作用（リーダーシップ論）
【臨床】 1.査定、2.心理療法
【心理学論】 1.心理学の語源、2.定義、3.心理学の分野、4.心理学の研究法、5.歴史。

履修上の留意点

履修希望者は、初回授業のオリエンテーションに必ず出席し、講義の目標、形式、内容、評価方法等をよく理解した上で受講すること。

成績評価の方法

前期授業の最終日（7月）に前期試験を、定期試験期間内に、定期試験を行う。詳細は、初回のオリエンテーションで述べる。

教科書

鹿取廣人・杉本敏夫 2004年 『心理学 第2版』 東京大学出版会 2,520円（本体2,400円＋税）ISBN4-13-012041-7

参考書等

教科書や配付資料の引用文献を参照のこと。その他、必要に応じて紹介する。

その他

主に板書を用い、必要に応じて教科書、資料、書画カメラ、ビデオなどを用いるとともに、数回の簡単な心理検査や実験を実施する予定である。本授業は講義形式であるが、一方通行の講義とならないよう、前回の授業内容の理解度を確認するためのワークや、授業内容についての積極的なコメントが毎回求められる。

科目名	心理学【8〔人間関係を考える〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	鈴木 <small>すずき</small> 順一 <small>じゆんいち</small>				

講義のねらい

講義形式だけの授業形態は、学習者を受け身のバケツ的学び方にしてしまう。学問とは、問い学ぶと書くように、講師が一方的に降り注ぐ知識を、頭に詰め込むことに強いて勉める（勉強する）ことではない。科学は、不思議な現象に対して、疑問を持ち、仮説を立て、仮説の基にサーチライトをあて、検証（反証）し、新たな仮説構成や発見をしていくプロセスである。

学習というと、教科書に書かれた知識を理解していくことだと考えられがちだが、行動主義的学習理論によると、「学習とは、経験を通じて行動変容していくプロセスである」と定義している。言語という道具を操る能力を獲得した人間は、概念学習ができるようになり、遺伝子の他に「遺言子」とでも呼べる知識を残し、それを世代間で、伝達・組み換え・改良していくことで文明を築き、他の生物とは異なる進化の道を歩み出すようになった。

しかし、経験から学ぶプロセスから遊離してしまった知識だけの学習は、生きるための知恵として効果的に機能できない。頭だけが参加する聴講学習は、体験学習に伴う自発性や能動性、発見しようとするモチベーションが得られない。この授業では、講義だけではなく、グループによる体験学習を取り入れて、学生相互と自己内のコミュニケーションを深め、自己理解と他者理解を促進します。心理学の人間理解の仮説の基に、自分自身や他者を見つめなおし、よりよい人間関係を築くために役立つ道具（理論と技法）を体験的に学んでいきます。

講義の内容・授業スケジュール

番号は進行順であり、それぞれ1回から3回程度時間が配当されます。学習計画は、進行状況により変更することがあります。

【前期】 [1]学習とは？ 授業方針 [2]エンカウンター（出会いと人間関係づくり） [3]グループ形成と集団規範 [4]コミュニケーションの促進 [5]心とは何か [6]性格検査による自己理解 [7]パーソナリティ理論 [8]無意識の心の働き（精神分析的な人格理論） [9]環境を知る働き（感覚・知覚・認知）

【後期】 [10]カウンセリングの理論と技法 [11]心理療法による自己理解と他者理解 [12] 自己肯定の人間関係 [13]学習理論と行動療法 [14]relaxationによる心身の健康回復

履修上の留意点

最初の数回の授業で、6人のグループを編成しますので必ず出席してください。授業は、グループごとに決められた場所に着席していただき、毎回グループごとに自筆で出席をとり本人を確認します。

単独・聴講学習ではなく、グループによる協学習習・相互学習・体験学習・発見学習ですので、集団規範を守ることと、全回出席することが求められます。ルールを守れない人と欠席しがちな人は、履修しないでください。

成績評価の方法

出席状況と平常の小試験、小レポート、個人発表とグループ発表などで、個人とグループを、それぞれ50点満点で評価し合計します。平常点で評価しますので、学年末定期試験及び追・再試験はありません。

教科書

使用しません。授業内で紹介する参考図書や下記参考書の指摘する部分などを読み概念学習を進めていただきます。

参考書等

蓮見将敏・小山望編著『人間関係の心理学―体験をとおして学ぶ心理学―』（福村出版）

その他

すべての「心理学」の授業で、心理学科卒業年次生の卒業論文のための調査に協力していただく時間があります。

科目名	心理学【9〔心を科学する〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	たかはし よしひろ 高橋 良博				

講義のねらい

心理学の基礎を学ぶ人を対象にして、その研究方法についての知識を深め、人間の心理学的理解に興味を持ってもらうことを目的に、講義を進めてゆく予定。

特に本講義では、心理学の概論的な講義の中に、人間関係にかかわるトピックスを織り込み、そのような視点を持った研究に焦点を合わせながら、講義をすすめる。

また、講義の中に、適宜、供覧実験や人格テストなどもとり上げ、心理学研究の雰囲気も伝えてゆきたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義の予定としては、前期では、心理学の立場で人間をどう考え、どの様に捉えようとしているかを、中心に進める予定。後期は、前期の基礎的知識をふまえて、心理学立場からの人間関係に関わる各研究領域に焦点をあててゆく。

履修上の留意点

履修者は、受講中は私語をつつしみ静粛を保つこと。

成績評価の方法

筆記試験・レポートなどの提出物、その他、平常点（講義への出席状況や、参加度）など総合して評価を行う。

教科書

鈴木清編『人間理解の科学〔第2版〕—心理学への招待』（ナカニシヤ出版）2,000円税別

参考書等

講義中に指示する。

科目名	心理学【10〔心を科学する〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	なとり しほ 名取 志保				

講義のねらい

人間を理解するための1つの視点として心理学を学ぶことを本講義のねらいとする。ここでいう人間理解とは一個人の性格や人格の理解だけでなく、人間が一般的にもつ特性を知ることを含む。例えば、物事の捉え方や判断の仕方など、様々な場面で何気なくおこなっている活動全般について理解するということである。

講義の内容・授業スケジュール

心理学の基礎分野（心理学の概略、行動の基本様式、欲求、動機、学習、記憶、注意、知識、感情などの他、生理学や脳科学など関連分野を含む）について講義をおこなう予定である。

履修上の留意点

この講義に限らず何かを学ぶということの根底には、普段の生活の中での「当たり前」のこととして捉えているようなことに対して、素朴な疑問とでもいうべき問題意識を抱くことが大切であると考えている。このような問題意識をもって授業に臨むことを希望する。

成績評価の方法

試験の結果（前期の講義内と定期試験の計2回）と出席点による。

教科書

第1回目の講義で紹介する。

参考書等

講義の中で紹介する。

科目名	心理学【11〔心を科学する〕】	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	なかもろ しげる 中丸 茂				

自然分野

講義のねらい

心理学は、人間の心（行動・言語を含む）を客観的に研究する学問である。心理学は、心の科学、および、心の工学と定義され、心の理解・説明・予測・制御を目的とする。本講義では、科学的観点より、日常場面での人間の行動を分析し、得られたデータの解釈の仕方といった科学的方法を身につけることを目的として行われる。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、科学論を中心に、心理学における中心的なパラダイムを紹介し、後期は、それらの日常生活への応用についての話を行う。また、講義は、下記のスケジュールにしたがって進めていく予定である。授業は、ビデオなどを使用し、簡単な実験を体験してもらいながら行っていく。

1. オリエンテーション 心理学って何？
2. 血液型と性格 本当に関係あるの？
3. 科学としての心理学 科学って何？
4. 行動分析学I ラムちゃんの電撃
5. 行動分析学II パナナとリンゴ
6. 行動分析学III 月に向かって吠える
7. 認知心理学I マジカルナンバー
8. 認知心理学II カクテルパーティー
9. 認知心理学III 悩めるオマタかおる
10. 心霊現象の心理学 幽霊は乗り物がお好き？
11. 社会心理学I 他人を好きになる時
12. 社会心理学II 恋、愛、そして、意志決定 その他（リクエスト可）
13. 無意識の心理学 UFOは存在するか？
14. 人格心理学 社交的な人は朝に弱い
15. 占いの心理学 ラッキーカラーは、赤!!
16. 呪いの心理学 呪殺は可能か？
17. 所信の心理学I 知識は人類を駄目にする!!
18. 所信の心理学II マインド・コントロール
19. 宗教の心理学 神社の石段
20. スポーツ心理学 イメージトレーニング
21. プロファイリングモラル・ハラスメント
22. テクノ・コミュニケーション 顔文字は使ったほうがいいか

履修上の留意点

講義は、プリント中心に行い、毎回、参考文献や図書の紹介を行う。したがって、一冊の本を読めば本講義の内容を把握できるというのではなく、毎回の知識の積み重ねが必要である。（教科書 理解度UP++）

成績評価の方法

筆記試験の絶対評価として処理される。また、心理学の実験や調査に参加することも、心理学を学ぶために重要であり、得点として加算される。

教科書

中丸茂『心理学者のための科学入門』1999年（北大路書房）
中丸茂『トワイライト・サイコロジー』2000年（北大路書房）
講義オリジナル資料 毎回配布（2～3枚） 年間 40～50枚

参考書等

講義用の配布資料で紹介。

科目名	心理学【12〔心を科学する〕】	開講	夏季集中	単位	4
配当	GM選				
担当者名	<small>ふかぼり</small> 深堀 <small>ともなり</small> 友党				

講義のねらい

身体的な異質性も然ることながら、人間には固有の性格、価値観、知能、行動パターンといった精神的（心理的）な異質性が認められる。それらを包括し、人間は個性を獲得する。しかし、人間とは決して一人では生きていけない。これはこの世に生を授かり生を全うするまで続くのである。人生とは、いわば異なる個性との共存である。個性が異なれば、そこから衝突や誤解が生じ、人間関係に支障を及ぼすこともしばしばである。

本講義では個と、個の集合体である「社会」を心理学的側面から理解していくことを目的とする。本講義を通じ、少しでも心理学の世界に興味を持って頂ければ幸いである。

講義の内容・
授業スケジュール

パーソナリティ、学習心理学、集団・社会心理学、臨床心理学、生涯発達心理学等を講義する予定である。

履修上の留意点

短期間で集中的に行われる講義なので、主体的に講義に参加できる姿勢が望まれる。受動的にしか参加できない学生には、本講義の性質は不向きであろう。

成績評価の方法

講義最終日に行われる筆記試験と、出席率による総合評価。

教科書

特に指定しない。

参考書等

重野純『キーワードコレクション 心理学』（新曜社）1994年
中村昭二『心理学概説』（八千代出版）1982年

その他

授業日程：7月31日～8月3日、6日、7日、1～5時限（土、日除く）

科目名	心理学【〔ヒューマン・ウォッチング〕】 －フレックスB開講－	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	鈴木 <small>ナツキ</small> 順一 <small>じゆんいち</small>				

講義のねらい

講義形式だけの授業形態は、学習者を受け身のバケツの学び方にしてしまう。学問とは、問い学ぶと書くように、講師が一方的に降り注ぐ知識を、頭に詰め込むことに強いて勉める（勉強する）ことではない。科学は、不思議な現象に対して、疑問を持ち、仮説を立て、仮説の基にサーチライトをあて、検証（反証）し、新たな仮説構成や発見をしていくプロセスである。

学習というと、教科書に書かれた知識を理解していくことだと考えられがちだが、行動主義的学習理論によると、「学習とは、経験を通じて行動変容していくプロセスである」と定義している。言語という道具を操る能力を獲得した人間は、概念学習ができるようになり、遺伝子の他に「遺言子」とでも呼べる知識を残し、それを世代間で、伝達・組み換え・改良していくことで文明を築き、他の生物とは異なる進化の道を歩み出すようになった。

しかし、経験から学ぶプロセスから遊離してしまった知識だけの学習は、生きるための知恵として効果的に機能できない。頭だけが参加する聴講学習は、体験学習に伴う自発性や能動性、発見しようとするモチベーションが得られない。この授業では、講義だけではなく、グループによる体験学習を取り入れて、学生相互と自己内のコミュニケーションを深め、自己理解と他者理解を促進します。心理学の人間理解の仮説の基に、自分自身や他者を見つめなおし、よりよい人間関係を築くために役立つ道具（理論と技法）を体験的に学んでいきます。

講義の内容・
授業スケジュール

番号は進行順であり、それぞれ1回から3回程度時間が配当されます。学習計画は、進行状況により変更することがあります。

【前期】 [1]学習とは？ 授業方針 [2]エンカウンター（出会いと人間関係づくり） [3]グループ形成と集団規範 [4]コミュニケーションの促進 [5]心とは何か [6]性格検査による自己理解 [7]パーソナリティ理論 [8]無意識の心の働き（精神分析的な人格理論） [9]環境を知る働き（感覚・知覚・認知）

【後期】 [10]カウンセリングの理論と技法 [11]心理療法による自己理解と他者理解 [12] 自己肯定の人間関係 [13]学習理論と行動療法 [14]relaxationによる心身の健康回復

履修上の留意点

最初の数回の授業で、6人のグループを編成しますので必ず出席してください。授業は、グループごとに決められた場所に着席していただき、毎回グループごとに自筆で出席をとり本人を確認します。

単独・聴講学習ではなく、グループによる協学習習・相互学習・体験学習・発見学習でするので、集団規範を守ることと、全回出席することが求められます。ルールを守れない人と欠席しがちな人は、履修しないでください。

成績評価の方法

出席状況と平常の小試験、小レポート、個人発表とグループ発表などで、個人とグループを、それぞれ50点満点で評価し合計します。平常点で評価しますので、学年末定期試験及び追・再試験はありません。

教科書

使用しません。授業内で紹介する参考図書や下記参考書の指摘する部分などを読み概念学習を進めていただきます。

参考書等

中村昭之編著『心理学概説』（八千代出版）

その他

すべての「心理学」の授業で、心理学科卒業年次生の卒業論文のための調査に協力していただく時間があります。

科目名	心理学【2〔人間関係を考える〕】 －フレックスB開講－	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	鈴木 ^{すずき} 順一 ^{じゆんいち}				

講義のねらい

講義形式だけの授業形態は、学習者を受け身のバケツ的学び方にしてしまう。学問とは、問い学ぶと書くように、講師が一方的に降り注ぐ知識を、頭に詰め込むことに強いて勉める（勉強することではない。科学は、不思議な現象に対して、疑問を持ち、仮説を立て、仮説の基にサーチライトをあて、検証（反証）し、新たな仮説構成や発見をしていくプロセスである。

学習というと、教科書に書かれた知識を理解していくことだと考えられがちだが、行動主義的学習理論によると、「学習とは、経験を通じて行動変容していくプロセスである」と定義している。言語という道具を操る能力を獲得した人間は、概念学習ができるようになり、遺伝子の他に「遺言子」とでも呼べる知識を残し、それを世代間で、伝達・組み換え・改良していくことで文明を築き、他の生物とは異なる進化の道を歩み出すようになった。

しかし、経験から学ぶプロセスから遊離してしまった知識だけの学習は、生きるための知恵として効果的に機能できない。頭だけが参加する聴講学習は、体験学習に伴う自発性や能動性、発見しようとするモチベーションが得られない。この授業では、講義だけではなく、グループによる体験学習を取り入れて、学生相互と自己内のコミュニケーションを深め、自己理解と他者理解を促進します。心理学の人間理解の仮説の基に、自分自身や他者を見つめなおし、よりよい人間関係を築くために役立つ道具（理論と技法）を体験的に学んでいきます。

講義の内容・授業スケジュール

番号は進行順であり、それぞれ1回から3回程度時間が配当されます。学習計画は、進行状況により変更することがあります。

【前期】 [1]学習とは？ 授業方針 [2]エンカウンター（出会いと人間関係づくり） [3]グループ形成と集団規範 [4]コミュニケーションの促進 [5]心とは何か [6]性格検査による自己理解 [7]パーソナリティ理論 [8]無意識の心の働き（精神分析的人格理論） [9]環境を知る働き（感覚・知覚・認知）

【後期】 [10]カウンセリングの理論と技法 [11]心理療法による自己理解と他者理解 [12] 自他肯定の人間関係 [13]学習理論と行動療法 [14]relaxationによる心身の健康回復

履修上の留意点

最初の数回の授業で、6人のグループを編成しますので必ず出席してください。授業は、グループごとに決められた場所に着席していただき、毎回グループごとに自筆で出席をとり本人を確認します。

単独・聴講学習ではなく、グループによる協力学習・相互学習・体験学習・発見学習ですので、集団規範を守ることと、全回出席することが求められます。ルールを守れない人と欠席しがちな人は、履修しないでください。

成績評価の方法

出席状況と平常の小試験、小レポート、個人発表とグループ発表などで、個人とグループを、それぞれ50点満点で評価し合計します。平常点で評価しますので、学年末定期試験及び追・再試験はありません。

教科書

使用しません。授業内で紹介する参考図書や下記参考書の指摘する部分などを読み概念学習を進めていただきます。

参考書等

蓮見将敏・小山望編著『人間関係の心理学―体験をとおして学ぶ心理学―』（福村出版）

その他

すべての「心理学」の授業で、心理学科卒業年次生の卒業論文のための調査に協力していただく時間があります。

3. 外 国 語 科 目

3. 外国語科目

《選択科目》

科目名	曜日・時限	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
英文講読	水1	GM選	通年	4	林 明人	157
英文講読	水2	GM選	通年	4	矢島 直子	157
英文講読	水1	GM選	通年	4	牧野 輝良	158
時事英語研究	月4	GM選	通年	4	高野 秀夫	158
時事英語研究	火2	GM選	通年	4	林 明人	159
時事英語研究	火2	GM選	通年	4	岸本 茂和	159
時事英語研究	月4	GM選	通年	4	落合 和昭	160
時事英語研究	月4	GM選	通年	4	矢島 直子	160
マルチ・メディア	火5	GM選	通年	2	落合 和昭	161
マルチ・メディア	木4	GM選	通年	2	大庭 直樹	162
マルチ・メディア	火1	GM選	通年	2	西村 祐子	163
マルチ・メディア	水3	GM選	通年	2	大庭 直樹	164
英会話I	月1	GM選	通年	2	ロビン、 G. F.	164
英会話I	月2	GM選	通年	2	ロビン、 G. F.	165
英会話I	火1	GM選	通年	2	ウェルズ、 J. K.	166
英会話I	火3	GM選	通年	2	ウェルズ、 J. K.	167
英会話I	水2	GM選	通年	2	ソルタ、 P. N. F.	168
英会話I	水3	GM選	通年	2	ソルタ、 P. N. F.	169
英会話I	木2	GM選	通年	2	レーン、 C. M.	170
英会話I	木3	GM選	通年	2	レーン、 C. M.	171
英会話I	金3	GM選	通年	2	ピアス、 D. M.	172
英会話I	金4	GM選	通年	2	ピアス、 D. M.	173
英会話I	土1	GM選	通年	2	レイン、 R. V.	174
英会話I	土2	GM選	通年	2	ラッセル、 S. J.	175
英会話II	水1	全学科（フレB除く）234選	通年	2	ソルタ、 P. N. F.	176
英会話II	土1	全学科（フレB除く）234選	通年	2	ラッセル、 S. J.	177

外国語

英会話II	土2	全学科(フレB除く)234選	通年	2	レイン、R. V.	178
英会話III	火2	GM234選	通年	2	ウェルズ、 J. K.	179
英会話III	木2	GM234選	通年	2	ピアス、D. M.	180
英語LLI	月2	GM選	通年	2	西村 祐子	181
英語LLI	火3	GM選	通年	2	塙 美智子	181
英語LLI	火4	GM選	通年	2	塙 美智子	182
英語LLI	水3	GM選	通年	2	西村 祐子	182
英語LLI	木3	GM選	通年	2	外池 一子	183
英語LLI	木4	GM選	通年	2	外池 一子	184
英語LLI	金2	GM選	通年	2	甲斐 捷子	185
英語LLI	土2	GM選	通年	2	久保 ひさ子	185
英語LLII	月3	全学科(フレB除く)234選	通年	2	西村 祐子	186
英語LLII	木2	全学科(フレB除く)234選	通年	2	高橋 明子	186
英語LLII	金3	全学科(フレB除く)234選	通年	2	甲斐 捷子	187
英語LLIII	火2	GM234選	通年	2	甲斐 捷子	187
英語LLIII	水2	GM234選	通年	2	西村 祐子	188
英語LLIII	土3	GM234選	通年	2	久保 ひさ子	188
ドイツ語外国書講読	火4	GM34選	通年	4	柴野 博子	189
時事ドイツ語	金3	GM34選	通年	4	堀内 美江	189
上級ドイツ語	水3	GM34選	通年	2	藪下 紘一	189
ドイツ語コミュニケーションI	木3	GM234選	通年	2	小林 ゲアリンデ	190
ドイツ語コミュニケーションII	木4	GM234選	通年	2	小林 ゲアリンデ	190
ドイツ語IA(選)	火2	全学科(フレB除く)選	通年	2	松岡 晋	191
ドイツ語IB(選)	金2	全学科(フレB除く)選	通年	2	井村 行子	191
ドイツ語II(選)	木5	GM234選	通年	2	井村 行子	192
フランス語外国書講読	木2	GM34選	通年	4	前田 祝一	192
時事フランス語	金3	GM34選	通年	4	桑田 禮彰	193
上級フランス語	火2	GM34選	通年	2	小玉 齊夫	193
フランス語コミュニケーションI	月2	GM234選	通年	2	リア・三倉、M.	194
フランス語コミュニケーションII	月3	GM234選	通年	2	リア・三倉、M.	194
フランス語IA(選)	火2	GM選	通年	2	出口 雅敏	194
フランス語IA(選)	木3	GM選	通年	2	前田 祝一	195
フランス語IB(選)	金2	GM選	通年	2	桑田 禮彰	195
フランス語II(選)	木5	GM234選	通年	2	桑田 禮彰	196
中国語外国書講読	火3	GM34選	通年	4	佐藤 普美子	196
時事中国語	木2	GM34選	通年	4	塩旗 伸一郎	197
上級中国語	金2	GM34選	通年	2	児島 弘一郎	197
中国語コミュニケーションI	月3	GM234選	通年	2	岩崎 皇	198
中国語コミュニケーションII	木3	GM234選	通年	2	曹 泰和	198
中国語IA(選)	火2	GM選	通年	2	吉田 建一郎	199
中国語IA(選)	木3	GM選	通年	2	宮本 厚子	199
中国語IB(選)	土2	GM選	通年	2	蘭 明	200
中国語II(選)	木5	GM234選	通年	2	三田村 圭子	200
スペイン語外国書講読	木2	GM34選	通年	4	齋藤 明美	201

時事スペイン語	金 3	GM34選	通年	4	齋藤 明美	201
上級スペイン語	火 2	GM34選	通年	2	上野 勝広	202
スペイン語コミュニケーションI	木 3	GM234選	通年	2	ナバロ、ホワンJ.	202
スペイン語コミュニケーションII	木 4	GM234選	通年	2	ナバロ、ホワンJ.	202
スペイン語IA (選)	火 2	GM選	通年	2	亀山 晃一	203
スペイン語IB (選)	金 2	GM選	通年	2	齋藤 明美	203
スペイン語II (選)	木 5	GM234選	通年	2	荻野 雅司	204
ロシア語外国書講読	金 5	GM34選	通年	4	廣田 英靖	204
時事ロシア語	金 3	GM34選	通年	4	木村 英明	205
上級ロシア語	火 2	GM34選	通年	2	クロチコフ、Y.	205
ロシア語コミュニケーションI	月 5	GM234選	通年	2	安德 ニーナ	206
ロシア語コミュニケーションII	月 4	GM234選	通年	2	安德 ニーナ	206
ロシア語IA (選)	火 5	GM選	通年	2	クロチコフ、Y.	207
ロシア語IB (選)	金 2	GM選	通年	2	木村 英明	207
ロシア語II (選)	木 1	GM234選	通年	2	クロチコフ、Y.	208
朝鮮語IA (選)	火 2	GM選	通年	2	宋 美玲	208
朝鮮語IB (選)	木 2	GM選	通年	2	宋 美玲	209
朝鮮語II (選)	火 3	GM234選	通年	2	宋 美玲	209

科目名	英文講読	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	林 ^{はやし} 明人				

講義の内容・ 授業スケジュール	現代アメリカ文学の短編をなるべくたくさん読みます。単に英語を読むことから鑑賞できるようにすれば幸いです。
履修上の留意点	遅刻（交通機関の遅延を除く）及び授業中の出入りは認めない。
成績評価の方法	①試験、②レポート、③出席、④発表で総合評価するが、出席は3分の2を越えていなければならない。出席以外のそれぞれの評価が一つでも4割に満たない場合は単位を認めない。
教科書	教員が作成したものを uses。

科目名	英文講読	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	矢島 ^{やじま} 直子 ^{なおこ}				

講義のねらい	現在イギリスで日常使われている英語を学びます。2006年2月にロンドンで上演された戯曲を読みます。残念ながら、芝居は見えていません。
講義の内容・ 授業スケジュール	本を読み、意味を取っていきます。その際、どういう事を伝えようとしているのか、想像力を働かせて読み取ること。現代チャキチャキの言葉で書かれていますから、見た目は易しくて、内容を理解するのは難しいです。できれば、1年間で最後まで読み終えたいです。
履修上の留意点	ほとんど毎回当てて、読んで意味を言ってもらいますから、必ず1回の授業の全範囲を予習してくる。辞書の文例まで読まない、意味が分からないことがあります。1回目の授業から必ず出席してください。
成績評価の方法	平常点と、前・後期末試験の結果を、総合的に判断して評価します。
教科書	Laura Wade, 「Other Hands」 Oberon Modern Plays, £ 8.99, ISBN 1-84002-650-2.

科目名	英文講読	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	まきの てるよし 牧野 輝良				

講義のねらい

英語の長文の内容理解に努める。

講義の内容・授業スケジュール

英文の構造をしっかりと学習し、毎時間3頁読み進めることを目安とする。

履修上の留意点

テキストの文章がかなり長いから、履修者は指名されたら内容の発表、和訳ができるようによく自習しておくこと。

成績評価の方法

授業中の発表、和訳、期末テストを総合的に評価するが、英語の理解力に力点をおく。

教科書

『西欧文明をどう理解するか』（南雲堂）1,600円＋税 ISBN4-523-03656-X

科目名	時事英語研究	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	たかの ひでお 高野 秀夫				

講義のねらい

今や、日常生活のなかに real time で入って来る世界のニュースを捉える学修は欠かせない。この時事英語の授業では、できるだけ新しい英語ニュースの教材で、時々刻々と変わる国内外の動向を異文化の視点で捉え、国際社会の理解に努め、英語力増強を目指す。

講義の内容・授業スケジュール

教科書では、時事英語 (Current English) の特徴“最初の部分で全文の内容が捉えられるように書かれている”を読み込んで生きた英語の理解に努める。

履修上の留意点

毎時間、英語での質疑応答があるので予習は欠かせないこと。英語で世界の動きを捉える習慣を身に付けること。

成績評価の方法

前、後期末テスト、平常点（出席点、レポート等）

教科書

- ・ TV News Watching 21 Approaches (北星堂)
- ・ An Introduction to Media English (北星堂)
- ・ プリント

科目名	時事英語研究	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	はやし あきと 林 明人				

講義のねらい

CNN, Herald Tribune 紙などから集めたニュース英語によく使用される語をキーとした短文をたくさん読むことにより、そのキーワードの意味、および使い方をおぼえることを目的とします。そのほかに実際に英字新聞を読みます。
尚、履修希望者が70名を越えた場合は、4月の第1回目の授業で抽選となります。

講義の内容・授業スケジュール

CNN, Herald Tribune 紙などから集めたニュース英語によく使用される語をキーとした短文をたくさん読むことにより、そのキーワードの意味、および使い方をおぼえることを目的とします。そのほかに実際に英字新聞を読んだりします。

履修上の留意点

遅刻（交通機関の遅延を除く）及び授業中の出入りは認めません。

成績評価の方法

①試験、②レポート、③出席で総合評価するが、出席は3分の2を越えていなければならない。出席以外のそれぞれの評価が一つでも4割に満たない場合は単位を認めない。

教科書

教員が作成したものを用います。

参考書等

『Sanseido's Dictionary of News English』（三省堂）

科目名	時事英語研究	開講	通年	単位	4
配当	GM選				
担当者名	きしもと しげかず 岸本 茂和				

講義のねらい

1980年以降のアメリカ社会でどんなことが起こってきたか。それを解く鍵のことばが、“racism”（人種差別主義）・“sexism”（性差別主義）・“political correctness”（政治的妥当性）・“multiculturalism”（多文化主義）などだ。すこしむつかしいかもしれないが、読みごたえのあるいい文章だ。できるだけ読みすすみたい。

講義の内容・授業スケジュール

この授業はいわゆる講義ではなくふつうの英語のクラスだ。
「時事英語研究」と銘うちながら新聞・雑誌をよまないのを不審におもうのもっともだが、時事関係の文書については随時プリントを配布する。

履修上の留意点

授業にはかならず英和辞書をもってくること。電子辞書も可。予習は必須。

成績評価の方法

試験は前期・後期の2回。欠席が授業日数の3分の1を越えたばあい「不可」とする。

教科書

『現代アメリカの<美德>』（朝日出版社）定価1,359円＋税

その他

受講者は40人を上限とする。

科目名	時事英語研究	開講	通年	単位	4
担当	GM選				
担当者名	おちあい かずあき 落合 和昭				

講義のねらい

新聞、雑誌、ニュース等の英語のヒヤリングと読解。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は、主として、二つの部分からなる。第一の部分では、ニュース英語のヒヤリングやディクテーションをする。第二の部分では、新聞、雑誌、ニュース等の英語を正確に読む練習をする。

履修上の留意点

授業は、徹底した演習形式をとるため、学生の予習を前提にして、進める。できるだけ多くの学生に、順不同に当て、積極的に参加してもらうために、受講学生を70人以下に制限する。受講希望者が70人を越えた場合は、最初の授業で、抽選を行う。そのため、最初の授業に出席しない学生はこのクラスを受講できない可能性がある。

成績評価の方法

前期試験は20%、後期試験20%、課題・授業中の発表・小テスト等は60%（課題は年間約10回前後の提出を予定。授業中の発表等に関しては、できるだけ多くの学生に当てるように気をつける）。出席率が平常授業（前期・後期試験は除く）の3分の2を越えなければ、成績は「不合格」とする。また、遅刻は2回で、欠席1回とし、30分以上の遅刻は欠席とする。

教科書

- 『統・英字新聞用語速習法』 マクミラン 1600円
ISBN4-89585-524-4
- 『読んで学んで英字新聞』 英宝社 1600円
ISBN978-4-269-190302 C1082
- プリント

科目名	時事英語研究	開講	通年	単位	4
担当	GM選				
担当者名	やじま なおこ 矢島 直子				

講義のねらい

アメリカ、イギリスの新聞を読めるようになってもらいたいです。

講義の内容・
授業スケジュール

英字紙の電子版を編集した教科書の中から記事を読んでもらい、意味を取っていきます。必要な場合は、文法・構文の説明をし、全体を把握してもらうようにします。進み具合は、学生次第です。

履修上の留意点

毎回どんどん当てて読んでいってもらいますから、辞書を引いてしっかり予習してきて下さい。必ず1回目の授業から出席すること。

成績評価の方法

平常点と、前・後期末試験の結果を、総合的に判断して評価します。

教科書

- 佐藤公雄『オンラインニュースで学ぶ世界情勢』成美堂、¥1,800円 ISBN 4-7919-1043-5。

科目名	マルチ・メディア	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	おちあい かずあき 落合 和昭				

講義のねらい

このクラスにタイトルを付けるとすると、「日常会話から映画の英語へ」とでもなるだろう。このクラスのレベルは英語の中級（二級、準一級）程度とする。自然な日常会話文や映画の台詞（せりふ）を通して、英語圏の日常生活で、頻繁に、使用される現代口語英語表現を学びながら、英語の運用能力を高めることを第一目標とする。また、各種の実用検定試験（英検、TOEIC、TOEFL、国連英語等）の受験準備にも役立つようにする。さらに、時間が許す限り、アメリカやカナダの作家、都市、国立公園等に関するビデオを鑑賞し、ヒヤリングの向上、文化や自然の多様性を学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

一回の講義は、主として、三段階からなる。第一段階として、日常会話文や映画を通して、英語の自然なスピードに慣れ、ヒヤリングを向上させる。第二段階は、その会話文や映画の中で、使用されている表現の意味や用法を、文字を通して、確認する。第三段階は、学生に登場人物になってもらって、会話文や台詞を再現しながら、会話練習をする。授業は徹底的した演習形式を取り、学生の予習を前提にして、進める。

履修上の留意点

このクラスの受講生はすでに口語英語を一年以上学んでいることが望ましい。初めて口語英語を学ぶ学生には、かなりつらい授業になるかもしれない。課題、小テスト、授業中の発表等で、かなりのことを要求するので、そのつもりで受講するように心がけてもらいたい。また、受講を希望する学生は、最初の授業の時に、必ず、担当者の許可を得なければならない。教場は46名しか入れないLL教場を使用するので、46名以上の履修希望者がいた場合は、最初の授業の時に、抽選をする。そのため、最初の授業に出席しない学生はこのクラスを受講できない可能性がある。

成績評価の方法

定期試験は全評価の40%（前期試験が20%、後期試験が20%）である。課題、小テスト、授業中の発表等は60%とする。課題は10回程度、一回の授業に、全員が最低一回は当てるように努める。出席率は平常授業（前期・後期試験は除く）3分の2を越えなければ、成績は「不合格」とする。また、遅刻2回で、欠席1回とし、30分以上の遅刻は欠席とする。出席率が3分の2を越えなければ、成績は「不合格」とする。

教科書

- 『映画総合台本 ノッティングヒルの恋人』 松柏社
- 『イデオム書き取り練習帳』 鶴見書店
- 『L.A.ビート、ビデオで見るロサンゼルス』 朝日出版社
1800円 ISBN4-255-15322-1 C1082

科目名	マルチ・メディア	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	大庭 <small>おおば</small> 直樹 <small>なおき</small>				

外国語

講義のねらい

このクラスは、マルチメディアを使って英語を学ぶクラスである。
 第一の課題は、インターネットを使って、世界の最新のニュースがどのように報道されているかを比較しながら読んでいく、ことである。インターネットという広大な情報空間から、必要な情報を探索し、その内容を理解するという訓練を積む。
 第二の課題は、研究、文献・資料整理等、カード型のデータベースの作り方を学び、またその有効的な使い方を身につける。具体的には、データベース・ソフト「ファイルメーカー」を使い、自分用の英語彙データベースをつくる。
 第三の課題として、Word と電子辞書を使いながら、英語による論文、公式文書、ビジネス文、手紙等の書き方を訓練する。
 第四の課題は、英語の映画を一本観ながら、英語の表現の意味内容を徹底的に研究していく。

履修上の留意点

受講生は、一年間の課題をこなせば、コンピュータを活用した知的な活動において、相当なレベルに達するはずである。従って、このクラスを受講するには、年間を通じて毎週クラスに出席することが条件である。

成績評価の方法

試験、定期試験なるものは行わない。受講生には、サーバーの自分のフォルダに、一年間に20程度のファイルを提出してもらう。インターネットで各自が検索する情報もすべて、サーバーの自分のフォルダに入れてもらう。成績は、各学生が一年間にフォルダにセーブされたファイルの成果をもって評価する。

その他

受講者は、教室以外、各自の必要度にあわせて総合情報センターの自習室（朝9時より夜9時まで開館）で補修すること。

科目名	マルチ・メディア	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	西村 <small>にしむら</small> 祐子 <small>ゆうこ</small>				

講義のねらい

英語による欧米の学部レベルの授業を体験させ、英語によるプレゼンテーション能力、聞き取り、理解力、読解力、作文能力などを総合的に高めるクラス。前半、後半ともそれぞれ8回程度アメリカシアトル市のワシントン大学とテレビ会議システムでつなぎ、インターアクティブなレクチャーを進める。テレビ会議を行わない週には英語でレクチャー内容の復習、予習などを行う。講義は社会科学系のテーマで、現代日本社会論、日米のNPO比較、NPOにおけるインターンシップの詳細などである。

講義の内容・授業スケジュール

4－7月：米国ソーシャルワークとコミュニティビルディングの歴史をワシントン大学側がレクチャー（計4回）。日本現代社会論（社会福祉政策、公益法人とNPO,現代若者文化、ジェンダーなど）を西村がレクチャー（計4回）。（授業はワシントン大学ソーシャルワーク学部学生と共同聴講）。隔週でテレビ会議に備え、前回レクチャーの復習と次回レクチャーの予習を教場授業で行う。

9－12月：現代日本社会論のレクチャーをテレビ会議システムで8回にわたりワシントン大学に配信。ここで本授業受講者はテーマを現代社会論の中から決めてそれぞれ15分程度のプレゼンテーションを行う。

履修上の留意点

受講資格は最低TOEIC650（TOEFL500）レベル以上であること。第一回授業でスクリーニングを行う。英語圏への留学希望者などで英語力アップをめざす学生は積極的に受講してほしい。

成績評価の方法

平常点（出席点、発表など）で評価。定期試験は行わない。

教科書

教場にて指定。

参考書等

授業で指定。

その他

本学ではじめてのテレビ会議によるインターアクティブな日米共同授業であり、本学とワシントン大学の交流プロジェクトの一環となる授業である。この授業とは別にこの授業の受講者に限り、夏季はシアトル市で実際にNPOのインターンシップに参加できる。また、冬季はこの授業を受講しているワシントン大学学生が日本のNPOでの研修に参加する。

科目名	マルチ・メディア	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	おおいば なおき 大庭 直樹				

講義のねらい

このクラスは、マルチメディアを使って英語を学ぶクラスである。
 第一の課題は、インターネットを使って、世界の最新のニュースがどのように報道されているかを比較しながら読んでいくことである。インターネットという広大な情報空間から、必要な情報を探索し、その内容を理解するという訓練を積む。
 第二の課題は、研究、文献・資料整理等、カード型のデータベースの作り方を学び、またその有効的な使い方を身につける。具体的には、データベース・ソフト「ファイルメーカー」を使い、自分用の英語彙データベースをつくる。
 第三の課題として、Wordと電子辞書を使いながら、英語による論文、公式文書、ビジネス文、手紙等の書き方を訓練する。
 第四の課題は、英語の映画を一本観ながら、英語の表現の意味内容を徹底的に研究していく。

履修上の留意点

受講生は、一年間の課題をこなせば、コンピュータを活用した知的な活動において、相当なレベルに達するはずである。従って、このクラスを受講するには、年間を通じて毎週クラスに出席することが条件である。

成績評価の方法

試験、定期試験なるものは行わない。受講生には、サーバーの自分のフォルダに、一年間に20程度のファイルを提出してもらおう。インターネットで各自が検索する情報もすべて、サーバーの自分のフォルダに入れてもらう。成績は、各学生が一年間にフォルダにセーブされたファイルの成果をもって評価する。

そ の 他

受講生は、教室以外、各自の必要度にあわせて総合情報センターの自習室（朝9時より夜9時まで開館）で補修すること。

科目名	英会話I	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	ロビン, G. F.				

講義のねらい

This course will focus on developing conversation skills for students using vocabulary and grammar that would normally have been acquired from previous courses in the school system. New vocabulary will be introduced as needed. Students will be encouraged to express themselves in English through pair and group activities, on which they will be graded.

講義の内容・授業スケジュール

It will consist of pair group, small group, and class discussion activities designed to gradually build and improve upon vocabulary and fluency normally acquired from previous pre-college study of English.

成績評価の方法

According to class participation, homework assignments, and a mid-term and final test, which will be given at the end of each term.

教 科 書

FIFTY FIFTY STUDENT BOOK 1 WARREN WILSON ROGER BARNARD ISBN-10 9620056655 10 digit

科目名	英会話I	開講	通年	単位	2
担当	GM選				
担当者名	ロビン, G. F.				

講義のねらい

This course will focus on developing conversation skills for students using vocabulary and grammar that would normally have been acquired from previous courses in the school system. New vocabulary will be introduced as needed. Students will be encouraged to express themselves in English through pair and group activities, on which they will be graded.

講義の内容・
授業スケジュール

It will consist of pair group, small group, and class discussion activities designed to gradually build and improve upon vocabulary and fluency normally acquired from previous pre-college study of English.

成績評価の方法

According to class participation, homework assignments, and a mid-term and final test, which will be given at the end of each term.

教科書

FIFTY FIFTY
STUDENT BOOK 1
WARREN WILSON
ROGER BARNARD
ISBN-10 9620056655
10 digit

科目名	英会話I	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	ウェルズ, J. K.				

講義のねらい

WELCOME TO ENGLISH CONVERSATION I
Speaking English is not so difficult if you have the interest and belief that you can. I hope to give you this chance to speak without feeling shy!

講義の内容・
授業スケジュール

First Semester: Pairwork practice answering and asking questions in a relaxed environment. The first semester exam will be an interview that I give you based on the questions and answers you practiced with your partner (s).

Second Semester: Role-playing will be emphasized as I feel that speaking English while moving (not just sitting) is important. It will also give you an opportunity to show your 'acting' skills in front of other people, or should I say speaking skills. Your final exam will be a dialogue that you and your partner create/write and, which you will perform in the classroom. Do not worry, it is fun!

履修上の留意点

Attendance is VERY important and so I have one very STRICT rule in my classroom. NO student will be allowed to be absent more than three times during the school year. If I did not have this rule, students would come and go as they please. It is important to attend class. There are NO exceptions for activities in sports or for job hunting. I am proud of the overall percentage of students who attend my class and I know you can attend regularly also.

成績評価の方法

Attendance : 50%
Tests : 25% (one test each semester)
Quizzes : 25% (usually part of assignments or announced quiz)

教科書

There is NO textbook, but you will need one larger than average notebook to keep all the prints I provide you in the class. This notebook will be checked and graded. Loose leaf binders should NOT be used. I will provide you with B5sized prints so a notebook larger than B5should be used. Notebooks will be checked in the second class.

The first class is very important, so please do not be absent!

その他

I am an American and have been teaching at Komazawa for many many years! It is a great joy to be a part of such a nice university and I hope you will help me enjoy teaching you during the school year. Learning to communicate in English CAN be fun! See you in class soon!

科目名	英会話I	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	ウェルズ, J. K.				

講義のねらい

WELCOME TO ENGLISH CONVERSATION I
Speaking English is not so difficult if you have the interest and belief that you can. I hope to give you this chance to speak without feeling shy!

講義の内容・授業スケジュール

First Semester: Pairwork practice answering and asking questions in a relaxed environment. The first semester exam will be an interview that I give you based on the questions and answers you practiced with your partner (s).
Second Semester: Role-playing will be emphasized as I feel that speaking English while moving (not just sitting) is important. It will also give you an opportunity to show your 'acting' skills in front of other people, or should I say speaking skills. Your final exam will be a dialogue that you and your partner create/write and, which you will perform in the classroom. Do not worry, it is fun!

履修上の留意点

Attendance is VERY important and so I have one very STRICT rule in my classroom. NO student will be allowed to be absent more than three times during the school year. If I did not have this rule, students would come and go as they please. It is important to attend class. There are NO exceptions for activities in sports or for job hunting. I am proud of the overall percentage of students who attend my class and I know you can attend regularly also.

成績評価の方法

Attendance : 50%
Tests : 25% (one test each semester)
Quizzes : 25% (usually part of assignments or announced quiz)

教科書

There is NO textbook, but you will need one larger than average notebook to keep all the prints I provide you in the class. This notebook will be checked and graded. Loose leaf binders should NOT be used. I will provide you with B5sized prints so a notebook larger than B5should be used. Notebooks will be checked in the second class.
The first class is very important, so please do not be absent!

その他

I am an American and have been teaching at Komazawa for many many years! It is a great joy to be a part of such a nice university and I hope you will help me enjoy teaching you during the school year. Learning to communicate in English CAN be fun! See you in class soon!

科目名	英会話I	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	ソルタ, P. N. F.				

講義のねらい

Introduction and Class Goals: English Conversation I was designed for typical Japanese high school graduates who have studied English for six years at junior and senior high school, but have great difficulty in speaking and understanding spoken English. This course helps students overcome their natural shyness at speaking in a foreign language, and gives them many opportunities to practice, in a meaningful context, communicating in natural spoken English. This enables students to build up their speaking and listening skills, and improve their ability to understand and use real English for real communication. Finally, this course seeks to increase the number of situations in which students can function using real-world English.

講義の内容・授業スケジュール

Class Contents: Fifteen units from a textbook and the instructor's worksheets will be used as sources of classroom material. The course is based on the principle that the only way to become fluent in a language is through lots of practice. The emphasis in this class, therefore, will be firmly on speaking and listening exercises. Students will do most of their exercises with one other student (this is called pairwork) to give everyone the maximum number of opportunities for speaking and listening practice.

The units to be covered are:

Unit 1: Introductions / Classroom Language

Unit 2: Likes and Dislikes / Adjectives

Unit 3: Locations / Telephoning (1)

Unit 5: There is ... There are... / Quantities

Unit 6: Have..., Want..., Would like..., / Shopping (1)

Unit 7: Uncountable nouns / At a Restaurant

Unit 9: Present Continuous / telephoning (2)

Unit 10: Fashion / Shopping (2)

Unit 12: Present Simple / Occupations

Unit 13: Adverbs of frequency / Routines (1)

Unit 14: Transportation / Work & School

Unit 15: The Present Tenses / Frequency

履修上の留意点

Class Regulations and Prerequisites: It will be assumed that students taking this course have studied English language at high school level for six years. Students must be willing to take a class where all the teaching will be done in English. Students should note that only two absences per semester are permitted in this course. Constant attendance, and a positive attitude towards and active participation in all class activities, will be essential for a passing grade in English Conversation I.

成績評価の方法

Student Evaluation: A final grade will be based on two measures: an end-of-year exam (60%), and a mark based on attendance, attitude in class and class performance throughout the year (40%). The nature of the exams may vary depending upon the class size. An interview-style exam will given if the number of students is small. Otherwise, listening and written exercises will be used. Bonus marks will be awarded to those students who have only zero/one absence (+10%) or two absences (+5%) throughout the year.

教科書

Textbook and Materials: **Communicate: book 1a** / David Paul / Macmillan Language-House, ¥1,230, ISBN 0-435-26119-3.

科目名	英会話	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	ソルタ, P. N. F.				

講義のねらい

Introduction and Class Goals: English Conversation I was designed for typical Japanese high school graduates who have studied English for six years at junior and senior high school, but have great difficulty in speaking and understanding spoken English. This course helps students overcome their natural shyness at speaking in a foreign language, and gives them many opportunities to practice, in a meaningful context, communicating in natural spoken English. This enables students to build up their speaking and listening skills, and improve their ability to understand and use real English for real communication. Finally, this course seeks to increase the number of situations in which students can function using real-world English.

講義の内容・授業スケジュール

Class Contents: Fifteen units from a textbook and the instructor's worksheets will be used as sources of classroom material. The course is based on the principle that the only way to become fluent in a language is through lots of practice. The emphasis in this class, therefore, will be firmly on speaking and listening exercises. Students will do most of their exercises with one other student (this is called pairwork) to give everyone the maximum number of opportunities for speaking and listening practice.

The units to be covered are:

- Unit 1: Introductions / Classroom Language
- Unit 2: Likes and Dislikes / Adjectives
- Unit 3: Locations / Telephoning (1)
- Unit 5: There is ... There are... / Quantities
- Unit 6: Have..., Want..., Would like..., / Shopping (1)
- Unit 7: Uncountable nouns / At a Restaurant
- Unit 9: Present Continuous / telephoning (2)
- Unit 10: Fashion / Shopping (2)
- Unit 12: Present Simple / Occupations
- Unit 13: Adverbs of frequency / Routines (1)
- Unit 14: Transportation / Work & School
- Unit 15: The Present Tenses / Frequency

履修上の留意点

Class Regulations and Prerequisites: It will be assumed that students taking this course have studied English language at high school level for six years. Students must be willing to take a class where all the teaching will be done in English. Students should note that only two absences per semester are permitted in this course. Constant attendance, and a positive attitude towards and active participation in all class activities, will be essential for a passing grade in English Conversation I.

成績評価の方法

Student Evaluation: A final grade will be based on two measures: an end-of-year exam (60%), and a mark based on attendance, attitude in class and class performance throughout the year (40%). The nature of the exams may vary depending upon the class size. An interview-style exam will given if the number of students is small. Otherwise, listening and written exercises will be used. Bonus marks will be awarded to those students who have only zero/one absence (+10%) or two absences (+5%) throughout the year.

教科書

Textbook and Materials: **Communicate: book 1a** / David Paul / Macmillan Language-House, ¥1,230, ISBN 0-435-26119-3.

科目名	英会話I	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	レーン, C. M.				

講義のねらい

This class concentrates on improving communication and fluency skills in English. Most Japanese university students already have basic vocabulary and grammatical skills in English. However, they are unable to use them when speaking. Therefore, this course aims to help students learn to use the knowledge they already have, and then to build on this knowledge. During the first semester basic conversation skills will be covered, through pair work and group work, which will be followed during the second semester by more in depth conversational discussions, also in pairs, small groups and through whole class activities. By the end of the year students should feel more confident when speaking English, and should have the ability to hold simple conversations in English, as well as being able to give their opinion on various topics.

講義の内容・授業スケジュール

(If the above is too detailed then please use the below instead)
 During the first semester students will study basic conversation patterns and will gain confidence and fluency skills in making general conversation. At the end of the first semester students will be required to give a three-minute speech talking about general themes. Then, during the second semester more time will be spent on group discussions whereby the students will be invited to give their opinions on a variety of topics chosen by the teacher. At the end of the year students will give a presentation in small groups on a topic of their choice.

履修上の留意点

As this is an oral English class students will not improve unless they attend most of the classes. Students who are absent without a good reason more than twice a semester will find it hard to pass. Moreover, while it is not necessary for students to be able to speak English really well to enter this class, they must try to speak English as much as they can. If a student is too shy or unable to try then they might find this class difficult.

成績評価の方法

- (ア) Attendance 20%
- (イ) Participation during class 50%
- (ウ) Homework 10%
- (エ) Individual presentation 10%
- (オ) Group presentation 10% As this is a practical class, students must be present and participate actively in order to get a passing grade.

教科書

- A good dictionary
- A file to keep work sheets together-A4 size

科目名	英会話I	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	レーン, C. M.				

講義のねらい

This class concentrates on improving communication and fluency skills in English. Most Japanese university students already have basic vocabulary and grammatical skills in English. However, they are unable to use them when speaking. Therefore, this course aims to help students learn to use the knowledge they already have, and then to build on this knowledge. During the first semester basic conversation skills will be covered, through pair work and group work, which will be followed during the second semester by more in depth conversational discussions, also in pairs, small groups and through whole class activities. By the end of the year students should feel more confident when speaking English, and should have the ability to hold simple conversations in English, as well as being able to give their opinion on various topics.

講義の内容・授業スケジュール

(If the above is too detailed then please use the below instead)
 During the first semester students will study basic conversation patterns and will gain confidence and fluency skills in making general conversation. At the end of the first semester students will be required to give a three-minute speech talking about general themes. Then, during the second semester more time will be spent on group discussions whereby the students will be invited to give their opinions on a variety of topics chosen by the teacher. At the end of the year students will give a presentation in small groups on a topic of their choice.

履修上の留意点

As this is an oral English class students will not improve unless they attend most of the classes. Students who are absent without a good reason more than twice a semester will find it hard to pass. Moreover, while it is not necessary for students to be able to speak English really well to enter this class, they must try to speak English as much as they can. If a student is too shy or unable to try then they might find this class difficult.

成績評価の方法

(ア) Attendance 20%
 (イ) Participation during class 50%
 (ウ) Homework 10%
 (エ) Individual presentation 10%
 (オ) Group presentation 10% As this is a practical class, students must be present and participate actively in order to get a passing grade.

教科書

A good dictionary
 A file to keep work sheets together-A4 size

科目名	英会話	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	ピアス, D. M.				

講義のねらい

Program Content:

During most of the class period you will be talking to each other in groups. You will not be learning English, but using the English you already know. The program should enable you to perform very simple activities such as foreign travel, chatter with foreigners, and effective communication in practical circumstances. Concentration on TOEFL, EIKEN, AND TOEIC patterns is a long-range effort to improve your qualifications. There will be intensive practice in composition as well.

講義の内容・授業スケジュール

SCHEDULE OF TOPICS

CLASS 1	addressing people	CLASS 16	consumption
CLASS 2	addressing people	CLASS 17	courtship
CLASS 3	social hierarchy	CLASS 18	courtship
CLASS 4	social hierarchy	CLASS 19	adolescence
CLASS 5	self expression	CLASS 20	adolescence
CLASS 6	self expression	CLASS 21	social classes
CLASS 7	gift-giving	CLASS 22	social classes
CLASS 8	gift-giving	CLASS 23	candor
CLASS 9	informality	CLASS 24	candor
CLASS 10	informality	CLASS 25	authority
CLASS 11	news coverage	CLASS 26	authority
CLASS 12	news coverage	CLASS 27	employment
CLASS 13	personal freedom	CLASS 28	employment
CLASS 14	personal freedom	CLASS 29	politicians
CLASS 15	consumption	CLASS 30	politicians

履修上の留意点

ATTENDANCE: Attendance and active participation are most important, because improvement in English speaking depends on the amount of practice. Please attend all of the classes. The student may miss six classes in the year and still pass; if the student misses five classes, the final grade will be one letter-grade less than what the student would otherwise have received.

EXAMINATIONS: Apart from the two final-semester examinations, there will be frequent small exams. Such exams are not intended to apply pressure; an examination is an excellent method of learning. All exam questions will be questions that we have done together in class, which are printed in the textbook.

成績評価の方法

GRADING: *Take this course only if you are fully willing to practice English conversation, in a loud voice, with others. If you don't want to speak out loud, take some other course. In this class you will be speaking English all the time. Your final grade depends 70% on your classes performance, in every class. Records are kept of your participation in every single class meeting. Attendance is extremely important, and the examinations have minor effect on the final grade. Students are graded according to improvement during the year; an "A" is possible for anyone.*

教科書

Textbook and materials: We will probably use Sociology, Economics, Political Science, Themis Research Group, as our textbook. In the first class meeting we will have a diagnostic test to determine the appropriate level of the class; do not buy the text until after the first class. Also recommended is an English-Japanese dictionary or a battery-powered dictionary. There will be some effort to absorb the vocabulary of written English that you probably do not know.

科目名	英会話I	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	ピアス, D. M.				

講義のねらい

Program Content:

During most of the class period you will be talking to each other in groups. You will not be learning English, but using the English you already know. The program should enable you to perform very simple activities such as foreign travel, chatter with foreigners, and effective communication in practical circumstances. Concentration on TOEFL, EIKEN, AND TOEIC patterns is a long-range effort to improve your qualifications. There will be intensive practice in composition as well.

講義の内容・
授業スケジュール

SCHEDULE OF TOPICS

CLASS 1	addressing people	CLASS 16	consumption
CLASS 2	addressing people	CLASS 17	courtship
CLASS 3	social hierarchy	CLASS 18	courtship
CLASS 4	social hierarchy	CLASS 19	adolescence
CLASS 5	self expression	CLASS 20	adolescence
CLASS 6	self expression	CLASS 21	social classes
CLASS 7	gift-giving	CLASS 22	social classes
CLASS 8	gift-giving	CLASS 23	candor
CLASS 9	informality	CLASS 24	candor
CLASS 10	informality	CLASS 25	authority
CLASS 11	news coverage	CLASS 26	authority
CLASS 12	news coverage	CLASS 27	employment
CLASS 13	personal freedom	CLASS 28	employment
CLASS 14	personal freedom	CLASS 29	politicians
CLASS 15	consumption	CLASS 30	politicians

履修上の留意点

ATTENDANCE: Attendance and active participation are most important, because improvement in English speaking depends on the amount of practice. Please attend all of the classes. The student may miss six classes in the year and still pass; if the student misses five classes, the final grade will be one letter-grade less than what the student would otherwise have received.

EXAMINATIONS: Apart from the two final-semester examinations, there will be frequent small exams. Such exams are not intended to apply pressure; an examination is an excellent method of learning. All exam questions will be questions that we have done together in class, which are printed in the textbook.

成績評価の方法

GRADING: *Take this course only if you are fully willing to practice English conversation, in a loud voice, with others. If you don't want to speak out loud, take some other course. In this class you will be speaking English all the time.* Your final grade depends 70% on your classes performance, in every class. Records are kept of your participation in every single class meeting. Attendance is extremely important, and the examinations have minor effect on the final grade. Students are graded according to improvement during the year; an "A" is possible for anyone.

教科書

Textbook and materials: We will probably use Sociology, Economics, Political Science, Themis Research Group, as our textbook. In the first class meeting we will have a diagnostic test to determine the appropriate level of the class; do not buy the text until after the first class. Also recommended is an English-Japanese dictionary or a battery-powered dictionary. There will be some effort to absorb the vocabulary of written English that you probably do not know.

科目名	英会話I	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	レイン, R. V.				

講義のねらい

This course will help students to: 1] use conversational English language patterns and idioms with increased confidence, and 2] improve their presentation skills.

講義の内容・
授業スケジュール

The first half of the class is devoted to textbook speaking activities [done in pairs] to provide the student with opportunities to use a variety of language patterns and verb tenses. The second half of the class is devoted to students giving one-minute presentations on a TV commercial of their choice in front of the class.

外
国
語

履修上の留意点

Students are expected to participate actively in class and practice the textbook activities at home. Students should be aware that attendance is important. If the student is absent for 1/3 of the scheduled classes [approximately eight times], the student will fail the class.

成績評価の方法

Students will be tested orally on the textbook activities twice a month and will also be graded on their class presentations. The final grade will be determined on the basis of these grades as well as on attendance and class participation.

教 科 書

author: Steven Molinsky and Bill Bliss
title: Side by Side, 3rd Edition, BOOK 4
publisher: Longman
date: 2003
ISBN 0-13-183937-3

APPROX, 45 COPIES OF TEXTBOOK ARE NEEDED FOR THIS CLASS

科目名	英会話I	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	ラッセル, S. J.				

講義のねらい

English Conversation 1 is for students who really want to improve their listening and speaking skills in English.

講義の内容・
授業スケジュール

This course will present everyday functional language in various situations. Students will speak in controlled and guided activities with their classmates, which is a great way to make new friends. It should be fun! Later in the course students should be free and able to express their ideas and opinions on a range of interesting topics. Interactive-style learning will be a feature of the classes so, good attendance will be required.

履修上の留意点

Please come to class smiling with a positive intention to actually SPEAK English. Show that you really want to improve your English by not missing many classes. Good attendance will be important in your grade each semester. Bring your textbook, a notebook, and an electronic dictionary to each class.

成績評価の方法

Students will be assessed at the end of the course based on attendance, assignments and performance in class. There will be a short (but not too easy) speaking test at the end of the course.

教科書

English Firsthand Book 1 ISBN 962-00-5345-1
Published by Longman

科目名	英会話II	開講	通年	単位	2
配当	全学科（フレB除く）234選				
担当者名	ソルタ, P. N. F.				

講義のねらい

Aims and Objectives: English Conversation II was designed for high school graduates, who have studied English for at least six years at junior and senior high school, and have successfully completed English Conversation I. The course provides such students with the necessary environment in which to improve upon and expand their abilities to communicate in natural spoken English. This naturally leads to greatly increased confidence in oral communications. The course seeks to give students the necessary competence in talking about various everyday topics that will enable them to establish and maintain meaningful relationships with native English speakers of their own age.

講義の内容・授業スケジュール

Course Contents: A textbook with 12 units and the instructors worksheets will be used as sources of classroom material. The course is based on the principle that the only way to become fluent in a language is through lots of practice. The emphasis in this class, therefore, will be firmly on speaking and listening exercises. Students will do most of their exercises with one other student (this is called pairwork) to give everyone the maximum number of opportunities for speaking and listening practice.

The units to be covered in this course are:

- Unit 1: Personal information / Talking about likes and dislikes
- Unit 2: Friends & Friendship / Personal experiences
- Unit 3: Romantic relationships / Dating
- Unit 4: Shopping
- Unit 5: Summer vacations / Domestic & foreign Travel (1)
- Unit 6: Jobs / Job interviews
- Unit 7: Opinions / Reasons for opinions
- Unit 8: Music / Pop groups
- Unit 9: Personality / Strengths & Weaknesses
- Unit 10: Money & Budgets / Prices & Numbers
- Unit 11: Responses in various situations / Stories
- Unit 12: Plans for the future

履修上の留意点

Registration Requirements & Class Rules: It will be assumed that students taking this course have studied English language at high school level for six years, and have passed English Conversation I. Students must be willing and able to take a class where all teaching is done in English, and where students are required to speak English at all times. Students should also note that constant attendance, and a positive attitude towards and active participation in all class activities, will be essential for a passing grade in English Conversation II.

成績評価の方法

Grading and Evaluation: A final grade will be based on two measures: an end-of-year exam (60%), and a mark based on a student's attitude towards the class and class performance throughout the year (40%). The End-of-term exam will normally be a ten-minute one-to-one interview with the teacher. If student numbers are too large to make this type of exam practical, then an exam with listening and written exercises will be used.

Bonus marks will be awarded to those students who have only zero/one absence (+ 10%) or two absences (+ 5%) throughout the year.

教科書

Textbook: **Face To Face: English for Today's Generation**, Dale Fuller & Corey Fuller, Macmillan LanguageHouse. Student's Book 1 (¥2,100 + tax).

科目名	英会話II	開講	通年	単位	2
配当	全学科（フレB除く）234選				
担当者名	ラッセル, S. J.				

講義のねらい

English Conversation 2 is for intermediate level students who really want to improve their listening and speaking skills in English.

講義の内容・
授業スケジュール

This course will present everyday functional language in various situations. Students will speak in controlled and guided activities with their classmates, which is a great way to make new friends. It should be fun! Later in the course students should be free and able to express their ideas and opinions on a range of interesting topics. Interactive learning will be a feature of the classes so good attendance will be required. We will also use a range of audio and video materials to prompt class discussion.

履修上の留意点

Please come to class smiling with a positive intention to actually SPEAK English. Show that you really want to improve your English by not missing many classes. Good attendance will be important in your grade each semester. Bring your textbook, a notebook, and a good dictionary to each class.

成績評価の方法

Students will be assessed at the end of the course based on attendance, assignments and performance in class. There will be a short (but not too easy) speaking test at the end of the course.

教科書

English Firsthand 2 ISBN 962-00-5347-8
Published by Longman

科目名	英会話II	開講	通年	単位	2
配当	全学科（フレB除く）234選				
担当者名	レイン, R. V.				

講義のねらい

This course will help students to: 1] use conversational English language patterns and idioms with increased confidence, and 2] improve their presentation-giving skills.

講義の内容・
授業スケジュール

The first half of the class is devoted to textbook speaking activities [done in pairs] to provide the student with opportunities to use a variety of language patterns and verb tenses.

The second half of the class is devoted to students giving one-minute presentations on a TV commercial of their choice in front of the class.

履修上の留意点

Students are expected to participate actively in class and practice the textbook activities at home. Students should be aware that attendance is important. If the student is absent for 1/3 of the scheduled classes [approximately eight times], the student will fail the class.

成績評価の方法

Students will be tested orally on the textbook activities twice a month and will also be graded on their class presentations. The final grade will be determined on the basis of these grades as well as attendance and class participation.

教科書

author: Steven Molinsky and Bill Bliss
 title: Side by Side, 3rd Edition, **BOOK 4**
 publisher: Longman
 date: 2003
 ISBN 0-13-183937-3

科目名	英会話III	開講	通年	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	ウェルズ, J. K.				

講義のねらい

English Conversation III

Welcome to my class! I hope you will challenge yourself speaking English openly on a variety of subjects and activities. This is NOT a beginner's class and the class is held (in most cases) entirely in English. It is usually a small class, so there should be much opportunity for you to speak.

講義の内容・
授業スケジュール

First Semester: Emphasis will be put on working with your partners and talking about a variety of subjects I give you. Your first semester exam will be based on speaking ability and you will be marked accordingly.

Second Semester: Partner and group activities will enhance your speaking ability. Your final exam will be an interesting and creative dialogue that you and your partner write. It will be performed in front of everyone.

履修上の留意点

Attendance is VERY important and so I have one very STRICT rule in my classroom. NO student will be allowed to be absent more than three times during the school year. If I did not have this rule, students would come and go as they please. It is important to attend class. There are NO exceptions for activities in sports or for job hunting. I am proud of the overall percentage of students who attend my class and know you can attend regularly also.

It is preferred that you not take English Conversation I and English Conversation III at the same time.

The first class is very important, so please do not be absent!

Auditing my class will be granted based upon the size of the class. Please talk to me about this.

成績評価の方法

Attendance : 50%
 Tests : 25% (one test each semester)
 Quizzes : 25% (usually part of assignments or announced quiz; class participation is important)

教科書

There is NO textbook, but you will need one larger than average notebook to keep all the prints I provide you with in the class. This notebook will be checked and graded. Loose leaf binders should NOT be used. I will provide you with B5sized prints so a notebook larger than B5 should be used. Notebooks will be checked in the second class.

その他

I am an American and have been teaching at Komazawa for many, many years. I am sure some of you know me and maybe I taught you English Conversation I. If you want to challenge yourself further, please join my class. I will interview you briefly the first class period to see if your English is good enough to join this class. It is NOT a beginner's class. See you in class! John Wells

科目名	英会話III	開講	通年	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	ピアス, D. M.				

講義のねらい

This is the highest level of English conversation practice offered by the university; accordingly we will present the most difficult material possible to speed your success in English fluency.

講義の内容・
授業スケジュール

Free conversation is urged at all occasions. Topics of a very wide variety will be introduced by practice dialogues which you will work through in dialogue or group. When applicable, we will exchange our own opinions, orally, about the topic presented in the dialogue. Speech practice will be conducted on three different levels. 1) Daily conversation, which you are already capable of conducting; practice is to amplify your present ability. 2) Conversation on a semi-abstract level, which will be accomplished through a mixture of lecture and dialogue. Topics will be cultural and sociological. This type of conversation is to accelerate your fluency in conducting intelligent conversation in English. 3) Academic conversation. Material will cover ethical-social topics such as human rights, income distribution, war, suicide, etc, in a mixture of lecture and dialogue, with subsequent free exchange of opinions. This level requires an entirely new world of vocabulary and speech patterns that never appear in ordinary English conversation. Academic conversation prepares many of you for overseas university study.

履修上の留意点

Grammar, reading, and composition will be practiced every week, in an oral style that you have never before encountered.

成績評価の方法

Three absences per semester permitted. Tests are purely didactic; they are not a disciplinary tool to monitor whether you are studying. Grading is likely to be generous, as anybody who qualifies for a class like this is evidently sincere and self-motivated; using grades as a whip is unnecessary. Classes proceed closely according to the textbook; coming to class without the textbook counts as an absence.

科目名	英語LLI	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	西村 祐子 <small>にしむら ゆうこ</small>				

講義のねらい

基本的な表現をつかってまず「話すこと」からはじめ、日常的なテーマを英語で話してみる。後期は日常的スピードで話される会話をききとり、受け答えできるように聞き取る力を向上させていく。説明は前期は日本語でおこなうが、後期にはすべて英語による授業になる。

講義の内容・授業スケジュール

4-7月：基本的な会話表現を学習。フラッシュカードを使って基本表現を覚えつつCDで発音とイントネーションを修正しながら聞き取り力を増強する。ペアワークをおこなう。
9-12月：ビデオをみながら話の内容を英語で説明、簡単な英語のプレゼンテーションを繰り返しおこない、英語で話すことになる。

履修上の留意点

全員コンピュータIDを取得しておくこと。(総合情報センターで取得可能)。

成績評価の方法

出席は4分の3以上であること、平常点としての小テスト、発表などによる。定期試験は実施しない。

教科書

Essential Listening 3 (Macmillan)、フラッシュカードとCD (別配布)

参考書等

授業中に提示する。

科目名	英語LLI	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	埜 美智子 <small>はなわ みちこ</small>				

講義のねらい

PC教室を使い英語の発音、アクセント、イントネーション等を習得し、明確な英語が使える、話せる様にする。自分のことばで表現する力を養成する。

講義の内容・授業スケジュール

日常生活の中で実際に話されている生きたことばを教材に用い、音声を聞き、繰り返し練習する。聞き、話す力を高めていく。

履修上の留意点

表現について研究したり、ことばの広がりをも自分なりに探す習慣をつける。

成績評価の方法

日常の授業を重視し、出席状況、前後期の試験の結果を入れて総合的に評価する。

教科書

‘Experience America!’ - An Authentic DVD English Language Text - (金星堂) ¥2,300

参考書等

その都度黒板に板書し、案内する。

その他

いろいろなテーマが出てくるので、英語圏文化についての知識を増す努力をする。

科目名	英語LLI	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	はなわ みちこ 埴 美智子				

講義のねらい

PC教室を使い英語の発音、アクセント、イントネーション等を習得し、明確な英語が使える、話せる様にする。自分のことばで表現する力を養成する。

講義の内容・授業スケジュール

日常生活の中で実際に話されている生きたことばを教材に用い、音声を聞き、繰り返し練習する。聞き、話す力を高めていく。

履修上の留意点

表現について研究したり、ことばの広がりを見たり自分なりに探す習慣をつける。

成績評価の方法

日常の授業を重視し、出席状況、前後期の試験の結果を入れて総合的に評価する。

教科書

‘Experience America!’ – An Authentic DVD English Language Text –
(金星堂) ¥2,300

参考書等

その都度黒板に板書し、案内する。

その他

いろいろなテーマが出てくるので、英語圏文化についての知識を増やす努力をする。

科目名	英語LLI	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	にしむら ゆうこ 西村 祐子				

講義のねらい

基本的な表現をつかってまず「話すこと」からはじめ、日常的なテーマを英語で話してみる。後期は日常的スピードで話される会話をききとり、受け答えできるように聞き取る力を向上させていく。説明は前期は日本語でおこなうが、後期にはすべて英語による授業になる。

講義の内容・授業スケジュール

4-7月：基本的な会話表現を学習。フラッシュカードを使って基本表現を覚えつつCDで発音とイントネーションを修正しながら聞き取り力を増強する。ペアワークをおこなう。
9-12月：ビデオをみながら話の内容を英語で説明、簡単な英語のプレゼンテーションを繰り返しおこない、英語で話すことになれる。

履修上の留意点

学生への要望：学生は全員駒澤大学のコンピュータIDを取得しておくこと。

成績評価の方法

出席は4分の3以上であること、平常点としての小テスト、発表などによる。定期試験は実施しない。

教科書

Essential Listening 3 (Macmillan)、フラッシュカードとCD (別配布)

参考書等

教場で指定する。

科目名	英語LLI	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	とのいけ かずこ 外池 一子				

講義のねらい

リスニングに欠かせない英語の音声変化と聴き取りのストラテジーを体系的に学習し、その後比較的短いモノログやダイアログ、英語のニュースなどを正確に聴き取れるようになることを目指します。

講義の内容・ 授業スケジュール

1. テキストに従って、以下の項目を学習します。

- (a) 個音（母音、子音）の識別
- (b) 連結
- (c) リダクション（機能語の弱形・縮約形）
- (d) 脱落・同化
- (e) リズム、イントネーション

2. 実際の聴き取り練習を行いながら、さまざまなリスニングのストラテジーを身につけていきます。

履修上の留意点

授業はCALL教室で行います。コンピューターを使用しますから、受講前にユーザーIDとパスワードを取得しておくこと。
また、初回にテストを行い受講の可否を判定しますから必ず出席してください。初回のテストを受けなかった場合受講できない場合があります。

成績評価の方法

平常点30%、授業の進度にあわせて行う試験70%。出席日数が3分の2以上の履修者のみが評価の対象となります。

教科書

開講時に指示します。

その他

毎週きちんと予習をして出席すること。予習をしていなかった場合は出席とは認めません。

科目名	英語LLI	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	とのいけ かずこ 外池 一子				

講義のねらい

リスニングに欠かせない英語の音声変化と聴き取りのストラテジーを体系的に学習し、その後比較的短いモノローグやダイアログ、英語のニュースなどを正確に聴き取れるようになることを目指します。

講義の内容・
授業スケジュール

1. テキストに従って、以下の項目を学習します。
 - (a) 個音（母音、子音）の識別
 - (b) 連結
 - (c) リダクション（機能語の弱形・縮約形）
 - (d) 脱落・同化
 - (e) リズム、イントネーション
2. 実際の聴き取り練習を行いながら、さまざまなリスニングのストラテジーを身につけていきます。

履修上の留意点

授業はCALL教室で行います。コンピューターを使用しますから、受講前にユーザーIDとパスワードを取得しておくこと。
また、初回にテストを行い受講の可否を判定しますから必ず出席してください。初回のテストを受けなかった場合受講できない場合があります。

成績評価の方法

平常点30%、授業の進度にあわせて行う試験70%。出席日数が3分の2以上の履修者のみが評価の対象となります。

教科書

開講時に指示します。

その他

毎週きちんと予習をして出席すること。予習をしていなかった場合は出席とは認めません。

科目名	英語LLI	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	甲斐 捷子				

講義のねらい

外国語の習得は、乳幼児の言語習得を観察すればわかるように、音と習得が基本です。この授業では、河合楽器が製作したビデオを使って、アメリカ英語の発音を視覚的に、基礎から学び直し、バランスの取れた英語力を身につけることが目的です。一つ一つの音の習得から初めて、単語、短文を正確に聞き取り、アメリカ人と同じような発音で発話する訓練へと進みます。音の習得ができれば、英語を学ぶ楽しさが倍加するだけでなく、正確なりスニング力、会話力が身につきます。小中学校の間に、きちんとした発音の訓練を受けなかった皆さんには、ぜひ履修していただきたい授業です。

講義の内容・授業スケジュール

テキストは全22章からなり、各章の構成は、課題発音を含むスキット、発音方法、日米比較、単語、短文の練習、初めのスキットとなっています。発音の様子が映像で写し出されますから、それを見ながら、また、自分の発音とビデオの発音とを重ね合わせながら、正しい発音を習得します。前期でビデオを終了し、後期は American Accent Training のCDを使用してレベルアップを図ります。このハンドアウトは開講時に配布します。テキストは全22章からなり、各章の構成は、課題発音を含むスキット、発音方法、日米比較、単語、短文の練習、初めのスキットとなっています。発音の様子が映像で写し出されますから、それを見ながら、また、自分の発音とビデオの発音とを重ね合わせながら、正しい発音を習得します。前期でビデオを終了し、後期は American Accent Training のCDを使用してレベルアップを図ります。このハンドアウトは開講時に配布します。

履修上の留意点

ビデオ、CDとも、図書館の視聴覚室で視聴できます。

成績評価の方法

一応の目安として、平常評価としての出席10%、前期試験30%、後期試験30%、小テスト30%による総合評価とします。

教科書

Sounds Right! Sounds Good! マクミランランゲージハウス2, 000円

参考書等

American Accent Training 2nd ed. Barrons

科目名	英語LLI	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	久保 ひさ子				

講義のねらい

海外旅行で場面別に、一回で通じる短い、英会話文を習得する。

講義の内容・授業スケジュール

旅行英会話の短文を、パソコン使用で、聞きとり、書きとり、反復練習する。コミュニケーションできるようにするため、さらに暗記する。毎回、小テストあり。

履修上の留意点

実習授業のため、欠席しないようお願い致します。

成績評価の方法

試験と授業実習点と小テストの合計点

教科書

マイケル・ブラウン「旅行でしゃべる英会話」南雲堂

科目名	英語LLII	開講	通年	単位	2
配当	全学科（フレB除く）234選				
担当者名	にしむら ゆうこ 西村 祐子				

講義のねらい

基本的な会話と英語表現を学んだレベルIを終了した学生もしくはそれと同程度の英語力がある学生のためのクラス。レベルIIではナチュラルスピードで話されるさまざまなストーリーのビデオを見ながら、さらに込み入った日常表現を修得し、概略を説明していく作業を繰り返す。また、テキストを使用してより正確な表現、高度な表現ができる訓練をおこなう。電子メールで提出する課題英作文による書く訓練、多様な文章を読む訓練も併用する。授業はすべて英語でおこない、質問も英語でのみ受けつける。学生同士の英語での話し合いやペアワークなどもとりいれ、インターアクティブに授業をすすめる。到達目標はTOEIC700-800程度。LLIにくらべ、難易度が高いので学生によっては受講を制限することがある。

講義の内容・授業スケジュール

4-7月：基本的な会話表現の復習と聞き取り、プレゼンテーション。教科書はUnit 8-12まで。
9-12月：LLIIIへの橋渡しとして、書き方とプレゼンテーションに力点をのいた授業。

履修上の留意点

宿題提出はメールまたは大学教場の共有フォルダーのなかに入れる。受講学生は全員駒澤大学のコンピュータIDを取得しておくこと。

成績評価の方法

定期試験はおこなわない。平常点重視（出席率、発表内容など。）

教科書

テキスト：New Headway Pre-intermediate (Oxford Univ. Press.)

参考書等

使用ビデオ：New Headway (elementary), および (pre-intermediate)、その他。

その他

前年度LL2の同じ授業をとった学生でも聴講できる。このためテキストは1-7を飛ばし、UNIT8から後半部を集中的にとりあげる（次年度は1-7を用いる）。

科目名	英語LLIII	開講	通年	単位	2
配当	全学科（フレB除く）234選				
担当者名	たかはし あきこ 高橋 明子				

講義のねらい

ニュースや映画などの多量の英語を聴き取って内容を理解し、学習した英語表現を実際に運用できるよう練習を重ねていきます。

講義の内容・授業スケジュール

テキストを中心に聴き取りの練習を進め、進度に応じてやや専門的なテーマのスピーチや映画などの教材を学習していきます。TOEICのリスニング・セクションの問題の練習もします。

履修上の留意点

毎回の授業での学習の積み重ねが大事なので、欠席をなるべくしないことを心がけてください。また、受講前にユーザーIDとパスワードを取得してください。

成績評価の方法

平常点（出席状況や小テストなど）と前期・後期の試験結果とを総合して評価します。

教科書

『CNN：ビデオで見る世界のニュース（8）』（朝日出版社）2,000円＋税
ISBN978-4-255-15432-9

科目名	英語LLII	開講	通年	単位	2
配当	全学科（フレB除く）234選				
担当者名	甲斐 捷子				

講義のねらい	日常の卑近な問題から現代の諸問題まで、ディスカッションできるところまで、英語の運用能力を高めることが、この授業の目的です。
講義の内容・授業スケジュール	全12章のうち、6章を前期で、残り6章を後期でクリアする予定です。
履修上の留意点	特にLLの授業ですので、遅刻、欠席をしないようお願いします。
成績評価の方法	一応の目安として、クイズ30%、前期試験30%、後期試験40%、とします。
教科書	アメリカ口語教本 中級用 WilliamS. Clark 著 研究社 2, 600円

科目名	英語LLIII	開講	通年	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	甲斐 捷子				

講義のねらい	日常の卑近な問題から、現代の諸問題までディスカッションできるところまで、英語の運用能力を身につけることがこの授業の目的です。
講義の内容・授業スケジュール	前期6～7章、後期6～7章の予定で進みます。
履修上の留意点	LLの授業につき、特に遅刻、欠席をしないようお願いします。
成績評価の方法	一応の目安として、クイズ30%、前期試験30%、後期試験40%とします。
教科書	アメリカ口語教本 上級用 WilliamS. Clark 著 研究社 3, 000円

科目名	英語LLIII	開講	通年	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	西村 ^{にしむら} 祐子 ^{ゆうこ}				

外国語

講義のねらい

レベルIIでは日常的なテーマを掘り下げ、より高度な表現をききとることをめざしたが、このレベルIIIはそれより一層高度な会話表現力およびプレゼンテーション能力を習得することをめざす。また、欧米の大学留学のための準備クラスとして、多様な英文を読み、概略を英語でまとめたり、いくつかのトピックについてのプレゼンテーションをおこなったりもする。LLII同様、授業はすべて英語でおこなわれ、質問も英語でのみ受けつける。毎回英語でのプレゼンテーションが要求され、グループワークも取り入れる。LLレベルIIを終了し、英検準一級程度（TOEICレベル650以上）の学生を対象とする。このレベルに達していない学生はレベルIIを受講することをすすめる。

講義の内容・授業スケジュール

4－7月：教科書のUnit 8－12まで。ビデオのサマリーを中心としたプレゼンテーション。
9－12月：教科書の前半部分を使い、多様な文章を読みながら感想を記述し、発表する訓練を繰り返す。ビデオの英語による概略説明も続ける。TOEICの模擬テストなども行う。

履修上の留意点

大学のコンピュータIDを必ず事前に取得しておく。レベルIIIは例年高度なクラスなので途中で落伍しないためにも履修の前にLLIIの内容とよく比較して検討してほしい。

成績評価の方法

平常点重視（出席率、プレゼンテーションなど）。定期試験はおこなわない。

教科書

New Headway Upper Intermediate. (Oxford Univ. Press)

その他

最初と最後にTOEICの模擬などを授業で行い、到達度をチェックする。

科目名	英語LLIII	開講	通年	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	久保 ^{くぼ} ひさ子 ^{ひさこ}				

講義のねらい

英語講演等をおおよそ、理解でき、さらに、ディベートできる程度をめざしたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

テキストを、聞きとり、書きとり、解答し、再生し反復練習する。

履修上の留意点

実習授業のため、欠席しないようにお願い致します。

成績評価の方法

試験と授業実習の合計点

教科書

World Times of Japan, Michigan Action English Step 6

科目名	ドイツ語外国書講読	開講	通年	単位	4
配当	GM34選				
担当者名	柴野 博子 <small>しばの ひろこ</small>				

講義のねらい 他国の文化を理解し、またそれを通して自国の文化を反省することは、国際化の進展する今日、非常に大切なことだと思います。そこでこの授業では、日本とドイツの間の異文化理解の問題を扱ったいくつかの文章を読んでいきます。それによって、ドイツ語の文章に慣れると同時に、ドイツあるいは日本の文化についても、理解を深めることができればと思っています。

成績評価の方法 年1回の試験と平常点で行います。

教科書 教科書は使用しません。教材はコピーしてお渡しします。

科目名	時事ドイツ語	開講	通年	単位	4
配当	GM34選				
担当者名	堀内 美江 <small>ほりうち みえ</small>				

講義のねらい ドイツ語圏のインターネットや雑誌、テレビやラジオなどを、少しでも理解できるようになると、あなたの世界はぐんと広がります。この授業では、さまざまなドイツのメディアを使うための学習をしていきます。
ドイツの国技サッカー、ドイツ料理にウィーン菓子、ドイツの観光名所、さらにドイツで今話題になっていることなどをテーマに、ドイツ語の世界を楽しみましょう。

講義の内容・授業スケジュール テーマごとに、まず用いられる語いを学び、必要な文法的な知識を復習します。その後、自力で情報を見つけたり、読み取ったりする練習をしていきます。映像などの視覚的資料もできるかぎり紹介しながら、生のドイツを体験していただきたいと思っています。

履修上の留意点 PC教室をしばしば使います。学内で用いられるPCのアドレスを取っておいてください。皆さんの様子を見ながらゆっくりと授業を進めていきますので、リラックスして参加して下さい。辞書は毎回携帯のこと。

成績評価の方法 前後期それぞれ二回の小レポートと出席点による総合評価を行ないます。

教科書 プリント配布

科目名	上級ドイツ語	開講	通年	単位	2
配当	GM34選				
担当者名	藪下 絃一 <small>やぶした こういち</small>				

講義のねらい 小人数で辞書を使って読んでいきます。毎回あたります。予習を忘れない様に。

成績評価の方法 評価は7月と12月の試験+平常点で決めます。

教科書 ヨーゼフ・ロート：美の勝利、白水社、¥950。

科目名	ドイツ語コミュニケーションI	開講	通年	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	小林 ^{こばやし} ゲアリンデ				

講義のねらい

ドイツ語の基礎的な知識を履修するとともにドイツおよびドイツ語を国語とするオーストリア、スイスの国情について知識を身につけることを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

日常的な状況でのドイツ語を話し、理解することに重点をおく。そのため発音練習やパートナー練習を数多く取り入れる。基本的な文法の習得と並んでドイツ語を読む楽しみにも触れたい。適宜宿題を課す。

成績評価の方法

定期試験は行わないが、毎時間、口答対話を行い、それを総合して年度末の成績として評価する。

教科書

テキストは教室で配布する。

その他

ビデオ、カセットを使用する。

科目名	ドイツ語コミュニケーションII	開講	通年	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	小林 ^{こばやし} ゲアリンデ				

講義のねらい

ドイツ語を1年（LLまたは他のドイツ語科目）で学んだ学生を対象とする。ドイツ語を話し、理解する能力をさらに伸ばし、ドイツ語圏諸国についての知識を拡げることを目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

話す力、とくに正しい発音を習得する。ややこみ入った状況での会話、中級テキストを読む練習をする。

成績評価の方法

定期試験は行わないが、毎時間、口答対話を行い、それを総合して年度末の成績として評価する。

教科書

テキストは教室で配布する。

その他

ビデオを使用する。

科目名	ドイツ語IA (選)	開講	通年	単位	2
配当	全学科 (フレB 除く) 選				
担当者名	まつおか すずむ 松岡 晋				

講義のねらい

週一回、一年間の授業でドイツ語の初級文法をマスターすることを目標とします。

講義の内容・授業スケジュール

ドイツ語のアルファベット、発音規則の説明から始めて、冠詞、動詞の現在時制、過去時制、完了自制等々という具合にゆっくりと文章構造と表現様式の理解を深めてゆきます。補助的に適宜ネイティブ・スピーカーの発音を収録したCDを用いることも考えております。ともかくゆっくりと、皆さんとともに先へ進んでゆくつもりです。

履修上の留意点

文法の学習は積み重ねですから、定期的出席が前提条件です。また、初回の授業のさいに中型の「独和辞典」を何種類か紹介いたしますので、そのうちの一つを入手し、以降つねに持参ください。

成績評価の方法

期末試験(7月)、学年末試験(1月)以外に何度か小テストを行ないます。そのほかに平常点(出席率、授業中に指名された時の口頭練習の結果など)を加味して成績評価をいたします。筆記試験と平常点の成績評価に占める割合は同等であると考えてください。

教科書

未定

その他

実際のドイツ語の文章に慣れるために、その都度の文法事項に即した例文を取めたプリントを何度か配布いたします。

科目名	ドイツ語IB (選)	開講	通年	単位	2
配当	全学科 (フレB 除く) 選				
担当者名	いむら ゆきこ 井村 行子				

講義のねらい

ドイツ語を実際に使えるようにするとともに、ドイツについての知識の習得に努めます。

講義の内容・授業スケジュール

教科書に沿って進めます。

成績評価の方法

前期と後期の筆記試験の成績によります。

教科書

近藤/小林/新倉/松尾『Dialog 一ペーシック版』(郁文堂)

科目名	ドイツ語II (選)	開講	通年	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	井村 行子 <small>いむら ゆきこ</small>				

講義のねらい

ドイツ語のレベルアップとともに、ドイツについての知識を深めます。

講義の内容・授業スケジュール

最初に復習を行った後、前期に少なくとも3課まで、後期はそれ以降に進める予定です。

成績評価の方法

前期と後期の筆記試験の成績によります。

教科書

近藤／小林／新倉／松尾『Dialog ーステップアップ版』(郁文堂)

その他

最初に『Dialog ーベーシック版』のSzene4 と5を1年次の復習を兼ねて使いますが、もっていない場合にはコピーを用意しますので、こちらは購入する必要はありません。

外国語

科目名	フランス語外国書講読	開講	通年	単位	4
配当	GM34選				
担当者名	前田 祝一 <small>まえだ のりかず</small>				

講義のねらい

初級フランス語を履修済の人たちを対象とします。

講義の内容・授業スケジュール

テキストに従って、細かくフランス語を味読してゆきますが、最初は初級レベルで学習した事柄の再確認・復習を主とし、のちに新たに一層レベルを上げた言語の特性を、修得できればと考えています。

履修上の留意点

この科目は履修者の主体性を尊重する選択科目ですが、誠実な、ねばり強い姿勢を期待しています。

成績評価の方法

平常点を主とし、最終的にはペーパーテストとします。

教科書

中地編、ル・クレジオ『パヴァーナ』(朝日出版社) 1300円

科目名	時事フランス語	開講	通年	単位	4
担当	GM34選				
担当者名	桑田 <small>くわた のりあき</small> 禮彰				

講義のねらい

フランス語中級。フランス語の基礎を既に習得した者を対象にします。

講義の内容・
授業スケジュール

比較的簡単で興味深い最新の時事フランス語の文章を読んでいます。発音の基本を確認しつつ、文法事項についても、できるかぎり分かりやすく説明するつもりです。フランス語の基礎を終えた人は、ぜひこの授業を取って、もう一步踏み込んだフランス語の魅力、フランスの魅力に触れてください。

履修上の留意点

最も重要なのは、もちろん授業への出席です。一回一回の出席を大切にしてください。

成績評価の方法

ふだんの授業での評価をベースにして、年二回の試験の成績で決定します。

教科書

荒木善太他『ヴァリエテ・フランセーズ2007』（朝日出版社）本体1,900円＋税

参考書等

そのつど授業で指示します。

科目名	上級フランス語	開講	通年	単位	2
担当	GM34選				
担当者名	<small>こだま なりお</small> 小玉 齊夫				

講義のねらい

「上級フランス語」クラスでは、フランス語検定試験の3級あるいは準2級に合格することをめざして、文法事項の再確認とともに、聞きとり、作文、ならびに会話についての実力を養っていくつもりです。1、2年次の知識を復習し、視聴覚教材も用いて、可能なかぎり、総合的なフランス語能力を身につけるよう、勉強していきます。来年3月に行われる「短期セミナー」に参加を希望される方は、現在の自分のフランス語能力など気にせず、積極的に、この授業をとるようにして下さい。「短期セミナー」に参加した人たちも歓迎です。放っておくと、「実力」はすぐ落ちてしまいますから。

講義の内容・
授業スケジュール

下記の教科書を用いますが、他に、こちらで準備するプリント教材あるいはビデオ教材なども、使っていく予定です。前期は、主として、これまでの復習に、後期は、その展開という風に、段階を追って進んでいくつもりです。

履修上の留意点

出席するのが楽しい授業、でなくては、会話などに心を配る余裕が出てきません。つとめて、そのようにしたいと思いますので、「遊び心」も持って参加して下さい。フランス語の聞き取りは、「ある日、突然に」、それまで理解できなかった表現も、分かってくるものです。初めの「難しさ」にめげずに、突然訪れて来る「その日」をめざして、地道に練習を続けていく心構えがたいせつです。

成績評価の方法

随時提出する宿題や、年末の試験で評価します。

教科書

阿南・モラン 共著 『パシヨネマン2』（第三書房、2400円） ISBN978-4-8086-2185-8

参考書等

『現代和仏小辞典』（白水社）。フランス語彙を増やすためにも、必要です。

科目名	フランス語コミュニケーションI	開講	通年	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	ラリア・三倉 ^{らりあ・みくら} , M.				

講義のねらい

フランス人講師や教材のフランス語を聞きながら、学生が簡単なフランス語で表現力を身につけることを学ぶ。

成績評価の方法

筆記試験はしない。授業の平常評価と簡単な口頭面接評価。

教科書

高橋・ジュンタ共著『ヌーヴォー・ク・ドゥ・クール』
第三書房 ISBN 4-8086-2136-3

科目名	フランス語コミュニケーションII	開講	通年	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	ラリア・三倉 ^{らりあ・みくら} , M.				

講義のねらい

フランス語の基礎学習の経験のある学生のためのクラスです。生徒は小さなグループにわかれ、フランス語会話をたくさんすることで発音、表現力の向上をめざします。尚、ビデオで現在のフランスの若者の生活パターンが多く紹介されているので、それに触れながら楽しく学習できます。

成績評価の方法

筆記試験はしない。授業の平常評価と口頭面接評価。

教科書

MONNERIE著BIENVENUE EN FRANCE TOME 1 (Didier HATIER)
プリント資料を学生に与えますので、学生は、格別に教科書を買う必要がありません。

科目名	フランス語IA (選)	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	出口 ^{でぐち} 雅敏 ^{まさとし}				

講義のねらい

この授業では、フランス語文法の基礎を学習してゆきます。文法の基礎をしっかりと身につけることは、フランス語の世界に入ってゆくための大切なプロセスです。ですから、この入口で躓かぬよう、じっくり基礎固めをすることが授業の目的です。

講義の内容・
授業スケジュール

テキストは、文法事項の簡潔なまとめと練習問題から成っています。授業は、文法事項の具体的説明の後、練習問題に取り組む、という形で進行します。加えて、フランス語の読み方や仏和辞書の引き方についても慣れてもらいます。

履修上の留意点

辞書を持参して下さい。やむをえず欠席する場合は、理由を書面にて提出して下さい。

成績評価の方法

前期・後期の期末試験と通常点によって評価します。

教科書

斎藤昌三『《新版》ル・フランセ』(白水社) 1,750円

科目名	フランス語IA (選)	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	前田 祝一 <small>まえだ のりかず</small>				

- 講義のねらい** フランス語の言語としての特性を理解してもらうこと。そして、少しでも使いこなせるようになること。
- 講義の内容・授業スケジュール** 日常的な基本語・文型を身につけて、少しずつ積み重ね、言葉の世界を広げ、深めてゆく。つまり、毎日が新しいことの学習です。
- 履修上の留意点** したがって、毎日が新しいことの学習であり、それらが理解できていることが、次の回の出発点ですから、欠席しないで持続させること。それが終着点での満足感になるはずです。
- 成績評価の方法** 平常点としますが、ペーパーテストも随時行ないます。
- 教科書** 内藤・玉田著『フランス語へのパスポート (改訂版)』(白水社) 1,800円

科目名	フランス語IB (選)	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	桑田 禮彰 <small>くわた のりあき</small>				

- 講義のねらい** フランス語の基礎の習得。
- 講義の内容・授業スケジュール** まず発音の基本をしっかり確認した上で、簡単な会話表現に親しみながら、初級文法を理解し、読解力の基礎を身につけます。
- 履修上の留意点** 発音練習や文法理解のために最も重要なのは、もちろん授業への出席です。一回一回の出席を大切にしてください。
- 成績評価の方法** ふだんの授業での評価をベースにして、年二回の試験の成績で決定します。
- 教科書** 林田遼右著『バリ散歩』(朝日出版社) 2,600円+税
- 参考書等** そのつど授業で指示します。

科目名	フランス語II (選)	開講	通年	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	桑田 禮彰 <small>くわた くりあき</small>				

講義のねらい フランス語中級。フランス語の基礎を既に習得した者を対象にします。

講義の内容・授業スケジュール 比較的簡単で興味深い最新の時事フランス語の文章を読んでいます。発音の基本を確認しつつ、文法事項についても、できるかぎり分かりやすく説明するつもりです。フランス語の基礎を終えた人は、ぜひこの授業を取って、もう一步踏み込んだフランス語の魅力、フランスの魅力に触れてください。

履修上の留意点 最も重要なのは、もちろん授業への出席です。一回一回の出席を大切にしてください。

成績評価の方法 ふだんの授業での評価をベースにして、年二回の試験の成績で決定します。

教科書 荒木善太他著『ヴァリエテ・フランセーズ2007』(朝日出版社) 本体1,900円+税

参考書等 そのつど授業で指示します。

外国語

科目名	中国語外国書講読	開講	通年	単位	4
配当	GM34選				
担当者名	佐藤 普美子 <small>さとう ふみこ</small>				

講義のねらい 《声に出して読みたい》中国語で書かれた文学作品(主として詩歌、エッセイ、短篇小説)を読んでいます。

講義の内容・授業スケジュール 一つの作品を読み終えた後、必ずその文章(の一節)を暗誦してもらいます。

履修上の留意点 予習は不可欠です。

成績評価の方法 出席、予習の有無、暗誦テストによって総合的に評価します。

教科書 開講時、プリントを配布します。

参考書等 辞書は必ず用意して下さい。

科目名	時事中国語	開講	通年	単位	4
配当	GM34選				
担当者名	塩旗 伸一郎 <small>しおはた しいちろう</small>				

- 講義のねらい** インターネットで中国の各サイトを訪れ、見出し&リードの速読と記事精読の2種のアプローチにより、ニュースの文体を読み解く力を養う。
ピンインのルビを振るソフトの導入により、生の記事にピンインをつけてテキストにする。
- 講義の内容・授業スケジュール** 「速読」篇は、その場で声に出して読み、大意を掴む。「精読」篇は、文を構造的に捕える練習を積む。
併せて、ニュースの聴き取り、単語の構造分析クイズ、中国語入力・検索の体験学習などを行なう。
- 履修上の留意点** 精読教材は予習が不可欠。
教材等、授業に関する情報は下記URLに掲示するので常時チェックすること。
<http://www.komazawa-u.ac.jp/siop/jiji.html>
- 成績評価の方法** 平常点。
- 教科書** ネット上で採取し、上記URLに掲示。
- 参考書等** 辞書は『現代漢語詞典』（中国商務印書館）、『中日辞典』（小学館）、『中日大辞典』（大修館書店）、『講談社中日辞典』、『白水社中国語辞典』を推奨する。
これらより薄いものや、中日・日中を一冊で兼ねる安あがりな辞書は、役に立たない。
- その他** PC教場使用を要望しているが、教場変更の可能性もあるので、掲示に注意すること。

科目名	上級中国語	開講	通年	単位	2
配当	GM34選				
担当者名	児島 弘一郎 <small>こじま こういちろう</small>				

- 講義のねらい** 実用的な中国語表現の習得を目指すと同時に、各種検定試験への対策を行ないます。頻出する基本構文・語彙を反復学習しつつ、聴き取り・翻訳・作文などの訓練をします。
- 講義の内容・授業スケジュール** 中国でのインタビューを中心に編集された音声教材を使用し、自然なスピードで話された中国語に毎回触れてもらいます。はじめは慣れないと思いますが、教員が丁寧に補助しながら何度も繰り返すので、心配は無用です。
- 履修上の留意点** 毎回の授業が貴重な訓練の場となるので、出席を怠らないこと。予習は不要ですが、教員が示した方法による復習をしっかりと行って下さい。
- 成績評価の方法** 前期・後期の試験、数回実施する小テスト、授業への取り組み、出席状況によって総合的に評価します。
- 教科書** 楊達・南勇『リスニング中国語I』（朝日出版社、2200円、CD付）。
- 参考書等** 辞書や役立つ音声教材などは、教場で紹介します。
- その他** 検定試験の受験を予定していない学生も、もちろん歓迎します。

科目名	中国語コミュニケーションI	開講	通年	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	いわさき ひろし 岩崎 皇				

講義のねらい

コンピュータ教場の機能を使って、中国語の音声聞き取り能力を養うことが目標です。聞き取りは会話の前提となる能力であり、もっとも大事なものです。まずは、これまで習ったことを聞いて分かるようにすることが、直接の目的になります。

講義の内容・
授業スケジュール

基本的には、テキストに沿って聞き取りの練習を行っていきますが、必要に応じて他の音声教材も使います。授業の合間に、中国のテレビ番組などの映像も見ます。

履修上の留意点

授業にはすべて出席することが前提です。欠席した場合は、そのつど課題を提出してもらいます。未提出が3回を越えるときは単位取得ができません。ただし、課題提出は授業に全く取って代わることはできないので、欠席が7回を越えてはいけません。

卒業年次生は就職活動等を考慮して、欠席回数を10回まで許容しますが、課題にかんしては上と同じです。

なお、これまで中国語を勉強したことのない人、および中国語を母語とする人は履修しないでください。

成績評価の方法

履修上の留意点にある条件を満たした上で、毎回の授業への取り組み、および前期1回、後期1回のテストで評価を行います。

教科書

楊達他著「新・聞こえる中国語」(南雲堂) 2,940円

科目名	中国語コミュニケーションII	開講	通年	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	そう たいわ 曹 泰和				

講義のねらい

簡単な会話の習得。ヒヤリングの力の向上。初級文法の復習

講義の内容・
授業スケジュール

会話とヒヤリングを中心にして授業を行う。日常会話や基本文型を繰り返し練習する。

履修上の留意点

積極的に会話の練習に参加すること。なお、中国語コミュニケーションIを履修しなくても、この授業は履修できる。2年生から4年生まで履修可。IA・IB既習程度

成績評価の方法

出席、授業態度、テストで総合評価する。

教科書

竹島金吾 監修 竹島 毅著『中国語さらなる一步』(白水社) 2,200円+税

参考書等

授業の中で紹介する。

科目名	中国語IA（選）	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	吉田 <small>よしだ たていちろう</small> 建一郎				

講義のねらい

中国語の基礎力を身につける。

講義の内容・授業スケジュール

発音の基礎であるピンインを習得した上で、短い会話文を題材として基本的な語彙と表現を学んでいきます。

履修上の留意点

大きな声を出して積極的に発音練習に参加しましょう。携帯電話の使用、私語、内職などは、真剣に学習に取り組んでいる他の学生にとって極めて迷惑なので絶対に行わないでください。

成績評価の方法

平常点と定期試験により評価します。

教科書

南雲智・趙暉『始めよう！中国語』（白水社）2,205円

科目名	中国語IA（選）	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	<small>みやもと あつこ</small> 宮本 厚子				

講義のねらい

中国語の基礎を身につける。

講義の内容・授業スケジュール

発音を学んだ後、会話文を通して、基本的な文法を学び、語彙を増やしてゆく。

履修上の留意点

毎回暗誦あるいは聞き取り（小テスト）を行うので十分に復習をして授業に臨むことが求められる。

成績評価の方法

年に4回の筆記試験（前後期末試験を含む）と平常点（暗誦・小テストを含む）で評価する。

教科書

プリント配布。

その他

詳細は開講時に説明する。

科目名	中国語IB (選)	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	蘭 <small>らん めい</small> 明				

講義の内容・
授業スケジュール

前期は最初の一カ月（4回に分け）において、ピンインを読めるように集中的練習をする。その後、簡単な会話の練習に進む。後期は、やさしい日常会話を中心におき、授業を展開する。

成績評価の方法

出席など授業姿勢に評価の重きを置く。前後期二回に分け試験を行う。

教科書

董燕・遠藤光暁『理香と王麗 話す中国語1』（朝日出版社）2,835円

科目名	中国語II (選)	開講	通年	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	三田村 <small>みたむら けいこ</small> 圭子				

講義のねらい

基礎中国語を復習し、聞く・話す・書くを反復練習することで、より実践的な中国語を習得する。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①基礎中国語で学習した重要な文法や発音を復習する。
- ②教科書の進度にしたがって、会話を暗記し、また簡単な文章を書けるように練習する。

履修上の留意点

出欠は成績に加味するので、欠席の多い学生は単位取得が難しい。欠席が3分の1以上の場合、採点評価の対象外とする。

成績評価の方法

前・後期の中間期末試験（全4回）と平常点で総合評価する。本文の暗記も点数に加算する。

教科書

塚本慶一『2年生のコミュニケーション中国語』（白水社）2200円

参考書等

授業開始時に説明する。

科目名	スペイン語外国書講読	開講	通年	単位	4
配当	GM34選				
担当者名	齋藤 明美 <small>さいとう あけみ</small>				

講義のねらい

様々な分野の親しみやすく簡単なスペイン語の文章を辞書の力を借りながら内容を理解する力をつけます。講読を通して基礎文法の復習と語彙力の増加を目指します。

講義の内容・授業スケジュール

受講者の興味関心に考慮しながら、スペイン語圏に関する平素なテキストや代表的な文学作品の一節にチャレンジし読解力をつけます。また外国人スペイン語初級学習者用に作成された短編小説の翻訳にも挑戦します。

履修上の留意点

学習の効率を上げるためには毎回の予習・復習が大切です。内容を正確に理解するために意味が分かるまでとことん辞書を引きましょう。

成績評価の方法

毎回の授業参加や演習課題そして各期末の達成度チェックによります。

教科書

未定

科目名	時事スペイン語	開講	通年	単位	4
配当	GM34選				
担当者名	齋藤 明美 <small>さいとう あけみ</small>				

講義のねらい

初級文法および基本語彙を復習しながら、スペイン語圏の政治・社会、文化、芸術、スポーツ、文化についての簡単なテキストを理解できるようにします。また日本の文化・慣習について外国人に簡単に紹介できる能力をつけます。

講義の内容・授業スケジュール

様々な媒体のテキストの読解を通してスペイン語圏の文化・生活様式の理解を深めつつ、スペイン語を使った情報収集能力を高めます。また平素なテレビ・ラジオ番組を随所利用し基礎的なヒアリング力を向上させます。自分の考えを簡単にスペイン語で表現できる力を伸ばします。

履修上の留意点

時事スペイン語を理解するためにはしっかりした文法の知識そして豊富な語彙力が不可欠です。受身にならず興味関心もてるテーマの一つでも見つけ、辞書をたよりに貪欲に語彙や慣用表現を増やす努力をしていきましょう。またインターネット等を積極的に活用して日ごろからスペイン語に慣れましょう。

成績評価の方法

毎回の授業参加や演習課題・小テストそして各期末の達成度チェックによります。

教科書

学生の興味関心や学習状況に応じてその都度具体的なテーマを指定します。

科目名	上級スペイン語	開講	通年	単位	2
担当	GM34選				
担当者名	上野 勝広 <small>うえの かつひろ</small>				

講義のねらい

このクラスでは、スペイン語検定試験（3級・4級）に合格することを目標にします。既習の文法事項を随時復習しながら、聴解・会話・読解・作文の各技能を伸ばし、総合的なスペイン語力を身につけられるようレッスンを進めます。

講義の内容・授業スケジュール

作文については年間を通じ下記のテキストを用いて、1回の授業で10ページくらい進めます。読解はインターネットのオンライン教材およびプリント、聴解・会話はビデオ・CD等の視聴覚教材を利用してゆきます。

履修上の留意点

「継続こそ力なり」です。休まずさぼらず目標に向かって頑張れる意欲に満ちた受講者を歓迎します。また授業の学習成果を最大限あげるために、何より集中力が大切です。

成績評価の方法

前期末・学年末試験の結果（60%）と平常点（40%）を総合して評価します。

教科書

小池和良『スペイン語作文の方法・構文編』（第三書房）2,500円

科目名	スペイン語コミュニケーションI	開講	通年	単位	2
担当	GM234選				
担当者名	ナバロ、ホワンJ.				

講義のねらい

スペイン語の基礎知識がある学生のための授業です。授業中に配布されるプリントの文章や会話について問題を出します。日常会話でよく用いられる表現を聞き取り、話すことができるよう練習します。

成績評価の方法

授業中の練習への参加と出席で評価します。特別試験も実施します。

教科書

『Viaje al español』
テキスト及びVTR教材

科目名	スペイン語コミュニケーションII	開講	通年	単位	2
担当	GM234選				
担当者名	ナバロ、ホワンJ.				

講義のねらい

スペイン語の基礎知識がある学生のための授業です。授業中に配布されるプリントの文章や会話について問題を出します。日常会話でよく用いられる表現を聞き取り、話すことができるよう練習します。

成績評価の方法

授業中の練習への参加と出席で評価します。特別試験も実施します。

教科書

『Viaje al español 上級編』
テキスト及びビデオ教材

科目名	スペイン語IA (選)	開講	通年	単位	2
担当	GM選				
担当者名	かめやま こういち 亀山 晃一				

講義のねらい

初級文法から始め、発音・アクセント・イントネーションを練習する。比較的簡単な例文を確実に習得することで会話の基礎を作り、スペイン語圏で生活したり、旅行するに当たって役立つ、コミュニケーション能力の開発と養成を行う。背景文化や歴史にも触れ、関心を育てることにより、学習継続の為の動機付けとしたい。

履修上の留意点

決して、遅刻・欠席をしない。自ら興味を持ち、学習を継続すること。

成績評価の方法

数回のテスト、日頃の出席状況、受講態度を総合して行う。

教科書

開講時、指示します。

科目名	スペイン語IB (選)	開講	通年	単位	2
担当	GM選				
担当者名	さいとう あけみ 齊藤 明美				

講義のねらい

基礎文法を習得しながらスペイン語で「聞く」「読む」「話す」「書く」ことができるバランスの取れた基本的コミュニケーション能力を伸ばします。

講義の内容・授業スケジュール

文法に関しては初級文法の復習をしながら直接法の習得を目指します。また日常よく使われる口語表現などを具体的なシチュエーションを通して学び、スペイン語圏で安心して生活できるコミュニケーション能力習得を目指します。また語学学習を通して日本とスペイン語圏の生活・風習に関する相違点を考察し多文化に対する理解を深めます。随時スペイン・ラテンポップスや話題の映画なども紹介していきます。

履修上の留意点

レベルが上がれば上がるほど、文法や語彙習得するためには多大な時間と努力が必要です。自ら楽しみながら勉強するコツを見つけましょう。

成績評価の方法

毎回の授業参加や演習課題そして各期末の達成度チェックによります。

教科書

未定

科目名	スペイン語Ⅱ（選）	開講	通年	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	おきの まさし 荻野 雅司				

講義のねらい

スペイン語Ⅰで学習したものを更に広く深く学ぶ事で、実際に使えるスペイン語を習得することを第一の目的とします。さらに、学期が終る頃には、通常のスペイン語Ⅱの一段上のレベルが身に付いている事を狙いとします。

講義の内容・授業スケジュール

上記の目的を達成するために、一方でスペイン語Ⅰで得た知識を今一度リフレッシュしながら、新しい領域に進んでいきます。この過程では教科書以外にテープ、ビデオ、更に広くスペイン文学作品の抜粋を含めた多様なプリント類を併用します。これにより、生きたスペイン語と同時に、例えばその片鱗だけでも、スペイン語本来の持つ美しさにも触れる様にします。

履修上の留意点

言葉の学習には継続が肝要ですから、特別な事情がある場合を除き、可能な限りコンスタントに出席出来る学生の受講を期待します。

成績評価の方法

成績評価に当たっては、テストの成績よりも、むしろ日頃の受講態度を重視します。

教科書

佐藤玖美子著「新・何を話しましょうか」
(弘学舎)

その他

出来るだけ詳しい西和辞典（例、小学館「西和中辞典」等）を用意したい。

科目名	ロシア語外国書講読	開講	通年	単位	4
配当	GM34選				
担当者名	ひろた ひでやす 廣田 英靖				

講義のねらい

1～2年で得たロシア語の基礎力のうえにさらに読解や表現力の応用を身につけることを目標とします。最新ロシア情勢をふまえた読みもの、クロコディール、ノーヴォエ・プレーミヤ等を取りあげて様々なスタイルのロシア語文に馴れるようにします。ロシア語の文章を眼で追うだけでなく、その中に書かれている内容を正しく伝達することも重要です。このためには正しいイントネーション、発音、表現が必要なことは言うまでもありません。

授業では簡単な読みものを読むだけでなく、普通に話しているロシア人の声もきき、発話の練習もしてもらいます。

成績評価の方法

試験は行わず、平常点で評価します。

教科書

プリント配布

参考書等

『露和辞典』

その他

状況に応じて、PC教場の新システムを利用し、インターネットによるロシアのメディアをリアルタイムに解説、紹介します。

科目名	時事ロシア語	開講	通年	単位	4
配当	GM34選				
担当者名	木村 <small>きむら</small> 英明 <small>ひであき</small>				

講義のねらい

1991年のソ連邦崩壊からおよそ15年を経たロシアは、2期目に入ったプーチン政権下で、豊かな天然資源を基盤に着実な経済成長を維持している。また、天然資源のみならず、人的資源に恵まれたロシアの国際政治に及ぼす影響力や、21世紀の文化創造に向けて秘めている潜在力は看過できない。この授業では、そんなロシアの動向にじかにロシア語で触れていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

ロシアの政治、経済、文化に関する平易な記事や論文を講読する予定だが、ビデオ等の映像教材も用いることにする。なるべく受講者の要望に応じたテーマを取り上げていきたい。テキストは適宜プリントの形で配布する。

履修上の留意点

各自が、授業を通じて自分の問題意識と出会えるよう、アクティブな授業参加を望む。

成績評価の方法

試験は行わず、平常点で評価する。

教科書

プリントを配布する。

科目名	上級ロシア語	開講	通年	単位	2
配当	GM34選				
担当者名	クロチコフ、Y.				

講義のねらい

会話練習。
簡単な新聞、雑誌の記事、文学書を辞書を用いて講読します。
講読した内容について自由会話を行う。
ロシア語を通して世界を広げていきましょう。

履修上の留意点

出席を重視します。

成績評価の方法

平常点で評価します。

教科書

教場にて指示します。プリント配布。
学生の要望も考慮してテキストを選びます。
ビデオ、オーディオ等を使用します。

科目名	ロシア語コミュニケーションI	開講	通年	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	安徳 ^{あんどく} ニーナ				

講義のねらい

ロシア語I、IIで学んだことを基に、日常会話からロシア文学への入門ができることを目標とします。
日常の話題等についても自由に会話ができるようになることを目指します。

講義の内容・
授業スケジュール

教科書にもとづいて会話形式に講義を進めます。

履修上の留意点

講義で行う練習問題を主として学習態度も参考にし平常点で評価します。

成績評価の方法

講義で行う練習問題を主として学習態度も参考にし平常点で評価します。

教科書

S,KHAVRONINA著「RUSSIAN AS SPEAK IT」(ナウカ社)

参考書等

必要に応じてその都度資料を配布します。

外国語

科目名	ロシア語コミュニケーションII	開講	通年	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	安徳 ^{あんどく} ニーナ				

講義のねらい

日常会話からロシア文学への入門、新聞、雑誌を読みこなせることを目標とします。また自由に会話ができるようになることをめざします。

講義の内容・
授業スケジュール

資料にもとづいて会話形式に講義を進めます。

成績評価の方法

講義で行う練習問題を主として学習態度も参考にし平常点で評価します。

教科書

新聞、雑誌の記事など必要に応じてその都度資料を配布します。(学生の希望も考慮します。)

その他

講義の状況に応じビデオ等を使用し「現在のロシアとロシア語について」説明と話もします。

科目名	ロシア語IA (選)	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	クロチコフ, Y.				

講義のねらい	<p>1) 母音、子音の基本的発音、アクセント記号(力点)の法則、イントネーションの5つの型をみっちりやります。</p> <p>2) かんたんな挨拶の表現、日常つかわれるロシア語の独特な表現(ボディークラジ)を含む)を身につけます。</p> <p>3) 平易な内容をききとりによって理解できるようにします。</p> <p>4) 基礎的な初等文法を学びます。</p> <p>5) アルファベットを活字体、筆記体で書けるようにします。</p> <p>6) 教科書を使用して、コミュニケーションに欠かせない基本的な日常会話を習得していきます。</p> <p>はじめに絵やビデオをみながら、ロシア語のやさしい単語や短文を何回も繰り返して練習します。教員が質問した事を何回もくりかえしてもらい、うけ答えをします。少し音に慣れてきたらCDを使い更に理解度を深め、語尾変化に抵抗感のなくなるように何回もゆっくり、くりかえしながら発話してもらおうようにします。授業で各人が何回も発話をさせられますが、全く恐れる必要はありません。全教員がやさしく指導してくれますので恥ずかしがらないことが大切です。</p>
--------	--

講義の内容・授業スケジュール	前期は発音やアクセントに重点をおき、後期は短文の読みや文法をくり返し学びます。
成績評価の方法	テストは行わず、平常点で評価。
教科書	『21世紀のロシア語』(大学書林) 1,800円、プリント配布。 ビデオ、オーディオ等を使用します。
参考書等	『露和辞典』

科目名	ロシア語IB (選)	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	木村 ^{きむら} ^{ひであき} 英明				

講義のねらい	ユーラシア大陸にまたがる広大なロシアは、100に及ぶ民族を抱えた歴史的、文化的に多様な国家です。ソ連崩壊後の長い混迷を経て、現在は再び経済や文化の領域で飛躍の道をたどり始めています。ロシアの人々とじかにコミュニケーションできる機会、必要性は、隣国である日本でも高まりつつあります。この授業では、言葉を通してロシアの現況、習慣や文化にも触れていきたいと思います。
講義の内容・授業スケジュール	この授業では、簡単な日常会話表現をもとにして、初歩の文法を速習します。音声面を重視して、できるだけコミュニケーションに役立つロシア語を学習します。ビデオ等の映像資料も利用したいと思います。
成績評価の方法	試験は行わず、平常点で評価します。
教科書	桑野隆『エクスプレス・ロシア語』(白水社)をもとに、必要に応じて適宜プリントを配布します。

科目名	ロシア語II (選)	開講	通年	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	クロコフ, Y.				

講義のねらい

以前に学習した発音、文法、会話の復習。
 講師が作成した練習用テキストを用いて、文法の基礎を学習しながら、同時に、会話、作文を練習します。
 ロシア語を通して世界を広げていきましょう。

成績評価の方法

平常点で評価します。授業中に時々、簡単なテストを行います。

教科書

杉山秀子他著『やさしいロシア語読本』(大学書林)

参考書等

ビデオ、オーディオ等を使用します。

科目名	朝鮮語IA (選)	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	宋 美玲 <small>ソン ミリョン</small>				

講義のねらい

朝鮮語Iの授業は、同一の教員がそれぞれ違う教科書をもって週2回の授業を行う。IAのクラスは会話中心、IBのクラスは文法中心という方針である。朝鮮語の文字と発音、語彙と文法の基礎を獲得し、朝鮮語を学び朝鮮語に触れることの楽しさを堪能することを目指す。同時に多様な資料をもって韓国を始めとする朝鮮語圏の文化との触れ合いも試みる。

講義の内容・授業スケジュール

文字と発音の基礎を学び、実用的な会話文を中心に基本的な文法および表現を学習する。基本的な学習の内容はA、Bクラス同様であるが、後期からはIAのクラスでは、口頭練習および聞き取りと書き取り、IBのクラスでは、文法事項による作文や読解などに力を注いでいく。

履修上の留意点

最初の文字と発音に慣れていくまでがその後の進歩と楽しさを決定するので、4月、5月はとりわけ熱心に取り組んでほしい。

成績評価の方法

出席・授業への参加度および、小テストや期末試験の成績により、総合的に評価する。

教科書

IA：長谷川由紀子著『コミュニケーション韓国語(会話編1)』(白帝社) 1,800円+税

参考書等

野間秀樹著『暮らしの単語集 韓国語』(ナツメ社) 1,000円

科目名	朝鮮語I B (選)	開講	通年	単位	2
配当	GM選				
担当者名	宋 美玲 <small>ソン ミリョン</small>				

講義のねらい 朝鮮語Iの授業は、同一の教員がそれぞれ違う教科書をもって週2回の授業を行う。IAのクラスは会話中心、IBのクラスは文法中心という方針である。朝鮮語の文字と発音、語彙と文法の基礎を獲得し、朝鮮語を学び朝鮮語に触れることの楽しさを堪能することを目指す。同時に多様な資料をもって韓国を始めとする朝鮮語圏の文化との触れ合いも試みる。

講義の内容・授業スケジュール 文字と発音の基礎を学び、実用的な会話文を中心に基本的な文法および表現を学習する。基本的な学習の内容はA、Bクラス同様であるが、後期からはIAのクラスでは、口頭練習および聞き取りと書き取り、IBのクラスでは、文法事項による作文や読解などに力を注いでいく。

履修上の留意点 最初の文字と発音に慣れていくまでがその後の進歩と楽しさを決定するので、4月、5月はとりわけ熱心に取り組んでほしい。

成績評価の方法 出席・授業への参加度、小テストや期末試験の成績により、総合的に評価する。

教科書 IB：長谷川由紀子著『コミュニケーション韓国語（読んで書こう1）』（白帝社）2,400円＋税

参考書等 野間秀樹著『暮らしの単語集 韓国語』（ナツメ社）1,000円

科目名	朝鮮語II (選)	開講	通年	単位	2
配当	GM234選				
担当者名	宋 美玲 <small>ソン ミリョン</small>				

講義のねらい 基本的な文法の内容をふまえ、日常生活での基礎会話が話せるようにする。プリント資料による読解・作文の練習とドラマなどの聞き取り練習を通して実践的な習得を目指す。なお、多様な映像の資料をもって韓国を始めとする朝鮮語圏の文化との触れ合いを試みる。

講義の内容・授業スケジュール テキストをもって基本的な文法及び表現に基づいた文型練習を行う。また、口頭練習を通して聞き取り及び書き取りの能力を、プリントの資料をもって作文や読解の能力を強化していく。

履修上の留意点 韓国語の文字と発音を覚え、初歩的な文法事項を学習した人を対象とするので、まったく初めての方は朝鮮語Iのほうを受講すること。受講生は、テキストの復習・予習など、積極的な授業への参加が望ましい。

成績評価の方法 授業への参加度、学習態度、小テストや期末試験の成績により、総合的に評価する。

教科書 野間秀樹著『至福の朝鮮語』（朝日出版社）2,900円

参考書等 野間秀樹著『暮らしの単語集 韓国語』（ナツメ社）1,000円
金美仙著『韓国語用言 活用と用言』（三修社）2,500円＋税

4. 保 健 体 育 科 目

保健体育科目の目標

本学の『保健体育科目』は、総合的人間性の形成を目指し以下の点に留意して開設されています。

人間がひととして生きていくうえで、自己の身体について知り、理解を深めていくことは重要なことであり、健康の増進や、体力向上のための基本的な知識や習慣を、生涯を通じて知的・身体的遺産として獲得することは、あらゆる人間活動を支える基盤であります。スポーツは、単に楽しみとしてではなく、健康や体力づくりの手段として、また、身体を認識する手段としても重要であると考えられます。本学の『保健体育科目』は、様々なスポーツ種目を展開し、その種目の特性に沿った活動や経験を通して、生涯を通じて健康の増進や体力の向上を図ると共に、スポーツを享受する能力を高め、ゆとりある人間社会の形成を実現する能力を学生自らが考え獲得することを目標としています。

さらに、人間疎外条件の多い現代社会において、運動実践の過程で習得される公正、協調、克己、決断、集中などのスポーツの本質的要素であるパーソナリティを共通の体験を通して得ることで、学生時代でなければ得られない人間関係を構築し、社会性を養い、人間愛豊かな人間を形成することを目指しています。

「健康・スポーツ実習」開講種目一覧

(於：玉川校舎)

	2 時 限		4 時 限	
金 曜 日	※佐 藤	ジョギング	※秋 田	サッカー
	田 中	テニス	山 口	室内球技
	山 口	室内球技	森 本	ゴルフ
	森 本	ゴルフ	村 松	卓球
	末 次	空手道	田 中	テニス

※は、科目の主担当者

4. 保健体育科目

《選択科目》

科目名	曜日・時限	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
健康・スポーツ実習 (ジョギング)	金 2	GM1必	通年	2	佐藤 政之	217
健康・スポーツ実習 (ゴルフ)	金 2	GM1必	通年	2	森本 葵	218
健康・スポーツ実習 (テニス)	金 2	GM1必	通年	2	田中 佳孝	219
健康・スポーツ実習 (室内球技)	金 2	GM1必	通年	2	山口 良博	220
健康・スポーツ実習 (空手道)	金 2	GM1必	通年	2	末次 美樹	221
健康・スポーツ実習 (サッカー)	金 4	GM1必	通年	2	秋田 浩一	222
健康・スポーツ実習 (室内球技)	金 4	GM1必	通年	2	山口 良博	223
健康・スポーツ実習 (ゴルフ)	金 4	GM1必	通年	2	森本 葵	224
健康・スポーツ実習 (卓球)	金 4	GM1必	通年	2	村松 誠	225
健康・スポーツ実習 (テニス)	金 4	GM1必	通年	2	田中 佳孝	226
健康・スポーツ実習 〔再クラス〕(室内球技)	月 2	禅仏国英地文環境歴日外考社 福心営A放GM234年	通年	2	三幣 晴三	227
健康・スポーツ実習 〔再クラス〕(室内球技)	月 3	禅仏国英地文環境歴日外考社 福心営A放GM234年	通年	2	三幣 晴三	227
健康・スポーツ実習 〔再クラス〕(室内球技)	月 4	禅仏国英地文環境歴日外考社 福心営A放GM234年	通年	2	三幣 晴三	227
健康・スポーツ実習 〔再クラス〕(室内球技)	火 3	禅仏国英地文環境歴日外考社 福心営A放GM234年	通年	2	田中 佳孝	228
健康・スポーツ実習 〔再クラス〕(室内球技)	水 4	禅仏国英地文環境歴日外考社 福心営A放GM234年	通年	2	田中 佳孝	228
健康・スポーツ実習 〔再クラス〕(トレーニング)	特 4	禅仏国英地文環境歴日外考社 福心営A放GM234年	集中授業	2	秋田 浩一	229
健康・スポーツ実習 〔再クラス〕(太極拳)	特 4	禅仏国英地文環境歴日外考社 福心営A放GM234年	集中授業	2	大石 武士	230
健康・スポーツ実習 〔再クラス〕(卓球)	特 4	禅仏国英地文環境歴日外考社 福心営A放GM234年	集中授業	2	村松 誠	231
健康・スポーツ実習 〔再クラス〕(室内球技)	特 4	禅仏国英地文環境歴日外考社 福心営A放GM234年	集中授業	2	山口 良博	232
健康・スポーツ実習 〔再クラス〕(卓球)	特 4	禅仏国英地文環境歴日外考社 福心営A放GM234年	集中授業	2	鈴木 淳平	233

健康・スポーツ実習 〔再クラス〕(ソフトボール)	特4	禅仏国英地文環境歴日外考社 福心営A放GM234年	集中授業	2	高橋 俊介	234
健康・スポーツ実習 〔再クラス〕(トレーニング & 太極拳)	特4	禅仏国英地文環境歴日外考社 福心営A放GM234年	集中授業	2	光永 吉輝	235
健康・スポーツ実習 〔再クラス〕(室内球技)	特4	禅仏国英地文環境歴日外考社 福心営A放GM234年	集中授業	2	村松 誠	236

科目名	健康・スポーツ実習（ジョギング）	開講	通年	単位	2
配当	GM1必				
担当者名	佐藤 政之 <small>さとう まさゆき</small>				

講義のねらい

健康、体力の維持増進を目的として行なわれる走運動、それがジョギングである。普及し始めて約25年位になる比較的新しい種目でもある。健康作りの運動はひとりひとりの体力に応じた運動処方が必要であり、指導者任せのトレーニングにすることなく、その処方を自分自身の手によって立案し、安全に実施することのできる能力を高めることを学習目的とする。実際の内容については、エクササイズ・ウォーキング（速歩）によってジョギングに必要な技術と体力を高めながら、30～60分程度のジョギングを実施することとする。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 時限目：心拍数測定・諸注意・体重測定
- 2 時限目：エクササイズ・ウォーキング（速歩）
- 3 時限目：〃
- 4 時限目：〃
- 5 時限目：ジョギング（時間走、距離走、初歩のインターバルランニング）
- 6 時限目：〃
- 7 時限目：〃
- 8 時限目：12分間走
- 9 時限目：ジョギング（前半より幾分高度な時間走、距離走、初歩のインターバルランニング、野外走、クロスカントリー）
- 10 時限目：〃
- 11 時限目：〃
- 12 時限目：〃
- 13 時限目：〃
- 14 時限目：20分間走
- 15 時限目：まとめ

履修上の留意点

事前にメディカルチェック（心電図、負荷心電図、その他）を受けることが望ましいが、体調を整えて受講とする。（食事をとること、睡眠時間の充分なこと）ジョギングによって相当量の発汗を伴うため着替えの用意が必要である。

成績評価の方法

平常点など

その他

雨天時は走のための補強トレーニング

科目名	健康・スポーツ実習（ゴルフ）	開講	通年	単位	2
配当	GM1必				
担当者名	もりもと まもる 森本 葵				

講義のねらい

ゴルフゲームは、現在将来ともにより豊かな余暇時間体験を持つことのできる活動として最良の生涯スポーツである。
生涯スポーツとして、ゴルフのラウンドを楽しくプレーすることのできる基礎的知識、技術、及び態度を身につける。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 時限目：オリエンテーション
- 2 時限目：グリップ、アドレス、スイング
- 3 時限目：打撃練習（7・9アイアン）
- 4 時限目：打撃練習（7・9アイアン）・ビデオによるスイング理論の解説
- 5 時限目：打撃練習（5 アイアン）
- 6 時限目：打撃練習（5 アイアン）
- 7 時限目：打撃練習（W1・W3）
- 8 時限目：打撃練習（W1・W3）
- 9 時限目：打撃練習（アプローチ）
- 10 時限目：打撃練習（アプローチ）
- 11 時限目：打撃練習（パッティング）・ルールの解説
- 12 時限目：打撃練習（パッティング）・ラウンドにおけるマナー、エチケットの解説
- 13 時限目：ラウンド（模擬コース）
- 14 時限目：ラウンド（模擬コース）
- 15 時限目：実技テスト

履修上の留意点

1. 服装は、一般的な運動服装とする。
2. シューズは、運動靴とする。
3. ゴルフ用グローブを各自用意すること。

成績評価の方法

授業に出席して実習することが重要である。したがって成績は、出席点70%・実技点（実技テストを含む）30%の割合で評価する。

そ の 他

雨天時及び強風などの場合は、教場を変更する場合がありますので掲示板を確認すること。

科目名	健康・スポーツ実習（テニス）	開講	通年	単位	2
配当	GM1必				
担当者名	<small>たなか よしたか</small> 田中 佳孝				

講義のねらい

テニスは、華やかなプロスポーツから、ファミリーテニスまで様々な技術レベルによって楽しむことができ、我が国の生涯スポーツとして完全に定着したスポーツの1つである。本実習においては、フォアハンド・バックハンドグラウンドストローク、ボレー、サービス、スマッシュなど基本的なテニスの技術の習得と、ゲームに関するルール、マナーを学ぶことによって生涯を通じて楽しくテニスが行なえる能力と態度を養うことを目標にしている。

また、テニスを教材にスポーツを楽しむという活動や経験を通してスポーツのもつ価値を実感し、自分の能力や技術に合わせた楽しみ方を身に付け、自律的にスポーツを生活化する態度を養うことを目的とする。

さらに、テニスという共通の体験を通して大学時代でなければ得られない人間関係を作り、社会性を養い、総合的な人間形成を目指す。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 時限目：オリエンテーション、授業の目標の説明
- 2 時限目：ラケットティング、ボレー、ミニストローク
- 3 時限目：フォアハンドグラウンドストロークの基本技術
- 4 時限目：バックハンドグラウンドストロークの基本技術
- 5 時限目：フォアハンドボレー、バックハンドボレー
- 6 時限目：スマッシュ、サーブの基本技術
- 7 時限目：ストロークの応用とミニゲーム
- 8 時限目：半面でのシングルスゲーム（ゲームを楽しむ）
- 9 時限目：半面でのシングルスゲーム（戦術と応用）
- 10 時限目：半面でのシングルスゲーム（戦術と応用）
- 11 時限目：ダブルスのルールとポジショニング
- 12 時限目：ダブルスゲームを楽しむ
- 13 時限目：より高度なダブルスのゲームへ
- 14 時限目：トーナメント形式の試合の進め方
- 15 時限目：まとめ

履修上の留意点

1. 服装は一般的な運動服装とする。
2. テニスシューズを必ず用意すること。
3. ラケットは貸与する。

成績評価の方法

出席状況、授業参加態度から総合的に判断する。

その他

雨天の場合は、テニスの歴史、技術の科学的な解説、ビデオによる戦術の解説および分析などの講義を行なうか、雨天体操場で基礎技術の練習を行なう。

科目名	健康・スポーツ実習（室内球技）	開講	通年	単位	2
配当	GM1必				
担当者名	山口 良博 <small>やまぐち よしひろ</small>				

講義のねらい

バスケットボール、バレーボール、バドミントンを教材とし、それぞれの競技を楽しむための基礎技術やルールを学びながら、健康・体力を維持し、自己の身体への認識を深め、ゲームを通じて、これらの競技を理解すると共に、豊かな人間関係づくりを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 時限目：オリエンテーション、授業内容の説明
（バスケットボール）
- 2 時限目：ボールハンドリング、シュート、ゲーム
- 3 時限目：ハーフコート 2 対 1、ゲーム
- 4 時限目：ハーフコート 3 対 3、ゲーム
- 5 時限目：ゲーム（リーグ戦）
- 6 時限目：ゲーム（リーグ戦）
（バレーボール）
- 7 時限目：オーバー・アンダーパス、ゲーム
- 8 時限目：レシーブ・スパイクの基本、ゲーム
- 9 時限目：サーブ・レシーブ・スパイクの応用、ゲーム
- 10 時限目：ゲーム（リーグ戦）
- 11 時限目：ゲーム（リーグ戦）
（バドミントン）
- 12 時限目：ラケットティング、クリアー、スマッシュ、シングルのゲーム
- 13 時限目：ドライブ、ヘアピン、シングルのゲーム
- 14 時限目：サービス、ストロークの応用、ダブルスのゲーム
- 15 時限目：ダブルスのゲーム

履修上の留意点

服装は、一般的な運動服装とする。体育館シューズを用意すること。

成績評価の方法

出席点（70点）、実技点（20点）、態度点（10点）、60点以上を合格とする。

科目名	健康・スポーツ実習（空手道）	開講	通年	単位	2
配当	GM1必				
担当者名	末次 ^{すえつぐ} 美樹 ^{みき}				

講義のねらい

空手道は身体各部を左右均等に動かし、呼吸運動を伴うことで内臓器官の機能を向上させる優れた健康法である。武器を用いず身体のあらゆる部位を有効に駆使して行う護身術でもある。空手道を通して、礼節を重んずる精神を養成し身体のバランスを調整し美しい姿勢の保持・増進を目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- 1.空手道の概要、技の説明
- 2.自然体からの突き・受け
- 3.閉足立ちからの蹴り、前屈立ちでの突き
- 4.前屈立ちからの移動基本（突き・蹴り）
- 5.移動基本（突き・蹴り・受け）、基本組手
- 6.移動基本、基本組手、形（平安初段）
- 7.形（平安初段）、基本組手、護身術
- 8.前回までの反復
- 9.技を確認しながら反復練習
- 10.反復練習
- 11.騎馬立ちから横蹴り、基本組手、平安初段
- 12.移動基本、形（平安二段）
- 13.反復練習
- 14.反復練習
- 15.反復練習、実技試験

履修上の留意点

服装は、授業用の空手道衣を着用する。

成績評価の方法

授業出席状況、授業中の態度、実技試験にて評価する。

科目名	健康・スポーツ実習（サッカー）	開講	通年	単位	2
配当	GM1必				
担当者名	あきた こういち 秋田 浩一				

講義のねらい

サッカーのゲームは、ボールを蹴ること（キック）、止めること（トラッピング）、運ぶこと（ドリブル）から成り立っている。週一回の授業で全てをマスターすることは難しいが、各々の技術の要領を知ることによって数段ボール扱いがうまくなり、ゲームもまた楽しいものになる。本授業では、毎時間基本技術とゲームを行ない、サッカーの楽しさを実感する。また、正しいルールを学び、ゲームに生かすことへの理解度を高める。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 時限目：オリエンテーション、授業内容、服装等の説明
- 2 時限目：班分け、インサイドキック、トラッピング（グランダー）
- 3 時限目：インサイドキック、練習ゲーム
- 4 時限目：浮玉のトラッピング1、リーグ戦1
- 5 時限目：インステップキック、リーグ戦2
- 6 時限目：インフロントキック、リーグ戦3
- 7 時限目：オフサイドルールの理解、リーグ戦4
- 8 時限目：浮玉のトラッピング2、リーグ戦5
- 9 時限目：基礎技術の応用練習、リーグ戦6
- 10 時限目：基礎技術の応用練習、リーグ戦7
- 11 時限目：基礎技術の応用練習、リーグ戦8
- 12 時限目：基礎技術の応用練習、リーグ戦9
- 13 時限目：基礎技術の応用練習、優勝決勝戦
- 14 時限目：基礎技術の応用練習、優勝決勝戦
- 15 時限目：まとめ

履修上の留意点

服装は、一般的な運動服装で良いが必ずアップシューズもしくはゴム底のスパイクシューズを用意すること（6本ポイントのスパイクは不可）。靴下は厚手のものがよい。

成績評価の方法

評価は出席点70点、実技点30点とする。実技点はチーム対抗リーグ戦の結果と受講態度により採点する。個人に実技テストは、行わない。

その他

雨天の場合は、室内にて他種目の運動もしくは、ルールの説明、ビデオによるプロゲームの観戦
注）運動服装は雨天でも持参すること。

科目名	健康・スポーツ実習（室内球技）	開講	通年	単位	2
配当	GM1必				
担当者名	やまぐち よしひろ 山口 良博				

講義のねらい

バスケットボール、バレーボール、バトミントンを教材とし、それぞれの競技を楽しむための基礎技術やルールを学びながら、健康・体力を維持し、自己の身体への認識を深め、ゲームを通じて、これらの競技を理解すると共に、豊かな人間関係づくりを目的とする。

講義の内容・ 授業スケジュール

- 1 時限目：オリエンテーション、授業内容の説明
（バスケットボール）
- 2 時限目：ボールハンドリング、シュート、ゲーム
- 3 時限目：ハーフコート2対1、ゲーム
- 4 時限目：ハーフコート3対3、ゲーム
- 5 時限目：ゲーム（リーグ戦）
- 6 時限目：ゲーム（リーグ戦）
（バレーボール）
- 7 時限目：オーバー・アンダーパス、ゲーム
- 8 時限目：レシーブ・スパイクの基本、ゲーム
- 9 時限目：サーブ・レシーブ・スパイクの応用、ゲーム
- 10 時限目：ゲーム（リーグ戦）
- 11 時限目：ゲーム（リーグ戦）
（バトミントン）
- 12 時限目：ラケットイング、クリアー、スマッシュ、シングルのゲーム
- 13 時限目：ドライブ、ヘアピン、シングルのゲーム
- 14 時限目：サービス、ストロークの応用、ダブルスのゲーム
- 15 時限目：ダブルスのゲーム

履修上の留意点

服装は、一般的な運動服装とする。体育館シューズを用意すること。

成績評価の方法

出席点（70点）、実技点（20点）、態度点（10点）、60点以上を合格とする。

科目名	健康・スポーツ実習（ゴルフ）	開講	通年	単位	2
配当	GM1必				
担当者名	もりもと まもる 森本 葵				

講義のねらい

ゴルフゲームは、現在将来ともにより豊かな余暇時間体験を持つことのできる活動として最良の生涯スポーツである。
生涯スポーツとして、ゴルフのラウンドを楽しくプレーすることのできる基礎的知識、技術、及び態度を身につける。

講義の内容・授業スケジュール

- 1時限目：オリエンテーション
- 2時限目：グリップ、アドレス、スイング
- 3時限目：打撃練習（7・9アイアン）
- 4時限目：打撃練習（7・9アイアン）・ビデオによるスイング理論の解説
- 5時限目：打撃練習（5 アイアン）
- 6時限目：打撃練習（5 アイアン）
- 7時限目：打撃練習（W1・W3）
- 8時限目：打撃練習（W1・W3）
- 9時限目：打撃練習（アプローチ）
- 10時限目：打撃練習（アプローチ）
- 11時限目：打撃練習（パッティング）・ルールの解説
- 12時限目：打撃練習（パッティング）・ラウンドにおけるマナー、エチケットの解説
- 13時限目：ラウンド（模擬コース）
- 14時限目：ラウンド（模擬コース）
- 15時限目：実技テスト

履修上の留意点

1. 服装は、一般的な運動服装とする。
2. シューズは、運動靴とする。
3. ゴルフ用グローブを各自用意すること。

成績評価の方法

授業に出席して実習することが重要である。したがって成績は、出席点70%・実技点（実技テストを含む）30%の割合で評価する。

そ の 他

雨天時及び強風などの場合は、教場を変更する場合がありますので掲示板を確認すること。

科目名	健康・スポーツ実習（卓球）	開講	通年	単位	2
配当	GM1必				
担当者名	むらまつ まこと 村松 誠				

講義のねらい

卓球の基礎技術を習得し、シングルス、さらにはダブルスのゲームを行うことにより、卓球の面白さを知る。また、スポーツの中で最も簡単だと言われるルールを理解し、生涯スポーツとしての基盤をつくる。

講義の内容・ 授業スケジュール

- 1 時限目：オリエンテーション、授業内容と服装等の説明
- 2 時限目：ラケットティング、ネットの張り方の学習、フォアハンドの基本形
- 3 時限目：フォアハンドドライブ、フォアハンドゲーム
- 4 時限目：フォアハンドドライブのショート、ロングの打ち方。シングルスゲーム
- 5 時限目：バックハンドショートの打ち方。バックハンドゲーム
- 6 時限目：カットの打ち方、返球の方法。カット&カット、シングルスゲーム
- 7 時限目：カット&ドライブリターン、シングルスゲーム
- 8 時限目：スマッシュ（3球目）、シングルスゲーム
- 9 時限目：シングルスゲーム
- 10 時限目：ダブルスゲームの行い方。ダブルスゲームの練習
- 11 時限目：ダブルスゲーム
- 12 時限目：ダブルスゲーム
- 13 時限目：ダブルスゲーム
- 14 時限目：ダブルスゲーム
- 15 時限目：まとめ

保健
体育

履修上の留意点

服装は、一般的な運動服装とするが、必ず体育館シューズを用意すること（土足厳禁）。土足の場合は授業を受けることはできない。

成績評価の方法

評価は出席点70点、実技点30点とする。実技点は平素のゲームの中で採点し、受講態度を加味して評価する。個人の実技テストは行なわない。

科目名	健康・スポーツ実習（テニス）	開講	通年	単位	2
配当	GM1必				
担当者名	たなか よしたか 田中 佳孝				

講義のねらい

テニスは、華やかなプロスポーツから、ファミリーテニスまで様々な技術レベルによって楽しむことができ、我が国の生涯スポーツとして完全に定着したスポーツの1つである。本実習においては、フォアハンド・バックハンドグラウンドストローク、ボレー、サービス、スマッシュなど基本的なテニスの技術の習得と、ゲームに関するルール、マナーを学ぶことによって生涯を通じて楽しくテニスが行なえる能力と態度を養うことを目標にしている。

また、テニスを教材にスポーツを楽しむという活動や経験を通してスポーツのもつ価値を実感し、自分の能力や技術に合わせた楽しみ方を身に付け、自律的にスポーツを生活化する態度を養うことを目的とする。

さらに、テニスという共通の体験を通して大学時代でなければ得られない人間関係を作り、社会性を養い、総合的な人間形成を目指す。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 時限目：オリエンテーション、授業の目標の説明
- 2 時限目：ラケットティング、ボレー、ミニストローク
- 3 時限目：フォアハンドグラウンドストロークの基本技術
- 4 時限目：バックハンドグラウンドストロークの基本技術
- 5 時限目：フォアハンドボレー、バックハンドボレー
- 6 時限目：スマッシュ、サーブの基本技術
- 7 時限目：ストロークの応用とミニゲーム
- 8 時限目：半面でのシングルスゲーム（ゲームを楽しむ）
- 9 時限目：半面でのシングルスゲーム（戦術と応用）
- 10 時限目：半面でのシングルスゲーム（戦術と応用）
- 11 時限目：ダブルスのルールとポジショニング
- 12 時限目：ダブルスゲームを楽しむ
- 13 時限目：より高度なダブルスのゲームへ
- 14 時限目：トーナメント形式の試合の進め方
- 15 時限目：まとめ

履修上の留意点

1. 服装は一般的な運動服装とする。
2. テニスシューズを必ず用意すること。
3. ラケットは貸与する。

成績評価の方法

出席状況、授業参加態度から総合的に判断する。

そ の 他

雨天の場合は、テニスの歴史、技術の科学的な解説、ビデオによる戦術の解説および分析などの講義を行なうか、雨天体操場で基礎技術の練習を行なう。

科目名	健康・スポーツ実習〔再クラス〕(室内球技)	開講	通年	単位	2
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心営A放GM234年				
担当者名	三幣 晴三				

講義のねらい

室内で行なう球技(卓球、バドミントン、フットサル、バスケットボール)の基本技能の習得をベースにして、各種目ともゲーム中心の授業を展開する。いずれの種目とも、将来さまざまな場で「生涯スポーツ」として楽しむことができる種目である。したがって、それぞれの種目の基本的な練習方法や楽しいゲームの展開のしかたについての理解も深めたい。

講義の内容・授業スケジュール

【前期】

- 1時限目：オリエンテーション、前期授業内容の説明
- 2時限目：卓球(ラケットの握り方、フットワーク、ミニゲーム)
- 3時限目：〃(サーブとリターン、ルールの解説、シングルスゲーム)
- 4時限目：〃(シングルスゲーム)
- 5時限目：〃(シングルスゲーム)
- 6時限目：〃(ダブルスゲームの進め方、ゲーム)
- 7時限目：〃(ダブルスゲーム)
- 8時限目：〃(まとめと評価)
- 9時限目：バドミントン(ラケットの握り方、フットワーク、半面コートでのミニゲーム)
- 10時限目：〃(ストローク、ドロップショット、スマッシュの練習、シングルス)
- 11時限目：〃(ルール解説、シングルスゲーム)
- 12時限目：〃(ダブルスゲームの進め方、ダブルスゲーム)
- 13時限目：〃(ダブルスゲーム)
- 14時限目：〃(ダブルスゲーム)
- 15時限目：〃(まとめと評価)

【後期】

- 1時限目：オリエンテーション、後期授業内容の説明
- 2時限目：フットサル(ルール説明、キックの基本Ⅰ、キーパーなしゲーム)
- 3時限目：〃(キックの基本Ⅱ、キーパーなしゲーム)
- 4時限目：〃(ボールコントロールの基本Ⅰ、ゲーム)
- 5時限目：〃(ボールコントロールの基本Ⅱ、ゲーム)
- 6時限目：〃(ゲーム)
- 7時限目：〃(ゲーム)
- 8時限目：〃(ゲーム)
- 9時限目：バスケットボール(パス、ドリブル、ショットの基本技術)
- 10時限目：〃(レイアップショット、ジャンプショットの技術、ルール解説)
- 11時限目：〃(ファウルの種類と罰則の解説、ゲーム)
- 12時限目：〃(ゲーム)
- 13時限目：〃(ゲーム)
- 14時限目：〃(ゲーム)
- 15時限目：〃(まとめと評価)

保健
体育

履修上の留意点

遅刻は認めない。実技は、本校第1体育館で行なう。一般的なスポーツウェア、ならびに室内球技に適した体育館シューズを用意する。なお、卓球、バドミントンで使うラケットは、貸与する。

成績評価の方法

基本的な練習方法や楽しいゲームの展開のしかたについて理解するためには、毎回授業に出席して、実技を实践することが重要である。したがって成績は、出席点70%、実技点30%の割合で評価する。実技点は、各種目における個人別の技能、およびゲームの結果を加味して評価する。

そ の 他

曜日・時限によって定員がちがうので注意、『履修要項(学習ガイドブック)』を確認の上履修すること。

科目名	健康・スポーツ実習〔再クラス〕(室内球技)	開講	通年	単位	2
担当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心営A放GM234年				
担当者名	たなか よしたか 田中 佳孝				

講義のねらい

室内で行なう球技(卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール)の基本技能の習得をベースにして、各種目ともゲーム中心の授業を展開する。いずれの種目とも、将来さまざまな場で「生涯スポーツ」として楽しむことができる種目である。したがって、それぞれの種目の基本的な練習方法や楽しいゲームの展開のしかたについての理解も深めたい。

講義の内容・授業スケジュール

【前期】

- 1時限目：オリエンテーション、前期授業内容の説明
- 2時限目：卓 球 (ラケットの握り方、フットワーク、ミニゲーム)
- 3時限目： 〃 (サービスとリターン、ルールの解説、シングルスゲーム)
- 4時限目： 〃 (シングルスゲーム)
- 5時限目： 〃 (シングルスゲーム)
- 6時限目： 〃 (ダブルスゲームの進め方、ゲーム)
- 7時限目： 〃 (ダブルスゲーム)
- 8時限目： 〃 (まとめと評価)
- 9時限目：フットサル (ルール説明、キックの基本I、キーパーなしゲーム)
- 10時限目： 〃 (キックの基本II、キーパーなしゲーム)
- 11時限目： 〃 (ボールコントロールの基本I、ゲーム)
- 12時限目： 〃 (ボールコントロールの基本II、ゲーム)
- 13時限目： 〃 (ゲーム)
- 14時限目： 〃 (ゲーム)
- 15時限目： 〃 (ゲーム)

【後期】

- 1時限目：オリエンテーション、後期授業内容の説明
- 2時限目：バレーボール (パスとサーブの技術、ミニゲーム)
- 3時限目： 〃 (ソフトバレーの概要とルール)
- 4時限目： 〃 (フォーメーション、ゲーム)
- 5時限目： 〃 (ゲーム)
- 6時限目： 〃 (ゲーム)
- 7時限目： 〃 (ゲーム)
- 8時限目： 〃 (まとめと評価)
- 9時限目：バスケットボール (パス、ドリブル、ショットの基本技術)
- 10時限目： 〃 (レイアップショット、ジャンプショットの技術、ルール解説)
- 11時限目： 〃 (ファウルの種類と罰則の解説、ゲーム)
- 12時限目： 〃 (ゲーム)
- 13時限目： 〃 (ゲーム)
- 14時限目： 〃 (ゲーム)
- 15時限目： 〃 (まとめと評価)

履修上の留意点

実技は、本校第1体育館で行なう。一般的なスポーツウェア、ならびに室内球技に適した体育館シューズを用意する。なお、卓球で使うラケットは、貸与する。

成績評価の方法

基本的な練習方法や楽しいゲームの展開のしかたについて理解するためには、毎回授業に出席して、実技を实践することが重要である。したがって成績は、出席点70%、実技点30%の割合で評価する。実技点は、各種目における個人別の技能、およびゲームの結果を加味して評価する。成績評価を受ける為には2/3以上の出席日数が必要。

そ の 他

曜日・時限によって定員がちがうので注意、『履修要項(学習ガイドブック)』を確認の上履修。

科目名	健康・スポーツ実習〔再クラス〕(トレーニング)	開講	集中授業	単位	2
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心営A放GM234年				
担当者名	あきた こういち 秋田 浩一				

講義のねらい

基礎的な体力要素がある筋力、持久力、柔軟性、敏捷性を高めることを目的にして、さまざまなトレーニングを実践する。また、自分の体力の特徴を知ることによって、それに応じたトレーニングの方法を学ぶことを主なねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

- 1日目 午前：オリエンテーション、体力測定
- 1日目 午後：カイザーカムⅡの使用方法的説明、最大筋力の測定
- 2日目 午前：ストレッチ体操、トレーニング
- 2日目 午後：トレーニング
- 3日目 午前：ストレッチ体操、マッサージ法
- 3日目 午後：トレーニング
- 4日目 午前：ストレッチ体操、トレーニング
- 4日目 午後：12分間走
- 5日目 午前：ストレッチ体操、トレーニング
- 5日目 午後：体力測定、まとめ

履修上の留意点

服装は、一般的なスポーツウェアを用意すること。実技は、おもに体育館地下のトレーニング場で行なうので、体育館シューズを用意すること。

成績評価の方法

出席状況、トレーニング内容、授業態度を総合的に判断して評価する。

その他

再クラス 集中授業コース実施について

- (1) 実施期間：(前期) 7月17日(火)～21日(土)、(後期) 1月5日(土)～9日(水)
7月17日及び1月5日更衣の上、午前10時に玉川体育館集合
- (2) 実施時間：10:00～12:00、13:00～15:30
- (3) 実施場所：玉川体育館
- (4) 申込方法：「生涯スポーツ実習」と同様。ただし、教務部への『履修届(事前登録)』は集中授業コース用に設定された特・4時限で提出すること。
- (5) 備考：再クラスの集中授業は、前期・後期を履修して2単位である。

科目名	健康・スポーツ実習〔再クラス〕(太極拳)	開講	集中授業	単位	2
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心営A放GM234年				
担当者名	おおいし たくし 大石 武士				

講義のねらい

太極拳は、中国古来の武術であるが、硬拳のように筋骨を鍛錬するものではなく、腰を軸に手足のバランスを取り、呼吸法にのっとり、一定の早さを保ち、ゆっくりとした柔軟な動作が要求される。このしなやかな動作は日本の能の所作に似ており、繰り返し稽古することによって内面の気、優美さ、心の静けさを養い、将来、生涯スポーツの一つとしての基礎をつくる。

講義の内容・授業スケジュール

- 1日目午前：オリエンテーション
：重心の移動・腹式呼吸運動
- 1日目午後：第一組 起勢・左右野馬分ゾン・白鶴亮翅
2日目午前：第二組 左右膝拗歩・手揮琵琶・左右倒卷肱
2日目午後：第三組 左攢雀尾・右攢雀尾
3日目午前：第四組 単鞭・雲手・単鞭
3日目午後：第五組 高探馬・右ドン脚・双峰貫耳・轉身左ドン脚
4日目午前：第六組 左下勢独立・右下勢独立
4日目午後：第七組 左右穿梭・海底針・閃通臂
5日目午前：第八組 轉身撒ラン捶・如封似閉・十字手・収勢
5日目午後：総合・テスト

保健
体育

履修上の留意点

服装：一般的運動服装で身軽に動きやすいものがよい。シューズ・その他のものは不用。

成績評価の方法

出席率70%、総合評価30%で行う。

その他

- 再クラス 集中授業コース実施について
- (1) 実施期間：(前期) 7月17日(火)～21日(土)、(後期) 1月5日(土)～9日(水)
7月17日及び1月5日は、更衣の上、午前10時に玉川校舎第1体育館に集合。
- (2) 実施時間：10:00～12:00、13:00～15:30
- (3) 実施場所：玉川校舎第1体育館
- (4) 申込方法：「生涯スポーツ実習」と同様。ただし、教務部への『履修届(事前登録)』は集中授業コース用に設定された特・4時限で提出すること。
- (5) 備考：再クラスの集中授業は、前期・後期を履修して2単位である。

科目名	健康・スポーツ実習〔再クラス〕(卓球)	開講	集中授業	単位	2
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心営A放GM234年				
担当者名	村松 <small>むらまつ まこと</small> 誠				

講義のねらい

卓球の基礎技術を習得し、シングルス、ダブルスのゲームを行うことにより、卓球の面白さを知る。また、スポーツの中で最も簡単だと言われるルールを理解し、生涯スポーツとしての基盤をつくる。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 時限目：オリエンテーション、授業内容と服装等の説明
- 2 時限目：ラケットティング、フォアハンドの基本形
- 3 時限目：フォアハンドドライブ、フォアハンドゲーム
- 4 時限目：フォアハンドドライブのショート、ロングの打ち方 シングルスゲーム
- 5 時限目：バックハンドショートの打ち方、バックハンドゲーム
- 6 時限目：カットの打ち方、カット&カット、シングルスゲーム
- 7 時限目：カット&ドライブリターン、シングルスゲーム
- 8 時限目：スマッシュ、シングルスゲーム
- 9 時限目：シングルスゲーム
- 10 時限目：ダブルスゲームの進め方、ダブルスゲームの練習
- 11 時限目：ダブルスゲーム
- 12 時限目：ダブルスゲーム
- 13 時限目：ダブルスゲーム
- 14 時限目：ダブルスゲーム
- 15 時限目：まとめ

履修上の留意点

服装は、一般的な運動服装とするが、必ず体育館シューズを用意すること（土足厳禁）土足の場合は授業を受けることができない。

成績評価の方法

評価は出席点70点、実技点30点とする。実技点は平素のゲームの中で採点し、受講態度を加味して評価する。個人の実技テストは行なわない。

そ の 他

30分以上の遅刻は認めない。

再クラス 集中授業コース実施について

- (1) 実施期間：(前期) 7月17日(火)～21日(土)、(後期) 1月5日(土)～9日(水)
7月17日及び1月5日は、更衣の上、午前10時に玉川校舎第1体育館に集合。
- (2) 実施時間：10:00～12:00、13:00～15:30
- (3) 実施場所：玉川校舎第1体育館
- (4) 申込方法：「生涯スポーツ実習」と同様。ただし、教務部への『履修届(事前登録)』は集中授業コース用に設定された特・4時限で提出すること。
- (5) 備 考：再クラスの集中授業は、前期・後期を履修して2単位である。

科目名	健康・スポーツ実習〔再クラス〕(室内球技)	開講	集中授業	単位	2
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心営A放GM234年				
担当者名	やまぐち よしひろ 山口 良博				

講義のねらい

室内で行なわれるボールゲームを教材とし、そこで用いられる技術・戦術を体得し、同時に体力の増強を図る。本講義では、基本的に毎時間ゲームを行い、身体運動の楽しさを感じつつ、チームの勝利獲得に必要な積極的な協力関係の構築を主なねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

バレーボール・バスケットボール・フットサルといった、室内でのボールゲーム（主にチームスポーツ）を行う。技術・戦術の基礎を学んだ後は主にゲームを通じて技術の習熟、体力の向上を図る。

1時限目はオリエンテーションを行い、スケジュール（どの種目をどの程度やるか等）は受講学生と相談して決定する。

履修上の留意点

スポーツウェア（上下）、スポーツシューズ（室内用として履き分ける）の着用を厳守すること。

成績評価の方法

出欠席の状況、運動への積極性、授業態度、技術・体力などから総合的に評価する。

そ の 他

再クラス 集中授業コース実施について

- (1) 実施期間：(前期) 7月17日(火)～21日(土)、(後期) 1月5日(土)～9日(水)
7月17日及び1月5日更衣の上、午前10時に玉川体育館集合
- (2) 実施時間：10:00～12:00、13:00～15:30
- (3) 実施場所：玉川体育館
- (4) 申込方法：「生涯スポーツ実習」と同様。ただし、教務部への『履修届(事前登録)』は集中授業コース用に設定された特・4時限で提出すること。
- (5) 備考：再クラスの集中授業は、前期・後期を履修して2単位である。

科目名	健康・スポーツ実習〔再クラス〕(卓球)	開講	集中授業	単位	2
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心営A放GM234年				
担当者名	鈴木 淳平 <small>すずき じゅんぺい</small>				

講義のねらい

1. 卓球を教材に用い、身体運動の実践のなかで、その楽しさや重要性を理解する。技術やルール等を習得し、生涯スポーツとして取り組むことができる基本的技能を身につける。
2. 技術練習やゲームを行う中で、その運営を仲間と協力して行っていく社会性・協調性を養う。

講義の内容・授業スケジュール

- 1日目：ラケットの持ち方、スイングとフットワーク、シングルス・ゲーム
- 2日目：サーブとレシーブ、ラリー、ダブルス・ゲーム
- 3日目：ドライブ(フォアハンド・バックハンド)、スマッシュ、ゲーム
- 4日目：総合練習、ゲーム、リーグ戦
- 5日目：総合練習、ゲーム、リーグ戦

履修上の留意点

スポーツウェア(上下)、室内用のシューズ着用で受講する。

成績評価の方法

出席状況、運動への積極性、受講態度、技術・体力などから総合的に評価する。

そ の 他

- 再クラス 集中授業コース実施について
- (1) 実施期間：(前期)7月17日(火)～21日(土)、(後期)1月5日(土)～9日(水)
7月17日及び1月5日は、更衣の上、午前10時に玉川校舎第1体育館に集合。
 - (2) 実施時間：10:00～12:00、13:00～15:30
 - (3) 実施場所：玉川校舎第1体育館
 - (4) 申込方法：「生涯スポーツ実習」と同様。ただし、教務部への『履修届(事前登録)』は集中授業コース用に設定された特・4時限で提出すること。
 - (5) 備 考：再クラスの集中授業は、前期・後期を履修して2単位である。

科目名	健康・スポーツ実習〔再クラス〕(ソフトボール)	開講	集中授業	単位	2
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心営A放GM234年				
担当者名	高橋 俊介 <small>たかはし しゅんすけ</small>				

講義のねらい

補強運動、練習及びゲームなどを積極的に行い、体力や運動能力を高める。技術やルールを習得し、ソフトボールのゲームを行う基本的能力を身につける。また、ソフトボールの楽しさをゲームや技術の習得を通して体験する。さらに、クラスの仲間と協力して練習やゲームを行う中で社会的態度を養う。

講義の内容・授業スケジュール

- 第1日目
午前：チーム分け、基本練習（キャッチボール、フライ・ゴロの補球、トスパッティング、走塁練習、その他）
午後：同上
- 第2日目
午前：ゲーム
午後： ”
- 第3日目
午前： ”
午後：審判法・ゲーム
- 第4日目
午前： ”
午後： ”
- 第5日目
午前： ”
午後： ”

履修上の留意点

一般的体育服装を用意すること。野球用ユニホームでも良い。運動靴は必ず用意すること。スパイクシューズは認めない。用具は貸与する。

成績評価の方法

出席を重視し、総合的に評価する。

そ の 他

- 再クラス 集中授業コース実施について
- (1) 実施期間：(前期) 7月17日(火)～21日(土)、(後期) 1月5日(土)～9日(水)
7月17日及び1月5日更衣の上、午前10時に玉川体育館集合
 - (2) 実施時間：10:00～12:00、13:00～15:30
 - (3) 実施場所：玉川体育館
 - (4) 申込方法：「生涯スポーツ実習」と同様。ただし、教務部への『履修届(事前登録)』は集中授業コース用に設定された特・4時限で提出すること。
 - (5) 備 考：再クラスの集中授業は、前期・後期を履修して2単位である。

科目名	健康・スポーツ実習〔再クラス〕(トレーニング&太極拳)	開講	集中授業	単位	2
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心宮A放GM234年				
担当者名	みつなが よしひろ 光永 吉輝				

講義のねらい

この講義では午前には、体力の基礎である、筋力、持久力、柔軟性をトレーニングの授業で学び、午後の講義では、バランス、集中力、呼吸法によるリラクセスの方法を太極拳で学ぶことをねらいとしている。

簡化太極拳は、簡単なものから複雑なものへ、やさしいものから難しいものへと構成されていて、学びやすく、覚えやすいようになっている、全コース八組(24式)あって、練習では全コース通してやってもいいし、あるいは一組が2~4式となっているが、ここでは、第一組から第四組(11式)までを学ぶねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

- 1日目
午前：オリエンテーション・体力測定
午後：オリエンテーション・基本動作・第一組(3式)
- 2日目
午前：カイザーカムⅡの使用説明、最大筋力測定
午後：第一組、第二組(3式)
- 3日目
午前：トレーニング
午後：第一組、第二組、第三組(2式)
- 4日目
午前：トレーニング
午後：第一組、第二組、第三組、第四組(3式)、総合
- 5日目
午前：体力測定
午後：総合(1~11式)、テスト

履修上の留意点

服装は、トレーニングウェア。実技は、体育館地下一階トレーニング場で行うので、体育館シューズを用意すること。

成績評価の方法

出席状況、トレーニング内容、授業態度を総合的に判断して評価する。
尚、太極拳は最終日に演武テストを行う。

その他

再クラス 集中授業コース実施について

- (1) 実施期間：(前期)7月17日(火)~21日(土)、(後期)1月5日(土)~9日(水)
7月17日及び1月5日更衣の上、午前10時に玉川体育館集合
- (2) 実施時間：10:00~12:00、13:00~15:30
- (3) 実施場所：玉川体育館
- (4) 申込方法：「生涯スポーツ実習」と同様。ただし、教務部への『履修届(事前登録)』は集中授業コース用に設定された特・4時限で提出すること。
- (5) 備考：再クラスの集中授業は、前期・後期を履修して2単位である。

科目名	健康・スポーツ実習〔再クラス〕(室内球技)	開講	集中授業	単位	2
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心営A放GM234年				
担当者名	ひかまつ まこと 村松 誠				

講義のねらい

バスケットボール、バレーボール、バドミントンを教材とし、それぞれの競技を楽しむための基礎技術やルールを学びながら、健康・体力を維持し、自己の身体への認識を深め、ゲームを通じて、これらの競技を理解すると共に、豊かな人間関係づくりを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- 1時限目：オリエンテーション、授業内容の説明
(バスケットボール)
- 2時限目：ボールハンドリング、ドリブルシュート、グループ分け
- 3時限目：ハーフコート2対1、ゲーム(1次リーグ)
- 4時限目：ハーフコート3対2、ゲーム(1次リーグ)
- 5時限目：ハーフコート4対3、ゲーム(1・2次リーグ)
- 6時限目：ハーフコート3対3、ゲーム(2次リーグ)
- 7時限目：ゲーム(2次リーグ)
(バレーボール)
- 8時限目：オーバー・アンダーパス、ゲーム(リーグ戦)
- 9時限目：レシーブ・スパイクの基本、ゲーム(リーグ戦)
- 10時限目：サーブ・レシーブ・スパイクの応用、ゲーム(リーグ戦)
- 11時限目：ゲーム(トーナメント)
(バドミントン)
- 12時限目：ラケットティング、ミニラリー、スマッシュ、ドロップショット
- 13時限目：クリアー、ネット・ショット、ダブルスのルール
- 14時限目：サービス、ストロークの応用、ダブルスのゲーム
- 15時限目：ダブルスのゲーム

履修上の留意点

服装は、一般的な運動服装とする。ボールを扱う競技においては手のつめを短く切ること。体育館専用シューズを用意すること。

成績評価の方法

出席点(70点)、実技点(20点)、態度点(10点)の配分で評価する。

そ の 他

- 再クラス 集中授業コース実施について
- (1) 実施期間：(前期)7月17日(火)～21日(土)、(後期)1月5日(土)～9日(水)
7月17日及び1月5日は、更衣の上、午前10時に玉川校舎第1体育館に集合。
 - (2) 実施時間：10:00～12:00、13:00～15:30
 - (3) 実施場所：玉川校舎第1体育館
 - (4) 申込方法：「生涯スポーツ実習」と同様。ただし、教務部への『履修届(事前登録)』は集中授業コース用に設定された特・4時限で提出すること。
 - (5) 備 考：再クラスの集中授業は、前期・後期を履修して2単位である。

II 專門教育科目

專門教育

Ⅱ. 専門教育科目

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
Oral Communication I	GM1必	半期	2	オーラ、 B. トランプリー、 J. ハードグレーブ、 B. モエ、 R. A.	245
Oral Communication II	GM1必	半期	2	オーラ、 B. トランプリー、 J. ハードグレーブ、 B. モエ、 R. A.	246
Critical Reading	GM1必	半期	2	アシュウェル、 T. キーズ、 P. セイジ、 K. フアーロー、 D. ブラック、 A. 町田 尚子 ランドルフ、 M. レオーネ、 J. V.	247
Listening Skills & Strategies	GM1必	半期	2	ギャリソン、 E. ギャリソン、 J. G. グールド、 F. ブラック、 A. ランドルフ、 M. レオーネ、 J. V.	248
Introduction to Writing	GM1必	半期	2	アシュウェル、 T. キーズ、 P. セイジ、 K. フアーロー、 D. ブラック、 A. 町田 尚子 レオーネ、 J. V. ランドルフ、 M.	249

グローバルメディアスタディーズ概論	GM1必	半期	2	齋藤 信男 石橋 直樹 各務 洋子 金山 智子 川崎 賢一 クボタ、 L. 高 媛 芝崎 厚士 苗村 憲司 西岡 洋子 福家 秀紀 ペルトコルピ、 V. M. 山口 浩 吉田 尚史	250
グローバルメディア概論	GM1必	半期	2	川崎 賢一	251
メディアリテラシー	GM1必	半期	2	金山 智子	252
グローバル経営論I	GM1必	半期	2	各務 洋子	253
情報リテラシー	GM1必	半期	1	石橋 直樹 齋藤 信男 苗村 憲司 廣瀬 毅士 南 政樹 吉田 尚史	254
情報リテラシー実習	GM1必	半期	1	石橋 直樹 齋藤 信男 苗村 憲司 廣瀬 毅士 南 政樹 吉田 尚史	255
Public Speaking	GM2必	半期	2	スメサム、 M. グールド、 F. グレコ、 M. ダーリング、 M. タンドン、 S. バーンハート、 J. L. ブラック、 A. メニツシユ、 M. モハメツド、 G. ワイリー、 A. D. レオーネ、 J. V.	255

Academic Writing	GM2必	半期	2	アシュウェル、 T. グールド、 F. グレコ、 M. タンドン、 S. バーンハート、 J. L. ブラック、 A. メニツシユ、 M. ワイリー、 A. D.	256
Strategic Presentation	GM2必	半期	2	スメサム、 M. グールド、 F. グレコ、 M. ダーリング、 M. タンドン、 S. バーンハート、 J. L. ブラック、 A. メニツシユ、 M. モハメツド、 G. ワイリー、 A. D. レオーネ、 J. V.	258
クリエイティブビジネス論	GM1選必	半期	2	クボタ、 L.	259
コンテンツビジネス論	GM1選必	半期	2	山口 浩	260
コンテンツビジネス論	GM1選必	半期	2	クボタ、 L.	261
メディアと企業	GM1選必	半期	2	山口 浩	262
グローバル企業行動論	GM1選必	半期	2	ペルトコルピ、 V. M.	263
世界政治とメディア	GM1選必	半期	2	五野井 郁夫	264
国際関係とメディア	GM1選必	半期	2	芝崎 厚士	265
インターネットとメディア	GM1選必	半期	2	吉田 尚史	266
メディアと情報	GM1選必	半期	2	齋藤 信男	267
知的財産権と経済	GM2選必	半期	2	絹川 真哉	268
知的財産権と統計	GM2選必	半期	2	絹川 真哉	268
グローバル文化論	GM2選必	半期	2	川崎 賢一	269
メディア文化論	GM2選必	半期	2	高 媛	269
演習I a	GM2選必	半期	2	石橋 直樹	270
演習I a	GM2選必	半期	2	各務 洋子	271
演習I a	GM2選必	半期	2	金山 智子	272
演習I a	GM2選必	半期	2	川崎 賢一	272

演習I a	GM2選必	半期	2	クボタ、 L.	273
演習I a	GM2選必	半期	2	高 媛	273
演習I a	GM2選必	半期	2	齋藤 信男	274
演習I a	GM2選必	半期	2	芝崎 厚士	275
演習I a	GM2選必	半期	2	苗村 憲司	276
演習I a	GM2選必	半期	2	西岡 洋子	277
演習I a	GM2選必	半期	2	福家 秀紀	278
演習I a	GM2選必	半期	2	ペルトコルピ、 V. M.	278
演習I a	GM2選必	半期	2	山口 浩	279
演習I a	GM2選必	半期	2	吉田 尚史	280
演習I b	GM2選必	半期	2	石橋 直樹	280
演習I b	GM2選必	半期	2	各務 洋子	281
演習I b	GM2選必	半期	2	金山 智子	282
演習I b	GM2選必	半期	2	川崎 賢一	282
演習I b	GM2選必	半期	2	クボタ、 L.	283
演習I b	GM2選必	半期	2	高 媛	284
演習I b	GM2選必	半期	2	齋藤 信男	285
演習I b	GM2選必	半期	2	芝崎 厚士	286
演習I b	GM2選必	半期	2	苗村 憲司	287
演習I b	GM2選必	半期	2	西岡 洋子	288
演習I b	GM2選必	半期	2	福家 秀紀	288
演習I b	GM2選必	半期	2	ペルトコルピ、 V. M.	289
演習I b	GM2選必	半期	2	山口 浩	290
演習I b	GM2選必	半期	2	吉田 尚史	291
メディア・コミュニケーション 概論	GM1選	半期	2	西岡 洋子	292
メディア政策論	GM1選	半期	2	西岡 洋子	293
グローバル経営論II	GM1選	半期	2	各務 洋子	294
コンピュータワークショップ	GM1選	半期	2	北川 和裕 苗村 憲司 石橋 直樹	295
Cross-Cultural Communication Practicum	GM2選	半期	2	内山 浩道 セイジ、 K.	296
Media English	GM2選	半期	2	ギャリソン、E. ハードグレープ、 B. ラベルグレーザ、 F. レオーネ、J. V.	297
Integrated Media & Technology Readings	GM2選	半期	2	ラベルグレー ザ、 F	298
Integrated Media & Technology Readings	GM2選	半期	2	ダーリング、 M	298
Integrated Media & Technology Readings	GM2選	半期	2	スメサム、 M	298

Integrated Media & Technology Readings	GM2選	半期	2	ワイリー、 A. D.	298
Integrated Media & Technology Readings	GM2選	半期	2	ギヤリソン、 E	298
Integrated Media & Technology Readings	GM2選	半期	2	ダーリング、 M	298
Integrated Media & Technology Readings	GM2選	半期	2	スメサム、 M	298
Integrated Media & Technology Readings	GM2選	半期	2	ワイリー、 A. D.	298
情報社会論	GM2選	半期	2	高 媛	299
イノベーション普及論I	GM2選	半期	2	白水 繁彦	300
イノベーション普及論II	GM2選	半期	2	白水 繁彦	301
知識創造戦略論	GM2選	半期	2	各務 洋子	302
知識経営論	GM2選	半期	2	ペルトコルピ、 V. M.	303
異文化経営論	GM2選	半期	2	ペルトコルピ、 V. M.	303
マルチメディアビジネス論	GM2選	半期	2	クボタ、 L.	304
デジタル融合戦略論	GM2選	半期	2	クボタ、 L.	305
グローバルビジネス人材マネジメント	GM2選	半期	2	ペルトコルピ、 V. M.	306
企業会計の実務	GM2選	半期	2	伊藤 克容	306
コンテンツファイナンスI	GM2選	半期	2	山口 浩	307
コンテンツファイナンスII	GM2選	半期	2	山口 浩	308
情報メディア産業論I	GM2選	半期	2	福家 秀紀	309
情報メディア産業論II	GM2選	半期	2	福家 秀紀	310
ネットワークコミュニケーション論	GM2選	半期	2	菅谷 実	311
グローバルメディアガバナンス論	GM2選	半期	2	西岡 洋子	312
比較メディア制度論	GM2選	半期	2	西岡 洋子	312
都市とメディア	GM2選	半期	2	高 媛	313
グローバルアート政策論	GM2選	半期	2	川崎 賢一	314
グローバル創造都市論	GM2選	半期	2	川崎 賢一	314
グローバル交流論	GM2選	半期	2	芝崎 厚士	315
異文化間コミュニケーション論	GM2選	半期	2	高 媛	316
グローバルシティズンシップ	GM2選	半期	2	金山 智子	317
グローバル英語概論	GM2選	半期	2	町田 尚子	318
英語圏文学概論	GM2選	半期	2	佐藤 アヤ子	319
NPO/NGOとメディア	GM2選	半期	2	金山 智子	320
グローバル市民社会論	GM2選	半期	2	芝崎 厚士	321
コンテンツデザイン各論I	GM2選	半期	1	金山 智子	322
コンテンツデザイン演習I	GM2選	半期	1	金山 智子	322
コンテンツデザイン各論IV	GM2選	半期	1	高橋 克三	323
コンテンツデザイン演習IV	GM2選	半期	1	高橋 克三	324

実践メディアビジネス講座I	GM2選	半期	2	各務 洋子 クボタ、 L. ペルトコルピ、 V. M. 山口 浩	325
実践メディアビジネス講座II	GM2選	半期	2	川崎 賢一 金山 智子 高 媛 芝崎 厚士	326
メディアとデータベース	GM2選	半期	2	石橋 直樹	327
コンテンツデザイン概論	GM2選	半期	2	岡田 智博	328
情報保護と社会	GM2選	半期	2	苗村 憲司	329
E-コマース論	GM2選	半期	2	大場 みち子	329
複合ドキュメント概論	GM2選	半期	2	吉田 尚史	330
教育環境とメディア	GM2選	半期	2	齋藤 信男	331
Webコンテンツ	GM2選	半期	2	齋藤 信男	332
イスラムと文化	GM2選	半期	2	奥田 敦	333
キリスト教文化	GM2選	半期	2	豊川 慎	333
韓国の文化と社会I	GM2選	半期	2	渡辺 吉鎔	334
韓国の文化と社会II	GM2選	半期	2	渡辺 吉鎔	335
国際法	GM2選	半期	2	山村 恒雄	335
国際協力法	GM2選	半期	2	山村 恒雄	336
海外演習実践講座I	GM2選	通年	2	内山 浩道 アシュウェル、 T. 各務 洋子	336
海外演習実践講座II	GM2選	通年	2	内山 浩道 川崎 賢一 ギャリソン、 J. G.	337
海外演習実践講座III	GM2選	通年	2	内山 浩道 町田 尚子 モエ、 R. A.	337

科目名	Oral Communication I	開講	半期	単位	2
配当	GM1必				
担当者名	モエ, R. A.・オーラ, B.・トランブリー, J.・ハードグレーブ, B.				

講義のねらい

This course is designed to teach students how to converse spontaneously in a natural manner.

講義の内容・授業スケジュール

Based on the TPP (Timed Paired Practice) method, students are randomly paired and required to converse freely until an uncorrected mistake occurs at which time the conversation is stopped. After two random pairings, students may then volunteer up to eight more times for timed conversations with the teacher. The TPP method is used in every class from start to finish.

履修上の留意点

Students may take notes and use reference materials during class when they are not being evaluated during a TPP conversation. Students should concentrate on correctly using the English they have already learned prior to entering university. Prompt attendance is a key factor, so students should be careful never to be late or absent as that will adversely affect their grades.

成績評価の方法

Evaluation is based on ability, effort, and attendance. Ability is based on the length of the conversations, effort is based on the number of conversations a student attempts, and attendance also affects grades in that unexcused tardiness and absence will lower a student's grade. This data is used in the following formulae to determine the Current Grade which will be the grade given at the end of the course:

$$(\text{Time Avg} * (\text{Tries Avg} / (5 - (\text{gEnrolled} * (\text{Lesson Period} / 90) * 1))) + (60 - (\text{Current TPP No.} * 3))) = \text{ScoreAvg}$$

Time Avg = the average length of all conversations

Tries Avg = the average number of conversations per class period

gEnrolled = the number of students enrolled in the class

Lesson Period = the length of a class period

Current TPP No. = the number of TPP exercises performed

$$((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3 = \text{Current Grade}$$

Late = number of unexcused times tardy

Absent = number of unexcused times absent

教科書

There are no assigned textbooks or other resources for this course. Students are encouraged to use the English they currently know.

参考書等

None

その他

If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason for being late. In the case of tardiness caused by delayed trains, the student must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

科目名	Oral Communication II	開講	半期	単位	2
担当	GM1必				
担当者名	モエ, R. A.・オーラ, B.・トランブリー, J.・ハードグレーブ, B.				

講義のねらい

This course builds upon the basic skills acquired in Oral Communication I.

講義の内容・授業スケジュール

The TPP (Timed Paired Practice) method is employed in every other class, but at these times, from start to finish, students are only paired with each other and not the teacher. On alternate lesson days, students are allowed to divide themselves into pairs in order to practice conversation skills and at that time the teacher will circulate among them to provide advice and answer questions.

履修上の留意点

In this course students will be encouraged to use the conversational skills they acquired in Oral Communication I to develop conversations on specific topics. Accordingly, the topics on which students must speak will have to be related to media and technology subjects or the subject matter of any of the courses they are taking in GMS.

成績評価の方法

Evaluation is based on ability, effort, and attendance. Ability is based on the length of the conversations, effort is based on the number of conversations a student attempts, and attendance also affects grades in that unexcused tardiness and absence will lower a student's grade. This data is used in the following formulae to determine the Current Grade which will be the grade given at the end of the course:

$$(\text{Time Avg} * (\text{Tries Avg} / (5 - (\text{gEnrolled} * (\text{Lesson Period} / 90) * .1))) = \text{ScoreAvg}$$

Time Avg = the average length of all conversations

Tries Avg = the average number of conversations per class period

gEnrolled = the number of students enrolled in the class

Lesson Period = the length of a class period

$$((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3 = \text{Current Grade}$$

Late = number of unexcused times tardy

Absent = number of unexcused times absent

教科書

There are no assigned textbooks or other resources for this course. Students are encouraged to use the English they currently know.

参考書等

None

その他

If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason for being late. In the case of tardiness caused by delayed trains, the student must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

科目名	Critical Reading	開講	半期	単位	2
配当	GM1必				
担当者名	アッシュウェル, T. ・ キーズ, P. ・ セイジ, K. ・ ファーロー, D. ・ ブラック, A. ・ 町田 <small>まちだ</small> 尚子 <small>なおこ</small> ・ ランドルフ, M. ・ レオーネ, J. V.				

講義のねらい

This course centers on the development of the intensive reading strategies and skills students will need to extract both literal and inferential information from short and mid-length English texts. Topics covered by the texts may include but are not limited to: media and the law, artificial intelligence and the law, international business practices, technological innovation and new products, media ethics, media and society, technology-related health issues, and technology and society. Sources will include extracts from books, newspaper and magazine articles, and Internet content.

In tandem with the development of the intensive reading strategies and skills outlined above, students will also be required to read graded material which is tailored to their reading proficiency level. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.

講義の内容・授業スケジュール

For the intensive reading component of the course, students will be handed readings in advance and will be expected to prepare for the tasks which are assigned for the following class. Class time will be spent performing the assigned tasks and working on the specific skills and strategies which are necessary for the completion of subsequent tasks. Time will also be spent on monitoring progress with the extensive reading component.

履修上の留意点

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy. More than three unexcused absences in a term will incur a penalty in the final grade.

成績評価の方法

For the intensive reading component of the course, performance on the in-class tasks and completion of the preparatory work needed to perform the tasks will be evaluated on a weekly basis. The final grade for this component will be based principally on students' performance on weekly mini tests on the assigned readings.

Extensive reading is evaluated on the basis of how many pages have been read in the term, on the quality of book reports, and on the improvement made between an initial and final extensive reading test.

The intensive reading component of the course is worth 60 % of the final grade. The extensive reading component of the course is worth 40 % of the final grade.

教科書

None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.

参考書等

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated.

その他

When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.

科目名	Listening Skills & Strategies	開講	半期	単位	2
配当	GM1必				
担当者名	ギャリソン, E. ・ ギャリソン, J. G. ・ グールド, F. ・ ブラック, A. ・ ランドルフ, M. ・ レオーネ, J. V.				

講義のねらい

This course is designed to nurture the ability to understand English spoken at natural speed in formal and semi-formal situations when the listener is not a participant in the conversation. It is intended to integrate listening skills with accurate note-taking skills by developing the ability to identify important information presented orally.

講義の内容・
授業スケジュール

Podcasts and other authentic audio and video materials with contemporary media, technology, business, or political content will be utilized to familiarize students with English speech patterns, cadence, and pronunciation with an eye toward developing their skill to identify and isolate significant information and organize it rapidly in a written form together with their own thoughts for further reference. Specifically, a short-3 to 10 minute-podcast or videocast will be assigned a week in advance. Students are expected to listen to the podcast or watch the videocast enough to gain a broad understanding of the content before attending class. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor. Class activities include listening the podcast or watching the videocast, analyzing it, and discussing issues raised therein. There will be a short test following the completion of each lesson.

履修上の留意点

Attendance is mandatory.
Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.

成績評価の方法

The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.

教科書

None. Students will be informed of website URLs necessary to find material scheduled for use in class. In addition, MP3 or video files taken from the Web together with related instructor-generated materials will be posted on the GMS server for student access.

参考書等

Good, up-to-date English-Japanese dictionaries as well as a portable dictionary of the English language in either print or electronic format are recommended.

その他

Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

科目名	Introduction to Writing	開講	半期	単位	2
配当	GM1必				
担当者名	アッシュウェル, T. ・ キーズ, P. ・ セイジ, K. ・ ファーロー, D. ・ ブラック, A. ・ 町田 尚子・レオーネ, J. V. ・ランドルフ, M.				

講義のねらい

This course is an introduction to writing formally in English. It is designed to build proficiency in the skills required for basic academic and business communication by developing the ability to produce clear, correct sentences and well-organized paragraphs on specific subjects. Writing assignments will be short expository, critical, and persuasive essays, each of which will be drafted, edited, revised and proofread to produce three finished 500-word essays during the term.

講義の内容・
授業スケジュール

Students will be taught how to construct short essays on media and technology related topics. Aspects of writing longer texts such as how to draw up an outline, how to write introductory, body and concluding paragraphs, how to achieve coherence and cohesion in a text, how to incorporate information gleaned from research and how to acknowledge the ideas of others will be taught. Students will be required to conduct research in the library and via the Internet on the assigned topics to collect information which will help them complete the essays. Peer review of completed drafts and peer editing before submission of each assignment will be important class activities.

履修上の留意点

A writing course like this one is a test of the students' ability to manage time outside class so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and finished essays. Writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work for each assignment. Students should be aware that writing time needs to be sensibly scheduled for among their other commitments. Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy. More than three unexcused absences in a term will incur a penalty in the final grade.

成績評価の方法

Grading is principally based on the quality of the assignments students are required to write. It is also based on how well they have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher. A points system operates corresponding to the five grades that can be awarded for each assignment:

- “Very good” = 5points
- “Good” = 4points
- “OK” = 3points
- “Poor” = 2points
- “Weak” = 1point

Students must accrue a minimum total of 11 points from the three assignments to pass the course. After the third draft of each assignment has been submitted to the teacher and been graded, students may re-submit revised versions of assignments as many times as they wish up until the end of the course in order to boost their points total or to meet the minimum requirement.

教科書

None.

参考書等

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated.

科目名	グローバルメディアスタディーズ概論	開講	半期	単位	2
担当	GM1必				
担当者名	齋藤 信男・石橋 直樹・各務 洋子・金山 智子・川崎 賢一・クボタ、L.・高 媛・ 芝崎 厚士・苗村 憲司・西岡 洋子・福家 秀紀・ベルトコルピ、V. M.・山口 浩・ 吉田 尚史				

講義のねらい

本学部の名称を体現し、学部のイントロダクションとして設置されている科目です。専任教員全員が個々の専門の立場から、「グローバル」と「メディア」と「コンテンツ」に関わるテーマに照準を合わせてオムニバス方式で講義します。新しく発足した本学部の目指している教育目標、新しい学問体系構築への展望、そこにおける基本概念、基本的な哲学、基本的な方法論や手法などについて、多元的、複合的な視座と、幅広い自由な発想で、メディアやコンテンツの本質について、学術的に研究することの意義が理解できるように構成されています。

講義の内容・ 授業スケジュール

本学部は、人間の内面を重視する禅や仏教、最先端の科学技術に支えられ新しい発想を生み出すメディアや情報、地球規模のコミュニケーションの実践と人間の協調を実現していくグローバリズムとその手段としての外国語、新しい産業やビジネスをインキュベートしていく経済学や経営学、社会の安定と新たな発展を支える法学や社会学など、従来の学問体系を踏まえた上で新たなイノベーションを様々な分野で試行し推進していく。その専門分野は多様であり、その概要を入学当初によく理解し、また分野間の相互関連や相互作用を体験的に修得していく。以下の項目は、上記の内容を具体化した講義の主なテーマである。

1. グローバル・コミュニケーションを実現するための日本語の論理を踏まえた訳出法
2. メディア産業、コンテンツ産業を含めた文化産業が成立した経緯とその後のグローバルな展開
3. 多様なメディアに適応したコンテンツ創造を可能とするコミュニケーションの相互作用の論理
4. メディアの利用をより効率的、効果的に行う事を支援する知的な処理の基本的考え方
5. コンピュータネットワークの安全性とメディアの進展、情報の保護
6. 世界共通言語としての英語の多様性や、電子メディアの英語情報に見られる地域差・文体差の考察
7. 自国の文化と異文化間のコミュニケーションにおける事例研究を基にした比較分析
8. グローバルメディアスタディーズに関する応用言語学の考え方
9. グローバルビジネスとしてのメディアやコンテンツ関連企業におけるビジネスの本質
10. グローバルなメディアに関する政策・ガバナンス制度比較
11. メディアやコンテンツ産業におけるコンテンツファイナンス
12. 知的資産であるコンテンツ経営における人材マネジメント
13. ビジネスからみたマルチメディア、システムソフトウェア、インターネット、データベース

履修上の留意点

毎回担当教員が変わり、前期終了時には学部に所属する全員の教員の主な専門領域がわかるしくみになっている。

成績評価の方法

期末にレポート提出。

教科書

使用しない。

参考書等

必要に応じて随時紹介。

科目名	グローバルメディア概論	開講	半期	単位	2
配当	GM1必				
担当者名	かわさき けんいち 川崎 賢一				

講義のねらい

グローバリゼーションが進行する中で、グローバルなメディア産業・企業、それらの文化などについて、ローカル・ナショナル・インターナショナル・トランスナショナル・グローバルなレベルについて、概略を学習する。

講義の内容・授業スケジュール

講義の内容は、大きく分けて、グローバルなメディアが成立するまでの、起源、発展のプロセス、文化産業論の展開、第二次大戦後以降の発展の概略、マスコミ産業からグローバルメディアへ、IT産業とグローバルメディア、グローバルメディア体制：その問題点と可能性、などについて具体的事例を挙げながら、学習する。

履修上の留意点

授業の内容からして、前回の授業を受けて、蓄積的に内容が展開するので、毎回必ず出席すること。

成績評価の方法

学期末のテスト、あるいは、学期末のレポート、プラス、平常点・出席点等を加算する。

教科書

授業の中で指示する。

参考書等

A.Giddens, Sociology(5th Edition), Polity Press, 2006

科目名	メディアリテラシー	開講	半期	単位	2
配当	GM1必				
担当者名	かみやま ともこ 金山 智子				

講義のねらい

今日、メディアの存在が私達の生活にとってますます不可欠なものになっています。マスコミ分野だけではなく、一般企業、行政、そしてNPOやNGOにおいてもメディアと関係する仕事が増え、重要になってきています。国際社会の中で、異国間の交流や異文化の相互理解にメディアが大きな影響を与えていることにも目配りをする必要があります。「メディアとは一体どういうものなのか」をきちんと理解することが、日常生活、社会活動、そして国際関係の場面などで求められていると言えるでしょう。本講義ではメディアについての基礎的な理解について言及し、メディアが個人や社会に及ぼす影響や関係を、さまざまな観点から考えます。講義全体を通じて、クリティカルにメディア・メッセージを読み、メディア機関の社会的機能を洞察する、いわゆるメディアリテラシーの力を身につけてもらうことを目指します。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 回 コース概要の説明
- 2 回 メディア、そしてメディア・メッセージとは
- 3-4回 マスメディアによるメッセージ（大衆）
- 5-6回 マスメディアによるメッセージ（特定の人々）
- 7-8回 マスメディアによるメッセージ（個人）
- 9 回 メディア批評
- 10 回 メディアは誰のものか
- 11-12回 インターネットによるメッセージ
- 13-14回 小さなメディアによるメッセージ
- 15 回 まとめ

履修上の留意点

授業では、視聴覚教材を多く使用しますので欠席はしないように。また、日頃から時事問題やマス・メディアの動向について興味を持ち、それらに対する自分の考えを自分の言葉で表現する習慣を身につけるよう心がけて下さい。

成績評価の方法

出席20ポイント、メディア批評エッセイ30ポイント、学期末試験50ポイント。

教科書

金山勉、金山智子著『やさしいマスコミ入門—発信する市民への手引き』（勁草書房）2,520円、ISBN：4326653035

参考書等

適宜関連文献やウェブサイトを指示します。

科目名	グローバル経営論 I	開講	半期	単位	2
配当	GM1必				
担当者名	各務 洋子 <small>かがみ ようこ</small>				

講義のねらい

グローバル経営を追求する企業が、世界規模で付加価値活動を展開し、競争優位を築いていくための論理と、現実の企業行動を提示し、毎回事例研究を用いて理解しやすい講義を目指します。

講義の内容・履修スケジュール

グローバル社会における企業の役割や経営学の基礎知識を体系的に理解できるように、1～3回はイントロダクションとしてわかりやすい事例を用いて総論的な内容から始めます。

- I. イントロダクション
 1. グローバル社会における企業とメディアの役割
 2. 経営学の意義と目的
 3. グローバル経営の論理
- II. グローバルな企業経営
 4. グローバル経営の組織
 5. グローバル経営のマネジメント
 6. グローバル経営の戦略
 7. グローバル・マーケティング
- III. グローバル経営の革新
 8. グローバル・イノベーションとナレッジ・マネジメント
 9. グローバル企業の組織間関係
 10. グローバルな人的資源戦略
 11. グローバル経営における文化
 12. グローバル企業のコーポレートガバナンス
- IV. 13～15 まとめ

履修上の留意点

学習素材として新聞、雑誌、インターネットを始めとした幅広い情報源を駆使して、企業関連のニュースを理解するように心がけて下さい。

成績評価の方法

各期定期試験と、講義中に実施する理解度テストにより総合的に評価します。

教科書

開講時に指示。

参考書等

必要に応じて随時紹介。

科目名	情報リテラシー	開講	半期	単位	1
配当	GM1必				
担当者名	いしばし なおき さいとう のおお なえむら けんじ ひろせ つよし みなみ まさき よしだ なおふみ 石橋 直樹・齋藤 信男・苗村 憲司・廣瀬 毅士・南 政樹・吉田 尚史				

講義のねらい

情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークの基本機能と構造について、利用者の観点から理解し、今後学習する講義および実習の支えとなる基礎知識を習得する。また、メディアと情報の関係を様々な視点から展開し、その意味付けをよく理解する。更に、情報と社会の接点、そこに生ずる種々の課題を理解し、情報やメディアの利用者、推進者としての基本的な心構えを体得する。

講義の内容・授業スケジュール

本講義において取り上げるテーマは、次のとおりである。

- メディアとコンピュータ・ネットワーク
近年、情報やメディアを語る上でコンピュータ・ネットワークの理解が不可欠である。ここでは、メディアの基礎、および、コンピュータネットワークの基礎を学び、それらの関係について体得する。
- ファイルシステムとメディア
メディアの格納媒体としてのファイルシステムの基礎を学ぶ。また、その応用例として文書処理のアプリケーションを用いて、ファイルシステムとメディアの関係を体得する。
- メディア・データベースの基礎
多量のメディアを対象とした処理のリテラシーとして、スプレッドシートのアプリケーションやデータベースの基礎を学習する。
- WWWとHTML
WWW環境における情報やメディアのリテラシーとして、HTML、CSSなどについて体得する。
- メディア・プログラミング
メディアと情報のリテラシーを深めるためには、プログラミングに関する原理の理解が効果的である。メディアを対象としたコンピュータ・プログラミングの基礎を学習する。
- メディアとセキュリティ
ここでは、セキュリティ、暗号、著作権、知的財産権などについて学び、メディアと情報のリテラシーを深める。

履修上の留意点

本講義の内容は、「情報リテラシー実習」と対応している。

成績評価の方法

毎回の講義における出席、期末試験を総合的に評価する。

教科書

WWW上に教材を設定し、教科書とする。

参考書等

講義中あるいは教材中に適宜指示する。

科目名	情報リテラシー実習	開講	半期	単位	1
配当	GM1必				
担当者名	いしげし なおき さいとう のぶお なえむら けんじ ひろせ つよし みなみ まさき よしだ なおふみ 石橋 直樹・齋藤 信男・苗村 憲司・廣瀬 毅士・南 政樹・吉田 尚史				

講義のねらい

情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークに関する基礎知識を具体化し深く体得するために、情報環境において種々の機能を利用し、その実態、問題点、将来性などを経験し考える機会を持つ。その中で、情報環境への対応の仕方だけでなく、その本質をよく理解し、新しい情報社会の支え手としての基礎知識、経験、見識、判断力を養っていく。

講義の内容・授業スケジュール

この講義では、次の各項目について、講義「情報リテラシー」と対応して実習を行う。

- メディアとコンピュータ・ネットワーク
- ファイルシステムとメディア
- メディア・データベースの基礎
- WWWとHTML
- メディア・プログラミング
- メディアとセキュリティ

履修上の留意点

本講義の内容は、「情報リテラシー」と対応している。

成績評価の方法

毎回の講義における出席、期末試験を総合的に評価する。

教科書

WWW上に教材を設定し、教科書とする。

参考書等

講義中あるいは教材中に適宜指示する。

科目名	Public Speaking	開講	半期	単位	2
配当	GM2必				
担当者名	スメサム, M. ・ グールド, F. ・ グレコ, M. ・ ダーリング, M. ・ タンドン, S. ・ バーンハート, J. L. ・ ブラック, A. ・ メニツシュ, M. ・ モハメツド, G. ・ ワイリー, A. D. ・ レオーネ, J. V.				

講義のねらい

The aim of the course is to develop and improve the students' ability to speak in public situations in a variety of forms and situations. Prepared speeches, extemporaneous speeches, and debate will be the main forms practiced.

講義の内容・授業スケジュール

Final grades will be based on attendance, ability, and effort. Evaluation of ability and effort will be based on student presentation of three speeches and three debates. Half of the evaluation for each speech and debate will be based on form (English language skill) and the other half will be based on content (persuasiveness and clarity of ideas expressed).
Final Grade will be calculated using the following formula:

$$((100 - 10X - 5(Y + D)) + 2Z) / 3 = \text{Final Grade}$$
X = number of unexcused absences
D = number of times dismissed
Y = number of unexcused tardiness
Z = average of all scores

履修上の留意点

なし

科目名	Academic Writing	開講	半期	単位	2
配当	GM2必				
担当者名	アシュウェル, T. ・ グールド, F. ・ グレコ, M. ・ タンドン, S. ・ バーンハート, J. L. ・ ブラック, A. ・ メニツシュ, M. ・ ワイリー, A. D.				

講義のねらい

The aim of this course is to build on the skills and experience gained in the first year 'Introduction to Writing' course by equipping students with the skills needed to produce longer, academic-style reports in English on media-related subjects. In academic writing, the ability to communicate one's own thoughts by synthesizing and transforming those of others becomes particularly important, as does the ability to fully acknowledge the ideas of others. Special attention will be paid therefore to research methods and citation conventions.

講義の内容・
授業スケジュール

Class time will be dedicated to explanation and practice of research and English writing skills, and to the application of these skills to the production of one original 1500-word research paper on a subject determined in consultation with the instructor. Research in the library and via the Internet and engagement in a drafting and feedback process will be critical to the quality of the research paper produced. Students' adherence to a drafting schedule and their participation in the feedback process will be strongly emphasized.

履修上の留意点

Students need to manage their time effectively so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and for the finished research report. In the description for the 'Introduction to Writing' course, it was emphasized that writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work for each assignment. Students should be aware that for this course also, the drafting of a 1500-word research report is a time-consuming and onerous business and that writing time needs to be sensibly scheduled for among their other commitments.

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy. More than three unexcused absences in a term will incur a penalty in the final grade.

成績評価の方法

Grading is principally based on the quality of the final research report, but it also depends on how well students have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher and on the quantity and quality of the revisions made.

Final research report (= Draft 3) grading:
Quality of final research report = 70%

Adherence to drafting schedule:
Draft 1 handed in on time = 5%
Draft 2 handed in on time = 5%
Draft 3 handed in on time = 5%

Participation in the feedback process:
Quality of (principally content & organizational) revisions between Drafts 1 and 2 = 5%
Quality of (principally editing) revisions between Drafts 2 and 3 = 5%
Quality of feedback given to others on Drafts 1 and 2 = 5%

After the third draft of the research report has been submitted and has been graded, students may re-submit one revised version of the research report by a set deadline in order to boost their final grade or to meet the minimum requirement.

教科書

None.

参考書等

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have

参考書等

an English-Japanese and several learners' English-English dictionaries incorporated.

その他

Students should have already passed the 'Introduction to Writing' course before taking the 'Academic Writing' course. If, however, after consultation with the instructor, it is felt that the student can cope with the demands of this higher level course, exceptions can be made.

科目名	Strategic Presentation	開講	半期	単位	2
配当	GM2必				
担当者名	スメサム, M. ・ グルード, F. ・ グレコ, M. ・ ダーリング, M. ・ タンドン, S. ・ バーンハート, J. L. ・ ブラック, A. ・ メニツシュ, M. ・ モハメツド, G. ・ ワイリー, A. D. ・ レオーネ, J. V.				

講義のねらい

The presentation of information and opinion is an essential skill in many social, business, and academic situations. The purpose of this course is to provide the student with the English skills required to create an organized, informative, interesting and, when necessary, convincing presentation. Students will be encouraged to experiment and develop strategies and techniques of their own.

講義の内容・
授業スケジュール

The course is comprised of two parts:
Observation and Analysis is followed by group and individual Presentations
1) Observation and analysis of model presentations
Initially, model presentations (commercials, brief speeches, etc.) will be analyzed and discussed in class. Students will be required to identify the objectives of the presentations, analyze the presentation and evaluate its success in attaining its objectives.
Model presentations may be followed by quizzes.
2) Presentation on a subject agreed upon by student(s) and instructor
Building upon the skills acquired in step 1 above, students will next be required use Power-Point or Keynote to create one 5-10 minute group presentation and one 3-minute individual presentation. Presentations will be critiqued on the spot by the instructor and the class.

履修上の留意点

Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.

成績評価の方法

The final grade will be computed in the following way:
Quizzes: 25%
Group Presentation: 25% (Instructor 50%, Peer 50%)
Individual Presentation: 50% (Instructor 75%, Peer 25%)
Elements of evaluation of presentations include: use of English and non-verbal communication skills, organization of material and creativity. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.

教科書

None. All course materials will be provided by the instructor. Audio and visual material or links to them will be made available on the course homepage on the GMS server when possible.

参考書等

Good, up-to-date English-Japanese and Japanese-English dictionaries for use at home as well as a portable dictionary of the English language in either print or electronic format are recommended.

その他

Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

科目名	クリエイティブビジネス論	開講	半期	単位	2
配当	GM1選必				
担当者名	クボタ, L.				

講義のねらい

As the Industrial Economy gives way to the Creative Economy, this course will concentrate on creative businesses where ideas and talent are more important than physical capital. Various types of creative organizations will be examined: how they operate and how leadership and management are utilized. The major objectives for participants in this course are: to understand the significant theoretical constructs and relevant empirical evidence dealing with organizational-environmental boundary relationships, particularly as these impact creative organizations and the development of "hot groups" (groups that are able to achieve extraordinary results); and to gain an increased awareness of classical and emerging perspectives on the internal and external factors that give rise to new creative organizational forms.

講義の内容・ 授業スケジュール

This Semester 1 course will meet on Mondays during 2nd period. The course will utilize multimedia and the Internet. The selection of case studies will determine the specific topical areas of focus

成績評価の方法

Evaluation will be based 5% on class participation, 10% on attendance, 35% on the mid-term exam, and 50% on final team presentations.

教科書

There are no required textbooks, only suggested readings.

参考書等

Professor will provide materials from the following:

Warren Bennis and Patricia Ward, *Organizing Genius: The Secrets of Creative Collaboration*, Addison-Wesley Publishing Co., Inc., Reading Mass., 1997.

Ikujiro Nonaka and Hirotaka Takeuchi, *The Knowledge Creating Company*, New York, Oxford University Press, 1995,

Peter Drucker, *Managing for the Future*, Truman Talley Books, 1992

David B. Yoffie, *Competing in the Age of Digital Convergence*, Boston, MA, Harvard Business School Press, 1997.

Jean Lipman-Blumen and Harold J. Leavitt, *Hot Groups*, New York, Oxford University Press, 1999.

Shona L. Brown and Kathleen M. Eisenhardt, *Competing on the Edge*, Boston, MA Harvard Business School Press, 1998

Geoffrey A. Moore, *Crossing The Chasm*, New York, HarperBusiness, 1995.

Mihaly Csikszentmihalyi, *Creativity*, New York, HarperCollines Publishers, 1996

Harold L. Vogel, *Entertainment Industry Economics*, Cambridge, United Kingdom, 1998.

Peter F. Drucker, *Innovation And Entrepreneurship: Practices and Principals*, New York, Harper & Row Publishers, 1985.

Michael Sorkin, *Variations On A Theme Park*, New York, Hill and Wang, 1992.

Richard Saul Wurman, *Information Architects*, New York, Palace Press International, 1996

William J. Mitchell, *City of Bits*, Cambridge, MA, MIT Press, 1995.

科目名	コンテンツビジネス論	開講	半期	単位	2
配当	GM1選必				
担当者名	やまぐち ひろし 山口 浩				

講義のねらい

アニメ、映画、ゲーム、音楽その他のコンテンツビジネスは、日本の新たな「基幹産業」として国内外から注目を集めています。本科目では、コンテンツビジネスと関係業界の歴史と現状、コンテンツの製作・流通の過程とその管理手法、知的財産権をはじめとするコンテンツビジネスに関わる法制度や政策、デジタル化などの技術進歩とコンテンツビジネスの変遷、コンテンツが社会や文化に与える影響など、影響力の裾野がきわめて広いこの産業の姿を概括的に理解することを目的とします。

講義の内容・授業スケジュール

コンテンツビジネスの歴史と現状、さまざまなコンテンツとその担い手たち、問題点と将来の展望、情報技術の発達とコンテンツビジネス、他。

履修上の留意点

授業中の質問、発言等、積極的な参加を求めます。こちらから指名することもあります。失敗をおそれず、自分の意見を伝える練習の場としてトライしてみてください。

成績評価の方法

配点は以下の通り。
出席50%、小テスト（複数回計）20%、定期試験30%、授業への参加5%（ただし合計で100%）

参考書等

コンテンツビジネス研究会著『図解でわかるコンテンツビジネス最新2版』日本能率協会2005年

その他

講義形式、必要に応じて適宜資料配布

科目名	コンテンツビジネス論	開講	半期	単位	2
配当	GM1選必				
担当者名	クボタ, L.				

講義のねらい

Students who are interested in the emerging digital content business sector and how it is being created will benefit from this course. The movie industry will provide a model for how digital content is being utilized in various forms. People and companies must learn to form new content possibilities in a rapidly changing environment.

講義の内容・
授業スケジュール

This Semester 2 course will meet on Tuesdays during 1st period. In this course, students will be provided with an overview of the content creation industry, and examine case studies of various content creating companies.

成績評価の方法

Evaluation will be based 5% on class participation, 10% on attendance, 35% on the mid-term exam, and 50% on final team presentations.

教科書

There are no required textbooks, only suggested readings.

参考書等

Professor will provide materials from the following:
 Forfás report, A Strategy for the Digital Content Industry in Ireland, February 2005
 Digital Content Industry Action Agenda, Austrian Government, Dept of Communications, Information, Technology and the Arts, November 2005
 Japan's Digital Content Industry is Commanding Global Attention, Invest Japan, # 9, Summer 2005.
 Report on Japan's Movie Industry
 Harold L. Vogel, Entertainment Industry Economics, New York, Cambridge University Press, 2001
 Jason E. Squire, The Movie Industry Book, 3rd Edition, Simon and Schuster, 2004

専門教育

科目名	メディアと企業	開講	半期	単位	2
配当	GM1選必				
担当者名	やまぐち ひろし 山口 浩				

講義のねらい

この科目では、テレビ、新聞、インターネット等の「メディア」と企業とのかかわりを概観することを目的とします。企業はその事業目的を達成するため、メディアを通して上場やコンテンツを取り入れたり、メディアに対して情報やコンテンツを発信したり、また自らがメディアとなって情報やコンテンツの流通を媒介したりします。こうしたメディアをめぐる企業の活動の概要やその意義、社会の変化や新技術の開発などに伴う新たな動き等を概括的に把握することにより、企業という視点からメディアを理解し、また逆にメディアという視点から企業を理解することを目標とします。

講義の内容・授業スケジュール

コンテンツビジネスの歴史と現状、さまざまなコンテンツとその担い手たち、問題点と将来の展望、情報技術の発展とコンテンツビジネス、他。

履修上の留意点

授業中の質問、発言等、積極的な参加を求めます。こちらから指名することもあります。失敗をおそれず、自分の意見を伝える練習の場としてトライしてみてください。

成績評価の方法

配点は次の通り。
出席50%、小テスト（複数回計）20%、定期試験30%、授業への参加5%（ただし合計で100%）

参考書等

加納寛子編著「情報社会論」北大路書房、2007年

その他

講義形式。必要に応じて適宜資料配布。

科目名	グローバル企業行動論	開講	半期	単位	2
配当	GM1選必				
担当者名	ペルトコルピ, V. M.				

講義のねらい

This course provides students an overview to the subject of global business collaboration, ranging from individual networking to nation-wide economic collaboration. Students will be introduced to several issues, such as individual networking and modes of intra-and interfirm collaboration (e.g., joint ventures and research collaboration), drawing on recent practical examples and the theoretical perspectives from economics, cross-cultural management, sociology, and organization and management theory.

講義の内容・授業スケジュール

The content of the course is introduced in a series of lectures and from selected readings. These areas are explored further through the use of short case studies and exercises. Cases will be presented orally in class by a team of students, as well as written up by each student team. Class participation is central to the case method of learning. Class participation is defined as in-class comments that are relevant to the focal topic and that illuminate the issue via use of pertinent conceptual and theoretical framework, logical or intellectual processes, and illustrations drawn from the speaker's work experiences that are directly pertinent to focal topic.

成績評価の方法

Students are evaluated by several short case papers, class participation, and final exam. Evaluation will be based 40 % on written cases, 30% on class participation, and 30 % on final exam.

参考書等

The required readings will be selected from the following publications:
 Burt, RS1992. Structural holes: the social structure of competition. Cambridge, MA: Harvard University Press.
 Granovetter M. 1973. The strength of weak ties. American Journal of Sociology78 (6) : 1360-1380
 Ibarra H, Andrews SB. (1993). Power, social influence, and sense making: Effects of network centrality and proximity on employee perceptions. Administrative Science Quarterly, 38, 277-303.
 Meyer GW. (1994). Social information processing and social networks: A test of social influence mechanisms. Human Relations, 47, 1013-1048.
 Monge PR, Contractor NS. (2003). Theories of communication networks. New York: Oxford University Press.
 Nahapiet J, Ghoshal S. 1998. Social capital, intellectual capital, and the organizational Advantage. Academy of Management Review23 (2) : 242-266.
 Other literature (articles, book chapters) as specified later by the instructor.

科目名	世界政治とメディア	開講	半期	単位	2
配当	GM1選必				
担当者名	五野井 郁夫 <small>ごのい いくお</small>				

講義のねらい

1. 本講義では、世界政治を読み解く基礎体力を養い、自分の日常生活と世界政治を結びつける回路をつくることを目的とする。
2. 具体的には、現実の世界政治ならびに、学問としての政治学と国際関係論の基礎を学ぶことを通じて、社会で通用する読む力、理解する力、書く力のトレーニングを行う。
3. これによって、テレビやラジオ、新聞、雑誌、ネット上のニュースはもちろん、文化、芸術まで、広く世界政治とメディアに関連する事象について自分で考え、解釈するための手がかりをつかむことが、本講義のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

1. ガイダンス：政治とは何か？ 世界の捉え方、世界政治とメディア
2. 世界政治のしくみ
世界政治の形成：主権国家の誕生からグローバル化の現在まで
安全保障：抑止、知識人と権力 *映画鑑賞
国際組織、相互依存、国際政治経済、WTO、ガヴァナンス、NGO
3. 世界政治の諸相
人権、民主化、フェミニズム、エコロジー、宇宙開発
世界政治と貧困：植民地支配、南北問題、開発協力、多国籍企業
ナショナリズムと国家 *映像鑑賞
4. 世界政治のなかの日本：日米安保
5. 世界政治の動かし方：ポピュラーカルチャーとデモクラシー

履修上の留意点

講義内容は、状況に応じて変更される場合がある。

成績評価の方法

1. 毎回の答案用紙の出来（出席・平常点も兼ねる）
2. 定期試験

教科書

特になし。

参考書等

藤原帰一他編『国際政治講座1-4』東京大学出版会2004年、山田高敬・大矢根聡編『グローバル社会の国際関係論』有斐閣2006年、小和田恒・山影進『国際関係論』放送大学教育振興会2002年

その他

本講義は双方向的な演習形式をとる。受講者は後期「国際関係とメディア」を併せて受講することが望ましい。レジュメ等は適宜配布する。

科目名	国際関係とメディア	開講	半期	単位	2
配当	GM1選必				
担当者名	芝崎 厚士 <small>しばさき あつし</small>				

講義のねらい

国際関係・国際関係論に関する基礎知識を、さまざまなメディアとのかかわりにおいて学習し、この世界の歴史と現状を考える出発点を作り上げる。

講義の内容・授業スケジュール

講義の内容：テスト形式。小テストと解説を行い、作成した答案用紙を回収し成績を決定する。
 ・ニュースウォッチ（新聞記事要約）、・リーディング（テーマ論文要約）、・メディアウォッチまたはワード・データウォッチ（音楽・映像、重要語の定義、重要な世界の現状に関するデータなど）、の3部構成で行う。

授業スケジュール：

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 国際関係の歴史その1
- 3回目 国際関係の歴史その2
- 4回目 主権国家と国民国家
- 5回目 多国籍企業・NGO
- 6回目 映像鑑賞その1
- 7回目 戦争・テロリズム・平和
- 8回目 外交と対外政策
- 9回目 貧困と開発
- 10回目 環境問題
- 11回目 ナショナリズムと民族紛争
- 12回目 映像鑑賞その2
- 13回目 グローバル・ガバナンス

履修上の留意点

テスト方式なので、成績は、基本的に答案用紙の出来で判断する。ただ出席しているだけではなく、授業中に、与えられた課題にどれだけ主体的に取り組んだかによって評価する。予習の必要なし。

成績評価の方法

・毎回回収する答案用紙の出来（読んで・書いて・考えたことをどれだけ答案用紙に残せたか）＋学期末試験（答案用紙、配布教材の持ち込み可。答案用紙は試験前に返却）
 ・授業中の作業は最初はハードですが、慣れてくるとできてきます。答案用紙の完成度そのものよりも、努力した跡がどれだけ見られるかを重視して評価します。別の言い方をすると、出席していても努力の跡が見られない場合には、単位は取得できません。

教科書

開講時に指示。

参考書等

授業中に随時指示。

その他

- ・教材は毎回プリントで配布。
- ・前期科目「世界政治とメディア」と連動して開講するので、「世界政治とメディア」を予め履修していることが望ましい。
- ・2年次以降の演習で国際関係を履修したい場合には、「世界政治とメディア」および本科目を履修していることが望ましい。

科目名	インターネットとメディア	開講	半期	単位	2
配当	GM1選必				
担当者名	吉田 尚史 <small>よしだ なおふみ</small>				

講義のねらい

インターネットはデジタルコンテンツの配布、共通、閲覧などのサービスを提供する主要な通信メディアの一つとなり、グローバルな研究・ビジネス活動に欠かせないものとなってきた。インターネット上でデジタルコンテンツを用いた様々なサービスを有効かつ効率よく実現するためには、インターネットおよびメディアが持つ特性、構成を理解することが必要不可欠である。この講義では、インターネットの原理、インターネット上に構成された様々なメディアを用いた応用サービスの構成について学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

本講義において取り上げるテーマは、次のとおりである。本講義では、講義形式と実習形式の組み合わせにより、インターネットの原理、インターネット上のメディアを用いた応用サービスについて体得することを目的とする。

- インターネットの原理
- インターネットのアーキテクチャ・通信方式
- インターネット上のメディアの基礎
- インターネット上のメディア応用サービス
- インターネット上のメディア応用サービスの実現

履修上の留意点

情報リテラシーおよび情報リテラシー実習との同時履修、または、履修済みであること。

成績評価の方法

毎回の講義におけるミニレポート、および、期末試験を総合的に評価する。

教科書

WWW上に教材を設定し、教科書とする。

参考書等

講義中あるいは教材中に適宜指示する。

その他

本講義は、講義と実習を併せた形式で行う。

科目名	メディアと情報	開講	半期	単位	2
配当	GM1選必				
担当者名	齋藤 ^{さいとう} 信男 ^{のぶお}				

講義のねらい

情報はメディア（媒体）によって送付され、処理される。今日のコンピュータ時代には、あらゆる情報はすべてデジタル化され、メディアによって処理される。眼、耳、鼻、口、手、足などの人間の五感を司る要素がデジタル化されたメディアから様々な刺激を受け取るマルチメディアの世界が広がり、デジタルコンテンツという新しい領域の基盤として機能している。このメディアのデジタル化は、従来の社会で常識とされた慣習を新しいものに変革していく原動力ともなっている。放送、新聞、映画、広告、出版など、その将来の姿は、誰も正確に描くことは出来ない。また、著作権、肖像権、個人情報保護など、メディアのデジタル化によって生ずる新しい課題も存在する。

この講義では、デジタルメディアの基礎として、コード化を理解し、またその処理方式について具体的に体験しながら理解する。更に、将来の経済、産業、社会、などに与える影響について、その本質を理解する。

講義の内容・授業スケジュール

- (ア) メディアのデジタル化の基礎
文字、音、画像、映像など人間の扱う情報は、コンピュータにより処理されるためにデジタル化（デジタルメディア）して扱う。そのために、各種メディアに対して、そのコード化を行い、情報システムに取り込んで扱う。その基本的機能を理解し習得する。
- (イ) デジタルメディアの処理
デジタルメディアは、デジタルネットワークによる送受信、コンピュータによる柔軟な変換、メディア機器によるユーザへの表示など、様々な処理が行われる。また、デジタルメディアは、情報システム内で混在でき、マルチメディアとして扱える。その基本機能について理解し、体験的に習得する。
- (ウ) デジタルメディアの応用
デジタルメディアは、情報システム内ではまったく同等に扱うことができるので、その融合、相互変換、などが容易に出来る。その結果、人間の感性に訴える新しいコンテンツを創造することが可能となる。それは、新しいデジタルコンテンツという領域を開いていき、アニメーション、デジタルムービー、電子音楽、ネットワークゲーム、電子ブック、仮想現実感などが生まれてきた。その概要を理解し、新たな世界の存在を実感する。
- (エ) デジタルコンテンツの抱える課題
デジタルメディアは、ネットワーク上で簡単に送受信できるので、地球上に広がるインターネットに存在するデジタルコンテンツに簡単にアクセスできる。ここでは、著作権保護、個人情報保護など、新たな課題とその解決法を探求する必要がある。ここでは、その課題の本質と重要性を理解する。
- (オ) デジタルメディアの社会に与えるインパクト
デジタルメディアの利用により、従来の慣習や常識を超えた新しい文化、ビジネス、産業が生まれてくる。ネットビジネス、放送とネットワークの融合、ネットワーク広告、電子投票、電子図書館、デジタルミュージアム等々、その可能性は大きい。ここでは、将来方向とその本質を理解する。

専門教育

履修上の留意点

コンピュータによるデジタルメディアの処理について、課題として出すことがある。

成績評価の方法

試験、課題レポート、出席の総合評価により判定する。

教科書

特に指定しない。

参考書等

講義の内容に応じて、その都度紹介する。

科目名	知的財産権と経済	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	きぬかわ しんや 絹川 真哉				

講義のねらい

特許や著作権など知的財産権の経済における役割を理解する上で、経済学、とくにミクロ経済学は欠かせないものである。その基礎を学び、知的財産権制度への理解を深める。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 知的財産の特質
2. 需要と供給
3. 消費者行動
4. 企業行動
5. 独占
6. 市場の失敗

履修上の留意点

数学はほとんど使わないが、高校数学I程度の関数とグラフの知識は必要。

成績評価の方法

期末試験

教科書

伊藤元重『ミクロ経済学 第2版』日本評論社、3000円+税、ISBN4-535-55261-4

参考書等

とくになし

専門教育

科目名	知的財産権と統計	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	きぬかわ しんや 絹川 真哉				

講義のねらい

知的財産権をめぐる経済活動の実態を把握するには、その量をデータとして記述し、分析することが必要である。そのような作業の基礎として、統計学の初歩を学ぶ。

講義の内容・
授業スケジュール

1. データの記述
2. 確率と確率分布
3. 標本
4. 推定
5. 仮説検定
6. 相関と回帰

履修上の留意点

高校数学I・Aの知識が必要。

成績評価の方法

期末試験

教科書

P.G. ホーエル（浅井晃・村上正康共訳）『初等統計学』培風館 1650円+税、ISBN4-563-00839-7

参考書等

東京大学教養学部統計学教室『基礎統計学I 統計学入門』東京大学出版会、2800円+税、ISBN4-13-042065-8

科目名	グローバル文化論	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	かわさき けんいち 川崎 賢一				

講義のねらい

文化的グローバリゼーションがもたらしつつある新しいグローバル文化（Global Culture）について概説する。グローバル文化とは何か、その成立と展開、そして、問題点と可能性を分析する。

講義の内容・授業スケジュール

まず、文化的グローバリゼーションについて、その歴史を短期的・長期的観点から観察する。それから、西欧諸国、そして、アメリカ、そしてアジア諸国の観点から、グローバル文化について論ずる。最後に、現在のグローバル文化の持つ問題点と可能性、特に、コスモポリタン文化について議論する。

履修上の留意点

授業以外に、グローバル文化について調べてもらう予定である。

成績評価の方法

学期末のテスト、あるいは、学期末のレポート、プラス、平常点・出席点等を加算する。

教科書

授業の中で指示する。

参考書等

川崎賢一、「トランスフォーマティブ・カルチャー」、勁草書房、2006年
D. Crane, N. Kawashima, K. Kawasaki (eds.), Global Culture, Routledge, 2002

その他

科目名	メディア文化論	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	こう えん 高 媛				

講義のねらい

芸能人の結婚会見からスポーツの祭典まで、現代社会には、メディアによって伝達あるいは創出されるメディア・イベントが数多く存在する。本講義では、メディア・イベントに対する国家の関与とメディアの戦略を明らかにし、イベント文化とメディアとの関係について検討を加える。

講義の内容・授業スケジュール

前半ではメディア・イベントの基本理論について解説し、後半では、甲子園野球やオリンピック、万国博覧会、ディズニーランドなどにおけるイベント形成の有り様を通して、メディア・イベントを批判的に捉え直していく。

履修上の留意点

講義中に取り上げたトピックについて、討論を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。

成績評価の方法

出席状況、授業への参加度、毎回講義の最後に提出してもらうコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。

教科書

特に指定しない

参考書等

・ダニエル・ダヤーン、エリユ・カツ著、浅見克彦訳『メディア・イベント——歴史をつくるメディア・セレモニー』（青弓社、1996）、4,200円、ISBN: 4787231154

その他

講義形式

科目名	演習I a	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	いしばし なおき 石橋 直樹				

講義のねらい

情報技術を用いた新しいビジネスモデルの構築を目指し、情報システムの設計を行う。特に情報技術の分野において、資本の大小にかかわらず、斬新なアイデアが国際的ビジネスに発展した事例は数多く存在する。本演習では、情報技術の立場から、時勢に先んじた情報システムの開発を行い、社会の進歩・発展に貢献しうる新規のビジネスモデルを各自構築する。具体的には、World Wide Webを前提として、アイデアの設定、関連事業・周辺技術の調査、実現可能性・収益性の検討を行う。

講義の内容・授業スケジュール

I aは特に、文献調査・輪講を通じて社会情勢を読む視野を広げ、同時に、演習を通じてシステム構築の基礎を学ぶことを目標とする。

- 1 週～4 週：文献調査 (brainstorming)
- 5 週～8 週：プログラミング実習 (skill acquisition)
- 9 週～：システム設計実習 (governance design)

履修上の留意点

コンピュータワークショップ履修済、メディアとデータベースと併せて履修が望ましい。また、I bと併せての履修を前提とする。

成績評価の方法

課題やディスカッションへの寄与度、成果物等から総合的に評価する。

教科書

Web において電子教材を提供する。

参考書等

講義中において教材を指定する。

科目名	演習I a	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	各務 <small>かがみ</small> 洋子 <small>ようこ</small>				

講義のねらい

大学は学問追究の場です。しかし、単に高度な学術知識を与えるだけの場ではありません。3年間の演習を通して、大学時代に身につけるべき個人の貴重な資産（能力）を知的交流を通して培うことを目指します。具体的には、(1)高度な学術性と同時に、創造的な理解力を身につけ、多様な価値観から常に自由な立場であり続けるための批判的知性を育てること。(2)多くの知識を幅広く学ぶということではなく、幅広い知識を深く学ぶための確固たる主体性を育てること。(3)生涯、知的に成長を続けるために備えておくべき力を、習慣化すること。これらを実現するために、様々なプログラムを用意しています。常に、ワクワクドキドキする知的緊張感を研ぎ澄ませ、楽しみながら現実と理論の融合を試みます。

現代企業に焦点をあて、企業の所属する業界構造、利害社集団との関り、競争状態など企業の外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報など企業の内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、経営管理形態などを考察する。企業をウチ側とソト側から、経営学の視点に立ち、複眼的、立体的に観察・分析・研究する。

講義の内容・授業スケジュール

理論研究では、経営環境、経営戦略、経営社の役割など、経営学の基本を研究する。テキストを精読し、担当者がレジュメを作成し、報告。ゼミ全体で議論する。理論研究と並行して、現実の企業研修に利用されているビジネス・シミュレーション・ゲーム（企業経営模擬実験）をチームに分かれて行う。会社の創立から株主総会の開催（ゲームの最終段階）、経営幹部反省会（コンパ）まで、企業経営の一連の流れを体感し、意思決定の難しさ、チームワークの重要性を実感してもらう。

専門教育

履修上の留意点

ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。

成績評価の方法

ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。

教科書

年に数冊。
適宜指示する。

参考書等

あらゆる媒体に流れる情報は参考になる。
特に重要な書籍などは適宜指示する。

その他

- ・合宿は9月の後期が始まる直前に2泊3日で実施する。
- ・企業訪問は、チームによる事前準備が完了次第、何社でも訪問している。
- ・年に一度、OBOG全員が集まる各務ゼミ定例総会を実施している。

科目名	演習I a	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	かみやま ともこ 金山 智子				

講義のねらい

本ゼミでは、自分たちの興味や関心をもとにメディアに関するテーマを設定し、実際に調査研究することを目的としています。メディアに関しては特定せず、新聞、ラジオ、テレビ、雑誌、インターネット、携帯といった一般的な媒体から、ダンス、劇、建物、カフェといった媒体にいたるまで、広義の意味でのメディアを対象とします。研究は文献だけでなく、アンケート、内容分析、インタビュー、参与観察といった調査方法を使って、実際に調査を実施し、データを集め、分析をおこなっていきます。

講義の内容・授業スケジュール

個人またはグループで研究プロジェクトを実施してもらいます。一連の研究プロセスは個別コンサルティングを交えながら、ステップ・バイ・ステップで身につけられるように指導します。
 <前期>テーマ設定、文献調査、仮説設定、調査方法選定

成績評価の方法

平常点と研究計画書による総合評価

教科書

メディア・コミュニケーションの基礎的な知識を習得するために読んでおいてほしい文献を授業内で指定します。

科目名	演習I a	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	かわさき けんいち 川崎 賢一				

講義のねらい

社会学的方法の基礎を身につけることを目的とする。社会学の発想、社会学的概念、社会学的方向、などについて報告と討論を中心におこなう。特に、階層・ジェンダー・エスニシティ・知識システムなどが中心概念である。

講義の内容・授業スケジュール

基本的に、最初の2週間だけ様々な社会学の知識を工事、残りは、様々な社会学的なやり方をゼミ生諸君の発表を中心におこなう。

履修上の留意点

これは講義ではない。出席は当然で、発表・討論を基礎とする。したがって、授業以外での準備が必要となる。

成績評価の方法

平常点と最後のレポートにより採点する。

教科書

授業の中で指示する。

参考書等

A. Giddens, *Sociology* (5th edition), Polity Press, 2006
 川崎・藤村(編)、「社会学の宇宙 (Ver. 1.3)」、恒星社厚生閣、1999年

科目名	演習Ia	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	クボタ, L.				

講義のねらい

This Seminar will concentrate on how to establish an investment fund based in Japan that will focus on digital media corporations. Students will gain greater insight into the practical dimensions of the distribution and acquisition of capital in the digital convergence industry.

講義の内容・授業スケジュール

This Semester 1 seminar will meet on Mondays during 1st period. In this seminar, students will go through the steps involved in setting up a media fun, examine an array of business investments, rank the investment opportunities, and apportion funds to be invested. Visiting investment bankers and fund managers will share their experiences.

成績評価の方法

Students will be graded based on participation and the results of their final project.

教科書

There are no required textbooks. Professor will provide materials.

科目名	演習Ia	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	高 媛				

講義のねらい

本演習は、受講者各自の問題関心を引き出し、〈メディア〉をクリティカルに捉え、〈メディア〉の限界と可能性を問い直す社会科学的な発想を身につけることを目標とする。演習Iaでは、文学や音楽、映像表現など広い意味での〈メディア〉を、歴史的な観点からの分析に必要な論文の輪読・討論を行うことで、異空間、異言語、異文化間のさまざまな境界線を作り出してきた〈メディア〉の構造把握に努める。

講義の内容・授業スケジュール

第1回 インTRODクシヨン 受講者全員の問題関心と要望に関するディスカッション
 第2回 輪読文献をリストアップし、発表日程の決定
 第3～14回 指定文献の輪読、討論
 第15回 総括討論

成績評価の方法

出席状況、発表・討論への参加度、毎回ゼミの最後に提出してもらったコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。

教科書

適宜指示する。

その他

ゼミ形式

科目名	演習I a	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	さいどう のおお 齋藤 信男				

講義のねらい

WEB システム解題 (1)

WEB システムを具体的な対象として、それに関連する情報システムの仕組みを理解し、分析し、実験してみる。具体的には、インターネットの機能と構造、オペレーティングシステムの機能と構造、Web システムの機能と構造などを基本から取り扱う。その上で稼動するソフトウェアの分析なども行う。将来、情報システムを扱う分野で活躍したい学生を歓迎する。具体的には、個人所有のノート PC を対象として扱うが、可能ならば共有のサーバやメディア処理用 PC などでも扱ってゆく。また必要に応じて、プログラムの作成も行う。

講義の内容・授業スケジュール

- (ア) インターネットの機能と構造
 ① ネットワークプロトコルモデル
 ② TCP/IP
 ③ IP V4とV6
 ④ ドメイン名
 ⑤ メールシステムの構造は？
 ⑥ ネットワーク方式とネットワーク機器
 ⑦ ネットワークセキュリティ
- (イ) オペレーティングシステム (OS) の機能と構造
 ① OS の役割
 ② OS の種類
 ③ タスク管理
 ④ ファイル管理
 ⑤ ユーザ管理
 ⑥ ユーザインタフェース
 ⑦ セキュリティ管理
 ⑧ OS とネットワーク
- (ウ) JAVA プログラミング
 ① JAVA 言語の位置づけ
 ② プログラミングとは
 ③ プログラミング言語とは

履修上の留意点

演習Ibの履修も望ましい。ノート PC を対象として使いながら、上記の課題についてよく理解していく。

成績評価の方法

適宜課演習レポート、および出席状況から総合的に判定する。

教科書

特に指定しない。

参考書等

進行状況に応じて、適宜紹介していく。

その他

ゼミ形式、演習課題を多く出す。

科目名	演習I a	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	しばさき あつし 芝崎 厚士				

講義のねらい

・国際関係の初歩と社会科学の古典を学び、GMSの視点に基づいて国際関係を理解し、将来の卒業論文作成、社会で活動するための基礎訓練を行う。

講義の内容・授業スケジュール

講義の内容

毎週1回の演習。毎月1回の読書レポート提出。教科書で読み切れなかった部分や、課題図書に関してまとめて議論する機会を、別途持つ予定(年2回)。

授業の形式:

①毎週課される課題、②毎月課される課題、の2本柱です。具体的には、①毎週、国際関係・グローバル政治に関する英語の教科書を読みます。②毎月、社会科学の古典を日本語で1冊ずつ読みます。

具体的には①毎週 英語の教科書を1章ずつ読み、発表者はレジュメを作って発表し、出席者は要約を提出する。②毎月 日本語の課題図書を読み、感想を提出する。講義では、①の発表・ディスカッション、②に関するヒントやアドバイスの説明、を行います。

授業スケジュール

- 1回目 ガイダンス
 - 2回目 1. The Globalization of World Politics
 - 3回目 2. The Evolution of International Society
 - 4回目 3. International History 1900-1945
 - 5回目 4. International History 1945-1990
 - 6回目 5. The End of the Cold War
 - 7回目 6. From the Cold War to the War on Terror
 - 8回目 13. International and Global Security in the Post-Cold War Era
 - 9回目 14. International Political Economy in an Age of Globalization
 - 10回目 15. International Law
 - 11回目 16. International Regimes
 - 12回目 17. Diplomacy
 - 13回目 18. The United Nations
 - 14回目 19. Transnational Actors and International Organizations in Global Politics
- ※とりあげる内容や順番は、若干変更することがあります。

履修上の留意点

- ・毎週課される課題を必ず提出すること。予習の方法については詳細に指示します。
- ・発表を必ず行うこと。発表の方法については詳細に指示します。
- ・毎月課される読書レポートを必ず提出すること。レポートの作成方法については詳細に指示します。

成績評価の方法

出席点、課題、発表、レポートにより評価。

教科書

・ John Baylis and Steve Smith ed., Globalization of World Politics: An introduction to international relations, Cambridge University Press, 3rd edition, 2005.

参考書等

・授業中に随時指示。

その他

- ・レポート課題図書については、授業時に指示する。
- ・フィールドワーク、映画鑑賞、実務家や専門家によるレクチャーなどを行うサブゼミも開講予定(水曜4限以降を予定、ゼミ履修者以外も参加を認める方向で検討中)。

科目名	演習Ia	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	苗村 憲司 <small>なえむら けんじ</small>				

講義のねらい

ネットワーク時代の著作権について現実の事例を対象として調査することによりその理念と課題を理解し、解決策を考察して提案を作成すること。

講義の内容・授業スケジュール

携帯型音楽プレイヤー等の身近な例における著作権など、知的財産権の取扱いを調査し課題と解決方法を考える。また、ネットワークとマルチメディアを活用した学習環境で教員や学生が注意すべき点は何か、実際に起きた問題にどのような例があるか、日本と外国の法律の相違点と技術との関連に注意して検討する。

手法としては、文化庁のウェブページで公開されている審議会資料等を読み問題の本質を理解したうえで、インターネットを利用したアンケート調査を行い、その結果を統計的に分析し、解決策を提案としてまとめる。

【第1週～第3週】文化庁の審議会資料等を読んで、問題点の整理を行う。

調査・検討のグループ構成を決める。

【第4週～第6週】調査すべき項目と内容を検討し、電子的アンケートファイルを作成する。

【第7週～第9週】ウェブおよび電子メールを利用してアンケート調査を行う。

【第10週～第13週】アンケートの結果を分析し、レポートを作成する。

【最終週】レポートの内容を発表する。

履修上の留意点

特になし。

成績評価の方法

次の3項目を総合して評価する。

1. レポートの内容（グループ内での役割も含む）
2. 最終回のプレゼンテーション
3. 毎回の演習時間における参加の積極性

教科書

特に定めない。

参考書等

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/bunka/index.htm
に公開された著作権分科会（特に私的録音録画小委員会）の公開資料

科目名	演習I a	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	にしおか ようこ 西岡 洋子				

講義のねらい

メディアが、どのように経済社会の中で形成されて来たかを理解し、グローバル化の進む現代において、それぞれのメディア産業がどのように発展していくかを考察する。この場合のメディアには、放送、通信、インターネット、映像、新聞、出版、音楽、広告、PRなどを幅広く含むこととする。演習においては、知識の習得より、課題の発見、視座の構築、分析および発表能力の育成に力点を置き、学生の発表および議論の機会をなるべく多く設けることとする。

講義の内容・授業スケジュール

メディア論およびメディア史に関する文献を輪読し、メディアが経済社会のなかで、変化を遂げてきたことを理解する。

履修上の留意点

テーマによって、英語文献の使用および調査を求める場合がある。

成績評価の方法

平常点（出席、態度、発表内容、演習への貢献など）および期末レポートを総合して評価する。

教科書

随時指示する。

参考書等

随時指示する。

科目名	演習I a	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	福家 ^{よけ} 秀紀 ^{ひでのり}				

講義のねらい

データの収集・分析方法、文献学習の方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法、および議論の進め方などに関する基礎的なノウハウを身に付けることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

・講義の内容
ブロードバンドインターネットの普及は、従来の通信と放送というメディアの区分に基づくビジネス・モデルを大きく変えようとしている。すなわち、情報通信産業の構造が従来の垂直統合モデルからレイヤー別分離へと変化するとともに、映像を利用したコミュニケーションも従来のマスメディアに加えてピア・ツウ・ピア型が可能となってきた。この結果、企業活動ばかりでなく、われわれの日常生活にも新しい可能性が拓かれてきた。しかし、同時にこの変化は、デジタル・デバイドの拡大、個人情報流出、迷惑メールの増加など新しい問題も生み出してきている。この演習では、こうした素材を取り上げて、導入演習として演習における基礎的な勉強方法の習得に重点を置く。そのため特定のテーマを指定してそのテーマを深めるのではなく、参加者の関心の深いテーマを取り上げながら進める。

・授業スケジュール

前期は、文献の輪読、データの収集・分析方法実習、プレゼンテーション資料の作成方法の実習などを中心に進める。なお、夏休みに合宿を行う。

履修上の留意点

演習IaとIbの通年履修とする。

成績評価の方法

出席、発表、議論への参加状況、およびレポートを総合的に評価する。

教科書

- ・村井純、『インターネット』、岩波書店、650円、4-00-430416-4
- ・村井純、『インターネットⅡ』、岩波書店、640円、4-00-430571-3
- ・その他、授業の進捗状況を考慮して、適宜指示する。

参考書等

- ・授業の中で適宜紹介する。

科目名	演習I a	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	ベルトコルビ, V. M.				

講義のねらい

This seminar introduces students to the basic cross-cultural differences present in every multinational company. I will discuss about cultural values in three geographical areas of Europe, East Asia, and North America, and how these cultural differences are likely to influence social interaction patterns in global companies. While primary emphasis in this seminar is to understand the basic cultural differences rather than provide concrete management solutions, students are encouraged to find ways to make their interpersonal relationships better in global working environment.

講義の内容・授業スケジュール

This seminar is based on small group discussions on various aspects of culture and its impact on various aspects in cross-cultural encounters. These aspects are examined further through group work assignments and presentations.

成績評価の方法

Students will be evaluated based on group assignments and presentations.

参考書等

Materials will be provided by the instructor.

科目名	演習I a	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	やまぐら ひろし 山口 浩				

講義のねらい

「金融・契約・債報の技術」をテーマとする。これまでは別々の分野とされてきたこれらが今、結びつき始めており、これにより新たな価値が生まれ、新たな力となってきている。これらすべての分野の専門家になることは難しいが、少しでも知っていれば大きな価値になる。このゼミでは、単に理論を理解するだけでなく、実際に使ってみることで、これらを「実用の技術」として身につけることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

共通プログラムと個別プログラムに分ける。

1 共通プログラム

- ①企業経営とファイナンスについての学習
- ②ゼミ企業の設立、経営、運営
- ③ゼミブログの運営

2 個別プログラム

上記の他、その時点での研究の進展状況および学生側の希望状況等に応じ、以下のテーマに関するプログラムを追加的に実施する。状況により、複数のチームに分割することもある。

- ①コンテンツ・ファイナンス
- ②予測市場
- ③仮想経済

前期、後期とも週1回。その他必要に応じサブゼミ等を開催。休み期間中でもブログ更新分担等一部のゼミ活動は継続する。ゼミ合宿等については要望等をふまえ今後検討する。2の個別プログラムについては、開講時点の状況をみて決定する。

履修上の留意点

通年履修が前提。「グローバル経営論」を履修し単位を取得していること。「コンテンツ・ビジネス論」「メディアと企業」のいずれかを履修し単位を取得しているか、あるいは履修中、履修予定であること。

その他、望ましい人物像は次の通り。

- ・やる気がある
- ・社会人としての常識・マナーをわきまえている
- ・チームワークと責任感を持つ
- ・書くこと・読むことをいやがらない
- ・ものごとを面白がる

成績評価の方法

ゼミ中の発言や発表などのパフォーマンスのほか、出席回数、ゼミ在籍期間、ゼミ活動全般への参加状況、自らたてた目標の達成状況などを総合的に勘案して評価する。

教科書

必要に応じ指定。

参考書等

必要に応じ指定。

科目名	演習I a	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	よしだ なおふみ 吉田 尚史				

講義のねらい

本演習では、グローバルな社会環境において実際に役立つ情報技術について一人ひとりが具体的な研究テーマを推進する。特に、実世界に存在する複雑な問題を従来の学問分野の枠を超えた分野横断的問題としてとらえ、情報技術を活用して新たな解決に導く方法論について議論する。具体的には、この演習1aでは、この目的に応じた基礎的な学習、この目的に沿った学会論文についての勉強、および、各自が設定した研究テーマについて、解決に向け情報システムの作成を伴って推進する。

講義の内容・授業スケジュール

第1週～第4週: 導入と基礎となる学習
 第5週～第8週: 各研究テーマに関するディスカッション
 第9週～第13週: 各研究テーマに関する設計・試作、発表・報告準備
 第14週: 発表会または報告会

おおよそこのようなスケジュールに沿って、基礎的な勉強から始め、各学生と個別に相談をしながら進める。

その他最新情報は、次の Web ページに掲載している。

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~naofumi/Lectures/Seminars/>

成績評価の方法

出席、および、学期の最後のレポートまたは発表により評価する。

教科書

授業において指示する。

科目名	演習I b	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	いしほし なおき 石橋 直樹				

講義のねらい

情報技術を用いた新しいビジネスモデルの構築を目指し、情報システムの設計を行う。特に情報技術の分野において、資本の大小にかかわらず、斬新なアイデアが国際的ビジネスに発展した事例は数多く存在する。本演習では、情報技術の立場から、時勢に先んじた情報システムの開発を行い、社会の進歩・発展に貢献しうる新規のビジネスモデルを各自構築する。具体的には、World Wide Web を前提として、アイデアの設定、関連事業・周辺技術の調査、実現可能性・収益性の検討を行う。

講義の内容・授業スケジュール

Ib では、特に、自らのビジネスモデルの構築、システム設計を行い、システムのプロトタイプ作成を目指す。

1 週～3 週: 文献調査 (brainstorming)

4 週～7 週: Web Design (skill acquisition)

8 週～: システム構築実習 (service prototyping)

履修上の留意点

コンピュータワークショップ履修済、メディアとデータベースと併せて履修が望ましい。また、Ia と併せての履修を前提とする。

成績評価の方法

課題やディスカッションへの寄与度、成果物等から総合的に評価する。

教科書

Web において電子教材を提供する。

参考書等

講義中において教材を指定する。

科目名	演習Ib	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	かがみ ようこ 各務 洋子				

講義のねらい

大学は学問追究の場です。しかし、単に高度な学術知識を与えるだけの場ではありません。3年間の演習を通して、大学時代に身につけるべき個人の貴重な資産（能力）を知的交流を通して培うことを目指します。具体的には、(1)高度な学術性と同時に、創造的な理解力を身につけ、多様な価値観から常に自由な立場であり続けるための批判的知性を育てること。(2)多くの知識を幅広く学ぶということではなく、幅広い知識を深く学ぶための確固たる主体性を育てること。(3)生涯、知的に成長を続けるために備えておくべき力を、習慣化すること。これらを実現するために、様々なプログラムを用意しています。常に、ワクワクドキドキする知的緊張感を研ぎ澄ませ、楽しみながら現実と理論の融合を試みます。

現代企業に焦点をあて、企業の所属する業界構造、利害社集団との関り、競争状態など企業の外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報など企業の内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、経営管理形態などを考察する。企業をウチ側とソト側から、経営学の視点に立ち、複眼的、立体的に観察・分析・研究する。

講義の内容・授業スケジュール

理論研究では、経営環境、経営戦略、経営社の役割など、経営学の基本を研究する。テキストを精読し、担当者がレジュメを作成し、報告。ゼミ全体で議論する。理論研究と並行して、後期は業界構造を研究する。チームに分れて、インターネットや図書館ばかりでなく、現実の業界を扱う団体、国会図書館、東京証券取引所、企業の運営する資料室など、各所を訪問して、できる限り質の高い情報を集める方法を学ぶ。集めたデータの分析方法、グループでの効果的なプレゼンテーションなどを通して、一冊の業界構造分析を製本する。最後に関係する企業にインタビューに伺い、企業人の生の声を伺う。情報収集力、データ分析力、プレゼンテーション力を養い、チームワークの重要性を身をもって体験してもらう。

専門教育

履修上の留意点

出席重視。無断欠席は嚴重注意。欠席は事前に連絡すること。

成績評価の方法

ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。

教科書

年に数冊。
適宜指示する。

参考書等

あらゆる媒体に流れる情報は参考になる。
特に重要な書籍などは適宜指示する。

その他

- ・合宿は9月の後期が始まる直前に2泊3日で実施する。
- ・企業訪問は、チームによる事前準備が完了次第、何社でも訪問している。
- ・年に一度、OBOG全員が集まる各務ゼミ定例総会を実施している。

科目名	演習I b	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	かなやま ともこ 金山 智子				

講義のねらい

本ゼミでは、自分たちの興味や関心をもとにメディアに関するテーマを設定し、実際に調査研究することを目的としています。メディアに関しては特定せず、新聞、ラジオ、テレビ、雑誌、インターネット、携帯といった一般的な媒体から、ダンス、劇、建物、カフェといった媒体にいたるまで、広義の意味でのメディアを対象とします。研究は文献だけでなく、アンケート、内容分析、インタビュー、参与観察といった調査方法を使って、実際に調査を実施し、データを集め、分析をおこなっていきます。

講義の内容・授業スケジュール

個人またはグループで研究プロジェクトを実施してもらいます。一連の研究プロセスは個別コンサルティングを交えながら、ステップ・バイ・ステップで身につけられるように指導します。
<後期>調査実施、データ分析、発表

履修上の留意点

前期を履修していること

成績評価の方法

平常点と研究レポート（発表を含む）

専門教育

科目名	演習I b	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	かわさき けんいち 川崎 賢一				

講義のねらい

前半で身につけた社会学的方法をもとに、東京文化について共同研究と共同発表をもとに、グローバルな東京文化について分析する。

講義の内容・授業スケジュール

最初に東京文化について概説した後、各自が調査してきたグローバルな東京文化について、発表・議論をする予定である。

履修上の留意点

これは講義ではない。出席は当然で、発表・討論を基礎とする。したがって、授業以外での準備が必要となる。

成績評価の方法

平常点と最後のレポートにより採点する。

教科書

授業の中で指示する。

参考書等

川崎賢一、「トランスフォーマティブ・カルチャー」、勁草書房、2006年
D.Crane, N.Kawashima, K.Kawasaki (eds.), Global Culture, Routledge, 2002

科目名	演習I b	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	クボタ, L.				

講義のねらい

This class deals with the emerging realm of media for cell phones and other mobile computers. Visiting producers and directors will discuss their work from a theoretical and practical perspective.

講義の内容・
授業スケジュール

This Semester 2 seminar will meet on Mondays during 1st period. Students will divide into teams, each competing to create and produce a media program for a prospective client or co-producing partner — these will be real companies. Interactive aspects of this mode of digital content will be explored. Students in teams will develop an interactive media project for a final exhibition or submit a presentation.

成績評価の方法

Students will be graded based on participation and the results of their final project.

教科書

There are no required textbooks.

参考書等

Professor will provide materials from the following:
 Claudette Guzane Artwick, Reporting and Producing for Digital Media, Black Well Publishing, Ames Iowa , 2004
 Dan Rayburn and Michael Hoch, The Business of Streaming and Digital Media, Focal Press, Burlington, MA, 2005
 Gorham Kindem, Robert B. Musburger, Introduction to Media Production: From Analog to Digital, Focal Press, Boston, MA, 1997
 Robert B. Musburger, Gorham Kindem, Introduction to Media Production, Therd Edition: The Path to Digital Media Production, Focal Press, Burlington, MA, 2005
 Brian McKernan (Editor), John Rice (Editor), Creating Digital Content: Video Production for Web, Broadcast, and Cinema, NY, McGraw Hill, 2002

科目名	演習I b	開講	半期	単位	2
担当	GM2選必				
担当者名	高 媛 <small>こうえん</small>				

講義のねらい

本演習は、受講者各自の問題関心を引き出し、＜メディア＞をクリティカルに捉え、＜メディア＞の限界と可能性を問い直す社会科学的な発想を身につけることを目標とする。演習I bでは、演習I aで得られた知見に基づき、個人あるいは、グループによる研究発表を中心に進める。互いの発表を十分に検討し合いながら、自己の問題関心を深化させ、さらに受講者一人一人がみずからの内なる「境界線」の発見・再考を目指す。

講義の内容・授業スケジュール

第1回 演習I aを踏まえ、演習I bの運営方針に関する説明を行う
 第2～14回 個人あるいはグループ別発表
 第15回 総括討論

履修上の留意点

演習I aを履修済みであること。

成績評価の方法

出席状況、発表・討論への参加度、毎回ゼミの最後に提出してもらうコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。

教科書

適宜指示する。

その他

ゼミ形式

科目名	演習Ib	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	さいとう のぶお 齋藤 信男				

講義のねらい

WEB システム解題（2）

WEB システムを具体的な対象として、それに関連する情報システムの仕組みを理解し、分析し、実験してみる。具体的には、インターネットの機能と構造、オペレーティングシステムの機能と構造、Webシステムの機能と構造などを基本から取り扱う。その上で稼動するソフトウェアの分析なども行う。将来、情報システムを扱う分野で活躍したい学生を歓迎する。具体的には、個人所有のノートPCを対象をして扱うが、可能ならば共有のサーバやメディア処理用PCなども扱っていく。また必要に応じて、プログラムの作成も行う。

講義の内容・授業スケジュール

（ア）WEB システムの機能と構造

- ① URI
- ② Web サーバ
- ③ ブラウザ
- ④ HTML とその役割
- ⑤ HTTP とその役割
- ⑥ CSS とその役割
- ⑦ WEB 上のアプリケーション
- ⑧ モバイル機器の扱い

（イ）JAVA プログラミング入門

- ① JAVA の制御構造
- ② JAVA のデータ構造
- ③ WEB アプリケーションの実例

（ウ）情報システムの課題

- ① 信頼性
- ② セキュリティ
- ③ 保守管理
- ④ システム開発

履修上の留意点

前期の開講される 演習 Ia を履修していることが、当科目を履修する際の必須条件である。

成績評価の方法

適宜課す演習レポート、および出席状況から総合的に判定する。

教科書

特に指定はしない。

参考書等

必要に応じて紹介する。

その他

ゼミ形式 演習課題を多く出す

科目名	演習Ib	開講	半期	単位	2
担当	GM2選必				
担当者名	しばさき あつし 芝崎 厚士				

講義のねらい

・国際関係の初歩と社会科学の古典を学び、GMSの視点に基づいて国際関係を理解し、将来の卒業論文作成、社会で活動するための基礎訓練を行う。

講義の内容・授業スケジュール

講義の内容

毎週1回の演習。毎月1回の読書レポート提出。教科書で読み切れなかった部分や、課題図書に関してまとめて議論する機会を、別途持つ予定(年2回)。

授業の形式：

①毎週課される課題、②毎月課される課題、の2本柱です。具体的には、①毎週、国際関係・グローバル政治に関する英語の教科書を読みます。②毎月、社会科学の古典を日本語で1冊ずつ読みます。

具体的には：①毎週 英語の教科書を1章ずつ読み、発表者はレジュメを作って発表し、出席者は要約を提出する。・毎月 日本語の課題図書を読み、感想を提出する。講義では、②の発表・ディスカッション、・に関するヒントやアドバイスの説明、を行います。

授業スケジュール

- 1回目 20. Environmental Issues
 - 2回目 21. Terrorism
 - 3回目 22. Nuclear Proliferation
 - 4回目 23. Nationalism
 - 5回目 24. Culture in World affairs
 - 6回目 25. Humanitarian Intervention in World Politics
 - 7回目 26. European Integration and Regional Co-operation
 - 8回目 27. Global Trade and Finance
 - 9回目 28. Causes and Consequences of the Communications and Internet Revolution
 - 10回目 29. Poverty, Development and Hunger
 - 11回目 30. Gender Issues
 - 12回目 31. Human Rights
 - 13回目 32. Globalization and the Transformation of Political Community
 - 14回目 33. Globalization and the Post-Cold War Order
- ※学生と相談の上で、順番、内容は変更することがあります。

履修上の留意点

- ・毎週課される課題を必ず提出すること。予習の方法については詳細に指示します。
- ・発表を必ず行うこと。発表の方法については詳細に指示します。
- ・毎月課される読書レポートを必ず提出すること。レポートの作成方法については詳細に指示します。

成績評価の方法

出席点、課題、発表、レポートにより評価。

教科書

・John Baylis and Steve Smith ed., Globalization of World Politics: An introduction to international relations, Cambridge University Press, 3rd edition, 2005.

参考書等

授業中に随時指示。

その他

- ・レポート課題図書については、授業時に指示する。
- ・フィールドワーク、映画鑑賞、実務家や専門家によるレクチャーなどを行うサブゼミも開講予定(水曜4限以降を予定、ゼミ履修者以外も参加を認める方向で検討中)。

科目名	演習I b	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	苗村 憲司 <small>なえむら けんじ</small>				

講義のねらい

「情報セキュリティ文化」の理念、並びにその現状について知見を得て、課題を明確化し、対策案を作成すること。

講義の内容・授業スケジュール

インターネットを活用した社会において重要な情報の機密性・完全性・可用性を維持するためには、情報セキュリティ確保の基本指針を文書化した情報セキュリティポリシーとそれを実現する組織および手続きを定めて実施することが必要である。この点について現状を調査し、対策を考察する。特に、企業や行政府に比較して大学のセキュリティポリシー制定が著しく遅れている理由は何か、学生の立場から改善できることはないかなど、身近な問題に力点を置いて調べ、提案の可能性を探る。

手法としては、内外の大学等の組織における情報セキュリティポリシーの現状と課題について、インターネットを活用したアンケートを実施し、その結果を検討して提案をまとめる。

【第1週～第3週】情報セキュリティポリシーに関する資料等を読んで、問題点の整理を行う。調査・検討のグループ構成を決める。

【第4週～第6週】調査すべき項目と内容を検討し、電子的アンケートのファイルを作成する。

【第7週～第9週】ウェブと電子メールを用いてアンケート調査を行う。

【第10週～第13週】アンケートの結果を分析し、レポートを作成する。

【最終週】レポートの内容を発表する。

履修上の留意点

特になし。

成績評価の方法

次の3項目を総合して評価する。

1. レポートの内容（グループ内での役割も含む）
2. 最終回のプレゼンテーション
3. 毎回の演習時間における参加の積極性

教科書

特に定めない。

参考書等

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~naemura/papers/2005JSICR/index.html>

その他

授業時間に指定する。

科目名	演習I b	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	にしおか ようこ 西岡 洋子				

講義のねらい

メディアが、どのように経済社会の中で形成されて来たかを理解し、グローバル化の進む現代において、それぞれのメディア産業がどのように発展していくかを考察する。この場合のメディアには、放送、通信、インターネット、映像、新聞、出版、音楽、広告、PRなどを幅広く含むこととする。演習においては、知識の習得より、課題の発見、視座の構築、分析および発表能力の育成に力点を置き、学生の発表および議論の機会をなるべく多く設けることとする。

講義の内容・授業スケジュール

メディア産業に関する文献を輪読し、現在の国内メディア産業の形成過程および変化の方向性を理解する。そして、各メディア産業間の構造の差について考察を行う。学生には、課題別のグループワークの発表のほか、担当する産業の動向をウォッチし、報告も求める。

成績評価の方法

平常点（出席、態度、発表内容、演習への貢献など）および期末レポートを総合して評価する。

教科書

随時指示する。

参考書等

随時指示する。

専門教育

科目名	演習I b	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	ふけ ひでのり 福家 秀紀				

講義のねらい

データの収集・分析方法、文献学習の方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法、および議論の進め方などに関する基礎的なノウハウを身に着けることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

・講義の内容
ブロードバンドインターネットの普及は、従来の通信と放送というメディアの区分に基づくビジネス・モデルを大きく変えようとしている。すなわち、情報通信産業の構造が従来の垂直統合モデルからレイヤー別分離へと変化するとともに、映像を利用したコミュニケーションも従来のマスメディアに加えてピア・ツー・ピア型が可能となってきた。この結果、企業活動ばかりでなく、われわれの日常生活にも新しい可能性が拓かれてきた。しかし、同時にこの変化は、デジタル・デバイドの拡大、個人情報の流出、迷惑メールの増加など新しい問題も生み出してきている。この演習では、こうした素材を取り上げて、導入演習として演習における基礎的な勉強方法の習得に重点を置く。そのため特定のテーマを指定してそのテーマを深めるのではなく、参加者の関心の深いテーマを取り上げながら進める。

・授業スケジュール
後期は、各自が設定したテーマに基づいて、発表とディスカッションを進め、ゼミの終了時までにレポートをまとめる。なお、ゼミ終了時に合宿を行う。

履修上の留意点

演習I aとI bの通年履修とする。

成績評価の方法

出席、発表、議論への参加状況、およびレポートを総合的に評価する。

教科書

授業の進捗状況を考慮して、適宜指示する。

参考書等

授業の中で適宜紹介する。

科目名	演習Ib	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	ペルトコルピ, V. M.				

講義のねらい

This seminar introduces students to both theoretical and practical issues in cross-cultural management. Using material from my research on cross-cultural management in Nordic subsidiaries in Japan, students will be provided with a Nordic expatriate view of Japanese organizational behavior and the challenges these expatriates face in Japan. Students are required to read selected articles and discuss management challenges that Japanese multinationals and expatriates face abroad.

講義の内容・
授業スケジュール

This seminar is based on small group discussions on various aspects of culture and its impact on various aspects in cross-cultural encounters. These aspects are examined further through group work assignments and presentations.

成績評価の方法

Students will be evaluated based on group assignments and presentations.

参考書等

Materials will be provided by the instructor.

科目名	演習I b	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	山口 <small>やまぐち ひろし</small> 浩				

講義のねらい

「金融・契約・情報の技術」をテーマとする。これまでは別々の分野とされてきたこれらが今、結びつき始めており、これにより新たな価値が生まれ、新たな力となってきている。これらすべての分野の専門家になることは難しいが、少しでも知っていれば大きな価値になる。このゼミでは、単に理論を理解するだけでなく、実際に使ってみることで、これらを「実用の技術」として身につけることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

共通プログラムと個別プログラムに分ける。

- 1 共通プログラム
 - ①企業経営とファイナンスについての学習
 - ②ゼミ企業の設立、経営、運営
 - ③ゼミブログの運営
- 2 個別プログラム

上記の他、その時点での研究の進展状況および学生側の希望状況等に応じ、以下のテーマに関するプログラムを追加的に実施する。状況により、複数のチームに分割することもある。

- ①コンテンツ・ファイナンス
- ②予測市場
- ③仮想経済

前期、後期とも週1回。その他必要に応じサブゼミ等を開催。休み期間中でもブログ更新分担等一部のゼミ活動は継続する。ゼミ合宿等については要望等をふまえ今後検討する。2の個別プログラムについては、開講時点の状況をみて決定する。

履修上の留意点

通年履修が前提。「グローバル経営論I」を履修し単位を取得していること。「コンテンツ・ビジネス論」「メディアと企業」のいずれかを履修し単位を取得しているか、あるいは履修中、履修予定であること。

その他、望ましい人物像は次の通り。

- ・やる気がある
- ・社会人としての常識・マナーをわかまえている
- ・チームワークと責任感を持つ
- ・書くこと・読むことをいやがらない
- ・ものごとを面白いがる

成績評価の方法

ゼミ中の発言や発表などのパフォーマンスのほか、出席回数、ゼミ在籍期間、ゼミ活動全般への参加状況、自らたてた目標の達成状況などを総合的に勘案して評価する。

教科書

必要に応じ指定。

参考書等

必要に応じ指定。

科目名	演習I b	開講	半期	単位	2
配当	GM2選必				
担当者名	吉田 <small>よしだ なおふみ</small> 尚史				

講義のねらい

本演習では、グローバルな社会環境において实际的に役立つ情報技術について一人ひとりが具体的な研究テーマを推進する。特に、実世界に存在する複雑な問題を従来の学問分野の枠を超えた分野横断的問題としてとらえ、情報技術を活用して新たな解決に導く方法論について議論する。具体的には、この演習 1a では、この目的に応じた基礎的な学習、この目的に沿った学会論文についての勉強、および、各自が設定した研究テーマについて、解決に向け情報システムの作成を伴って推進する。

講義の内容・授業スケジュール

第1週～第4週: 導入と基礎となる学習
 第5週～第8週: 各研究テーマに関するディスカッション
 第9週～第13週: 各研究テーマに関する設計・試作、発表・報告準備
 第14週: 発表会または報告会

おおよそこのようなスケジュールに沿って、基礎的な勉強から始め、各学生と個別に相談をしながら進める。

その他最新情報は、次の Web ページに掲載している。

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~naofumi/Lectures/Seminars/>

成績評価の方法

出席、および、学期の最後のレポートまたは発表により評価する。

教科書

授業において指示する。

科目名	メディア・コミュニケーション概論	開講	半期	単位	2
配当	GM1選				
担当者名	にしおか ようこ 西岡 洋子				

講義のねらい

本講義では、コミュニケーションの基本機能およびコミュニケーションにおいて活用されるメディアの基本的特性を理解することを目的とする。まずは、コミュニケーションの基本的構造モデルを紹介したのちに、コミュニケーション主体の違いによって展開される異なるレベルのコミュニケーション（個人、グループ、マスのレベル）があることを理解する。さらには、それぞれのコミュニケーションにおいてどのようなメディアが活用されているか、さらには、それがどのように使い分けられ、また、変化しようとしている大きな傾向を理解する。

講義の内容・
授業スケジュール

1. イントロダクション
コミュニケーション・モデル
2. パーソナル・コミュニケーション
人と人とのコミュニケーション
電話コミュニケーション
3. グループ・コミュニケーション
集団・組織のコミュニケーション
地域コミュニティのコミュニケーション
集団行動のコミュニケーション
4. マス・コミュニケーション
マス・コミュニケーションとメディア
マス・コミュニケーション研究
マーケティング・コミュニケーション
5. グローバル・コミュニケーション
6. まとめ

履修上の留意点

とくになし。

成績評価の方法

期末試験、レポート、平常点などで総合的に評価する。

教科書

講義中に指示する。

参考書等

講義中に指示する。

科目名	メディア政策論	開講	半期	単位	2
配当	GM1選				
担当者名	にしおか 洋子				

講義のねらい

放送および通信は、従来、様々な規制のもとに事業を展開してきた。本講義では、これら放送および通信産業の概要を理解したうえで、規制の基本的内容およびその論拠を理解することを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

1. イントロダクション
2. メディア産業の概要
 - ネットワーク産業としての特徴と規制
 - 政策決定、メディア産業の市場での位置づけ
3. 放送
 - 日本の放送産業の概要
 - 放送における各種規制
 - 地上放送とデジタル化
 - 衛星放送、ケーブルテレビ
4. 通信
 - 情報通信産業の概要
 - 通信における各種規制
 - 日本の通信政策の流れ
 - 携帯電話
5. 通信と放送の融合
 - 通信と放送の融合
 - 日本のIT戦略
6. まとめ

履修上の留意点

とくになし。

成績評価の方法

期末試験、レポート、平常点などで総合的に評価する。

教科書

講義中に指示する。

参考書等

総務省『情報通信白書』<http://www.johotsusintokei.soumu.go.jp/whitepaper/index.html>
ほか 講義中に指示する。

科目名	グローバル経営論II	開講	半期	単位	2
配当	GM1選				
担当者名	かがみ ようこ 各務 洋子				

講義のねらい

グローバル経営論Iの講義をさらに深めることを目的とします。グローバル経営を追求する企業が、世界規模で付加価値活動を展開し、競争優位を築いていくための論理と、現実の企業行動を、事例研究を用いて理解することを目指します。グローバル経営はドメスティックな経営全般とは本質的に異なる属性をもち、単なる経営上のファンクション分野における国際化を越えたフレームワークを理解しなければなりません。世界に通じるグローバル経営の理論武装となるように、先行研究の成果を踏まえて、最新の理論動向まで修得します。

講義の内容・授業スケジュール

グローバル経営は、政治、社会、文化など各国の様々な条件が考慮されているため、非常に複雑に見えますが、(1)どのような論理で組織が構築され、(2)どのような戦略が実行されているのかという2つの視点を念頭において理解してみると、わかりやすくなります。したがって、本講義は、組織論・戦略論をベースに体系的に解説します。

- I. グローバル経営の論理
 1. 企業活動の国際展開の論理
 2. グローバル経営の戦略論
 3. グローバル経営の組織論
 4. 海外子会社関係のマネジメント
 5. グローバル統合とローカル適応の論理
 6. トランスナショナル経営論
- II. グローバル経営の革新
 7. グローバル企業のイノベーション
 8. グローバル企業におけるナレッジ・マネジメント
 9. グローバル&マネジメント
 10. グローバル戦略提携のマネジメント
- III. グローバル経営環境とマネジメント
 11. グローバルな人的資源戦略
 12. リージョナル・マネジメント
 13. グローバル経営における文化
 14. まとめ

履修上の留意点

グローバル経営論Iをすでに履修した学生に限ります。Iと同様、学習素材として新聞、雑誌、インターネットを始めとした幅広い情報源を駆使して、企業関連のニュースを理解することを心がけて下さい。

成績評価の方法

各期定期試験と、講義中に実施する理解度テストにより総合的に評価します。

教科書

開講時に指示。

参考書等

必要に応じて随時紹介。

科目名	コンピュータワークショップ	開講	半期	単位	2
配当	GM1選				
担当者名	<small>きたがわ かずひろ なえむら けんじ いしげし なおき</small> 北川 和裕・苗村 憲司・石橋 直樹				

講義のねらい

社会のさまざまな分野に存在する多様な問題をデジタル情報で表現し、コンピュータ上のソフトウェアによって解決するためにはどうブレークダウンするかというプロセスの体得を目指す。このためには、解決方法をコンピュータが理解できるプログラミング言語で記述する手法の習得が不可欠である。この講義では、特定の分野に偏らず、プログラミングの概念、その構成を学び、さらに、実習を通じて実際のソフトウェア開発を体験する。

講義の内容・授業スケジュール

授業は次のスケジュール（予定）で行い、Java 言語によるプログラムの読み書き能力を身に付けることを目標とする。

- ①問題解決の手段としてのプログラム
- ②アルゴリズムの構造（1）場合分けと繰返し
- ③アルゴリズムの構造（2）部品化と再帰
- ④データの種類
- ⑤データの構造
- ⑥オブジェクト指向
- ⑦配列の処理と探索
- ⑧ソート（1）選択／バブル／挿入・ソート
- ⑨ソート（2）併合／クイック・ソート
- ⑩入力と出力
- ⑪アプレットとアプリケーション
- ⑫ファイルの取り扱い
- ⑬作成プログラムの発表

履修上の留意点

情報リテラシー実習を履修済みであること。また、この科目では、Java の環境を設定したパソコンを使用する。

成績評価の方法

出席、ミニテストおよびグループで作成するプログラムの完成度によって評価する。

教科書

Web 上に電子教材を提供する。

参考書等

電子教材の中で参考書を紹介する。

その他

講義と実習を併せた形式で行う。

科目名	Cross-Cultural Communication Practicum	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	<small>うちやま ひろみち</small> 内山 浩道・セイジ, K.				

講義のねらい

Communication is based on more than verbal and non-verbal skills. It is heavily dependent on the culture of the speakers. Thus, though people from diverse cultural backgrounds may be able to communicate in grammatically correct English, they may have difficulty understanding one another because of divergent cultural values. Often imperceptible, these culturally specific values can lead to difficulties rooted in misunderstanding. This course will attempt to introduce students to the effects of cultural diversity on conversation and enable them to detect and deal successfully with the phenomenon.

講義の内容・
授業スケジュール

Functional English for a multitude of scenarios reflecting cultural diversity will be employed by way of grouping students into pairs to act out specific situations. Firstly, having completed the necessary preparations which include drawing up of "role cards" and showing the designated roles for each performer, pairs of students will enact a situation in English. Secondly, pairs of spectators will be assigned to demonstrate a Japanese version of how the same situation might play out between Japanese. The remaining spectators will then be charged with detecting any cultural deviation from the socio-linguistic aims between the encounters with foreigners and their Japanese equivalents. Scenarios for enactments will include such things as "apology for an unexcused absence" and "responding to a complementary remark."

履修上の留意点

Attendance is mandatory and punctuality is expected. More than three unexcused absences during a semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above three in the final grade. If you are late more than five minutes, this counts as half an absence.

成績評価の方法

The final grade will be computed in the following way:

Quizzes: 25%
 Group Presentation: 25% (Instructor 50%, Peer 50%)
 Individual Presentation: 50% (Instructor 75%, Peer 25%)

Elements of evaluation of presentations include: use of English and non-verbal communication skills, organization of material and creativity. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.

教科書

None. All course materials will be provided by the instructor. Audio and visual material or links to them will be made available on the course homepage on the GMS server when possible.

参考書等

None

その他

Nothing

科目名	Media English	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	ギャリソン, E.・ハードグレーブ, B.・ラベルーグレーザ, F.・レオーネ, J. V.				

講義のねらい

The increasing quantity and questionable quality of information available through the media today presents many challenges to the informed citizen. That, coupled with the fact that the vast majority of information available through electronic media today is in English, make it essential to have a critical mastery of the language in order to keep abreast of events and make informed judgments. The purpose of this course is to develop the critical skills required to understand and evaluate news and information presented in both traditional and new media including newspapers, magazines, radio, television, blogs, podcasts and videocasts.

講義の内容・
授業スケジュール

This is a multi-media course. In it we will consider such issues as how the selection and presentation of news and information, including advertisements, shapes our intellectual milieu and how we can evaluate the information presented about events and products by both traditional and new media. Current English language newspaper and magazine articles and advertisements, radio and television shows and advertisements, webpages, blogs, podcasts and videocasts will be examined and discussed to illustrate issues. Assignments will be made in advance of scheduled class meetings. Class activities include listening to podcasts; watching television news and advertisements as well as videocasts; and reading, analyzing and discussing print media articles and advertisements. Students are expected to be familiar with assigned material prior to class. There will be a short test following the completion of each lesson.

履修上の留意点

Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.

成績評価の方法

The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.

教科書

None. Copies of printed material for use in class will be provided by the instructor. Audio and visual materials or links to them will be available on the course homepage on the GMS server. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor.

参考書等

Good, up-to-date English-Japanese and Japanese-English dictionaries for use at home as well as a portable dictionary of the English language in either print or electronic format are recommended.

その他

Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

科目名	Integrated Media & Technology Readings	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	ラベルーグレーザ, F・ダーリング, M・スメサム, M・ワイリー, A. D.・ギヤリソン, E				

講義のねらい

The keystone in the linkage of the language and either the media or technology concentrations, this course is designed to integrate language acquisition with the content of specific courses offered in the Faculty of Global Media Studies. Together, the instructors of the language component and the media or technology components selected for inclusion in the Language-Link program will choose English-language textual material for use in class to supplement lecture topics addressed in the media or technology component. Coursework in each section of IM&TR&D will, insofar as practical, parallel and compliment the lectures and assignments of the major concentration course with the goal of nurturing a comprehensive bilingual understanding of the major component course.

講義の内容・
授業スケジュール

Eight Media or Technology courses, four each semester, have been selected to be part of the Language Link program for academic year 2007:

前期

- 1) グローバルメディアガバナンス論 (水4/西岡) — IM&TR&D (火4/金4/ Rabl-Glaser)
- 2) マルチメディアビジネス論 (火1/クボタ) — IM&TR&D (水4/土4/ Darling)
- 3) 教育環境とメディア (水2/斉藤) — IM&TR&D (月5/木5/ Smetham)
- 4) 実践メディアビジネス講座 I (金1/クボタ) — IM&TR&D (火5/金5/ Whiley)

後期

- 5) デジタル融合戦略論 (金1/クボタ) — IM&TR&D (火4/金4/ Garrison, E.)
- 6) 知識創造戦略論 (火2/各務) — IM&TR&D (水4/土4/ Darling)
- 7) メディアとデータベース (月3/石橋) — IM&TR&D (月5/木5/ Smetham)
- 8) 複合ドキュメント概論 (水5/吉田) — IM&TR&D (火5/金5/ Whiley)

The content of each section of this course is determined by the instructors of the Media or Technology course to which it is linked and the instructor of the Language course. Class activities will include reading articles about material taught in the course to which IM&TR&D is linked as well as summarizing, analyzing, researching, and discussing issues raised therein. All readings and discussions will be in English, with background information, vocabulary lists, and usage notes provided by the instructor when possible. There will be a short test— which may take the form of an essay—following the completion of each assignment.

履修上の留意点

Students registering for this class must also be registered for the Media or Technology component listed above. Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.

成績評価の方法

The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.

教科書

Reading material for the course will be selected by the instructor in consultation with the instructor of the Media or Technology course with which it is linked. All material selected for instruction will be provided to the students by the instructor or links to such material as can be found online will be indicated in class.

参考書等

Good, up-to-date English-Japanese dictionaries as well as a portable dictionary of the English language, in either print or electronic format, are recommended.

その他

Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy.

科目名	情報社会論	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	高 媛 <small>こうえん</small>				

講義のねらい

社会は、さまざまな情報メディアが絡み合った場所である。19世紀以来、メディア技術の革新は、人々の日常生活から社会や国家のありかたまでさまざまな変化をもたらしてきた。本講義では、メディアの変容がどのような社会的諸条件のもとで要請されたのか、そしてそれが人間の知覚や精神にいかなる影響を与えたのかを、歴史的・文化論的な視点から掘り下げていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

近代と視覚システム、出版資本主義と国民国家、複製技術の時代、情報戦とプロパガンダ、移民社会とメディア、グローバル・メディアと身体、といった諸テーマをめぐって、具体例を示しながら解説する。

履修上の留意点

講義中に取り上げたトピックについて、討論を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。

成績評価の方法

出席状況、授業への参加度、毎回講義の最後に提出してもらったコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。

教科書

特に指定しない

参考書等

- ・佐藤卓己『現代メディア史』（岩波書店、1998年）、2,300円、ISBN: 4000260154
- ・吉見俊哉『メディア文化論』（有斐閣、2004年）、1,800円、ISBN: 4641121907

その他

講義形式

科目名	イノベーション普及論 I	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	しらみず <small>しげひこ</small> 白水 繁彦				

講義のねらい

イノベーションとは、新しいアイデア、すなわち、新しいモノ、行為、思想などです。前期は主にイノベーションの採用過程を学びます。
すなわち、わたしたちは、どのような心理的過程をへて、新しいものを採用するか、その仕組みを調べます。

講義の内容・授業スケジュール

どうして、わたしたちは、あるイノベーションは採用するが、あるイノベーションは採用しないのか、なぜ、ブランド品などの高価なものを買ってしまうのか。購入に際して友人や店員はどのような役割を果たしているのか。テレビなどのメディアはどのような役割を果たすのか…。身近なところに事例がいくらでもある、とても心理学的で興味深い研究です。
わかりやすい例としてまず、流行を取り上げてイノベーションの普及に入っていきます。
4月 流行と普及の実態
流行とはなにか
流行と普及の関係
5月～6月 個人過程：イノベーション採用過程
イノベーションの採用に至るまでの心的過程
人はどのような過程を経て実際に使用するようになるか
メディアはどのようなときに最も効果的に働くか
7月 イノベーション採用過程を自分の例で検証する

履修上の留意点

参加意欲旺盛で、好奇心に富む学生を歓迎します。授業中にしばしば質問を發します。答える意欲のない学生は脱落候補です。

成績評価の方法

授業時間中にしばしばエッセイを課す。しばしば出欠をチェックする。
この両者を平常点とする。この平常点と期末等の定期的試験の結果との両方で前期の成績とする。その割合はおおよそ50：50である。

教科書

なし。パワーポイントによる説明。適宜プリント等を配布する。

参考書等

エベレット・M・ロジャーズ (著)、1990『イノベーション普及学』産能大学出版部
宇野 善康 1990『普及学講義—イノベーション時代の最新科学』有斐閣選書
白水繁彦 1998『エスニック文化の社会学』日本評論社

その他

授業は講義形式だが、頻繁に質疑応答の時間をもうける。したがって参加意欲のない学生は付いていけないので、そのつもりで。

科目名	イノベーション普及論 II	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	白水 繁彦 <small>しらみず しげひこ</small>				

講義のねらい	イノベーションとは new idea のこと。新しいモノ、新しい行為、新しい思想を指します。これらが、社会の人びとのあいだで、どのようにして広まるのか、その仕組みを理解します。前期は、主として、個人過程（イノベーションの採用過程）を学んだので、後期は、集団過程（社会における普及過程）を学びます。
講義の内容・授業スケジュール	イノベーションは、すべて最初はだれかが始めたものです（発明、新開発）。それがどのようにして人びとのあいだに広まり、社会のなかで市民権を得ていくか。また、どのようにして消滅していくか、そのメカニズムを探ります。新しいアイデアに飛びつくのはどういう人か、どういうメディアがどのような役割を果たすか？ 現実的で、さまざまな場面で応用可能な興味深い研究です。 9月 集団過程（イノベーションの社会における普及過程） 普及過程とはなにか 10月～11月 普及過程の実際 イノベーションを最初に採用するひとはどのような人か＝イノベーターの価値観などの社会心理学的背景を探る オビニオン・リーダーの存在 その機能 12月～1月 ワークショップ イノベーションの普及過程を自分の身近な例で検証する。
履修上の留意点	前期のイノベーション普及論Iを履修しておくこと。 参加意欲旺盛で、好奇心に富む学生を歓迎します。授業中にしばしば質問を發します。答える意欲のない学生は脱落候補です。
成績評価の方法	授業時間中にしばしばエッセイを課す。しばしば出欠をチェックする。 この両者を平常点とする。この平常点と期末等の定期の試験の結果との両方で前期の成績とする。その割合はおおよそ50：50である。
教科書	なし。パワーポイントによる説明。適宜プリント等を配布する。
参考書等	エベレット・M・ロジャーズ（著）、1990『イノベーション普及学』産能大学出版部 宇野 善康 1990『普及学講義—イノベーション時代の最新科学』有斐閣選書 白水繁彦 1998『エスニック文化の社会学』日本評論社
その他	授業は講義形式だが、頻繁に質疑応答の時間をもうける。したがって参加意欲のない学生は付いていけないので、そのつもりで。

科目名	知識創造戦略論	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	かがみ ようこ 各務 洋子				

講義のねらい

知識こそ企業にとって最大の価値創造の源泉であるという認識が知識経済や知識経営という概念を生んだ。モノづくりに限らず、あらゆる分野で企業は絶え間ない技術革新（知識の創造とイノベーション）を求められている。あらゆる分野で求められる知識創造を継続的に生み出すイノベーションのマネジメントに焦点をあてる。新規性の高いプロダクトやアイデアを創出するための経営資源セット、組織構造、システム、プロセスを解明し、企業唯を創造する経営戦略の論理を学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

知識とはコンテンツであり、ソフトであり、企業の本業を強化するための貴重な付加価値となると同時に、コンテンツ自身を創出する産業は、21世紀の基幹産業として育成するという政府の政策が出された。グローバル経営を追求するなかで、知識創造を促進するための経営戦略を学ぶ。毎回、実際の企業の事例と、理論的フレームワークを提示し、理論と実際との両面から知識を深める。

1. 戦略の本質と意義
2. 全社戦略①企業全体を方向づける方法
3. 全社戦略②企業全体のバランスと成長を図る方法
4. 事業戦略①戦略分析のための基本ツール
5. 事業戦略②競争のメカニズム
6. 事業戦略③戦略の基本パターン
7. 戦略的経営①戦略の策定と実行のプロセス
8. 戦略的経営②戦略と組織の変革
9. 戦略的経営③戦略と財務
10. 戦略的経営④企業価値のマネジメント
11. グローバル時代の戦略①日本企業の課題
12. グローバル時代の戦略②グローバル企業の課題
13. グローバル時代の戦略③産業構造の変化とビジネスモデル
14. グローバル時代の戦略④企業の社会的貢献と地球環境問題

履修上の留意点

学習素材として新聞、雑誌、インターネットを始めとした幅広い情報源を駆使して、企業関連の情報を集めるように心がけて下さい。

成績評価の方法

各期定期試験と、講義中に実施する理解度をはかるエッセーにより総合的に評価します。

教科書

開講時に指示する。

参考書等

開講時に指示する。

科目名	知識経営論	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	ペルトコルピ, V. M.				

講義のねらい

This course is an introduction to the subject of knowledge management from both managerial and theoretical points of view. Students will be introduced to practical issues related to the processes of managing and creating knowledge in teams and organizations, as well as to theories and research on organizational learning and knowledge management. Theoretical frameworks are derived from philosophy, sociology, and organizational learning and knowledge management theories.

講義の内容・
授業スケジュール

This course is based on lectures and short reading assignments provided by the instructor.

成績評価の方法

Students will be evaluated based on three short essays and final exam.

参考書等

Materials will be provided by the instructor.

科目名	異文化経営論	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	ペルトコルピ, V. M.				

講義のねらい

This course provides students with a basic understanding of issues within the developing field of international business and cross-cultural management. Students will be introduced to issues related to cross-cultural management and international business, such as foreign entry modes, implications for management in inter-cultural context, ethics and values in cross-cultural management, and the impact of cultural diversity in multinational companies, drawing on practical examples and theoretical perspectives from social anthropology, cross-cultural psychology, and organization and management theory.

講義の内容・
授業スケジュール

The content of the course is introduced in a series of lectures and from a text book. These areas are explored further through the use of short case studies and exercises.

成績評価の方法

Students will be evaluated based on three short essays and final exam.

参考書等

Materials will be provided mainly by the instructor.

科目名	マルチメディアビジネス論	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	クボタ, L.				

講義のねらい

The purpose of this course is to prepare students to become “managers” of corporations that will increasingly face the challenges of a digital, multimedia world

講義の内容・
授業スケジュール

This Semester 1 course will meet on Tuesdays during 1st period. A highly important facet of the course will be lab work, in which students will gain direct exposure to various forms of multimedia. The course will be geared toward creating a dynamic interactive learning process in which emphasis will be placed on “real-world” managerial and program challenges. The key to acquiring useful knowledge here is active participation and involvement in the form of class discussions, lab work, and analysis of programs, as well as formulating corporate strategies for the developing field of multimedia, i.e, the digital content industry. Guests who are leaders in various aspects of the multimedia field will be invited to engage in conversations with the students to share their practical and real-life experiences.

成績評価の方法

Evaluation will be based 5% on class participation, 10% on attendance, 35% on the mid-term exam, and 50% on final team presentations.

教科書

There are no required textbook, only suggested readings.

参考書等

Professor will provide materials from the following:
 Blueprint to the Digital Economy, Alex Lowy and David Tocoll, New York: McGraw-Hill, 1998.
 City of Bits, William J. Mitchell, Cambridge, MA: The MIT Press, 1995.
 Competing in the Age of Digital Convergence, David B. Yoffie, Boston, Harvard Business School Press, 1997.
 Entertainment Industry Economics, Harold L. Vogel, New York: Cambridge University Press, 1999.
 Hollywood Unstrung: The Emerging Digital Challenge — D Cinema and Beyond, Iarta, Los Angeles: Iarta Publications, 2001.
 Hot Groups, Jean Lipman-Blumen & Harold J. Leavitt, New York: Oxford University Press, 1999.
 Media Trends 2001, Paul kagan Associates, Carmel, CA: Paul kagan Associates, September 2000
 Multimedia, Tay Vaughen and Scott Rogers Osborne, New York: McGraw-Hill, 1998.
 Organizing Genius Warren Bennis and Patricia Ward Biederman, Reading, MA: Addison-Wesley Publishing Company, Inc., 1997.
 The Highwaymen: Warriors of the Information Superhighway, Ken Aulette, New York: Random House, 1997

科目名	デジタル融合戦略論	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	クボタ, L.				

講義のねらい

In the era of digital convergence, with its rapid and chaotic change, how can companies formulate strategy? The objective of this course is to familiarize the students with the concept of digital convergence and the strategies that companies are undertaking to cope with these challenges.

講義の内容・
授業スケジュール

This Semester 2 course will meet on Fridays during 1st period. In this course, various views of digital convergence will be examined, as well as comparative studies of company strategies. Restructuring of these industries involves strategic implications suggesting that there are winners and losers. Analysis of key factors in this chaotic industrial environment and corporate responses will be studied.

成績評価の方法

Evaluation will be based 5% on class participation, 5% on attendance, 45% on the mid-term exam, and 45% on the final.

教科書

David B. Yoffie, Competing in the age of Digital Convergence, Harvard Business School Press, Boston, MA, 1997

参考書等

Professor will provide materials from the following:
 Digital Convergence and Market Structure (.pdf format)
 Milton L. Mueller, June 1999
 Gerard, Damien & Luff, David (editors) (2004) - The WTO and Global Convergence in Telecommunications and Audio-Visual Services Cambridge U. Press
 Gershon, R. A. and Kanayama, T. (2002) The SONY Corporation: A Case Study in Transnational Media Management, International Journal of Media Management 4(2).
 By Stephen Baker and Heather Green With Bruce Einhorn in Hong Kong, Moon Ihlwan in Seoul, Andy Reinhardt in Paris, Jay Greene in Seattle, and Cliff Edwards in San Mateo, Calif., Big Bang, Business Week OnLine, June 21, 2004
 Andy Covell, Digital Convergence Phase II, Campaign, Illinois, Stipes Publishing, L.L.C., 2004
 The ANNALS of the American Academy of Political and Social Science, Vol.597, No. 1, 32-47 (2005)
 Pable J. Boczkowski, Multiple Media, Convergent Processes, and Divergent Products: Organizational Innovation in Digital Media Production at a European Firm

科目名	グローバルビジネス人材マネジメント	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	ペルトコルピ, V. M.				

講義のねらい These lectures introduce students to various challenges related to living and working abroad based on conceptual papers and empirical studies on self-initiated and organizational expatriates.

講義の内容・授業スケジュール Lecture and suggested readings.

成績評価の方法 Students will be evaluated based on an essay.

参考書等 Suggested readings can be found from the Komazawa Library or Komazawa Library date bases.

専
門
教
育

科目名	企業会計の実務	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	伊藤 克容 <small>いとう かつよう</small>				

講義のねらい 社会のなかで会計（経理あるいは簿記）関係の仕事は、ひじょうに重要な役割を担っています。会計についての知識を「英語」、「パソコン」とあわせて「ビジネスパーソンの3種の神器」と呼ぶ人もいるくらい、重視されている科目です。ビジネスの世界で活躍しようとするならば、会計・経理の知識をもっていた方が圧倒的に有利でしょう。この講義では、ビジネスで必須の会計・経理のセンスを身につけることを目標にします。

講義の内容・授業スケジュール 企業会計の基本構造（2～3回）
財務諸表作成のための手続き（3～4回）
財務諸表分析：財務諸表から企業行動を読み取る（3～4回）
マネジメントのための会計情報：管理会計へのアプローチ（3～4回）
*いくつかの単元を終了後、区切りのよい時点で中間テストを実施する予定です。

履修上の留意点 授業時間中のディスカッション、課題提出など、受講者の側からの積極的な取り組みを前提として考えています。授業時間内に扱う計算問題は、かならず自分で解いてみることを。最初はよくわからなくても、自分で電卓をたたいて計算し、計算用紙にいろいろ書いているうちに段々分かってくるということが、頻繁にあります。毎時間かならず自分用の電卓を持ってきてください。

成績評価の方法 各受講者の個人得点を基準に成績をつけます。個人得点は、以下のように計算し、必要に応じて開示します。講義時間中の迷惑行為（理由のない遅刻、睡眠、携帯電話の使用、私語など）は、個人得点からそのつど差し引きます。
各受講者の個人得点＝中間テスト（必修課題）の得点合計＋小テスト（任意提出課題）の得点合計±受講態度

教科書 特に指定しません。

参考書等 必要に応じて、講義時間内に指示致します。

その他 毎時間プリントを配布します。

科目名	コンテンツファイナンス I	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	やまぐち ひろし 山口 浩				

講義のねらい

映画、アニメ、ゲーム等のコンテンツビジネスにおいて、ファイナンス（資金調達）は重要な要素である。この授業では、ファイナンスの基礎知識や理論を理解し、それらをコンテンツビジネスの分野に適用する。

講義の内容・授業スケジュール

コンテンツファイナンス I では、主に、ファイナンスを学ぶうえで前提となるさまざまな基礎知識や理論について学ぶ。

履修上の留意点

「コンテンツファイナンスⅡ」と併せて履修すること。
「グローバル経営論Ⅰ」を履修し単位を取得していること。「コンテンツ・ビジネス論」または「メディアと企業」のいずれかを履修し単位を取得していること。
必要に応じ電卓やパソコンを使用することがあります。

成績評価の方法

出席50%、定期試験30%、小テスト20%、その他授業への参加状況に応じプラスアルファ。

教科書

井出正介・高橋文郎著「ビジネス・ゼミナール 経営財務入門」日本経済新聞社。ISBN: 4-532-13312-2
その他必要に応じ指定。

参考書等

監査法人トーマツ編「コンテンツビジネスマネジメント」日本経済新聞社。ISBN: 4-532-31093-8
その他必要に応じ指定。

その他

科目名	コンテンツファイナンス II	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	山口 浩 <small>やまぐち ひろし</small>				

講義のねらい

映画、アニメ、ゲーム等のコンテンツビジネスにおいて、ファイナンス（資金調達）は重要な要素である。この授業では、ファイナンスの基礎知識や理論を理解し、それらをコンテンツビジネスの分野に適用する。

講義の内容・授業スケジュール

コンテンツファイナンスⅡでは、コンテンツファイナンスⅠで学んだ知識や理論をふまえ、各分野のコンテンツビジネスのファイナンスについて、可能な限り具体的なケースを用いて学ぶ。

履修上の留意点

「コンテンツファイナンスⅠ」と併せて履修すること。
「グローバル経営論Ⅰ」を履修し単位を取得していること。「コンテンツ・ビジネス論」または「メディアと企業」のいずれかを履修し単位を取得していること。
必要に応じ電卓やパソコンを使用することがあります

成績評価の方法

出席50%、定期試験30%、小テスト20%、その他授業への参加状況に応じプラスアルファ。

教科書

井出正介・高橋文郎著「ビジネス・ゼミナール 経営財務入門」日本経済新聞社。ISBN: 4-532-13312-2
その他必要に応じ指定。

参考書等

監査法人トーマツ編「コンテンツビジネスマネジメント」日本経済新聞社。ISBN: 4-532-31093-8
その他必要に応じ指定。

科目名	情報メディア産業論 I	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	福家 秀紀 <small>ふけのり ひでのり</small>				

講義のねらい

インターネットの普及により急速な変化をみせる日本のメディア産業の現状と課題を理解する。

講義の内容・授業スケジュール

- ・講義の内容
情報メディア産業全体を俯瞰した後に、情報通信ネットワークの機能と役割を分析する。しかる後に、電話や放送など旧来型のネットワークと対比させることによって、インターネットの基本的な構造と特徴、ならびにその構造と特徴が社会経済に与える影響と問題点などについて考察する。
- ・授業スケジュール
①情報メディア産業とは、②情報メディア産業を理解するためのキーワード（1）：ネットワーク、③情報メディア産業を理解するためのキーワード（2）：デジタル化とモジュール化、④電話網と放送網、⑤携帯電話網、⑥インターネットの基礎（1）、⑦インターネットの基礎（2）、⑧情報通信産業、⑨放送産業、⑩ケーブルテレビ産業、⑪新聞産業、⑫コンテンツ産業、⑬まとめ

履修上の留意点

授業中の指示事項が成績評価に反映されるので、授業への出席が単位認定の前提となる。

成績評価の方法

授業中に実施する小テスト、レポート、定期試験を総合的に評価する。

教科書

特に指定しない。

参考書等

- ・村井純、『インターネット』、岩波書店、650円、4-00-430416-4
- ・湯浅正敏他、『メディア産業論』、有斐閣、1,800円、4-641-17311-7
- ・その他講義の中で適宜紹介する。

その他

レジュメを配布する他、新聞記事なども適宜使用する。

科目名	情報メディア産業論 II	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	福家 秀紀 <small>ふけ ひでのり</small>				

講義のねらい

インターネットのブロードバンド化・モバイル化に伴う情報メディア産業の新しい展開とそれが生み出した新たなビジネス、情報交流、社会的機能の現状分析、および評価を行うことを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・講義の内容
情報メディア環境の変化とその変化が情報メディアに与える影響を考察する。その上で、情報メディア産業が直面する課題を取り上げる。
- ・授業スケジュール
①情報メディア環境の変化（1）：ブロードバンドインターネットの普及、②情報メディア環境の変化（2）：携帯電話の高度化、③情報メディア環境の変化（3）：テレビ放送のデジタル化、④情報メディア環境の変化（4）：ケーブルTVのトリプルプレー、⑤情報メディア産業の構造変化、⑦ピア・ツウ・ピア通信とCGM、⑧ロングテール現象、⑨デジタル情報の特性、⑩情報メディア産業の課題（1）：メディア融合法制、⑪情報メディア産業の課題（2）：プラットフォーム機能、⑫情報メディア産業の課題（3）：セキュリティと個人情報、⑬まとめ

履修上の留意点

情報メディア産業論Iの履修済みを前提とする。授業中の指示事項が成績評価に反映されるので、授業への出席が単位認定の前提となる。

成績評価の方法

授業中に実施する小テスト、レポート、定期試験を総合的に評価する。

教科書

特に指定しない。

参考書等

- ・佐々木俊尚、『グーグル Google 既存のビジネスを破壊する』、文芸春秋社、760円、4-16-660 501-1
- ・梅田望夫 [2006] 『ウェブ進化論 本当の進化はこれから始まる』、筑摩書房、740円、4-48 0-06285-8
- ・その他、授業中に適宜紹介する。

その他

レジュメを配布する他、新聞記事なども適宜使用する。

科目名	ネットワークコミュニケーション論	開講	半期	単位	2
担当	GM2選				
担当者名	すがや みのる 菅谷 実				

講義のねらい

社会のコミュニケーション活動を支える情報ネットワークの基礎的知識の修得とネットワークの進化が社会のコミュニケーション活動にどのような影響を及ぼしてきたかを明らかにすることを目的としている。具体的には、人的組織、物理的ネットワーク、情報ネットワークの歴史、仕組み、機能、運営等を明らかにする。

前半は、「ネットワークとコミュニケーション」というテーマで、社会的コミュニケーション活動とネットワークの関係を明らかにする。具体的には、組織とネットワーク、組織コミュニケーション、ネットワーク産業の特質などを論じる。

後半は、「情報ネットワーク発展の歴史」を、各ネットワーク産業ごとに明らかにする。具体的には、郵便、交通、通信、放送、インターネットなどのネットワークの発展過程を論じる。まとめの部分においては、今後、ますます進化が期待されている「ネットワークの融合と社会的コミュニケーション」を取り上げる。具体的には、融合化が進むネットワーク環境のなかで社会的コミュニケーション活動がどのような影響を受け、変容していくかを展望する。

講義の内容・ 授業スケジュール

第1部 ネットワークとコミュニケーション

1. ネットワークと経営
企業経営とは
企業活動にとっての情報基盤の重要性
クローズネットワークとオープンネットワーク
2. 企業組織とネットワーク
企業組織
組織コミュニケーション
3. ネットワーク産業の特質
ネットワーク産業の構造
ネットワーク産業の変容

第2部 情報ネットワーク発展の歴史

4. 郵便制度
物流と情報流を支える流通ネットワーク
郵便サービス
郵便局
民営化
情報ネットワークとしての郵便ネットワーク

5. 交通ネットワーク

- 貨物輸送
- 国内旅客輸送
- 国際輸送

6. 放送ネットワーク

- 放送ネットワーク種別
- 放送規制
- テレビ放送ネットワークの発展

7. 通信ネットワーク

- 通信事業者の種別
- 通信ネットワークの構造
- 制度の変容

8. インターネット

- 発展の歴史
- ブロードバンドネットワーク
- ネットワーク機能

第3部 ネットワークの融合

9. ネットワークの融合
10. ネットワークの高度化と経営環境の変化

専門教育

履修上の留意点

講義には毎回出席してください

成績評価の方法

平常点と期末テスト

教科書

特に指定しません

参考書等

公益事業学会編『日本の公益事業』白桃書房。
その他 初回講義時に紹介します。

科目名	グローバルメディアガバナンス論	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	西岡 ^{にしおか} 洋子 ^{ようこ}				

講義のねらい

本講義では、インターネットを含む電気通信およびコンテンツ流通に関するグローバルなガバナンスの問題を扱う。中心的な役割を果たす国際組織の役割を理解するとともに、過去および現在の主要な論点を理解する。

講義の内容・授業スケジュール

ITU、ICANN、IETF、WTO、UNESCO、WIPOなどの関連主要国際機関の歴史と機能
電気通信（インターネットを含む）をめぐる議論
コンテンツ流通をめぐる議論

履修上の留意点

メディア政策論または、同様の科目を履修していることが望ましい。

成績評価の方法

期末テスト、レポート、平常点などで総合的に判断する。

教科書

講義中に指示する。

参考書等

講義中に指示する。

専門教育

科目名	比較メディア制度論	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	西岡 ^{にしおか} 洋子 ^{ようこ}				

講義のねらい

本講義では、米国を中心に、EU主要国、アジア主要国の放送制度について解説する。また、適宜、日本の場合と比較を行うことで、その特徴および制度形成の背景を理解するとともに、日本の制度への適用の可能性を検討する。

講義の内容・授業スケジュール

各国の規制機関、放送制度、放送産業の概要と動向

履修上の留意点

メディア政策論または、同様の講義を受講していることが望ましい。

成績評価の方法

期末テスト、レポート、平常点などで総合的に判断する。

教科書

授業中に指示する。

参考書等

授業中に指示する。

科目名	都市とメディア	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	高 媛 <small>こうえん</small>				

講義のねらい

都市は、種々のメディアが実践する場であると同時に、メディアによって紡ぎ出されたイメージ群から構成される空間でもある。本講義は、都市とメディアに関する基本的な理論を提示した上で、文学、流行歌、広告、映画、ドラマなどに登場する多様な都市像を具体的に検討しながら、都市とメディアとの関係性を読み解いていこうとする。

講義の内容・授業スケジュール

メディア都市の誕生、メディアが変える都市の風景、メディアのなかの都市像、都市空間のなかのメディア、都市というメディアなどの諸テーマに沿って、ビデオ鑑賞や視聴覚教材を交えながら講義する。

履修上の留意点

講義中に取り上げたトピックについて、討論を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。

成績評価の方法

出席状況、授業への参加度、毎回講義の最後に提出してもらったコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。

教科書

特に指定しない

参考書等

- ・吉見俊哉『都市のドラマトゥルギー——東京・盛り場の社会史』（弘文堂、1987年）、2,300円、ISBN：4335550294
- ・前田愛『都市空間のなかの文学』（ちくま学芸文庫、筑摩書房、1992年）、1,600円、ISBN：4480080147
- ・町村敬志・西澤晃彦『都市の社会学』（有斐閣、2000年）、2,300円、ISBN：4641121036

その他

講義形式

科目名	グローバルアート政策論	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	かわさき けんいち 川崎 賢一				

講義のねらい

現代文化システムの特徴・機能・可能性、について、文化政策（cultural policies）特に芸術文化政策をキーワードとして論じる。文化的グローバリゼーションにより、国家単位の文化システムが、越境的・グローバルな展開を遂げつつある、その中核的な機能を果たしている。その成立過程、展開・普及家庭、そして将来の可能性を展望する。

講義の内容・授業スケジュール

文化政策のオリジナルを、西欧諸国特にイギリスとアメリカに求め、その歴史と展開を概観する。その後1980年代以降のグローバルな展開を、アジア諸国への普及を例とし、比較の観点から概説する。

履修上の留意点

授業以外に、文化政策について調べてもらう予定である。

成績評価の方法

学期末のテスト、あるいは、学期末のレポート、プラス、平常点・出席点等を加算する。

教科書

授業の中で指示する。

参考書等

川崎賢一、「トランスフォーマティブ・カルチャー」、勁草書房、2006年
佐々木・川崎・河島（共編）、「グローバル化する文化政策」、勁草書房、2007年

科目名	グローバル創造都市論	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	かわさき けんいち 川崎 賢一				

講義のねらい

文化的グローバリゼーションを推進する中核的なトレンドは、創造都市（Creative Cities）ないし創造産業（Creative Industries）である。本講義では、創造都市とは何か、どのように成立し、どのように発展しつつあるかを、具体的な例（ロンドン・ニューヨーク・東京・香港・シンガポール、など）を例にとって、紹介・説明する。

講義の内容・授業スケジュール

授業は講義形式で、3つの内容からなる。創造都市と創造産業の成立とその機能。文化的グローバリゼーションと関連付けて、どのように発展したかについて具体的な例を挙げて説明する。最後に、将来的な可能性と問題点について考察する。

履修上の留意点

授業以外に、創造都市について調べてもらう予定である。

成績評価の方法

学期末のテスト、あるいは、学期末のレポート、プラス、平常点・出席点等を加算する。

教科書

授業の中で指示する。

参考書等

川崎賢一、「トランスフォーマティブ・カルチャー」、勁草書房、2006年
佐々木雅幸、「創造都市への挑戦」、岩波書店、2001年
J. Florida, The Rise of Creative Class, Basic Books, 2002

科目名	グローバル交流論	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	芝崎 厚士 <small>しばさき あつし</small>				

講義のねらい

- ・国境を越えたトランスナショナル・グローバルな交流の諸相に関する基礎文献の検討をもとに、ヒト・モノ・カネ・情報など多種多様な分野における交流がもたらす問題を考える。
- ・将来レポートや論文を作成する時のために、論文の読み方・書き方・使い方・調べ方を基礎から身につける。

講義の内容・授業スケジュール

講義の内容：毎週特定のテーマに関する論文を配布し、小テストや関連する音楽・映像の鑑賞などを交えつつ、解説を施す。

講義の形式：（１）前の週に、次の週読む文献（日本語）を配布する。出席者は当日までに一通り読んでおくこと。（２）当日は、・簡単な小テスト、・解説、・関連するメディアの紹介などを組み合わせて講義を行う。

授業スケジュール

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 理論1 グローバリゼーション
- 3回目 理論2 国際文化論
- 4回目 制度1 国際文化交流
- 5回目 制度2 パブリック・ディプロマシー
- 6回目 思想・アイデアの交流1
- 7回目 思想・アイデアの交流2
- 8回目 文化の交流1
- 9回目 文化の交流2
- 10回目 ヒト・モノ・カネの移動1
- 11回目 ヒト・モノ・カネの移動2
- 12回目 グローバルな交流とメディア1
- 13回目 グローバルな交流とメディア2

※取り扱う分野は、受講者の希望等によって、相談の上若干変更する予定。

履修上の留意点

- ・予習（論文をひととおり読んでおくこと）を必ずすること。徐々に読み方がわかり、主体的に読めるようになってきます。
- ・文献は何らかの形でアクセスできるように配慮します。

成績評価の方法

出席点とレポートにより評価。

教科書

開講時に指示。

参考書等

授業中に随時指示。

科目名	異文化間コミュニケーション論	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	高 媛 <small>こうえん</small>				

講義のねらい

本講義では、異文化体験の一つである「観光」に焦点を当て、19世紀から現在までの観光の歩みを概観しながら、絵画、写真、絵葉書、ガイドブックなどの観光メディアに描かれた、異文化へのまなざしの意味について考える。

講義の内容・
授業スケジュール

探検の時代、tourismと観光の違い、近代日本の海外旅行、日露戦争と満洲観光、修学旅行の系譜、観光バスと都市観光、観光メディアの諸相、「他者」へのまなざしといったテーマに沿って、具体的な事例を挙げながら進めていく。

履修上の留意点

講義中に取り上げたトピックについて、討論を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。

成績評価の方法

出席状況、授業への参加度、毎回講義の最後に提出してもらったコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。

教科書

特に指定しない

参考書等

- ・ジョン・アーリ著、加太宏邦訳『観光のまなざし——現代社会におけるレジャーと旅行』（法政大学出版局、1995年）、2,987円、ISBN:4588021613
- ・小森陽一、吉見俊哉ほか編『岩波講座・近代日本の文化史6・拡大するモダニティ』（岩波書店、2002年）、3,200円、ISBN:4000110764

その他

講義形式

科目名	グローバルシティズンシップ	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	<small>かみやま ともこ</small> 金山 智子				

講義のねらい

グローバル社会が現実のものとなっていく一方で、国民国家間の境界がますます意識されるようになってきました。戦争や紛争、環境問題、貧困や情報格差など、グローバルな解決が求められる社会的正義の問題が増加する中で、一国民ではなく、グローバルシチズンとしての意識や関わりが求められるようになってきています。本講義では、グローバルシチズンとしてどのようなアプローチをとるべきかについて、特にネットを利用したNPOや市民による情報発信の事例などを取り上げながら、日常的なコミュニティレベルから、地球市民レベルに向けた情報の受発信について考えてゆく。

講義の内容・授業スケジュール

授業では、毎回、環境、貧困、地域開発などグローバルなテーマを題材として、その問題がどのような形でグローバルにディスカッションされているのか、考察します。また、メーリングリスト、掲示板、ブログ、SNS、ネット新聞やネット放送、ウェブサイトなど、さまざまなネットによるグローバルなディスカッションについて、その現状と問題などをみてゆきます。また、他国の大学生と、関心のあるグローバルな問題についてディスカッションを行います。

履修上の留意点

英語の文献やウェブサイトを多用します。
英語によるプロジェクトがあります。

成績評価の方法

平常点とレポートによる総合評価

その他

グローバルな問題に関心のある学生、ほかの人たちと話し合うことに興味のある学生を望みません。

科目名	グローバル英語概論	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	まちだ なおこ 町田 尚子				

講義のねらい

世界共通語としての英語と多様な英語の双方を視野に入れ、中学校・高校の英語教師を目指す学生が知っておくべき英語と英語の歴史に関する基本的なことがらが中心です。まず、世界の共通語としての英語を外面史（政治・文化）と内面史（英語の音韻・形態・統語・意味の変化）から概観した後、現代の英語の多様性を考察します。英語を母語としないわれわれが共通語として使用する標準的、ニュートラルな英語の周りには、さまざまな英語が通用しています。特徴的な地域英語、クリオール化した英語、標準的な英語から逸脱しているとされる若者や特定の階層の英語を紹介し、英語の多様性への理解を深めます。また、英語を母語としない人々と英語を共通語とすることの意味と問題を考えます。英語について複眼的な視野を持つことも、この講義のねらいです。

講義の内容・授業スケジュール

以下のタイトルで講義を進めます。

0. Multilingual vs monolingual

I. What is English?

I-1. Definitions

I-2. Historical Background: The history of the English language is the history of invasions

II Varieties of English

III. Grammar

IV. Vocabulary

V. Registers and Formal Written English

専門教育

履修上の留意点

英語教員免許の取得を考えている学生は2～3年次で履修しておく必要があります。

成績評価の方法

後期半期科目なので、講義が中心ですが、2回作業課題レポートを出してもらいます。その成績と定期試験の成績を総合して評価点を出します。

教科書

・ Crystal, David (2002) The English Language, 2nd edition (1st edition, 1988) Penguin Books (ISBN 0141003960)

参考書等

- ・ Blake, N. F.(1996) A History of the English Language, London: Macmillan (ISBN 0 333609840)
- ・ Bragg, Melvyn (2004) The Adventure of English: The Biography of a Language, Arcade Publishing. (ISBN 1559707100)
- ・ Crystal, David (1997) English as a Global Language, Cambridge: Cambridge University Press. (ISBN 0521530326)
- ・ Crystal, David (2004) The Stories of English, Allen Lane (ISBN 0713997524)
- ・ Crystal, D. (2003) The Cambridge encyclopedia of the English language (2nd ed), Cambridge University Press (ISBN 0521530334)
- ・ 本名信行 編 (1990) 『アジアの英語』 くろしお出版 (ISBN 4874240488)

その他

欠席する場合はメール等で連絡し、プリント教材、課題の指示を受けること。連絡変更事項はKOMS Yの講義内容詳細修正に記載します。授業前に必ず確認して下さい。

科目名	英語圏文学概論	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	佐藤 ^{さとう} アヤ子 ^{あやこ}				

講義のねらい

「世界文学」という言葉さえ使われる昨今、文学の世界の境界はますます低くなっています。英語はイギリス、アメリカのみならず、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、カリブ諸国、およびアフリカ、アジア等の一部の国々で公用語として用いられています。本授業では、「英語圏文学」という文学地図で英語圏の文学を講義します。

講義の内容・授業スケジュール

今日世界で生活する人々の四分の三以上の生活は、過去の植民地主義体験によって形作られたものであると言われています。世界の英語圏の国々も、かつてはイギリスの植民地でした。そして、このことがさまざまな民族の知覚や認識の枠組みに与えた影響は計り知れません。本授業では、こういった時代背景を学びながら、アメリカ、カナダ、オーストラリア、カリブ諸国およびアフリカで今日活躍する英語圏作家が提示するさまざまな問題を考えていきます。

履修上の留意点

授業で取りあげる作品は事前に読んでおくこと。

成績評価の方法

連続して授業に出席することを受講の条件とし、授業への参加、各作品ごとに提出してもらうレポート等を総合的に評価します。

教科書

教材として使用する作品は開講時に指示します。プリントも使用。

参考書等

ビル・アッシュクロフト他著『ポストコロニアルの文学』（青土社）

科目名	NPO/NGOとメディア	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	かなやま ともこ 金山 智子				

講義のねらい

この10年、市民が社会の様々な問題を解決するために、自ら参加し活動していけるようなボランティアな社会が築かれつつあります。その中で、市民グループ、NPO・NGOの活動は中心的な役割を担っています。また、一般企業においても、NPO・NGOとのパートナーシップを通じた社会貢献（CSR）活動が活発になっています。このような活動では、メディアの活用がますます重要になっていますが、市民がさまざまな市民メディアを使ってどんどん情報発信し、ソーシャル・コミュニケーションが活発になってきました。さらに、“ほっとけない世界のまずしき”や“おそうじプロジェクト”にみるように、コピーライターやデザイナーといったクリエイターらが先導する活動も一つのソーシャル・ムーブメントとなっています。こういった市民、NPO・NGO、企業などの社会活動におけるメディア活用について、最近の事例を交えながら、現状と問題点について考えます。

講義の内容・授業スケジュール

市民活動とメディアについて、これまでの歴史やパブリック・コミュニケーションといった基本的な知識について学びます。さらに、さまざまな市民のメディア活用や新しいソーシャル・ムーブメントなど最近の動向についてみていきます。毎回事例を用いながら、ディスカッション形式で進めます。また、NPO・NGO関係者を招き、現場の声をきき、受講生を交えて考える機会をもちます。関連イベントへの参加を通して、実際に体験してもらいます。

履修上の留意点

ディスカッション形式の授業のため、毎回出席すること。関連イベントへの参加など、課外授業が含まれる。

成績評価の方法

平常点とレポートによる総合評価

教科書

『NPOのメディア戦略』（金山智子著、学文社）
資料を配布

その他

テーマに関心のある学生を望みます。
問題意識をもって、積極的にディスカッションに参加することを期待します。

科目名	グローバル市民社会論	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	しほさき あつし 芝崎 厚士				

講義のねらい

- ・いわゆるGCS（グローバル市民社会）と言われる、近年のトランスナショナルな市民の活動に関する基礎文献をもとに、GCSとは何か、それが国際関係や世界全体においてどのような役割を果たしているか、といった点について理解を深める。
- ・「グローバル交流論」と同様、将来レポートや論文を作成する時のために、論文の読み方・書き方・使い方・調べ方を基礎から身につける。

講義の内容・授業スケジュール

講義の内容：毎週特定のテーマに関する論文を配布し、小テストや関連する音楽・映像の鑑賞などを交えつつ、解説を施す。

講義の形式：（１）前の週に、次の週読む文献（日本語）を配布する。出席者は当日までに一通り読んでおくこと。（２）当日は、・簡単な小テスト、・解説、・関連するメディアの紹介などを組み合わせて講義を行う。

授業スケジュール

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 歴史1 市民社会の起源
- 3回目 歴史2 近代市民社会とは
- 4回目 理論1 GCSとは何か
- 5回目 理論2 GCSの基本構造
- 6回目 人権
- 7回目 環境
- 8回目 医療
- 9回目 開発
- 10回目 ジェンダー
- 11回目 紛争
- 12回目 労働
- 13回目 総括

※取り扱う分野は、受講者の希望等によって、相談の上若干変更する予定。

履修上の留意点

- ・予習（論文をひととおり読んでおくこと）を必ずすること。徐々に読み方がわかり、主体的に読めるようになってきます。
- ・文献は何らかの形でアクセスできるように配慮します。

成績評価の方法

出席点とレポート

教科書

開講時に指示。

参考書等

授業中に随時指示。

専門教育

科目名	コンテンツデザイン各論 I	開講	半期	単位	1
配当	GM2選				
担当者名	かなやま ともこ 金山 智子				

講義のねらい

コミュニケーション技術の発展により、誰でも手軽に情報やメッセージを発信できる時代になりました。本講義では、市民やNPOがプロデュースする様々なメディアのコンテンツ（フリーペーパー、コミュニティ・ラジオ、インターネット放送局、インターネット新聞、ビデオ、映画など）について考察し、市民が発信するメディア・コンテンツの特徴、社会的な意義、さらに既存のマスメディアとの違いを理解します。

講義の内容・授業スケジュール

市民とメディアに関する基本的な知識を学びます。受講生は、自分の関心のあるメディアについて調べ、さらに現場関係者のインタビューや現場の参与観察など行ってもらい、学期末に発表してもらいます。

履修上の留意点

コミュニティ・メディアの見学など、課外授業があります。

成績評価の方法

平常点、プロジェクトの発表、レポートの総合評価

教科書

授業内で指定

その他

日ごろから、コミュニティ・メディアを使うなど、関心を持ってほしいこと、クラスのディスカッションに積極的に参加することを期待します。

専門教育

科目名	コンテンツデザイン演習 I	開講	半期	単位	1
配当	GM2選				
担当者名	かなやま ともこ 金山 智子				

講義のねらい

メディア・メッセージを積極的に読み解くだけでなく、自らがメッセージや情報発信をする力としての「メディア・リテラシー」がますます重要と考えられるようになってきました。本講義では、映像制作実践を通して、より良いメディア・シチズンとしての基礎的な発想、表現、実技能力を身につけることを目標とします。また、映像制作課程において、いろいろな人たちとかわり、その中で社会や他者に対する理解を深めていくプロセスを大切にしながら、伝えたい人に伝えたいことの難しさと面白さを経験してほしいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

- (1) 映像撮影や編集機材の使用法を学ぶ
基本的な機材の使い方や映像制作に必要なテクニックをまなびます。
- (2) 映像作品を読み解く
一般市民が制作した“良い作品”を見て、「誰に何をどのように伝えるか」という意味でのメッセージ伝達について考えます。
- (3) 映像コンテンツを制作する
個人またはグループで企画・構成・取材・撮影・編集加工といった映像制作課程を体験し、映像コミュニケーションを身につけます。

履修上の留意点

映像制作の技術習得ではなく、あくまでも映像を通してのコミュニケーションのあり方を体験的に学習することを目的としています。クラス授業外での作業（撮影・編集）があります。

成績評価の方法

平常点、映像作品、レポートの総合評価

その他

映像によるコミュニケーションに興味のある学生を望みます。映像制作技術の有無は全く問いません。

科目名	コンテンツデザイン各論 IV	開講	半期	単位	1
配当	GM2選				
担当者名	高橋 <small>たかほし</small> 克三 <small>かつせう</small>				

講義のねらい

世界は小さく、よりシンプルになったと考えるか、いや、より複雑になったと考えるかは、その個人や企業がどこまでの広がりをもって世界と関わろうとしているかによる。

最初から世界全体と関わろうとしていた人や企業にとっては、現代の情報革命は、様々な障壁を取り除き、地球を小さく、シンプルにしてくれる魔法の杖の一振りであったろう。しかし、この一振りは、地域の自然や営みと深く関わり、穏やかに生きていこうとしていた人々にも否応無く大量な情報を伴った世界と直接対峙させることになった。

メディアを通して地球規模のサイズに拡張された人間と、田舎町の川のせせらぎや青空をよぎる白い雲の時空に生きる人間を比較すると、メディアが人間の想像力や価値観を規定していくことが十分に理解できるだろう。

しかし、世界は変わった、人間も変わるべきと単純には言えない。コンテンツの持つ面白さと力は、普遍性とマージナル（辺境。エッジ）なものの両方から生まれるからである。コンテンツの根本には、幸せや感動があることは言うまでも無い。

講義の内容・授業スケジュール

このフラット化された世界の秩序をメディアの側面から読み解くとともに、自らの感性に依拠したコンテンツを自由に発信するための基礎となる知識と考え方を整理する。

- ・メディアはメッセージである。
- ・フラット化する世界。
- ・テレビ・音楽・映画のコンテンツ制作。
- ・地域から考える。

履修上の留意点

美術館、博物館、コミケなど東京が教材。
第一線の制作マンの話聞く機会を持つ。

成績評価の方法

出席 40%
質疑応答など講義への参加度 20%
レポート提出 40%

教科書

『デジタルコンテンツ制作入門』（財）デジタルコンテンツ協会編 オーム社 1,800円（税別）

参考書等

『メディア論』マーシャル・マクルーハン みすず書房 5,800円（税別）

科目名	コンテンツデザイン演習 IV	開講	半期	単位	1
配当	GM2選				
担当者名	たかはし かつぞう 高橋 克三				

講義のねらい

誰にでも小説が書けるし、見やすいデザインを作ることができる。言葉に文法があるように、表現には法則がある。小説、映画、アニメ、視覚的広告などを創造する上で使われている法則を学ぶことは、小説や美術の制作活動をしたことのない人たちが短期間でその創造力を磨くためには一番良い方法である。

人間の想像や物語は意外と典型的である。ウラジミール・プロップは、物語の構造を31のプロトタイプで説明できるとし、C.G.ユングは、世界の神話や昔話が似ていることから元型という概念を提出した。この普遍性の力を的確に使い世界の人々を楽しませているのがハリウッド映画である。

しかし、コンテンツの持つ面白さと力は、普遍性とマージナル（辺境。今風に言うならエッジ）なものの両方から生まれる。

ブルース、タンゴ、ジャズ、ロック、レゲエ、ヒップホップなど、町の一角、それもけて上品なところではなく、悪場所的などころで生まれた音楽が、なぜか世界性を獲得している。マージナルな力である。コンテンツの核心、表現と感動の関係を学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

自己を理解し、他者を認識するコミュニケーションの原則を演劇で体験した後、表現の普遍的な法則を学ぶ。創造性とマージナルな力との関係についても検証していく。

- ・演劇によるロールプレイング。
- ・物語の構造。
- ・ビジュアル・コミュニケーションの法則。
- ・学習障害者の作品の力。

履修上の留意点

写真や物語、コラージュ作品を制作する。技術力は問わない。発想力を評価する。

成績評価の方法

出席 40%
質疑応答など演習への参加度 20%
課題作品提出 40%

教科書

『キャラクター小説の作り方』大塚英志 角川文庫 627円
『ビジュアル・コミュニケーション』藤澤英昭 ダビッド社 1,600円（税別）

参考書等

『知の編集術』松岡正剛 講談社現代新書 720円
『私の体験的ノンフィクション術』集英社新書 佐野真一

科目名	実践メディアビジネス講座 Ⅰ	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	各務 <small>かがみ</small> 洋子・クボタ, L.・ペルトコルピ, V. M.・山口 <small>やまぐち</small> 浩 <small>ひろし</small>				

講義のねらい

メディアやコンテンツに関わる企業に携わる実務家を招き、担当教員と共同で実践的講義を提供する。本講義では、映像、音楽、出版、広告など、技術革新の最も激しい産業群で実務を担う企業人との共同講義により、最先端のコンテンツビジネス、メディアビジネスの現実を紐解く。

講義の内容・
授業スケジュール

平成19年度は、株式会社電通による寄附講座である。講座担当者は、映像、音楽、出版、アニメ、ゲーム、ラジオ、通信など、株式会社電通が関りをもつ幅広い分野の実務家による実践的な講義を提供する。

履修上の留意点

毎回、テーマごとに異なる実務家が講義を担当します。半期の講座全体を通して一貫したメッセージを深く理解するためには、毎回の出席を大変重視します。1つ1つの講義を理解することにより、半期全体で何を探求しているのかを常に頭に入れて出席して下さい。

成績評価の方法

毎回の講義をレポートにまとめ、最後に全体としての総括を提出してもらう予定。

教科書

開講時に指示する。

参考書等

開講時に指示する。

科目名	実践メディアビジネス講座 II	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	川崎 賢一・ <small>かわさき けんいち</small> 金山 智子・ <small>かなやま ともこ</small> 高 媛・ <small>こう えん</small> 芝崎 厚士・ <small>しばさき あつし</small>				

講義のねらい

メディアやコンテンツに関わる企業に携わる実務家を招き、担当教員と共同で実践的講義を提供する。本講義では、対象を広く取り、文化産業・マスコミ産業・NPO/NGO関係者・視聴者団体・社会運動実践者などから最新の事情を講じていただく。

担当専任教員： 川崎賢一
 金山智子（平成19年度就任予定）
 芝崎厚士（平成19年度就任予定）
 高 媛（平成19年度就任予定）
 白水繁彦（平成20年度就任予定）
 手塚義治（平成20年度就任予定）

講義の内容・授業スケジュール

平成19年度は、日本新聞協会、毎日新聞社から、新聞作りの現場のプロフェッショナルが毎回異なるテーマで「新聞」というプロダクトの過去・現在・未来における課題等、多方面からメディアビジネスの問題を紐解く。巨大かつ伝統的メディアである新聞が、インターネットの台頭によって大きな課題を背負うことになった現実を体系的に解き明かす。新聞協会のメンバー企業の方々、毎日新聞社の方々をお招きし、新聞の過去、現在、未来をテーマに、伝統的メディアと新しいメディアのかかわり、伝統的メディアの進化と企業戦略など、幅広いテーマで最新の事情を講じる。

各回の講義テーマ

	担当者	テーマ
1	毎日新聞社 編集局	報道と企業広報
2	毎日新聞社 編集局	日米新聞比較論
3	毎日新聞社	論説 歴史と新聞
4	毎日新聞社	生活家庭部 女性と新聞
5	毎日新聞社	デジタルメディア局 デジタル革命と新聞の未来
6	毎日新聞社	科学環境部 科学と報道
7	毎日新聞社	社長室 岐路に立つ新聞経営
8	毎日新聞社	広告一部 広告媒体としてのメディア
9	日本新聞協会	出版広報部 新聞とマスコミュニケーション
10	日本新聞協会	出版広報部 新聞の歴史 その1
11	日本新聞協会	出版広報部 新聞の歴史 その2
12	日本新聞協会	出版広報部 新聞はどこから何処へ その1
13	日本新聞協会	出版広報部 新聞はどこから何処へ その2
14	日本新聞協会	出版広報部 新聞広告の歴史
15	日本新聞協会	出版広報部 ジャーナリズムとしての新聞広告

履修上の留意点

毎回、テーマごとに異なる実務家が講義を担当します。半期の講座全体を通して一環したメッセージを学び取るためには、毎回の出席を大変重視します。1つ1つの講義を理解することにより、半期全体で、メディアビジネスの集大成がどのようなものかを常に頭に入れて出席してください。

成績評価の方法

毎回の講義をレポートにまとめ、最後に全体としての総括を提出してもらう予定。

教科書

開講時に指示する。

参考書等

開講時に指示する。

科目名	メディアとデータベース	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	石橋 ^{いしばし} 直樹 ^{なおき}				

講義のねらい

データベースは、コンピュータの記憶空間に散在する膨大なデータから情報検索者が適切なデータを容易に検索する機能を提供する。近年、インターネット、Web の目覚ましい発展により、広域ネットワークに多種多様なデジタルコンテンツが提供されるようになってきた。本講義では、データベースの基礎的な概念、構成を学ぶと同時に、広域ネットワーク上に散在するデジタルコンテンツをコンテキストや感性などを用いて検索可能とする将来のデータベース像についても言及する。

講義の内容・授業スケジュール

本講義は、プログラミング言語 Perl の演習を通じ、WWW 環境を対象としたソフトウェア開発の過程を学ぶことを目的として、次のスケジュール（予定）で行う。

1. 導入-データベースとは何か
2. リレーショナルデータベースの構造
3. リレーショナルデータベースの応用
4. リレーショナルデータベース実習
5. オブジェクト指向データベースの構造
6. マルチメディアデータベースと感性情報処理
7. データベース設計・構築実習
8. Web Database 事例1 - 掲示板の構築
9. Web Database 事例2 - サーチエンジンの構築
10. まとめ

履修上の留意点

情報リテラシー実習を履修済みであることに加え、コンピュータワークショップを履修済みであることが望ましい。

成績評価の方法

毎回の講義におけるミニレポート、学期末に作成するプログラムに関するレポート、ならびに、毎回の講義における出席状況を総合的に評価する。

教科書

Web において電子教材を提供する。

参考書等

講義中において教材を指定する。

その他

本講義は、講義と実習をあわせた形式で行う。

科目名	コンテンツデザイン概論	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	おかだ ともひろ 岡田 智博				

講義のねらい

これからコンテンツに関わる諸君に向けて、社会やビジネスとコンテンツを扱う人との間の関係やそれを取り巻く環境について基本的な理解を自身で行うための材料を提供したい。本講座を通じて、諸君がこれから経験していくことになるであろうダイナミズムに富んだコンテンツを取り巻く生々しい現実の中での処し方の「デザイン」をこの講座を通じて自身の手で組み立ててもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

コンテンツを取り巻く現在進行中の事象やワークモデルの構造を論じてゆく。内容は諸君の理解度に応じて柔軟に変える。

履修上の留意点

講義において出てきた事象などで分からなかったり、触れたことの無いものであったら、必要な限り自身で体験し、自身の力で理解するトレーニングをしてもらいたい。

成績評価の方法

試験において、授業において思考するために提供した材料をもとに課題を提供する。課題に対する理解と思考力を成績評価の主たる判断材料とする。授業では随時、試験に準じたロールプレイを行い、諸君の学びのベンチマークとして考慮する。

教科書

プリント等で随時提供する。

参考書等

参考書を求めなくとも学べるよう設計するが、授業中にでたURLやイベント、コンテンツや書籍に対し、関心を持ったらなるべく目を通したり体験するように。

その他

本講座は覚えるものではなく、理解し考えることに主眼を置いている。授業中においては記録することよりも、自身の力で理解し、考えることに注意を払ってもらいたい。

科目名	情報保護と社会	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	苗村 ^{なえむら} 憲司 ^{けんじ}				

講義のねらい

社会活動の全般的な情報化が進展するのにしたがって、情報の価値が増大している。小説、映画、音楽、コンピュータプログラム、データベース、マルチメディア情報等のように経済的価値がありしかも公開された情報については、著作権法等の知的財産権法による保護に適している。企業秘密やプライバシー情報のように経済的価値がありしかも非公開の情報についてはセキュリティ上の対策が必要になる。また、危険な情報から子供を守るための対策も必要となる。この科目では、日本の知的財産戦略および情報セキュリティ政策との関連を含め、情報保護のニーズとこれに対応する種々の社会的方策について考察する。

講義の内容・授業スケジュール

- 【第1週】情報化社会における情報の価値とその保護の必要性
- 【第2週～第6週】知的財産権の保護に関する政策と技術
- 【第7週～第11週】情報セキュリティに関する政策と技術
- 【第12週～最終週】グローバル環境における情報保護の課題

履修上の留意点

特になし。

成績評価の方法

- 次の2項目を総合して評価する。
1. 授業時間に行うミニテストの成績
 2. 期末試験の成績

教科書

特に定めない。

参考書等

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~naemura/ps/>上に掲載する。

科目名	E-コマース論	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	大場 ^{おおば} みち子 ^{みちこ}				

講義のねらい

さまざまなネットビジネスについて、一通りの知識を習得し、これからのネットビジネスのアイデアを考える能力を身につけることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

Eコマースの中心となっているネットビジネス全般および関連する情報システムや周辺知識について解説する。代表的なネットビジネスの事例を通してさまざまなEコマースの形態を理解するとともにそこでの課題や今後の発展系を学ぶ。

履修上の留意点

インターネットの利用経験があることが望ましいが、前提条件とはしない。

成績評価の方法

最終試験とレポート、小テストを実施する（合計で60%以上を合格最低ラインとする）。なお、毎回出席をとり、欠席者は減点対象とする。

教科書

「IT Text（一般教育シリーズ）情報システム基礎」オーム社、神沼靖子編著

参考書等

必要に応じて資料を配布する。

その他

講義形式

科目名	複合ドキュメント概論	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	吉田 <small>よしだ なおふみ</small> 尚史				

講義のねらい

多種多様なメディアをコンピュータ上で実際に実現可能な状況となり、今後、それらを組み合わせ合わせた複合ドキュメントを制作・編集・検索することが重要な技術となる。この講義では、それらを制作・編集・検索を行う要素技術として、XMLを作成および編集を行う方法論、XML対象とした検索の方法論、全文検索技術、ベクトル空間モデルなどについて実習を伴って学習する。また、複合ドキュメントを対象とした分析および可視化を行うためのデータマイニングの技術についても学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

第1週～第4週: 複合ドキュメントに関する基礎的な技術
 第5週～第8週: 複合ドキュメントを対象とした検索技術・ベクトル空間モデルの技術
 第9週～第13週: 複合ドキュメントを対象とした分析および可視化によるデータマイニング技術
 第14～15週: レポート問題の発表およびレポートの解説

その他最新情報は、授業の Web ページに掲載する。

専門教育

履修上の留意点

情報リテラシーおよび情報リテラシー実習を履修済みであること。

成績評価の方法

講義におけるミニレポート、および、期末レポートを総合的に評価する。

教科書

WWW上に教材を設定し、教科書とする。

参考書等

講義中あるいは教材中に適宜指示する。

その他

本講義は、講義と各自のノートパソコンを用いた実習を併せた形式で行う。

科目名	教育環境とメディア	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	さいどうのおの おお 齋藤 信男				

講義のねらい

情報技術の進展は、人間の本質に深く関係する教育・学習の領域にも深い影響を与えてきた。これは、コンピュータが教育を支援するCAI（Computer Aided Instruction）という分野から始まり、多くの試行錯誤が試みられた。更に、近年ではインターネットの発達とネットワークの高速化により、遠隔地で学習するというe-learningがこの主流となってきている。これは、従来の教育環境を大きく変化させ、大学教育にその学習の規程まで変更を迫るような状況となっている。また、教育産業、教育ビジネスと言われるセクターに対しても、大きな影響を与え、様々な可能性をもたらすことになった。

ここでは、教育、学習という人間の本質に関わる活動を踏まえて、情報技術がどのように関連するのが良いのか、時代や技術の進展を見ながら考察する。また、インターネットという新しいメディアの時代にふさわしいe-learningについて、その現状の課題、具体的な教育環境の例示、標準化の課題、実際の応用の例示、学習・教育への影響と効果、など、種々の事項について学ぶ。また、今後の教育環境のあり方を様々な方向から考察し、新しいメディアの時代にふさわしい教育の環境と方法論についてその方向性を示す。

講義の内容・授業スケジュール

ここでは、以下の内容について学ぶ。

- (ア) コンピュータを用いた学習支援システム CAI
 - ① 個別学習支援
 - ② 学習履歴と学習評価
- (イ) メディアを駆使した遠隔教育システム e-learning
 - ① 標準化モデル SCORM
 - ② 学習オブジェクト LOM とメタデータ
 - ③ 学習管理システム LMS
 - ④ 学習デザイン (Instruction Design)
 - ⑤ テスト支援システム
 - ⑥ オンライン実験室
- (ウ) 教育システムの変化
 - ① 遠隔講義・オンライン講義の正規容認
 - ② オンライン大学
 - ③ オンライン講義の相互利用
 - ④ 学習効果の評価
 - ⑤ オンライン教材のオープン化
- (エ) 教育ビジネスの展望
 - ① 企業研修のオンライン化
 - ② e-learning 支援サービス企業
 - ③ オンライン教材開発企業

履修上の留意点

e-learning の体験が出来るような環境の提供が出来ることを予定しているが、IT・メディア環境との調整が必要なので、保証の限りではない。その場合は、体験者、サービス企業などの特別講義を導入する予定である。

成績評価の方法

適宜課す演習レポート、期末の試験、および出席状況から総合的に判定する。

教科書

特に指定しない

参考書等

講義の中で紹介していく

その他

講義形式

科目名	Webコンテンツ	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	さいとう のぶお 齋藤 信男				

講義のねらい

Webは、高エネルギー物理学実験のデータ共有を簡単に行えるようにするという発想から生まれてきたインターネットのキラーアプリケーションであるが、これは様々な使い道があり、コミュニケーションスペース、知識の共有空間、オンラインビジネスやオンラインコミュニティのインフラ、共同作業の実践空間など、様々な方向へと発展的に利用されている。ここでは、その基本的な構造と機能とをよく理解し、有効なグローバルメディア空間として活用していく方法について習得し、また、Webが持つ種々の課題について認識を高める。

具体的には、Webシステムの基本アーキテクチャの理解、Web関連のコンテンツを記述するXMLベースの種々の言語の理解、具体的な表示を修飾するスタイルシートとその記述言語CSSの理解、エージェントやアプリケーションを記述する言語Javaとそのインターフェースの理解を進めていく。

講義の内容・授業スケジュール

ここでは、以下の内容について学ぶ。これは、Web標準化の国際組織W3C(World Wide Web Consortium)の仕様に基づいて講義をすることを原則とする。

(ア) Webシステムの機能と構造

- ① Webアーキテクチャ(HTML, HTTP, URI)
- ② Webサーバの役割
- ③ ブラウザの機能
- ④ 検索エンジンとその機能
- ⑤ モバイル機器とWeb

(イ) 情報記述言語XMLとその機能、関連言語の現状

- ① XMLの位置づけ
- ② XMLの基本構造と基本機能
- ③ XMLベースの言語群(XHTML, SVGなど)
- ④ XMLベースのアプリケーション領域の言語例

(ウ) 具体的な表示の修飾を担うスタイルシートとその記述言語CSSの体系

- ① スタイルシートの考え方
- ② CSS言語体系

(エ) アプリケーションインタフェースとJava言語

- ① Webのアプリケーションソフトウェア
- ② Java言語の機能
- ③ エージェント
- ④ リッチクライアント

(オ) メタデータとセマンティックWeb

- ① メタデータとは
- ② RDF言語
- ③ RSS
- ④ Web2.0とは

(カ) Webの課題と将来の発展方向

- ① Webの問題点
- ② ユビキタスWeb
- ③ 検索エンジンの将来

履修上の留意点

各種言語の習得には、実習的体験が必要であるので、適宜課題を与えて、なるべく実践的な経験を積めるようにしていく。

成績評価の方法

適宜課す演習レポート、期末の試験、および出席状況から総合的に判定する。

教科書

特に指定しない。

参考書等

講義の中で適宜紹介する。

その他

講義形式

科目名	イスラムと文化	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	おくだ あつし 奥田 敦				

講義のねらい

イスラムについて、その教えの基本を念頭におきながら、さまざまな角度から紹介を行い、先入観や偏見にとらわれない、イスラムに対する包括的な理解を深め、グローバル化時代に生きるわれわれにとって、人類全体に向けられた教えとしてのイスラムの意義を探っていく。アラビア語の用語の紹介なども積極的に行ないたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義では、次のトピックを扱う。
 ①宗教と文化 ②アラビア語のスメ ③オリエンタリズムを越えて ④イスラムとは ⑤神はどこにいるのか ⑥人はなぜラマダーンをするのか ⑦イスラム神学のココロ ⑧イスラム法への招待 ⑨イスラムにおける人と人権 ⑩ジハードはテロリズムか？ ⑪イスラムの信仰とスーク経済の精神 ⑫イスラム社会の理想と現実 ⑬イスラム圏との文化交流 ⑭グローバル化時代のイスラム

履修上の留意点

講義と講義への出席を大切にしていきたい。

成績評価の方法

学期末のレポートを中心に評価を行なう。(場合によっては出席を考慮することがある)

教科書

毎回レジュメを配布する。

参考書等

奥田敦『イスラムの人権』慶應義塾大学出版会、奥田敦『フサイニー師「イスラム神学50の教理」』慶應義塾大学出版会。その他については講義中に案内する。

専門教育

科目名	キリスト教文化	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	とよかわ しん 豊川 慎				

講義のねらい

この授業では文化を形成する力のひとつとしてのキリスト教を論じる。キリスト教は2000年の歴史で、様々な矛盾・葛藤を通して多様な文化を生み出してきた。この過程の追体験が授業の目的である。受講者それぞれが否定的・肯定的を問わず、自分のキリスト教理解を言葉で表現できるようになることを目標とする。この目標は決して簡単なことではないが、言葉にしにくいものを言葉にしていく作業こそが、文化を生み出す原動力となる。

講義の内容・授業スケジュール

神は存在するか(諸宗教・哲学の神理解との比較)、聖書とは何か(特に創世記の成立について)、キリスト教と愛(西洋的な愛と日本的な愛の理解との関連で)、戦争と平和(キリスト教は戦争や平和にどのように関わってきたか)、クリスマスの成立(古代ローマのクリスマス、サンタクロースの出現、日本での受容)などの内容を予定。

履修上の留意点

この授業はクリスチャンになるためのものではないため、信仰の有無ではなく、積極的な授業参加や柔軟な発想を重視する。

成績評価の方法

授業ごとに書くコメントシート(30点)、試験(70点)

教科書

教科書は使用しない、授業ごとに配布するレジュメに沿ってすすめる。

参考書等

『聖書 新共同訳』、日本聖書協会 その他の参考書は授業で指示する。

科目名	韓国の文化と社会 Ⅰ	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	わたなべ きるよん 渡辺 吉鎔				

講義のねらい

「遠くて近い国」韓国の文化と社会について基礎的な知識を習得するとともに、みずからが日韓文化の架け橋になるように、能動的な文化実践者としての視座を養うことが本講義のねらいである。

講義の内容・
授業スケジュール

本講義は大きく4部構成である。

- ①言語、思想、宗教のような基底文化
 - ②制度、風習をはじめ、分断国家に対する現状認識と韓国文化の特殊性
 - ③日韓文化交流の歴史と文化融合
 - ④日本の中の在日韓国、朝鮮人との共生
- 以上のテーマについて、一緒に討論しながら学んでいく。

履修上の留意点

各自文化創造者としての自覚をもって毎回の授業に積極的に参加すること。出席にきびしい。

成績評価の方法

①出席率、②グループワークでのプレゼンテーション、③期末のテストによる総合評価。

教科書

担当者著書の「朝鮮語のすすめ」（講談社現代新書）、「韓国言語風景」（岩波新書）を読んでおくことをおすすめする。

参考書等

参考文献については随時紹介していくつもりである。

その他

ことばを知らないで異文化や他社会を的確に捉えることは不可能に近い。いまからでも履修しておきましょう。

科目名	韓国の文化と社会 II	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	わたなべ きるとん 渡辺 吉鎔				

講義のねらい

グローバル社会の中で、韓国や朝鮮半島の諸問題とどのように向きあったら良いのだろうか。情報の受信・発信をいかにすべきだろうか。一緒に考えながら韓国という地域について総合的知識を獲得するのが本講義のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

- ①韓国の近代化——経済の近代化、文化の近代化、生活の近代化
- ②民主化——政治社会の民主化 「ソウルの春」 光州事件、市民社会の台頭
- ③植民地時代再考
日本統治下時代の諸相
- ④韓国と北朝鮮、グローバル社会
南北関係の歴史と融和政策

履修上の留意点

上記のテーマに関する研究論文や新聞記事、歴史記述などを輪読・発表しながら演習形式の授業が予定されている。毎回文献を読んでくれることが履修のために欠かせない。

成績評価の方法

出席率、授業中の発表、議論参加、期末のレポートによる総合判断。

教科書

特に指定しないが、広く政治、経済、歴史書に親しむこと

参考書等

参考文献については随時紹介していくつもりである

その他

韓国語習得と韓国新聞サイト（日本語版あり）を日課として訪問することを強くすすめたい。

科目名	国際法	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	やまむら つねお 山村 恒雄				

講義のねらい

国際社会は、分権的な社会であり、統一政府などは存在しない。そのために、国際社会を規律するルールが複雑になっている。本講義では、その国際社会の基本的なルールの修得を目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

講義形式で行う。
①国際社会の特質について ②国際法について ③国際法主体について ④国家の成立要件について ⑤個人の国際法上の地位について ⑥国家の基本的権利について ⑦外交関係と領事関係について を中心に国際社会の基本的ルールを概説する。

履修上の留意点

国際法は、理解が難しいといわれている教科のひとつです。そのため、授業に確実に出席し、理解しようと心がけるようにすること。

成績評価の方法

学期末の筆記試験のみによる。

教科書

『国際法入門 第二版』横田洋三編 有斐閣 2000円＋税

参考書等

出版社や年度は問わないが、『条約集』があれば便利である。

科目名	国際協力法	開講	半期	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	やまむら つねお 山村 恒雄				

講義のねらい

今日では、国際関係が重要なものとなっている。我々の日常生活で関係のある他国との協力関係を規律する基本的ルールについて学習することを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

基本的には、講義形式で授業を行うが、必要に応じて質疑形式を用いる。
 国際協力に関する法制度
 日本の国際協力に関する具体的な法律
 国際協力の主体について
 日本の海外協力の基本となる方針について
 国際機構におけるルール作りについて

履修上の留意点

日常的に報道されている国際関係に関するニュースに気を配ること
 努力しようとする意思を持っていること
 課題の提出を厭わないこと
 を心がけることのできる人を希望します

成績評価の方法

学期末の筆記試験とレポートで評価を行います。割合は等分とします。

教科書

とくに指定はしません。

参考書等

授業中、必要に応じて指示します。

科目名	海外演習実践講座 I	開講	通年	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	うちやま ひろみち 内山 浩道・アシュウェル, T.・各務 洋子				

講義のねらい

半年以上1年未満の長期にわたる海外留学を計画する学生が対象である。留学方法は「交換留学」「認定校留学」「休学留学」のなかから1つを学生が選択する。渡航年度にこの科目を履修し、帰国後に留学中の報告書を提出する。留学先大学で取得した単位は、卒業単位として認定する。海外留学先で取得した単位の中で、本学部の設置する科目名で読み替えの不可能な科目については、履修内容を勘案した上で、『海外演習I～X』として読み替えることができ、卒業単位として認定する。

注 認定校とは外国において日本の「大学」に相当する高等教育機関を指す。

講義の内容・授業スケジュール

渡航年度の4月の履修登録期間にこの科目の履修を登録し、帰国後に留学報告書を担当教員に提出する。

履修上の留意点

帰国後にレポートが提出できるように随時担当教員と連絡や相談をすること。

成績評価の方法

担当教員と相談して海外留学のレポートを作成し、帰国後の学期末までにGMS学部に提出すること。(4年次生については別に定める。)

教科書

指定しない。

参考書等

適宜資料を紹介する。

科目名	海外演習実践講座 II	開講	通年	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	内山 <small>うちやま ひろみち</small> 浩道・川崎 <small>かわさき けんいち</small> 賢一・ギャリソン, J. G.				

講義のねらい 半年未満の短期にわたる海外留学を計画する学生が対象である。留学先は、「交換留学」か「認定校留学」のどちらか、または、国際センター主催の短期留学セミナーである。渡航年度の4月の履修登録期間にこの科目の登録をし、帰国後に留学報告書をGMS学部提出する。留学先大学で取得した単位は、卒業単位として認定する。

講義の内容・授業スケジュール 渡航年度の4月の履修登録期間にこの科目の履修を登録し、帰国後に留学報告書を担当教員に提出する。

履修上の留意点 帰国後にレポートが提出できるように随時担当教員と連絡や相談をすること。

成績評価の方法 担当教員と相談して海外留学のレポートを作成し、帰国後の学期末までにGMS学部提出すること。(4年次生については別に定める。)

教科書 指定しない。

参考書等 適宜資料を紹介する。

科目名	海外演習実践講座 III	開講	通年	単位	2
配当	GM2選				
担当者名	内山 <small>うちやま ひろみち</small> 浩道・町田 <small>まちだ なおこ</small> 尚子・モエ, R. A.				

講義のねらい 最長1年未満の長期から短期のものまで期間は任意に設定でき、渡航目的が留学以外である学生を対象とする。海外インターンシップや海外ボランティア、その他海外の専門学校などで自主的に多様なかたちでの学習を体験することを目的とする。この対外体験を安全に達成するために、就業先、あるいは受け入れ団体から、修了証書を持ち帰ること、渡航前と渡航後にプロジェクトに関して本学担当教員から個別指導を受け、報告書を作成する必要がある。

講義の内容・授業スケジュール 渡航年度の4月の履修登録期間にこの科目の履修を登録し、帰国後に留学報告書を担当教員に提出する。

履修上の留意点 帰国後にレポートが提出できるように随時担当教員と連絡や相談をすること。

成績評価の方法 所属先あるいは受け入れ団体からの正式な修了証書を添えて、詳細な報告書を、帰国後の学期末までにGMS学部提出すること。(4年次生については別に定める。)

教科書 指定しない。

参考書等 適宜資料を紹介する。

IV 「日本語」・「日本事情」科目

「日本語」
「日本事情」

IV. 「日本語」・「日本事情」科目

(対象：外国人留学生・帰国生)

《日本語科目》

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
日本語入門I a	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	大石 真理子	343
日本語入門I b	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	大石 真理子	343
日本語入門II a	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	大石 真理子	344
日本語入門II b	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	大石 真理子	344
日本語I a	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	佐野 典子	345
日本語I b	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	佐野 典子	345
日本語I a	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	多田羅 哲子	345
日本語I b	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	多田羅 哲子	346
日本語II a	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	佐野 典子	346
日本語II b	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	佐野 典子	346
日本語II a	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	多田羅 哲子	347
日本語II b	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	多田羅 哲子	347
日本語III a	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	多田羅 哲子	348
日本語III b	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	多田羅 哲子	348
日本語III a	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	湯村 礼子	349
日本語III b	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	湯村 礼子	349
日本語IV a	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	石川 守	350
日本語IV b	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	石川 守	350
日本語IV a	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	湯村 礼子	351
日本語IV b	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	湯村 礼子	351

日本語V a	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	石川 守	352
日本語V b	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	石川 守	352
日本語V a	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	多田羅 哲子	353
日本語V b	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	多田羅 哲子	353
日本語VI a	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	石川 守	354
日本語VI b	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	石川 守	354
日本語VI a	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	多田羅 哲子	355
日本語VI b	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	1	多田羅 哲子	355

《日本事情科目》

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
日本事情I〔地理〕	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	2	高橋 健太郎	356
日本事情II〔自然〕	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	2	清水 善和	357
日本事情III〔歴史〕	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	2	井上 桂子	358
日本事情IV〔思想〕	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	2	菅原 光	359
日本事情V〔社会〕	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	2	山田 信行	360
日本事情VI〔政治・法律〕	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	2	三竹 直哉	361
日本事情VII〔文学〕	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	2	坂口 博規	362
日本事情VIII〔文化・芸術〕	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	2	佐藤 美奈子	363
日本事情IX〔経済〕	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	2	小杉 修二	364
日本事情X〔経営〕	禅仏国英地文環境歴日外考社福 心経A経商現法A政営AGM	半期	2	鈴木 幸毅	365

科目名	日本語入門I a	開講	半期	単位	1
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A 経商現法A 政営AGM				
担当者名	おおいし まりこ 大石 真理子				

講義のねらい 日本語で短いプレゼンテーションができるようになること。

講義の内容・授業スケジュール グループを作ってテーマを決め、プレゼンテーションを行う。

履修上の留意点 日本語初級学習者のためのクラス

成績評価の方法 出席・・・10%
筆記テスト・・・30%
プレゼンテーション・・・60%
(詳細な評価方法は初回の授業で説明します。)

教科書 毎回、プリントを用意します。

科目名	日本語入門I b	開講	半期	単位	1
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A 経商現法A 政営AGM				
担当者名	おおいし まりこ 大石 真理子				

講義のねらい 日本語で、さまざまな社会問題についてのプレゼンテーションができるようになること。

講義の内容・授業スケジュール グループを作ってテーマを決め、プレゼンテーションを行う。

履修上の留意点 日本語初級学習者のためのクラス。

成績評価の方法 出席・・・10%
筆記テスト・・・30%
プレゼンテーション・・・60%
(詳細な評価方法は初回の授業で説明します。)

教科書 毎回、プリントを用意します。

科目名	日本語入門II a	開講	半期	単位	1
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A経商現法A政営AGM				
担当者名	大石 真理子 <small>おおいし まりこ</small>				

講義のねらい 日本語で短いプレゼンテーションができるようになること。

講義の内容・授業スケジュール グループを作ってテーマを決め、プレゼンテーションを行う。

履修上の留意点 日本語中級学習者のためのクラス

成績評価の方法 出席・・・10%
筆記テスト・・・30%
プレゼンテーション・・・60%
(詳細な評価方法は初回の授業で説明します。)

教科書 毎回、プリントを用意します。

科目名	日本語入門II b	開講	半期	単位	1
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A経商現法A政営AGM				
担当者名	大石 真理子 <small>おおいし まりこ</small>				

講義のねらい 日本語で、さまざまな社会問題についてプレゼンテーションができるようになること。

講義の内容・授業スケジュール グループを作ってテーマを決め、プレゼンテーションを行う。

履修上の留意点 日本語初級学習者のためのクラス

成績評価の方法 出席・・・10%
筆記テスト・・・30%
プレゼンテーション・・・60%
(詳細な評価方法は初回の授業で説明します。)

教科書 毎回、プリントを用意します。

科目名	日本語I a	開講	半期	単位	1
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A経商現法A政営AGM				
担当者名	佐野 <small>さの のりこ</small> 典子				

講義のねらい

本講義は、留学生を対象とし、日本語のみならず、広く日本文化の把握を目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

授業は、日本の劇場用映画を主教材とし、日本語を勉強すると同時に、日本人のものの考え方や行動パターン、日本文化の特質を探る。

履修上の留意点

教材は、担当者が用意する。

成績評価の方法

成績は、提出物（毎週）、試験、授業への参加度、出席率等により、総合的に評価する。

科目名	日本語I b	開講	半期	単位	1
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A経商現法A政営AGM				
担当者名	佐野 <small>さの のりこ</small> 典子				

講義のねらい

本講義は、留学生を対象とし、日本語のみならず、広く日本文化の把握を目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

授業は、日本の劇場用映画を主教材とし、日本語を勉強すると同時に、日本人のものの考え方や行動パターン、日本文化の特質を探る。

履修上の留意点

教材は、担当者が用意する。

成績評価の方法

成績は、提出物（毎週）、試験、授業への参加度、出席率等により、総合的に評価する。

「日本語
事情」

科目名	日本語I a	開講	半期	単位	1
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A経商現法A政営AGM				
担当者名	多田羅 <small>ただら あきこ</small> 哲子				

講義のねらい

語彙・表現を豊かにし、日本語の理解力、表現力を高める。

講義の内容・
授業スケジュール

衣・食・住・学生生活など日常の場面ごとに、よく使われる漢語・和語・外来語・擬音語・擬態語・機能語・慣用表現などを紹介し、実際にどう使われているかを知り、より豊かな表現ができるようにする。

成績評価の方法

出席率・平常点（小テスト・提出物・授業への参加度）、期末テストの成績から総合的に評価する。

教科書

プリントを配布する。
辞書を持ってくること。

科目名	日本語I b	開講	半期	単位	1
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A 経商現法A 政営AGM				
担当者名	多田 ^{たたら} 羅 ^{あきこ} 哲子				

講義のねらい

語彙・表現を豊かにし、日本語の理解力・表現力を高める。

講義の内容・授業スケジュール

政治・経済・文化・社会問題などの分野ごとに、よく使われる漢語・和語・外来語・省略語・慣用表現など日本語の知識を高め・より深く理解できるようにする。

成績評価の方法

出席率・平常点（小テスト・提出物・授業への参加度）、期末試験から総合的に評価する。

教科書

プリントを配布する。
辞書を持ってくること。

科目名	日本語II a	開講	半期	単位	1
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A 経商現法A 政営AGM				
担当者名	佐野 ^{さの} 典子 ^{のりこ}				

講義のねらい

本講義は、留学生を対象とし、日本語の聴解力、及び読解力の向上を目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

授業では、テレビドラマのVTRを教材に、実際に話される日本語がどのようなものか学習し、同時に、書き言葉、話し言葉の違いを把握する。

履修上の留意点

教材は、担当者が用意する。

成績評価の方法

成績は、提出物（毎週）、試験、授業への参加度、出席率等により、総合的に評価する。

科目名	日本語II b	開講	半期	単位	1
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A 経商現法A 政営AGM				
担当者名	佐野 ^{さの} 典子 ^{のりこ}				

講義のねらい

本講義は、留学生を対象とし、日本語の聴解力、及び読解力の向上を目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

授業では、テレビドラマのVTRを教材に、実際に話される日本語がどのようなものか学習し、同時に、書き言葉、話し言葉の違いを把握する。

履修上の留意点

教材は、担当者が用意する。

成績評価の方法

成績は、提出物（毎週）、試験、授業への参加度、出席率等により、総合的に評価する。

科目名	日本語II a	開講	半期	単位	1
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A 経商現法A 政営AGM				
担当者名	たたら あきこ 多田羅 哲子				

講義のねらい	話すことを中心に日本語の運用能力を高める。 言うべきことが、正しく適切な表現を用いて効果的に相手に伝わることを目指す。 発音・アクセント・イントネーション等、自分で見直し矯正する習慣をつける。
講義の内容・ 授業スケジュール	紹介・インタビュー・情報提供のスピーチをして、質疑応答・意見交換を行う。ほかの人のスピーチの内容・感想・意見などを限られた時間内に文章にまとめる。 テープで自分が話した日本語を聞く。
履修上の留意点	授業活動が大切なので出席し、授業に積極的に参加すること。
成績評価の方法	平常点（出席、授業への参加度、提出物など）を重視する。期末テストも行う。
教科書	必要に応じてプリントを配布する。

科目名	日本語II b	開講	半期	単位	1
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A 経商現法A 政営AGM				
担当者名	たたら あきこ 多田羅 哲子				

講義のねらい	話すことを中心に日本語の運用能力を高める。 言いたいことが、正しく適切な表現を用いて効果的に相手に伝わることを目指す。 発音・アクセント・イントネーション等を自分で見直し矯正する習慣をつける。 話し言葉と書き言葉の違いを知る。
講義の内容・ 授業スケジュール	意見表明や提案のスピーチ・ディベートを行う。スピーチのあと質疑応答・討論を行い、自分の意見とその根拠を文章にまとめることによって論理的に話したり書いたりする練習をする。 テープで、自分が話した日本語を聞く。
履修上の留意点	授業活動が大切なので出席し積極的に授業に参加すること。
成績評価の方法	平常点（出席、授業への参加度、提出物など）を重視する。期末テストも行う。
教科書	必要に応じてプリントを配布する。

「日本語
日本事情」

科目名	日本語III a	開講	半期	単位	1
担当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A経商現法A政営AGM				
担当者名	多田羅 哲子 <small>たたら あきこ</small>				

講義のねらい

聞き取ることを中心に日本語の総合能力を強化する。
聞き取った内容を把握すると共に、相手や立場、場面を考えてそれにふさわしい言葉で話せるようになることを目指す。

講義の内容・
授業スケジュール

ビデオでドラマ・映画・ドキュメンタリーなどを聞き取り、自然な話しかたに慣れる。敬語の使い方、くだけた言い方、改まった言い方、この場合どういえば自然かなど、場面や相手や立場などによって適切に使い分けられるよう練習をする。

成績評価の方法

平常点（出席、授業への参加度、提出物など）を重視する。期末テストも行う。

教科書

ビデオを準備し必要に応じてプリントを配布する。
辞書を持ってくること。

科目名	日本語III b	開講	半期	単位	1
担当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A経商現法A政営AGM				
担当者名	多田羅 哲子 <small>たたら あきこ</small>				

講義のねらい

聞き取ることを中心に日本語の総合的能力を強化する。
ビデオの内容を把握すると共に、文章力を強化する。

講義の内容・
授業スケジュール

ドキュメンタリー、ニュース関連番組などのビデオを用い、今話題になっている問題の内容を聞き取る。
聞き取った内容、自分の感想、意見とその根拠などについて話し合い、文章にまとめる練習をする。

成績評価の方法

平常点（出席、授業への参加度、提出物など）を重視する。

教科書

ビデオを準備し必要に応じてプリントを配布する。
辞書を持ってくること。

科目名	日本語Ⅲ a	開講	半期	単位	1
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経 A 経商現法 A 政営AGM				
担当者名	湯村 礼子				

講義のねらい

これまでに修得してきた日本語能力をさらに高め、文献を自分で調べながら読み、理解できるようになること。さらに、文献を通して考え、自分の意見を持ち、発表、説明ができるようになることをめざす。

講義の内容・授業スケジュール

新聞・雑誌・専門書などから教材を選び、辞書や事典、他の資料を使って詳しく調べながら読み、理解を深める。その後、意見を出し合い討論をして、さらに認識を深め、最後に小レポートを提出する。

履修上の留意点

授業活動を重視するので、当然、毎時間の出席を原則とする。国語辞典を持参すること。調べてくる宿題が出る。

成績評価の方法

期末試験、小レポート、授業での発表、授業活動、授業態度などを総合的に評価する。

教科書

最初の授業時に指定する。

科目名	日本語Ⅲ b	開講	半期	単位	1
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経 A 経商現法 A 政営AGM				
担当者名	湯村 礼子				

講義のねらい

これまでに修得してきた日本語能力をさらに高め、文献を自分で調べながら読み、理解できるようになること。さらに、文献を通して考え、自分の意見を持ち、発表、説明ができるようになることをめざす。

講義の内容・授業スケジュール

新聞・雑誌・専門書などから教材を選び、辞書や事典、他の資料を使って詳しく調べながら読み、理解を深める。その後、意見を出し合い討論をして、さらに認識を深め、最後に小レポートを提出する。

履修上の留意点

授業活動を重視するので、当然、毎時間の出席を原則とする。国語辞典を持参すること。調べてくる宿題が出る。

成績評価の方法

期末試験、小レポート、授業での発表、授業活動、授業態度などを総合的に評価する。

教科書

最初の授業時に指定する。

科目名	日本語IV a	開講	半期	単位	1
担当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A 経商現法A 政営AGM				
担当者名	いしかわ まもる 石川 守				

講義のねらい

日本語の基本を振り返り、よりしっかりした日本語の基礎を身につけるため日本語V・VIの続きの部分をやっていきます。内容は日本語の基礎文法の最終部分を概念シラバス、機能シラバスの観点から認知学習法でやっていきます。

講義の内容・授業スケジュール

日本語の基礎を日本語V→VIに引き続いて深くじっくりやっていきます。

履修上の留意点

日本語IVは、日本語Vと日本語VIの三つの科目で日本語の基礎文法の全体が復習ができるように構成されています。もう一度しっかりとした日本語の基礎を復習したい人にお勧めします。授業順序は日本語V→日本語VI→日本語IVの順でやっていますので、できれば、日本語Vを取り、次に日本語VIそして最後に日本語IVをとってください。

成績評価の方法

試験50%、平常点（出席、授業態度）50%の合計。ただし、成績評価は駒沢大学の新評価法により行っていますので、高得点をとっても、悪い成績が付く可能性があります。

教科書

特になし。授業中にプリントを配ります。

参考書等

辞書を持ってきてください。

その他

授業態度を重視しています。

科目名	日本語IV b	開講	半期	単位	1
担当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A 経商現法A 政営AGM				
担当者名	いしかわ まもる 石川 守				

講義のねらい

しっかりとした日本語の基礎を作り上げるために日本語IVaに引き続き日本語の基礎文法の最終部分をじっくりやっていきます。

講義の内容・授業スケジュール

日本語IVaの続きの部分を行っていきます。日本語の基礎の最終部分から中上級の始めの部分を行っていきます。

履修上の留意点

日本語IVaの続きの内容を行います。

成績評価の方法

試験50%、平常点（出席、授業態度）50%の合計。ただし、成績評価は駒沢大学の新評価法により行っていますので、高得点をとっても、悪い成績が付く可能性があります。

教科書

特になし。授業中に自作のプリントを配ります。

参考書等

辞書を持参してください。

その他

授業態度重視しています。

科目名	日本語IV a	開講	半期	単位	1
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A経商現法A政営AGM				
担当者名	湯村 礼子				

講義のねらい

読解と文章表現を中心に学び、日本語の知識を深め、大学生として必要な表現力をさらに高めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

レポートの書き方を学習する。事実・情報を正確に伝える文章を書くために、文、段落、構成などの基本から始める。授業は、講義、そして実践として書き、必要に応じて書き直しをするというように進める。

履修上の留意点

授業活動が重要となるので、毎時間の出席を原則とする。

成績評価の方法

課題作文（3回）
提出物
授業活動（授業での発言、授業態度など）

教科書

教科書は授業時に指定する。

科目名	日本語IV b	開講	半期	単位	1
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A経商現法A政営AGM				
担当者名	湯村 礼子				

「日本語
日本事情」

講義のねらい

読解と文章表現を中心に学び、日本語の知識を深め、大学生として必要な表現力をさらに高めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

説明文、意見文を学習する。授業は、講義、そして実践として書き、必要に応じて書き直しをするというように進める。

履修上の留意点

授業活動が重要となるので、毎時間の出席を原則とする。

成績評価の方法

作文（3回）
提出物
授業活動（授業での発言、授業態度など）

教科書

教科書は授業時に指定する。

科目名	日本語Va	開講	半期	単位	1
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A経商現法A政営AGM				
担当者名	いしかわ まもる 石川 守				

講義のねらい

しっかりとした日本語の基礎を築くために概念シラバス、機能シラバスの観点から認知学習法でやっていきます。日本語の基本となる部分、呼称や指示詞などからじっくりやっていきます。

講義の内容・授業スケジュール

日本語Vは、日本語VIと日本語IVの三つの科目で日本語の基礎文法の全体が復習ができるように構成されています。もう一度しっかりとした日本語の基礎を復習したい人にお勧めします。

履修上の留意点

この日本語V→日本語VI→日本語IVの順に進み、全体として日本語の基礎が復習できるように構成されています。この授業をとられる方はこの三つをセットで取ることをおすすめします。

成績評価の方法

試験50%、平常点（出席、授業態度）50%の合計。ただし、成績評価は駒沢大学の新評価法により行っていますので、高得点をとって、悪い成績が付く可能性があります。

教科書

特になし。授業中にプリントを配ります。

参考書等

辞書を持ってきてください。

その他

受講態度を重視しています。

科目名	日本語Vb	開講	半期	単位	1
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A経商現法A政営AGM				
担当者名	いしかわ まもる 石川 守				

講義のねらい

日本語 Va に続けて、日本語のしっかりした基礎をつくることを目標にしています。

講義の内容・授業スケジュール

日本語 Va の続きをやっていきます。

履修上の留意点

日本語 Va と同じです。

成績評価の方法

試験50%、平常点（出席、授業態度）50%の合計。ただし、成績評価は駒沢大学の新評価法により行っていますので、高得点をとって、悪い成績が付く可能性があります。

教科書

特になし。授業中にプリントなどを配ります。

参考書等

辞書を持ってきて下さい。

その他

受講態度を重視しています。

科目名	日本語V a	開講	半期	単位	1
担当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A経商現法A政営AGM				
担当者名	多田羅 哲子 <small>なたら あきこ</small>				

講義のねらい

読むことを通して日本語の読解力、表現力を高める。特に今、話題になっているニュース等について読んだり説明したり意見を述べたりする力をつける。
レポートを書くための基礎を学ぶ。

講義の内容・
授業スケジュール

各種の新聞記事など時事問題を中心に自分で調べながら読み、内容について説明したり、意見発表を行う。
それらを文章にまとめる。

成績評価の方法

平常点（小テスト・提出物・授業の参加度）を重視する。期末テストも行う。

教科書

プリント配布する。
辞書を持ってくること。

科目名	日本語V b	開講	半期	単位	1
担当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A経商現法A政営AGM				
担当者名	多田羅 哲子 <small>なたら あきこ</small>				

講義のねらい

読むことを通して日本語の読解力、表現力も高め、時事的問題について読んだり読したり文章で意見を述べたりする力を養う。

講義の内容・
授業スケジュール

各自関心のある内容の記事等を読み、内容を発表する。その内容に関して話し合ったり、文章を書いたりする。

成績評価の方法

平常点（小テスト・発表・提出物・授業への参加度）を重視する。期末テストも行う。辞書を持ってくること。

科目名	日本語VI a	開講	半期	単位	1
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A経商現法A政営AGM				
担当者名	いしかわ まもる 石川 守				

講義のねらい

日本語の基礎文法を日本語Vに引き続き行い、正確な日本語文法の基礎を作るために概念シラバス、機能シラバスの観点から認知学習法でやっていきます。

講義の内容・授業スケジュール

日本語V a、bで行った日本語の後の部分をやっていきます。講義内容は日本語V→日本語VI→日本語IVの順番で構成されています。したがって本授業は日本語の基礎の中間部に当たります。

履修上の留意点

日本語VIは、日本語Vと日本語VIの三つの科目で日本語の基礎文法の復習ができるように構成されています。もう一度しっかりとした日本語の基礎を復習したい人は日本語IV、V、VIの三つをとることをお勧めします。

成績評価の方法

試験50%、平常点（出席、授業態度）50%の合計。ただし、成績評価は駒沢大学の新評価法により行っていますので、高得点をとって、悪い成績が付く可能性があります。

教科書

特になし。授業中にプリントを配ります。

参考書等

辞書を持ってきてください。

その他

授業態度を重視しています。

日本語
日本事情

科目名	日本語VI b	開講	半期	単位	1
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A経商現法A政営AGM				
担当者名	いしかわ まもる 石川 守				

講義のねらい

日本語の VIa の続きを行い、しっかりした日本語文法の基礎を作ります。

講義の内容・授業スケジュール

日本語 VIa の残りの部分を行っていきます。内容は日本語の基礎文法の中間部分後半になります。

履修上の留意点

この授業は、日本語 VIa の次の部分をやっていきます。

成績評価の方法

試験50%、平常点（出席、授業態度）50%の合計。ただし、成績評価は駒沢大学の新評価法により行っていますので、高得点をとって、悪い成績が付く可能性があります。

教科書

特になし。授業中にプリントを配ります。

参考書等

辞書を持ってきてください。

その他

受講態度を重視しています。

科目名	日本語VI a	開講	半期	単位	1
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A経商現法A政営AGM				
担当者名	多田羅 ^{たたら あきこ} 哲子				

講義のねらい

文章読解を通して日本語の総合力を高めると共に日本人の考え方にふれる。

講義の内容・
授業スケジュール

雑誌を中心にさまざまな文章を読み、その内容を把握し、感想や意見を述べる。
現在よく使われているカタカナ語、語句の意味や使い方、漢字の読み、文法事項等についても各自調べ、確認しながら細部まで理解して読む。

成績評価の方法

平常点（提出物・小テスト・授業への参加度）、出席率、期末試験の成績から総合的に評価する。

教科書

プリントを配布する。
辞書を持ってくること。

科目名	日本語VI b	開講	半期	単位	1
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A経商現法A政営AGM				
担当者名	多田羅 ^{たたら あきこ} 哲子				

講義のねらい

文章読解を通して日本語の総合力を高めると共に日本人の考え方にふれる。

講義の内容・
授業スケジュール

雑誌を中心にさまざまな文章を読み、その内容を把握し感想や意見を述べる。
現在よく使われているカタカナ語、語句の意味や使い方、漢字の読み、文法事項等についても復習し、確認しながら理解していく。

成績評価の方法

平常点（提出物・小テスト・授業への参加度）、出席率、期末試験の成績から総合的に評価する。

教科書

プリントを配布する。
辞書を持ってくること。

科目名	日本事情I〔地理〕	開講	半期	単位	2
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A経商現法A政営AGM				
担当者名	<small>たかはし けんたろう</small> 高橋 健太郎				

講義のねらい

人々の生活や地域社会の特徴と変化などを、空間的側面と関連づけて考えるという人文地理学の視点から、日本の諸地域に対する理解を深める。

講義の内容・授業スケジュール

この授業では、最初に、日本の地理的特徴や、日本人の文化や生活の地域性について説明する。
その後、受講生2-3人で1つの班を作り、班ごとに、日本の各都道府県の地理的特徴について調べ、授業で発表してもらう。
また、駒澤大学の周辺地域、つまり東京近郊地域の特徴や変容を理解するために、大学の外に出て、見学も行う。

履修上の留意点

第1回目に授業の案内を行うので必ず出席のこと。また、学外見学の際の交通費や施設入場料は各自の負担となる。

成績評価の方法

頻繁に教場で作成してもらう小レポート、班ごとの発表の内容、学外見学のレポート、および学期末レポートで評価する。

教科書

使用しない。授業中にプリントを配布する。

科目名	日本事情II〔自然〕	開講	半期	単位	2
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A 経商現法A 政営AGM				
担当者名	しみず よしかず 清水 善和				

講義のねらい

日本はアジア大陸の東端に位置する島国であり、亜寒帯の北海道から温帯の本州を通り亜熱帯の沖縄まで、約3,000kmの細長い国土を有している。四季の季節変化が明瞭で梅雨や台風、日本海の多雪のような独特な気象現象もみられる。また、37万平方キロメートルの狭い国土の中に、山脈、丘陵、河川、湖沼、平野、海岸が箱庭のように組み合わさり、多種多様な地形が形成されている。さらに、日本は複数のプレートの境界域にあたるため、世界でも有数の火山・地震地帯となっており、これらによる自然災害も多い。このような多様な自然環境を反映して、日本には独特の生物相が発達している。

本講義では日本の自然を位置、気候、地質・地形、生物の4章に分けて解説する。その際に次の3つの視点に留意する：(1) アジア全体の自然の中に日本を位置付ける、(2) 現在の状態と過去の歴史とのつながりを重視する、(3) 自然と日本人の生活、文化との関わりにも注目する。すなわち、できるだけ時間的、空間的に広い視野から日本の自然をとらえることにより、留学生の母国の自然とのつながりも確認できるようにしたい。なお、日本の自然破壊の歴史や環境保全のあり方等についても適宜言及する。

講義の内容・授業スケジュール

第I章 位置

1. 国土の範囲
2. 行政区分
3. 位置の特徴

第II章 気候

1. 気候帯
2. 日本近海の海流
3. 気候の特徴
4. 気団と季節
5. 気象観測
6. 気候と文化

第III章 地質・地形

1. 弧状列島
2. 変動の歴史
3. 多様な地形
4. 火山
5. 地震

第IV章 生物

1. 気候帯と植生帯
2. 生物多様性
3. 生物地理区
4. 里山の生物
5. 帰化生物

第V章 自然保全の諸制度

1. レッドデータブック
2. 国内の法律
3. 国際条約

成績評価の方法

レポート（2回）と出席回数に基づいて評価する。

教科書

講義の内容を日本語の文章で著わした「web版教科書」（清水執筆）を紹介する。また、それを英語に翻訳した「web版教科書（English version）」も用意する。これらは清水のHPから自由にダウンロードできる。

参考書等

「web版教科書」で分野ごとの参考書を紹介する。

その他

講義に必要な図表をまとめた補助教材のプリントを適宜配布する。講義は日本語で行い、板書には漢字も使用する（漢字にはできるだけ読みがなをつける）。なお、英語圏の留学生のために講義内容を英語で著わした「web版教科書（English version）」を用意する。

科目名	日本事情Ⅲ〔歴史〕	開講	半期	単位	2
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A経商現法A政営AGM				
担当者名	井上 桂子 <small>いのうえ けいこ</small>				

講義のねらい

本講義では、19世紀以降の日本と中国大陸の文化、人事交流を中心に、大きな歴史の流れの中で両国の人びとがどのような交流し、相互理解に努力したかを学ぶことを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 19世紀－鎖国政策の中での日本の他国関係
2. 中国商人の「唐風説書」の役割
3. 江戸幕府貿易船で上海に行った明治維新のキーマン
4. 日米和親条約と中国
5. 明治維新と中国の反応
6. 駐華公使森有礼と清朝の李鴻章の会談から見えてくるもの
7. 清末の改革維新と日本との関係
8. 孫中山と日本
9. 民間交流と日中関係
10. 戦争中中国大陸で反戦活動
11. 日中国交正常化への道のり

履修上の留意点

第一回目にオリエンテーションを行い、全般的な講義内容を説明します。特別な予習、復習は必要ありません。

成績評価の方法

出席回数と課題レポートで評価します。

教科書

必要に応じてプリントを配布します。

参考書等

授業のなかで適宜紹介します。

その他

希望があれば、その日の要点を中国語でも話します。また、中国語で発言してもかまいません。

科目名	日本事情IV〔思想〕	開講	半期	単位	2
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A経商現法A政営AGM				
担当者名	すがわら ひかる 菅原 光				

講義のねらい

近代日本の代表的な思想家を取り上げ、その生い立ちを含めた人物像、並びにその思想内容を紹介し、考察するという形で近代日本思想史を学んでいくことが本講義の目的である。講義では、まずは取り上げる思想家達が活躍していた時期の時代的特徴を押さえるところから出発した後、森有礼、福澤諭吉、西周ら、代表的な思想家について学んでいく。

講義の内容・授業スケジュール

講義はおおよそ、以下の項目に沿って行う。

1. ガイダンス
2. 文明開化とは何か？
3. 森有礼の思想
4. 西周の思想
5. 福澤諭吉の思想
6. 田中正造の思想
7. 武士道
8. 教育思想

履修上の留意点

授業の最後に、簡単なレポートを実施することがある。

成績評価の方法

出席回数と、授業態度、授業の最後に実施する小レポートの評価とを合わせ、総合的に評価する。授業回数のうち8割の出席、小レポートにおいて用紙の8割を埋めることが単位取得の最低条件である。20分以上遅刻した学生、授業態度の悪い学生は、出席としてカウントしないので、注意してほしい。

教科書

特に指定しない。

参考書等

授業時に適宜紹介する。



科目名	日本事情V〔社会〕	開講	半期	単位	2
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A経商現法A政営AGM				
担当者名	やまだ のぶゆき 山田 信行				

講義のねらい

この講義では、主として第2次世界大戦後に日本社会が経験した社会変動をふまえて、日本社会の現在と将来を展望する。適宜ビデオ教材などを使用し、日本社会の様々な問題を理解しやすいようにしたい。

講義の内容・
授業スケジュール

主な内容は、以下の通り。カッコ内の回数は、当該の項目が授業に当てられるおおよその回数。

1. 戦後日本の社会変動（4回）
2. 現代日本の基本的趨勢（4回）
 - （1）情報化
 - （2）少子・高齢化
 - （3）グローバル化
3. 現代日本の社会問題（4回）
 - （1）若年者問題－フリーター、ニート
 - （2）学力低下問題
 - （3）格差問題

履修上の留意点

ほぼ毎回講義の内容に関するメモを配布するので、それをもとにノートを取るようになってほしい。継続的な出席は、講義の理解を促進する。

成績評価の方法

学期末レポートと平常点による。

教科書

なし。

参考書等

適宜指示する。

その他

希望があれば、その日の要点を英語でも話します。また、英語で発言してもかまいません。

科目名	日本事情VI〔政治・法律〕	開講	半期	単位	2
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A経商現法A政宮AGM				
担当者名	三竹 直哉				

講義のねらい

日本の政治について知り、みんなで意見交換します。

講義の内容・
授業スケジュール

下記のようなトピックを考えていますが、参加者のみなさんの意見を聞いて決めます。

- ◎議会制民主主義
- ◎三権分立と二院制
- ◎天皇
- ◎選挙制度
- ◎政党と派閥
- ◎ナショナリズム
- ◎安全保障
- ◎マイノリティ

履修上の留意点

出席と授業参加を重視します。

成績評価の方法

平常点によります。ただし、出席が少ない人、発言が少ない人などには、期末テストを行う可能性があります。詳細は最初の授業で説明します。

教科書

指定する予定はありません。

その他

I speak English, but students are encouraged to communicate in Japanese.

科目名	日本事情Ⅶ〔文学〕	開講	半期	単位	2
担当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A 経商現法A 政営AGM				
担当者名	坂口 ^{さかぐち} 博規 ^{ひろき}				

講義のねらい

本講義は、日本語を母国語としない外国人留学生等を中心に、日本の文学作品を歴史的な流れに立って紹介し、日本の美意識を含めて文化の諸相に対する理解を深めることを目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

日本の古代の文学から近代の文学まで、作品が成立した時代や社会の背景を紹介しつつ、それぞれの時代の美意識の特徴を概説するとともに、作品内容の一部を読みながら、理解を深めることを目標とする。各時限の内容は以下の通り。

- 1、ガイダンス、日本文学のジャンル発生
- 2、古代前期の歌謡
- 3、日本神話・伝説・説話
- 4、古代前期の詩歌
- 5、古代後期の文学とその美意識(1)
- 6、古代後期の文学とその美意識(2)
- 7、中世の文学とその美意識(1)
- 8、中世の文学とその美意識(2)
- 9、近世の文学とその美意識(1)
- 10、近世の文学とその美意識(2)
- 11、近代の文学とその美意識(1)
- 12、近代の文学とその美意識(2)
- 13、日本文学の特質

履修上の留意点

第1回にガイダンスを行い、半期の講義内容を概括するとともに、日本文学に対する受講生の興味・関心を喚起したい。半期の限られた時間の中で日本文学を要約する上で、中心となるのは時代背景の理解と美意識の把握であることを確認したい。なお古典文学の文章は現代語表現と違うので、出来るかぎり現代語に置き換えるか、現代語を添えて紹介する。

成績評価の方法

レポートにより、授業において特に興味・関心を持った内容について受講生自身の所感をまとめてもらう。レポート評価(90%)を中心に、受講姿勢(出席状況・関心の度合等々、10%)を加えて評価する。

教科書

必要に応じて適宜プリントを配布する。

参考書等

授業内で紹介する。

科目名	日本事情VIII〔文化・芸術〕	開講	半期	単位	2
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A 経商規法A 政営AGM				
担当者名	佐藤 美奈子				

講義のねらい

「日本文化」とは何か。日本に生まれ育った人でも、この問いにきちんと答えられる人はあまりいません。それは「日本文化」と呼ばれるものが時代によって変化したり、作り変えられたりするものだからではないでしょうか。よって、本授業では「日本文化」を明らかにすることを目的にはしません。むしろ、近代日本において「日本文化」がどのように捉えられてきたのか、という問いに重点を置くことにします。それによって、「日本文化」を通して「日本人」がどのようにアイデンティティを形成してきたのかを、明らかにしていきたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

授業では、明治中期に影響を持った政教社の国粹主義思想を一つの軸として取り上げます。政府の欧米化主義を批判する中で展開された国粹主義思想は、「日本文化」をどのように捉えたのでしょうか。なぜ、そのような思想的潮流が明治半ばに現れたのでしょうか。こういった国粹主義思想の物の見方は、現代日本にどのような影響を与えているのでしょうか。授業ではまず、こういった問いを考えるために必要な基本的知識（幕末から明治にかけての歴史的・社会的背景）を学びます。その上で、国粹主義思想が何を訴えようとしたのか、それはどのような社会的要請と呼応するものであったのか、その後どのような影響を残したのかを考えていくことにします。

履修上の留意点

授業開始後の入室（遅刻）は、授業の妨げとなるためいっさい認めません。また私語等のマナー違反にも厳しく対処することになります。

成績評価の方法

期末試験、及び授業時に実施される小テストの総合点で成績を決定します。なお、小テストは毎回授業開始時に、前回の授業内容に基づいて行います。欠席の場合は原則として点数は与えられません。

教科書

特に指定しません。

参考書等

授業時に適宜、紹介します。

その他

講義形式。授業は基本的に日本語で行いますが、授業後の個別質問には英語でも対応します。

「日本語
日本事情」

科目名	日本事情IX〔経済〕	開講	半期	単位	2
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A経商現法A政営AGM				
担当者名	小杉 ^{こすぎ} 修二 ^{しゅうじ}				

講義のねらい

日本で学ぶ外国からの留学生の皆さんとともに、主として日本がたどってきた 経済成長というものを理解し、同時に日本語・日本の文化についても理解してもらいたと思います。

講義の内容・ 授業スケジュール

経済成長という、経済現象を生物のように扱うこうした用語は何時生まれたのか？はっきりしたことはわかりませんが産業革命以後であることは間違いありません。つまり、産業革命以前は超安定社会、あるいは超停滞社会だったのです。経済の拡大は時にはありますが、ごくたまにおきる事柄でした。継続的に1-2%の経済の拡大が起こるようになったのが産業革命です。これでもそれ以前に比べれば、革命的变化だったのです。

経済成長を測る用語に「経済成長率」というのがあります。例の年・%というやつです。これはお金を借りた時と同じ「複利計算」になります。年利20%でお金を100万円借りれば、4年で行くことになるでしょう。複利計算では（銀行から借りた時と同じです）、207.36万円になります。180万円と答えた人はお金をうっかり借りないほうがいいでしょう。

20%の成長が何年も続くことは考えなくてもいいでしょうが、7%成長が10年続くと元の数の2倍に増える、というのを知っていれば、いかに複利計算がすごいかわかるでしょう。そういう経済成長が今世界のあちこちでおきています。日本の高度経済成長期は年率約10%の成長が19年も続きました。それは19年で終わりましたが、もしそれが100年続いていたら、日本経済の規模は最初の1万3800倍というとんでもない数値になっていたでしょう。

この授業では、経済成長率とは何か、第2次世界大戦後の日本の経済成長は以下に始まったか、経済成長とはどういうことなのか、それはどんな時に起こるのか、その結果はどのようなものか、成熟経済と経済成長、新たな成長の種、経済成長と心、経済成長と地域環境問題、経済成長と地球規模環境問題等について考えます。

履修上の留意点

出席不良は単位があげられません。

成績評価の方法

出席点と試験による。

教科書

特にありません。

参考書等

特にありません。

その他

ビデオを利用した映像とプリントで行う予定。

科目名	日本事情X〔経営〕	開講	半期	単位	2
配当	禅仏国英地文環境歴日外考社福心経A経商現法A政営AGM				
担当者名	鈴木 ^{すずき} 幸毅 ^{こうぎ}				

講義のねらい

日本企業の現状と課題について講義し、併せて環境対応の実際について話します。

履修上の留意点

教科書は使用しませんが、必要に応じて参考書は指定します。
講義に際しては、プリントを多く使います。

成績評価の方法

出席を重視します。プリントを音読してもらいます。1回か2回、簡単な課題レポートを提出してもらいます。以上の総合で評価します。

そ の 他

質問（授業中の）を歓迎します。